

日

記

明治十五年八月初旬より

八月二十八日まで

(表紙)

明治十五年八月初旬

より下旬ニ至る

記載

N. Naruse

禁他見

成瀬

(日附款)

信仰

傳道するハ信仰ニ由らざる可らずヒブリーユ十一章を見よ。即ち明日ハ何處へ行んや、信者が有ルか無きか。或ハ明日ハ何を食ふや。或ハ彼處ニ於て何を得るやハ未ダ見ざる事也。併し必

ズ神ハ約束して是ラを與フベシ。又導くべしとあれば之ノ約束を信じ未ダ見ざる事を望んで行ふなり。

アブラハム神ノ約束ヲ信じ之ヲ得タルトキコレ神ノ約束ノ應ヒシト思へり、如是吾モ。

○心ヲ見よ

人ノ心の有様ニ應じて其需用を充すべし。馬太五章三節ヨリ十二節までを讀む可し。

心の貧しきものハ福也。天國ハ其人の有なれば也、哀むものハ福也。其人は安慰を得べければ也。其次ヲ見よ。神ハ人々ノ心ノ有様ニ應じて幸を與る也。故ニ吾らも其人の心の有様ニ應じて神の約束を教ゆべし、又約翰傳四章を見ヨ。イエスハ女ニ問答をなして明ニ其女の心の有様を知って其心ニ應じて彼を導き救へり。

又凡そ自己を高する者は卑せらせ自己を卑する者ハ高せられん、神ハ心の高ぶる者にハ必ず賤メ卑るものハ恩ヲ與フルナリ。ヨハネ曰ク蝮の裔よト不憚シテ曰へり、又イエスペテロニ曰ク。サタン後ニ退ケト。又ステパノ曰ク。強頑にして心と耳に割禮を受ざる者よ。爾曹常ニ聖靈に逆ひ其先祖たちの如く爾曹も行す也と強く云へり、故ニ心ノ高ぶり神ニ逆ふものニハ神ノ旨の如く更ニ屈スル事勿れ。

又ベテロハシモンメガスノ心ヲ知り之ニ向テ曰く。汝この事ニ於て分なく又與りなし。蓋なんちの心神の前に正しからずと云へり。吾らも悪人ニ欺かる可らず。

○神學

神學の基ハ聖書也。聖書を學んで實施ニ之を學ぶべし。たとへば如何ニ道を傳るやまたかゝる人即ちかゝる心を持つ人ニハ何を云フべきやを知らんには聖書を研究し、たとへば使徒行傳を見てアナニヤノ如き人或ハシモン或ハアグリバノ如き心ヲ持つ人々如何ナル言を使徒ら云ヒシヤ又悔ヒテ心さゝるが如くなりし時ハ使徒之ニ何を言ひしや杯之事を研究せば之を知るが如し。

○全く神ニ奉ゲヨ

人若シ一切即ち全くを神ニ奉ゲ己ヲ全く捨テざれば罪ニ勝ち眞の幸ト満足ハ來らざる也。又聖書ニ二人の主ニ事ふる事能はずと。故ニ信者ハ全く捨てざる可らず。是れ神の約束也。即ち――妻或ハ子或ハ田疇を棄る者ハ百倍を受け窮なき生を嗣ん。故ニ之ヲ惜ンデ捨テザレバ神より受る事なし。また生を嗣ぐ事なし。如何となれば神の約束を信ぜざるニ由る。

コノ一切ト云フ言ハ實ニ大切なり。多くの罪人ココニ入ラント欲せし少しノ罪ハ犯し之を捨るを惜むものありと雖ども之ハ

一切ト云フ約束ニ背くもの也。たとへば煙草ヲ吹ふもの少し。其量を減ずるとも無益なり。

此事を止め得ざるものハ未ダ全く身を奉げしものニあらず、もし職業ニ由テ全く身を奉ぐる事能わざればコノ職業をも止むべし。

○神の戰ハ空を撃ニあらず

神ノ旨ト人ノ心ト神ノ約束をよく考へまた聖靈を受けて實ニ其人の心ニ當らしむべし。

また無學なるものニ六ヶ敷言語を用ひ或ハ六ヶ敷事柄を教へ或ハ心なきものニ長き事を言ふが如きみな空を撃つ也。

彼得三章十五、十六

なんじら心の中に主なるキリストを崇むべし。亦爾曹の衷にある望の緣由を問人には柔和と畏懼を以て答をなさんことを恒に備へよ(十六) かつ答るときハ善き良心に従ふべし。是なんぢらを行ふ者と誣なんぢらがキリストに在て行ふ善行を誘る者の目ら愧ん爲メなり。故ニ己ノ光丈之事を教ゆべし。己ノ分を越ゆ可らず。

○説教(明十五、八月都山)

(一) 眞獸十二の四

(二) (一字不明) ふるもの十二の十一

(三)害、十二の十四せつ

(四)十三章六、七「禱スモノナリ」

(五)馬太二十五の四十一

八月二十一日

己ハカナク、智ナク、徳ナシ。今有ルモノハ神ノ恵ナリ。吾口ハ鈍シ。只主ノ命令ヲ受ケテ人ニ傳ル僕ナリ。吾ハ大借金アルモノニシテ只主ヨリ其借金ヲ免サレ且ツ大業ヲ受ケタリ。是れ其恵ナリ。又人ニ恵ヲ傳フルハ主人ヨリ萬民ニ與ヘ玉フ賜モノヲ預リ之ヲ人々即ち受ル人ニ渡ス役ナリ。即ち吾枯レタル手ニ寶玉(主人ノ)ヲ持ツモノナリ。又今知テ吾口ニ言フ事ハ聖靈ノ教ヘ玉ヒシ神ノ旨ナリ。吾徳ハイエスノ恵ナリ(吾ハ罪人ナリ)。吾力ハ病人ノ將ニ死セントスルガ如キモノニシテ其病人汽車ニ乗り其力ニ由テ疾ク走ルガ如シ。即ち神ノ力ニシテ吾ヲ守リ吾ヲ助ケ吾ヲ強ムルモノナリ。

○吾ハ人ヲ裁判スル爲メニ神ノ立テ玉ヒシモノニアラズ。己ハ神ニ事ヘル僕ナリ。故ニ己ノ心ヲ神ニ奉ゲヨ、己神ト友ナレ、己眞ニ生れよ、己れ心ヲ清メヨ、己惡魔ニ勝てよ、己れ神より十分の恵ヲ受ケヨ、然れば人ニも傳ふる事を得る也。汝の働ハ只神の恵ニ由れば常ニ可求ハ神の恵ト神の御旨を知る事也。己

日記

ノ智ヲ以テ人ノ心ヲ支配スル事勿れ。今日ハ神ノ命ヲ成セヨ。若シ神ノ御旨ヲ知ラザレバ其事を爲す勿れ。先ツ神の旨を求めよ。

惡魔ト肉ヲ全ク離シテ只神の清キ事ノミヲナス僕ハ幸ナル哉。

○福音ハ貧きものニ宣ヘ傳ヘらる。故ニ説教するトキモ其他心ニ貧しく福音を求むるものを目的として道を宣ぶべし。

八月二十二日

○貪欲

提摩太前書六章の十せつ二財を慕ふハ諸の惡事の根也と、是よりして神ヲ捨テ其他凡ての罪惡を生ずる也。又財ハ凡テノ罪即ち情欲を充す具なり。故ニ之を愛するハ凡ての情欲を充スニ由ル。即ち酒をのむニも甘きものを食するも煙草も淫欲を充スニモ美衣美屋を求むるも人々ノ前ニ高慢するも又人心を取ルモ人ヲ厭制スルモ人ヲ苦ムルモ悉く財の力ニ由ルナリ。故ニ人萬惡を逐ゲン爲メニ之ヲ求ムルナリ。汝若し肉欲ヲ捨テナバ何ゾ財を要センヤ。

金ハ死物ナレバ人ノ需用ヲ充サズ。之ニ由テ凡テノ需用ヲ充スナリ。故ニ人コノ財ヲ求メ一生之が爲メニ働き金ト共ニ亡ビルナリ。

神ノ道ハ靈ノ道。故ニ之ヲ傳ヘ之ヲ守ルニ財ヲ要セザルナリ、

如何トナレバコノ恵ハ聖靈ニ由テ傳ハルモノニシテコノ世ノ高慢、智、學、衣服、家等ニ由テ傳フルニアラズ、故ニ金ヲ要セザルナリ。固ヨリ傳道師ヲ送り或ハ施等（本杯）ニ金ヲ要スレドモ之レ又靈ノ爲メニ神ニ奉ぐる清キ金ヲ神ヨリ受ル也。吾ヲ傳道スルニ清キ金ニ由テナスベシ。

信者ハ譬ヘ多ノ富ヲ有スルモ無用ナリ、如何トナレバ己ハ只生命需用ノミアレバ其餘ハ決シテ情欲ノ爲めに用あらず。只之ハ神ニ奉ゲ傳道等ニ用キルヨリ外ナシ。故ニ信者ハ驕ルモノナシ。貧キモ富モ等シキ有様ニ在ルベキナリ。即ち一家内ノ如シ。使徒行傳第二章ノ四十四節ヲ視ルベシ。併シ信者ノ内偽善者アリテ情欲ノ爲メニ金ヲ費シ貧乏ナル者ハ助ク可ラズ。

今世界ニ於テ富國即ち經濟學ニ達したる國ハ耶穌教國ナリ。即ち貪欲ヲ捨テ神の榮を望み只靈魂ノ事ヲ求ムル民ナリ。アフリカ、支那、日本杯ノ國ハ貪欲ノ強キ國ナリ。然るニ却テ貧シキハ何故ナルヤ（併シ貪欲ノモノハ多ク世ノ財ヲ將ツモノ也）。是れ情欲ノ爲メニ働かず靈の爲め施ノ爲め世の益の爲めに働けば也。又敏く働き又智ある故也。

眞の信者の富者ハ己ハ實ニ儉約シ其ノ餘レ財ハ全く神ニ奉げ靈の爲めに用ゐる也。故に西洋にて傳道會社へ一人が幾萬圓も出す事あり、譬へば或信者の内へ或人教會の爲めに金を募りニ

行シトキ戸口ニ立テ聞くとスリツケギヲ一本無益ニなせし事を非常ニ責め居りしを聞き其寄附金を頼みニ行きし人自ら思フニ此人ハ貪欲ナ人故一文も出さざらんと思ひ入りしに按ニ相違し非常ニ大金を出し大ニ驚けりと云ふ。而して金持ハ金を多く出し人より譽を受ケ高慢ノ情欲を放にてセントスルニアラズ（日本の寄附金の如く）。人々即ち己の家内ニも不知ニなすものあり、或時一千圓ヲ教會ニ出せし人あり、如何ニ探索しても知れざりしと、或ハ人ニ知れて出すも決して新聞ニも札ニも記して人ニ廣告せざる也。只神の榮の爲めに出す也。

又實ニ貧乏ナルモノモ神の榮の爲めに出す也。吾教會ニ一人の十歳、十一の娘あり。度々親より町ニ行きておもちゃ、或食物を買ふて貰ふ金を其ものを買はずニ之ヲ傳道會社ニ出せり。又女學校之娘三人或時葬社ニ行きし時友の爲め車ニ乗らざる可らざるニ至リ（其時彼ラハ儉約シテ無益ニ金を費さず神の榮の爲めに用ゐんと欲せし故乘るを好まず。然れ共不得止乗りしが）終ニ乗りしが其金ヲ各々拂はんとせしに其友曰く否ナ余が汝らの爲めに皆ナ拂ふ積りなりしと、併し彼等強いて拂はんとせるも彼ノ友之ヲ固く拒みて受ざりしが之ノ金ヲ彼ラハ申し合せて傳道會社ニ出せり、余ハかゝる金ヲ以テ此地ニ傳道する也。今アメリカヨリ傳道する爲政府ヨリ金を出して傳道するニあら

ず、貧乏ノモノ、儉約シテ奉ゲシ金ナリ。

彼レ多ノ俸給ヲ捨テ、傳道ニ身ヲ苦ムルナリ

傳道師も己ノ爲め即ち金の爲めにあらず。多ノ教師ハアフリカニ死せり。又アイルランドヨリカチニテイングランド傳道ニ行きしときも足ヲ痛むるものもあり、又餓ヘ死ぬものもありし。

○又義ノ爲めにハ金ノ爲めに働ス也、或ハ備金を拂ふ爲めに常ニ夕飯を食せざりし。

○又捨身事或ル教師ハ道ノ爲めに明日食するものゝなき事ありし家内の不平を云ひし事ありし。

○故ニ金ヲ出サレバ神ノ御旨ニ合ハザルト云フ事ナシ。金アラバカヲ盡シテ神ニ奉げるハ其旨ナリ。又あしき業なれば其過を捨て、神ニハ一文も出さずとも更ニ其金ヲ顧みざるハ神の旨ナリ、神の榮なり。故ニ百萬を持つも今夜寝ル所ナク食スルモノナキモ等しく神の旨ニして神の榮の顯はるゝ事也。又身ニ取テ云ヘバ健康ニても將ニ死せんとする病ナルモ只神の御旨ニ從ハズ神の榮ナリ。故ニ學門あるも無學なるもみな謙り主の旨ニ從フ事コソ神の榮ナリ。無學なるもの學者ぶり人の前ニ立テ説教せんとするハ神の御旨ニあらざるなり、又家内中神の榮の爲めに治まるハ神の榮なり、また神の旨を爲す爲めに争起るも只神の御旨ニ從ふも神の榮也。故ニ言フテ榮の顯はるゝあり、默

シテ神の榮の顯はるゝあり、即ち只神の御旨に從へば神の榮は顯はるゝ也。

(一)貧心 (二)人ヲ欺キテ利ヲ得 (三)棒端ヲ取り不信の賣買 (四)ソ
ーバ (五)賭博 (六)錢の借し貸 (七)醜金使の五 (八)偽 (九)盜 (十)
姦淫 (一)己ノ物ニせんと欲す (二)佛壇 (三)家ヲ幸ニする爲に神
に從フハ貪欲也 (四)儒像信者ノ心 (五)僧ノ心

○醜金スルハ何ノ爲めカ靈ノ爲カ肉の爲め可。之ヲ醜金して會堂ヲたて神の宮トシ牧師ヲ置イテ己ノ靈ニ神より恵ヲ受ケ又多くの人の靈の光を立んとする可。即ち神の榮の爲めに積みし也。將々之ヲ子孫の肉體の爲めに蓄へし也。只其心の底の有様ニ由テ神の前ニ義トセラレ罪トセラルゝナリ。

○可施金ヲ施サルハ罪ナリ。貪欲ナリ。馬太十九ノ二十一節ヲ視ヨ。

○信者トナレバ酒ヲ止メ煙草ヲ止め大ニ儉約トナル故ト思ヒ道ヲ信じ其金を施すニ怠るものハ大貪心ノモノナリ。

○又人ニ物ヲ施シ或ハ神ニ金ヲ奉ゲ惜ミテ之が爲め慮リアリテ悦ンデ即ち感謝して神に奉げざるものも貪心ナリ。

○今悔改メテ前二人の物ヲ非道ニ得しを悟り金を持ち之ヲ償ハザルモノモ貪心ナリ、ザカイヲ視ヨ。

○貧ノ言分ハ立タズ。

○人ニ多ク出さしめ己は少し出し度是れ貪心ナリ又人ヨリ多ク得度是れ貪心也。

○貪心ノ爲めに約束ヲ變じ又ヘツラヒ又欺き又人の氣ニ入ルコトヲつとむるものを多し

○説教スル心得

説教ハ神の恵を傳ふる事也。故ニ先づ説教者恵を受け神の旨ニ合ヒ心ヲ清め更ニ高慢トある可らず。

故ニ先ツ祈リスルニ人ノ耳ノ爲めになす可らず。先づ神ノ旨を考へ神ニ祈リテ凡ち神の恵ヲ受ケントスル人ニ恵ヲ受くべし。

又説教中神の旨ニ從フ事ヲ考へ定め置くべし。

(一)常ニ神の旨ヲ言フ事 (二)人ノ心に恐れザル事 (三)高慢ナラズ

事 (四)人々ソシリ或ハ去ルモ心ヲ働カサズル事 (五)吾言葉ハ虚

シク歸ラズト之ヲ常ニ覺ユベシ (六)常ニ二様ノ聞人アルヲ覺ユ

ベシ。即ち靈ヲ求ムル人ト肉ヲ思フ人ナリ (七)多辨ナル可ラズ

(八)決して怒ル可ラズ(己) (九)勝途忍耐シテ行カザル可ラズ(十)

神ノ御旨ナレバ人直ニ悔改メザルモ失望スベカラズ。種々悉ク

防ギテ受ケザルモ失望セザルベシ。 (一)人慢ルモ己ハ謙レ。人

ハ輕蔑スモ貴クナレ。人ノ爲めに心ヲ動スナ (二)多ク來ラント

思ヒ僅ノミ來ルモ氣弱クスルナ (三)常ニ愛心ヲ熱セヨ (四)常ニ

慎ンデ善キ良心ニ從ヘ (五)虚ナル言ヲ云フ可ラズ(六)説教ノ後ハ

神ニ感謝し只神ノ御旨ト其力ノミヲ考ヘテ決シテ他ニ心ヲ移ス可ラズ。

○神ノ旨ト人ノ旨

人ノ前ニ常ニ二ノ道アリ。即ち生ト死、靈ト肉、人ト神等也。

故ニ道ヲ聞ク人々ヲ慕フ心或ハ人ヲ惡ム心アラバ神ニ近クヲ得

ズ。聖書、妻、或子、或父母ヲ吾ヨリモ愛スルモノハ吾ト合は

ずと。又先ツ兄弟ト和イテ汝の獻物を供へよとあり。もしコノ

二心アレバ直ニアノ人ハ如何と心付き神の旨を求めざる也。

○神ニ奉ゲル事

神ニ心ヲ奉ゲタレバ更ニ疑ハズ。

更ニ惜まずして其旨ニ從フべし。

即ち感謝し悦ンデ爲スべし。然ラザレバ神ハ悦ンデ受ケ玉ハ

ズ。たとへば人ニ馳走スルモ惜ム心アレバ人之ヲ受ケズ。併し

愛に由テ悦ンデ有難がりて與ふれば客ハ其心ヲ悦ンデ如何ニ貧

しき物ニても謝して食ふべし。神も如是爲し玉ハン。故ニ眞ニ

心ヲ奉ゲシモノハ如何ニ六ヶ敷事も如何ニ好むものも實ニ……

悦ビ感謝して神ニ奉る也。困難(二字ムシ)故に惜ンテ時ヲ待

ちて悔改むるものハ未だ惜みし心ハ永く有る故ニ神ハ其惜き

(一字ムシ)を捨ツルモ其御旨ニ合はざらん。故に捨ル時ハ心

ニ聖靈ニ由テ之ヲ捨テ、吾ニ從ヘト御命じの時也。即ち其人の

心ハ其時ニ至るも等しき心ナリ。神ハ物を要せず心を與へよと云ヒ玉フナリ。故ニ其の己ノ勝手之よき時ニ生れ變る事能はざるなり。

○又譬へバ此處ニ在レ何日まで居れと神命じ玉フトキハ只之を奉じ其處ニ於て忠信ニ行ふべし。更ニ歸らんとする處を顧みず悦んで居るべし。歸れと命じ玉へば悦んで歸るべし。また神の命なれば凡ての愛するものハみな神ニ任せ置くべし。神ハ百倍之恵を與ふべし。

○神ノ約束

神の約束ハ必ず合ふものにして聖靈の事も一家の争ふ事も偽善者ニあふ事も財を捨る事も皆ナ神の約束なれば固より神ハ生る神故ニイエスの道の傳る處ニはコノ約束ハカナイテ此事ハある也。是有るコソ神ハ眞ナリ。然るニ何故ニ之ヲ疑ふや。

吾心ヨ。疑フナ。恐レナヨ。只神ヲ信ぜよ。

○蹶クモノト救ル者

イエスハ蹶モノニ捨ラレ救ワル者(ツト)のニハ角の親石トナレリ。性來のまくなる人々は愚ナル者ト見ゆる也、又或處ニ十字架之道ハ亡ブルモノニハ愚ニ見へ吾曹救ワルモノニハ神の大能也

日 ト。哥林多前書一章の十八節

又二十二せつニユダヤ人ハ休徴ヲ乞ヒギリシヤ人ハ智慧を求

む。又二十三せつニ此ハユダヤ人ニは礙くものギリシヤ人ニは愚なるもの也と。如是世ノ人ニは神の言葉も能も分らず常ニ他ニ力を注ぎ救ヒヲ悟らざる也。吾ら眞ニ神の奧義ヲ悟り神の救ニ由り之ヲ感謝し之ヲ神のカト悟りし事また其他礙ニ至らず。また漸々神ニ近き靈之生命を求むるミナ聖靈の導なり。哥林多前書第二章の十節ニ神の情ハ神の靈の外に知るものなしとあり。故ニ聖靈を受けざれば眞ニ神ノ御旨ヲ悟り人ニ傳道する事能はざる也。

○救ヒ得るニ合フ心

小兒ノ如ク謙ラザレバ神の國ニ入る事能はずと又貧きものニ福音を聞すと又餓るものハ食せよ渴するもの飲めとあり。故ニ人もし聖靈之御導を受けて直ニ謙りて神を求め救を求めざるものハ神より恵を受ける事能はず。故ニ高慢なる人ニ道を傳ふも無益なり。之ニ由テ神の道を受る人と末タ受けざる人を見分る事を得可し。故ニ眞に生れ變りしものハ高慢を有せず。

○傳道

神ハ傳道師未ダ神の恵ト神の旨が明ラざれば先づ之ニ教へ賜ふ也。故ニ傳道師十分ニ神の前ニ清くまた知るまでハ人を悔改ニ導かさらん可。漸々心ヲツクシ常ニ祈リシテ道ヲ傳へば神ハ之ニ由テ傳師を導き信者も追々ニ眞ニ導き玉ふ也。

○誰ハ道ヲ信するヤ

イエス曰く父引かざれば人吾ニ來る者無しと又招るゝものハ多し。選ばるゝものハ少しと。又ポーロ曰、神の選び玉ひし聖旨云々と。羅馬書九章の八せつより終まで。然れば吾曹之實ニ働きて信するものハ神の選び玉ひしものならん。また吾曹只聖靈の行けと命じ玉ふ處へ而已行けよ。己之意を以て傳道せず、また己の意ニ由て人の罪を免し之を教會之人となす可らず、もし己の意ト己の力に由と出來し信者ハ矢張人の群ニして神の羊にあらざる也、

八月二十三日

○信仰

ヒブリユ一十一章。(二字不明) 事ハみな信仰也。信仰之能力なければ人ハ實ニ狭きもの也。愛之無きもの也。吾ラ世界の創造ノ時神を見ず。また其言を聞かず。また其出來る事を見ず。只信仰ニ由て信する也。

また今神に祭を備へ心を清めキリストノ爲めに働くも今ノ神の悦び賜フ顔を見ず。また天の帳ニ吾名の記されしを見ず。又吾信徒ニなりし時天の使の前ニ悦び玉フヲ見ず。また日々ニ吾ニ與フル神の手を見ず。然れ共只信仰ニ由テ知ルナリ

又今大阪の兄弟又西洋の信者又處々の信者又キリストモ吾ラノ

爲めに祈り玉フ事モ信仰ニ由テ知り且ツ互ニ悦ブナリ。信仰なければ悦ビナシ。

又今ノ吾レ大和吉野の兩女の爲めに祈るに彼れ之ヲ知らズ。只己ノ意ニナサバ實ニ悲ミアリ。然れ共信仰ニ由テ之ヲ知ラバ神の恵をも知らん。

また天國も見し事なし只信する也。之ヲ見バ望なし。聖靈も只信仰ニ由テ知也

○説教ハ

説教ハ神ノ御旨ヲ人ニ知ラス事ナレバ智モ辨も人ラズ只眞ノ御旨と聖靈の力ナリ。故ニ先ツ神ニ祈リ神ノ御旨ト説教ヲ聞ケ人ニ何ヲ求メ玉フヤ、何ヲ約束し玉フヤヲ知レバ只之ニテ足ルナリ。故ニ聖書を多く讀ムニ及ばず。又例ヲ多く擧ぐるニ及ばず。永く言ふニ及ばず。只其御旨が人ニ明リ人ニ當レバ之ニテ足ルナリ。故ニ時ニ由レバ言ハズシテ神の旨を傳ふる事を得る也

○祈

祈モ先ツ神ノ約束ト御旨ヲ知り之ヲ信じてコレノミヲ祈ルベシ贅言ヲ言フ可ラズ

○己

己ハ永ク弱きものまた罪人也。吾ハ一生主の恵を受けて清きもの也。常ニ清きハキリストノ恵ト聖靈の御力ナリ。もし之なくば直に亡びん。然れハ只主の恵たるを常ニ忘る可らず。

八月二十四日

○祈

毎日神の榮ノ顯ハルゝ事ヲ祈るべし。たとへば高慢ナものを降き之ヲ耻メ弱き愚ナル神の御旨ニ合ふものを起し之ニ由テ神の榮の顯われん事を祈りまた實ニ難き時或ハ將ニ倒れんとする時ニ一神の榮光の顯わるゝを祈ルベシ。神ハ人の力の無き處ニ明ニ其榮を顯はし賜ふ可し。

聖書ニ弱ものを選び強きもの愧しめんとして又智者を愧しめんとして世の愚なる者を選びとあり。又神の愚ハ人よりも慧ク神の弱きハ人よりも強し。先また神ハ有者を滅さんとて世の賤者藐視らるゝもの即ち無が如き者を選び給へり。これ凡の大神の前ニ誇ることなからん爲なり。

○或ル郡山の信者

記
彼ハ人の前ニ誇り之が爲めニ神を信じ矢張世の財を愛し世の罪を愛し誇るものあり。彼ハ己の躬ニ事るもの也。故ニ己ノトウ(マ)才求め又己ヲ愛スル者ヲ賞め之ニヘツラヒ種々の謂言を以テ人ヲ誘フ。故ニ神の教ハ彼が爲めに、悉く嫌ひし事ニして之ヲ悟

る事能はず盲目ナリ。故ニ之ヲ誇り或ハ笑事トナシ己ヲ神よりも義ナリトセント欲す。彼ハ人ヨリ譽レヲ得ント欲ス。故ニ人ヲ偽り敬ふ也。之ニ欺ルゝ事勿レ。彼ハ廣き道ヲ常ニ求ム故ニ廣きを教ユル教師ヲ求ムルナリ。故ニ余今歸へりし後誰か別の人の來るを待ち廣き道を歩またん(マ)と欲す。また彼を欺き之を吞んと欲す。慎みて之ニ欺かるる事勿レ

○神の御旨

人の逆(マ)フモ、過日郡山の信者の洗禮を受けざるも或ハ傳道師之來るも皆な神の旨を成せり

○稱美

人より信仰強きと賞められ或ハ忍耐強き或彼ノ人ハ氣ニ入る信者と思はるゝ事を更ニ求めず。只神より稱美せらるゝ事また神ニ悦ばれ神の心ニ合ふ事を常ニ働とせよ

○眞の信者 郡山

郡山ニ於て今二人の信者ありと思ふ。彼ラハ高慢あらず。又人之心ニ由て心を動かさず。神の奧義を悟れり。また神の聲を聞き。余思フ。彼ラハ神の旨ニ合いたるならん

○高五彼初ニ曰ク一日中神ノ事ヲ考フト

彼曰ク髮の毛一本も白黒する事能はず。故ニ吾れ何事もなし能はず。只神の旨ニ従ふ可きを信ずと。

○又困難の時も樂の時も同じく神ニ事る筈なりと

○又神ニ基ヲ置可きヲ悟レリ

○又妻ヲ導ク事ヲ云ヘリ

○又吾レ彼ラニ勸メシ事ハ皆ナ受ケタリ

○又前ニ悔改メシハ眞ナリト云ヘリ

◎勸メ(郡山)

余ハ過日ヨリ毎夜毎朝即ち常ニ神ニ祈リ、先ツ神の旨ヲ考ヘ、後チ天父ハ汝ラニ何ヲ求メ玉フヤ何ヲ命じ玉フヤ何ヲ責メ玉フヤ何ヲ教ヘ玉フヤヲ考ヘ、聖書ニ汝ラノ心ノ有様ニ由テ即ち神の御靈の導きに由テ、神の御旨ヲ悟リ、之ヲ聖書之言葉ト聖靈ノ力ニ由テ汝ラニ勸メタリ。故ニコレハ吾意ニアラス。神ノ御旨ナリト思フ。如何トナレバ吾ハ聖書ノ言葉ヲ云ヘリ

即ハチ只コノ一事ノミ即ち汝ノ前ニ二ノ道アリ。二ノ主人アリ。二ノ食物アリ。二ノ飲物アリ。二ノ生アリ。其ノ一ヲ捨テ一ヲ選ビ其一ヲ求ムル事ナリ。然ルニ汝曹ノ中或ハ神ノ道ヲ捨テ世ヲ愛シ世ノ人ヲ愛シ肉ヲ慕ヒ暗キヲ好ミ利ヲ愛シ高慢名譽ヲ愛シ即ち廣キ道ヲ求ムルモノアリ。即ち是レ約翰傳六章六十ヨリ終迄ニ至ルノ此言即ち靈の事に因テ礙くものなり。

又聖書に招ル者ハ多シ。然レド選ルモノハ少シト。又先ノ者ハ後ニ後ノ者ハ先ニナルベシト(馬太二十の十六)あり。余

思フニ實ニ僅カナル謙リタルモノハ福音を受ケ選ビテ受たらんカ。併シイエスノ羊ハイエスニ行けリ(己ノ羊の名呼ビテ引出ス)今汝ト別ルニ望ンデ神の御旨ヲ以テ勸メントス。故ニ聖書之神の言葉以てせんとす。今廣キ道ヲ求ムル者ハ廣キ道ヲ教ユル傳道師或ハ牧師を求メ己ハ廣キ道を歩まんとする者あり。併シ汝曹思ヒ視ヨ。其ノ人ハ神ノ前ニ立ツコト能はず。必ズ罰を受る事世の人ニ優ラン。如何トナレバ彼ハ人ヲモ導テ亡ノ道ニ誘ヘバナリ。神ノ前ニ於テ神ノ言ト其旨ニ合フモノ而已神の裁判ノ前ニ立ツ可き者ナリ。

然リ而シテ彼ハ廣キ道ヲ愛スル者ヲ導イテ廣キ道ノ友を作ラントスルナリ。若し之ニ一致セバ己モ彼モ亡ボサン。併し之ニ勝テ神ノ御旨ニ従ハズ其ノ廣キ道ヲ好む兄弟をも救フコトヲ得ルモ知レザルナリ。故ニ尔後汝ヲクリストの基礎之上ニ建テ大風大雨大水が打ツとも倒レル事勿レ。只神ニ由レ。神ト友ナレ。世ト友ナル事勿レ。羅馬書十六章十七節ヨリ二十節ヲ記憶シテ惑ハサル事勿レ。又以弗所四章ノ十四、十五、ヲモ覺ユ可シ。

又余ハ終ニ望ンテコノ望書ヲ以テ汝ニ勸メントス。

即ち默示録ノ第二章第三章ナリ。之ヲ汝ラ覺ヘテ忘ル事勿レ。

○説教之事

己二人ニ知れたる事また氣の付いた事ハ之ヲ云フニ及ばず。可成簡略ニ云フベシ。併し神ノ御旨ニテ汝ヲ捨ルトカ或ハ免ストの如き大切なる言ハイエスノ名ニ由テ假令へ知れし事と雖ドモ之を言ふ可し。

○汝心ヲ清スル事蓮葉の如し

余郡山の城跡ヨリ下の堀ヲ見シニ蓮池あり。其中ニ己ニ腐れたる葉あり。又汚れた水ト穢れたる物あり。然るニ蓮ハ其中より清く秀て、更ニ穢れず。其有様を見るニ潔キモノト不潔物ト共にアリテ清きものハ不潔物ヲ憂へ且ツ之ニ逆フが如し。如是信者もコノ不潔なる世の中ニ住み清き生きたる葉の如し。又余其蓮葉タレヲ吐きシニ其葉不意ニ其上ニ受ケタレドモ更ニ其不潔物ヲ吸ヒコマズ。之ヲ防ぎ己ハ更に穢レズトノ意ヲ表セリ。信者モ如是常ニ用意シ不意ニ罪の誘ヒ來るも其穢ヲ受ク可らず。即ち人ノ誘モ情ノ誘モ其他之有様ニ合ヒシ時更ニ之を吸引せず直ニ反射スベシ。

○報ヒ

記 神ハ必ズ報ヲ與へ玉ふ也。イエス曰ク吾爲め何を捨ルものハコノ世ニ於てハ百倍を受け來世ニ於てハ無限生を得ざるものなしと。又勝を得るものには榮或ハ生の日免ヲ得ント。其他實ニよ

ろこばしき約束あり。故ニ如何ニ困難ニ陥るも靈ニ於てハ其丈之報を得るニ相違なし。故ニ恐るゝ勿れ。疑ふ勿れ。又信者ハ死ぬるものニあらざる故常ニ戦ふ也。又之ニ勝つもの也。之が大將ハ神也。故ニ常ニサミシキ事ナク、憂る事なき也。

○感謝 八月廿四日夜

余己ヲ神の前ニ謙りて考ふるニ過日より考ふる事と爲す事と説教せし事ニ悉く神の恵を施したり。故ニ吾ハ今神の前ニ不耻。神の御旨ニ合ふたるを感じて實ニ欣カ祈喜ニ堪ヘザルナリ。又思フニ今迄吾心ニ由テ爲したる事ハ悉く罪ニして神ノ御旨即ち御恩ハ悉く善なり。而して今吾罪ハ消へ神の恵ハ残りたり。呼鳴吾ニ慢ル所ナシ。只感謝する而已。

○信仰

今信仰スルニ、コノ郡山ニも大阪ニも學校ニも其他吾が祈り居る愛する信者ニも必ズ神の恵ト保護之有るを信ず。然ればコレヲハ悉く神の榮え顯はるゝ事ハ相違なくまた神の選び玉ふものハ世より守り玉フ事ハ約束なれば更に不疑。更ニ心配なく大膽ナル心を以て神ニ任セ常ニ安せよ。

○説教之事

今迄聞人の凡てに益ヲ與へ其心ニ合フようと思ひしが之ハ大ナル誤ナリ。人ハ聞く不聞ニ不拘、神の御旨を無節可言也。故ニ

必ズ二様ノ聞人アリ。一ハ礙もの一ハ救わるゝもの也。吾ラノ目的ハ救わるゝ求むる者ニ福音を傳る也。礙くものハ礙かす爲め也。責める爲也。高慢者ニ聞す爲ニあらず。人神ニ聞くようニ爲す可し、誰の前ニても神の御旨を言ふを耻ぢざる可し。

○數

學校ニても教會ニても多數を求るより眞理と眞の神の子ヲ作るべし。聖書ニ在る如く選るゝものハ少しと。故ニ只神の榮の顯わるゝ事を常ニ求めて働け。神の榮ハ少キモノ弱きもの謙りたるものより擧らん。また難き事大敵ノ内ニ擧らん。故ニ之ヲ避る事勿れ。

○女學校

神の榮ノ爲メナリ。故ニ女ヲ教育して聖書ニ合フものとする事也。

第一信仰ヲ育てる事、第二聖書(第三)世ノ情ヲ捨テ實ニ潔白の心ヲ育てる事(第四)柔和ナル心ヲ育、又愛等(第五)家ヲ治ムル。夫ヲ敬ヒ旅人ヲ懇ニシ子ヲ教育スルヲ教へ(第六)忍耐ヲ施し。神ニ奉げる事(第七)學校之友或ハ其他ノものニ道ヲ傳へ常ニ神の榮ノ擧る事を目的トセシメ一生神の榮ノ爲メニ働く性質を神ニ由て教育する事。

(第八) 日曜學校

(第九) 婦人ニ入用之科學是れハ譯書ニて足る也。

(第十) 英學是れ聖書等研究する爲也。余思フニ支那學ハ無用也。如何となれば漢文を書くにあらず。又漢書ニ便利ノ本あるニあらず。また諸新聞諸狀等漢文ニて綴りしニあらず。之ヲ學ぶハ無用ニして反テ之ニ由て高慢トナラン

(十一) 音樂、縫裁、烹割等

(十二) 小兒ハ大なる娘ニ教へしむべし。

(十三) 毎朝一時間聖書を教へ其度級ヲ別ちて教ユベシ。

(十四) 教師たるもの日曜學、朝ニ祈る事。小兒の教方等を教ゆべし。

(十五) 今不足ノ角

(一) 學科ヲ省クコト(二) 選ンデ入校ヲ免ス事(三) 書狀(四) 字ノ意味ト字數ヲ覺ユル事(五) 習字(六) 作文(七) 一期ノ學課ノ定

(十六) 人學問をなさしめて高慢ヲ恐ルゝモノアリ。然れ共常ニ神ヲ恐れ神を敬せ。全く神ニ心身を奉げしものなれば更に高慢ハ起ラヌわけ也。

(十七) 親ヲ導クコト

(十八) 學校之組織の事

(一) 金ヲ誰ニ拘ラズ(外國人或ハ不信者)ヨリ募ルコトハ神ノ御旨ニ合ハザルト思フ。如何トナレバ其爲めに演舌スルナラ

バ傳道スルハ神の旨なり。また不信者ハ固より神の榮を望むものニあらず。其者より受るハ神の旨ニあらず。又不信者ノ本意ニあらず。又金ヲ出し貰へば其のウルサキ説も聞かざる可らず。譬へば古澤が百萬圓出したると假定せば彼れ女學校ニ説を出さば之ヲ聞かざる可らず。又吾ラの思ふ儘ニなさば大ニ其人ニ對して遠慮する處もある也。固より外國人より受るハよからざらん。

(十九) コノ學校ハ信者之ものとし生徒ノ月謝と教會より之寄附金とを以て立て其有丈を以て足りれとして維持し神の御恵を信じて建るハ御旨ならんか

(二十) 毎日神ニ祈り神の御旨を求め常ニ神の榮之顯われ神の旨之成る事を勸む可き也。故ニ毎日聖書ニ照し其教之如く教ヘコノ學校を神の前ニ立つべし。

(二十一) 學校之世話役、縫裁教師ハ直ニ更生し神ニ心身を奉げ更ニ己ノ意なきものにして之ニ志あり其任ニ耐ゆる者を選ぶ可き也。

記
(二十二) 聖書ニアル約束ノ如ク一日ノ事ハ一日ニテ足ルト。故ニ毎日學校をして神の前ニ全きものとなすを勸めよ。毎日全からば毎年全からん。然れば主と人の前ニ於て缺無からん。決して惡を免す事勿れ。

(二十三) 毎日點ヲ付けて全きものと全からざるものを別ち全からざるものハ後ニ遣し必ス一日之業ヲ全からしめよ。是れ毎日全する良策也。生徒ニも之を知らしめ毎日信仰も品行も業も全き事を勸めしめ神と教師ト生徒の前ニ於て更ニ耻ぢ無らしめよ。又吾家内中も毎日全からしめよ。信仰も熱心ならしめよ。故ニ學校ニ於て毎日全き事を勸めしむるハ肝要也。馬太傳ニ父ノ全きが如く汝等全くなれとあり。常ニ之ト一日ト云フ約束を覺へテ一日も無益ニ己ノ心ニ從フテ歩む事勿れ。常ニ神の御旨をなすべし。

○神の榮

吾ハ凡ての事神の榮の顯はれ更ニ疑ナキヨウ又更ニ人ノ榮ナリ人神の前ニ於テ歸る事無らん爲めなりとの神の御旨ニ從はん。故ニ如何ニ危き事も如何ニ小ナル事も如何ニ愚なるものにてても只神の御力を受けて慥ニ神の榮の顯わるようニ働かん。故ニ萬事を無懼神ニ由テ大膽ナレ。神の榮の顯はるゝニ種々あり。

(一) イエスハ悉く神の榮を顯せり。其中十字架ニ死ニ死より復生せしハ大ナル榮ナリ。(二) 使徒聖靈ニ充され大ナル榮顯はれ之ヲ讚美せり。使ノ三ノ四十七。(三) 罪人悔改メハ必ず主ノ榮顯るゝ也。主之榮ヲ讚美スベシ(眞の更生) 其榮ハ選バレシモノノミアラワレ不信者ニ(二字不明) トナラン。彼ラハ盲目ナリ

四神の力ノ顯るゝ間ハ神の榮顯るべし。故ニ吾ラ己ヲ捨テ、神の力ニ由ルベシ。ムーデー、フイラル、ホワイトフイルド、ダニヘル、十二使徒ノ如きものニ由テ神の榮ハ顯れたり。又馬太傳九章の七せつ、或人學者なれば人之ヲ見て學者でも信ずると云いしト。併し是ハ小き榮ナリ。反テ無學ニ由テ多の榮顯れたり。(因人實ニ神ニ信じ全く神ニ心身を奉げなば必ず神の榮顯れん。人彼ヲ見て神ヲ榮メリ。(馬太五ノ十六)如何となれば神の御恵トカニ由テ善行を行ふ故必ず神の榮顯るべし。又神の約束之かなふニ由テ顯はるべし。女學校之事又教會之事又今度之事ハ神の榮顯れり。(因故ニ眞の信者之出來よう神ノ力ノ顯るゝよう常ニ聖靈を祈り如何ニ弱き事如何ニ愚なる事ニても小き事ニても神の旨ニして神の榮え顯るゝなれば只コノ事の成就し神の榮之顯るゝを常ニ祈る可し。

○事ヲ決スル事

(一)神ノ旨ハ何處ニアルヤ

(二)神ノ榮ハ如何ニして顯るゝヤ

(三)其道ハ何可

四説教スルトキモコノ事ヲ考ヘテ定ムベシ。即ち題モ、言ヒ様モ、祈モナリ。

○梅花の學校ハ如何

(一)神ノ旨ノアル處信者が信仰を以テ神ノ榮ヲ顯スコトナリ。故ニ生徒モ教師モ信者も全く神ニ心ヲ奉げ一致シテ之ヲナスコトナリ。若し之が世ノ學校ノ如ク神の榮ノ爲めならずバ吾ラハ今日ヨリ之ヲ止む可し。

(二)故ニもし不信者ニ頼み金ヲツノル事即ち神ノ力ニ信仰を以テ頼らず世の力ニよるハ神ノ榮ニあらず吾ラノ不信者ナ賤しき心也。又不信者より輕蔑ヲ受ケン。即ち信者ハ己ノを以テ事をなす能はずと。又世の人思ふにコノ學校ハ重ニ學問スル所ナリト誤リ定めて時ニ由れば人ヲ欺クニ至らん。また或時ハ不都合起らん。故ニ余ハ前ノ主義ヲ變ずるを好まず。又外國人より受るを好まず。即ち世ノ金ノ力ニ由リ神ニ信仰ノ事なるを好まず。

(三)今委員ノ説ハ不信者ヨリ金ヲツノリ或ハ外國人ニても金を受けて廣き道ヲ歩み學校之室或机其他上向ヲ飾り又生徒も只眞の信者ならざるも多く來り盛なるを望み即ち神ニ頼リ神の榮を顯はすより世の力ニ頼リ世の勢を顯さんとする事也。故ニ更ニ信仰、感謝、獨立の氣象ハ無き也。

余ハ之ニ反ス。余ハ信者一致し神ニ己ノ力の限ヲ奉げ信仰を以テ神の力ト其御旨ニ従はんとするニ、委員ハ己ノ意を成んとす。また神の榮ノ顯はるゝ爲の如何ニ貧しくも如何ニ固きも如

何ニ小人員ニても如何ニ粗末之家ニても只之ヲ忍び神の御旨を
なし神の榮を顯さんとす。故ニ生徒ヲ（如何ニ數ハ減るも）眞
の信者ニなし眞の教育を施さんとす。

又余ハ世ヲ離れて事ヲなし度し。彼等ハ之ニ反し世ト共ニ事を
なし度し。

又余ハ此娘を世より離れ眞のキリスト信徒トナサン爲め不信者
ニ嫁す可らずとをしゆべし。

然るニ彼ラハ都合ニ由れば不信者と嫁するも免さんとをしへん
とす。

（以下八月廿六日ノ記事ノ前マデ四枚紙挿入）

（一）十五年八月廿六日辭職表扣

私義今般梅花女學校教員辭職之義ニ付テ校長田村氏まで談じ置
候處後ニ委員中御評議之上ニ應拙意を止め其代員之有迄可動旨
被仰候。故ニ一應勸考仕是其意見之大略を可述候。

夫れ野生ハ當時増々考ふるに萬事神の榮の爲めに而已働可し。

若し神の旨ニあらざれば斷然之を止めんと。然るに此の學校た
るや神ハ吾ラキリスト信者共力シテ神の榮の爲めにせんと定め

記
神の力を頼み只信仰を以て此學校ノ盛大ヲ計り其榮ハ神ニ歸し
て感謝して今日ニ至れり。

日
然るニ今學校之精神を推るに信者獨立して只神の榮の爲めに神

の力ニ頼て信仰ヲ以テ爲すの勢力なく之ヲ維持するに不信者よ
りも助を仰ぎ世の力を借て此學校を盛ニせんとするものゝ如
し。是れ神ノ榮ニアラズ。神の旨ニあらざると思フ。如何とな
れば信じて難きを忍び金よりも神ニ頼るの精神弱く大ニ世より
も輕蔑を受けまた信者の精神を弱め信仰を弱め神ニ奉る心と感
謝する心を弱むるならんカ。又信者と不信者とは心底反對する
ものにして世の人何ゾ神の榮を顯わん也。然れば吾ラも彼ラよ
り受るの理あらん。又若しコノ學校ハ第一ニ學問を重んじ神之
榮を顯はすを第二トすれば余ハ之ト一致すること能はず。然り
而して學校之精神如是クンバ神之旨と思フコト能はず。また教
育上ニ於ても其精神ハ大ニ關係する事なれば余之本心之ニ從フ
コト能はず。

故ニ余ハ愼ンデ余ノ愚考スル所を述べ以て委員諸君ニ忠告シ吾
辭職スルノ意ヲ表セントス。

若シ委員諸君ノ説今前ニ述ベシ説ニ合ヒ神ノ榮トナルベキコト
分明なれば余ハ悅ンデ代員ノ有る迄不願愚拙其任ニ當らんと欲
する也。

然れ共之ニ反スレバ願くバ可成速ニ退職セン事ヲ欲スル也。但
し今般余ノ辭職するハ傳道之志アルヨリ起りし事ヲモ承諾アラ
ン事ヲ乞フ。

八月何日

成瀬仁藏

校長兼委員

田村初太郎殿

委員（以下欠ク）

（以下四枚目ノ押入紙ハ半紙丈ニ上下段ニ書カレテイル）

路加傳十二章十五節

戒心して貪心を慎めよ。夫れ人の生命ハ所蓄の饒なるにハ因ざる也。

(一) コノ説明茲在ニ隣ヨリ繁言、人ヨリ幸國人ヨリ譽レ等ナリ。

(二) 今コノ地ノ人ノ心中

(三) 商賣者 (四) 偶像信者ノ心 (五) 偶像信徒の師の心

(六) 提摩太前書六の十

財を慕ふハ諸の悪事の根也

(七) 財ハ肉ト共ニ亡ブベシ

(八) 今夜汝が靈とらるべし

(九) ノアの洪水

(十) ソドムトゴモラ

四たゞ神の國を求めよ

然れば是等の物ハ爾曹に加へらる可し

然レバ信者ハ財ヲ如何ニナスヤ。乞ヒキカ。或ハ神ヲ信ずれば

金ハ獨リデ出来るヤ。或遊ンテ食ふもの可。或ハ人ニ借金

して或ハ人のやくかいとなるヤ。聊之ヲ説ン。

悉く神の業ニ歸せり。

(一) 西洋の諸國の富と經濟

(二) 富者ハ如何ニする也

(三) 貧者ハ如何

貧者、又小兒又女等の例

(四) 傳道者ハ如何

(五) 本、新聞傳道會社、貧院、學校、病院、安息日學校等ナリ。

信者ニ告ン(一) 釀金 (二) 酒ヲ止メシ金 (三) 人ニ施シテ惜 (四) 悔

改メシ後前ノ有様ニ付テ神の前ニ如何 (五) 出スモ人ニ知ラセ

バ矢張り貪欲ナリ。

(終) 二人ノ主に事フ事能はず。利ヲ愛スモノハ財ト共ニ亡ビ

ヨ

生命ヲ得ント欲スルモノハ利欲ヲ捨テ、天國ヲ求メヨ。

八月二十六日夕

○傳道

第一罪ヲ知ル事 第二悔改メ 第三信じ頼ル 第四洗禮 (四) 勸メ或ハ教へ或ハ働ク事或ハ悦ビ或ハ困難或ハ感謝或ハ愛其他信者の働多クあり。コノ順序ヲ誤る可らず。明日ハ勸メ、感謝、信仰、働等也。

○如何ナル道ニ由テ悔改ムルヤ又キリストヲ知ルヤ

神ノ旨ノ如ク成ラン。之ヲ求メヨ理論ヨリモ實驗ニ照シテ知るべシ。

(一) 神ヲ知り又己ノ罪ヲ心ニテ悟ル事 (不智) 即ち神の裁判を懼ルよ事ヨリ起る也。即ち形罰ヲソレ又本心神ニ反きしを責め残念之心を生ぜしむる也。又神ノ御慈悲即イエスニ感じテ起也。

(二) 聖靈ノ導ナリ。其手立 (三) 説教 (四) 信者ノ行 (五) 聖書或ハ本ヲ讀み (六) 死ノ有様等ヲ見て本心ヲ醒スコトアリ (七) 罪ヲ犯せしより本心ノ責ニ由テ起る事あり (八) 世のはかなきを見て知るあり (九) 敗れをとるより起るあり (十) 神の奇跡或ハ眞理を見て起るあり (十一) 病氣ノ時起るあり (十二) 或ル人ハ救王ヲ求メテ居る人あり (十三) 道理即ち眞理を聞いて起るあり (十四) 傳道師ノ有様ニ

由るあり (一) 神ノ榮即ち世ニ比類なき事例より起るあり、たとへばムーデー、澤山ノ如き人ノ不思議ニ神の奧義ヲさとする事にて、又不信者ト信者ノ異ナル業ヲ見て。 (二) 信者ノ困難を受け之ニ勝つ事ニ由て (三) 惡ヲ甚しく爲して急ニ變ずる事あり (四) 澤山於高さんの急ニ變りし事ニ由て神の榮顯れし事もあり (五) 其他多くの有様あり。

即ち神の選びたる民ハ聖靈之導を受けて本心ニ光ヲ得て己の罪を定め神を恐るゝの心出て、救ト神ヲ求ムルノ心ヲ生ぜしむる也。故ニ其人の心ノ有様ニ由て導 (悔改ニ) くべし。

(第二) 信ぜしむる事也

聖靈之證據ニ由てキリストヲ知り之ヲ信ずる也。

罪ヲ實ニ知るものハ救ヲ求むる也

固よりキリストノ教ト證據を聞き又其實力を見、罪を知り悔改めしなれば直ニキリストノ贖ヲ信ずる也。是れ本心ノ勸むる處也。

(第三) 固より罪ヲ悔改め聖靈を受けキリストヲ信じ、生れ更りしなれば悉く神を愛する心あり。常ニ神の導を蒙り惑ニ導れざん。また傳道師之ヲ勸め又聖靈共ニ勸むる也。又生れ更りし故性質反對となり今迄之事之無益なる事罪たる事を悟りしなれば之ニ行くを好まず。又不信者ノ惡しき誘ヲ見で之ヲ愛する心

ハ出でず反テ之ヲ憐み之ニ抗する心生ずる也。即ち世ノ樂ヲ見、偶像ヲ見て之ヲあわれみ困難に合ふて悦ビあり。又惡魔之策ハ聖靈ニ由テ又知也。可惡之也。人ニ導るゝニあらず。人を導かんと欲する也。常ニ祈りて神ノ榮を悦ばん。然レバ常ニ進む也。また聖書あれば之ヲ研究せん。彼ハ常ニ靈ノ事ヲ求メテ肉之事ヲ防ぐならん。

己ノ利ヲ望ンデ信者トナラント欲するもの或ハ高慢或ハ、勝手ノ爲めにイエスヲ信ぜんとするものハ眞の悔改ニ合はず、神より捨てらるゝもの也。シモンメガスノ如き猶太ノ如き或ル富者ノ如き等也。眞ニ悔改むるものハ本心ヨリ罪ヲ惡ミ凡ての物を捨てゝ従ふものなり。また面白い或ハ道德ノ爲め杯考ふる人も神の旨ニかなわず。

○聖書ノ讀方

聖書ヲ讀むに其目的ヲ知て讀むべし。即ちコノ言ハ如何ナル心ノ人ニ向テ言ヒ玉フ事カ或ハ不信者ニ向テ罪ヲ責メ玉フ事カ或ハ捨テラルゝ事カ或ハ悔改ニ導キ玉フ言カ或ハ信者ニ向テカ或ハ如何ナル心ノ信者ニ向テカ等ヲ明ニして讀むべし。不然ハ誤ニ落るならん。たとへば悔改メヨトアル事ヲ信者ノ事ト思ひ常ニ罪ヲをかし只悔改むると取り或ハ品行ノ正シクスベキ事アル

ヲ不信者ノ事ト取レバ大ナル誤リナリ。

○説教

神ノ選ビ玉ひしものを導き且つ説教者神ノ旨ヲ言ひ之ヲ行へば必ず其實ハある可き也。即ち高慢者ハ敬サレ謙り之ヲ慕ヒ神の招きニ應じしものハ悔改む可き也。此ノ事ハ眞ニアル筈ナリ。もし神ノ選ビ玉フモノナク神ノ旨ナラザルトキハ一言モ言フ可ラザルナリ。然レバ説教ハ必ず益ヲナスニ相違なし。故ニ一人ノ處ニテ熱心ニ説教シ選レシ者ヲ教フベシ。其他數ハ更ニ多ヲ好む可ら(才脱カ)。只神ノ旨ヲ求ムベシ。イエスハ一人ニ度々導ヲ傳へ賜ヘリ。彼ノ有名ノ人ノ如クナラント思フ可ラズ。只神ノ選ビ玉フニまかすべし。明日ノ事ハ明日ニセヨ。又人ノ知ル事ヲ望ム可ラズ。又説教スルトキコノ言葉ハ神ノ旨ニ合フカ又コノ咄ハ神ノ御主意ニ合フカト本心ニ直シ且ツ祈りテ説教ヲナスベシ。ヨク御旨ノ知レザルニ即ちよく説教が出来ヌニ説教ス可ラズ。但し急ナル時聖靈ニ感じ言フベキ時アリ。其時ハ之ヲ不憚シテ可言。又人ノ心ノ有様不明ニ言フ可らず。明る爲めに問ふべし。不知事ハ決シテ言ハズ、決シテ教ヘズト定メヨ。若シ不知シテ行ヒ或ハ言ヒ或ハ教ヘバ大ナル罪ナリ。何ゾ罪ナル事ヲ吾ラ爲ンヤ。

○祈り

祈モ悉ク考ヘ神ノ旨ト可求事ヲ祈リ一言モ空言ヲ言フ可ラズ。
更ニ人の心ノ爲めに祈る可らず。

○説教スル心得

(一)人少キ時或ハ困ル時或ハ人心ノ頑固ナル時ハ矢張り神ノ旨ニシテ之ノ弱キコトコノ困コトニ由テ神ノ榮顯ル、コトヲ考ヘ決シテ氣ヲ弱ラス可ラズ

(二)實ニ説教ヨリ出來テ之ニ聖靈ノ力アリテ人々ノ心振ヒ動き或ハ悔改メ或ハ熱心ナル時ハ神ノ約束ノ合ヒシ事、神ノ榮ノ舉リ人心神ヲ頌美スルヲ覺ヘ又神ハ生タル力アル事ヲ覺ヘ只謙リテ神ニ感謝シ更ニ己ノ勢ヲ神ノ前ニ出ス可ラズ

(三)コノ事ニテ満足ス可ラズ、尔後世界中ニ神ヲ顯サン事ヲ望ミ尔後彼ヲノ恵ヲ祈リ又來世ノ裁判ノ事ヲ思ヒ又々ニ於テ大ナル榮ト悅アルヲ思ヒ更ニ己ノ事ヲ思フ可らず。又説教ノ仕方ノ拙巧ヲ論ず可らず。只神ノ御旨を論ずべし。

四熱心ナル信仰を持つべし。

(四)己レ十分聖靈ニ感じ神ヲ榮むる心あらば己ノ榮ヲ求ムル心ハ出さる也。

記
○神ノ旨ヲナセ

日
人ノ心ニ從フテ道ヲ教ヘズ。主ノ旨ニ由テスベシ。如何ニ欲スルモ或ハ怒ルモ人ノ心ニ從フ勿レ。故ニ説教スル時ハ神ノ旨ノ

ミヲ考フベシ。又祈ル時モ神ノ旨ニ合フテコノ人々神ニ義トセラルルヤ或ハ吾モ如何ト考ヘ只主ノ恵ノミヲ考望シテ人ノ心ヲ更ニ憚ルコト勿レ。神ノ旨ヲナセバ己ノ榮顯レズ神ノ榮アラワレン。もし人己ノ意ナレバ己ノ意ヲ行フモノヲ入レテ信者トナシ己ヲ榮シメ己ヲ敬まはず也。併し神ノ旨ヲナスモノハ人神ヲ敬まざれば又眞ニ神ノ意ニ合はざれば之ヲ免さず。之ヲなさず。故ニ己ノ榮ハ亡び神ノ榮顯るべし。

八月二十八日

○愛

昨日澤山、前神の説教ヲ聞き吾ニ愛心ヲ缺きたる悟り大ニ悔改之心を生ぜり。實ニ神ニ可感謝事也。余ノ誤リ神ニ逆ひし時も神ハ之ヲ免し吾ヲ愛し導き賜ふを悟り實ニ喜悅ニ堪へざりし。今迄余ハ神ノかく世ヲ愛し玉ふを自ら其奧義ヲ知らざりし故、何ゾ人ニ顯ハスヲ得ンヤ。故ニ余ハ神ノ正き裁判ヲナシ賜ふ事嚴格ナルヲ教ヘ全く身ヲ清め神ニ奉げ救わるゝ事而已を第一ニ教ヘしが今考ふるに神ハ人ヲ己ノ御子をサヘ下し賜ふ御慈愛あるを顯すを怠たれり。故ニ人ニ實ニ神ノ御慈悲ヲ以テ教ヘズ棒ヲ以テ教ヘたり。

神ハ慈悲深き親心ナリ。故ニ罪ヲ犯ス子ヲ家ニ入レル事能はず。然し歸へるを持ち玉ふ(悔改メテ) 故ニ子ニ涙、憐ヲ以

テ可悔改ヲ教ヘ玉フナリ。路十六ノ十一ヨリ終 故二人ニ教ヘ
ルニ神ノ御慈愛ヲ以テ神ノ旨ノ正きヲ教ヘ父ノ御慈悲ノ難有ニ
感じ己ノ罪ヲ悔改メサスベキナリ。棒ヲ以テ打ち責メ或ハ罰ヲ
恐レシメテ救主ニ由ラシムルニアラス。之ニ兼ネテキリスト又
神ノ御慈悲ノ深き心ヲ顯ハシ之ニ感じテ神ニ脊クヲ止め悔改メ
テ涙ヲ流して神ニ歸ヘらしむ可し。

約翰傳三章十六せつ十八せつ

羅馬書五ノ八

神ノ愛ハイエスノ十字架ニ由テ顯ハル。人之ニ由テ己ノ罪ヲ悔
改メテイエスヲ信じて救はるべし。イエス曰クヨキ羊牧ハ羊の
爲めに生ヲ捨ツト。又曰ク人友ノ爲めに捨ツ。愛之ヨリ多きハ
なし。

又コリント前書十三章 今神ハ凡テノ人ヲ愛シ賜フナリ。即ち
尙ホ神ノ敵トナリタルニ彼ノ爲めに十字架ニ付けり。故ニ今誤
りヲナシタル教師ノ爲めにも罪ヲ犯したるもの、爲めにも待ち
賜ふなり。固ヨリ愛ニ感じて悔改めしものも衆多あり。

故ニ聖靈ノ御力ヲ得テ人々神ノ御慈悲ヲ悟して悔改ニ導くべ
し。

神ハ吾ヲ愛し玉ふ故ニ惡ヲなすを好まずねたみ賜ふ也。故二人
ニ教ユルニ神ハ汝ノ罪ヲ犯スヲ見テ汝ヲ惡むとのみ云はず、汝

罪ヲ犯して亡ルヲ見て涙ヲ流して憐み玉ヒ、直ニ救主ヲ下シテ
彼ヲ亡シ汝を救ハントス。汝只キリストヲ信ぜば救わるべし、
と教ゆ可し。併し神ハ愛する兒ヲ鞭打ツトアリ。故ニ愛し賜フ
神故、兒の罪ヲ犯し亡ブルを好ミ賜はず。増々善き子、清き
子、賢き子、信深き子となし度也。故ニ吾ヲ勵みて父の旨を爲
す可き也。

○傳道ノ働

(一) 聖書ヲ讀み(多人) 神の旨ヲ悟り之を行ひ己ノ身心を神ニ

奉げ常ニ其御慈愛を受る事

(二) 又神學を勉強する事

(三) 又經驗を積む事

(四) 己ノ家を全く治むる事

(五) 說教スル事又聖書ヲ教ゆる事

(六) 國々家々ヲ週回し人々ノ心ノ有様を知る事

(七) 人々ト面談スル事

(八) 書狀或ハ書籍等を書く事

(九) 人々ノ職業ニ付て事

(十) 會堂、學校、傳道會社を設る事

(十一) 傳道師、牧師を作る事

(5) 諸教會親睦一致ノ事

(6) 教會を獎勵する事

(7) 牧教會事

○神ノ萬事

萬事神ノ旨ニ從ヒ其惠ニ頼ラバ大丈夫ならん。信者をして尤も神を愛せしめ常ニ神ニ事ふる事を勧めば教會之事ハ必ずよく治るならん。

○懼恐

汝エホバヲ只懼レヨ。汝若し全クエホバノ御旨ニ從フ事ニ由テ人ヨリ捨テラレ或ハ貧シクナリ或ハ多クノ敵アリト雖又人ヨリ輕蔑セラルモ病ニナルモ人ハ一人モ伏從セザルモ何ノ恐ルモ事力有ンヤ。エホバハ吾ノ牧者ナリ。吾ノ強力ナリ。必ず吾ヲ導キ賜ふ也。只安心シテエホバノ命ニ從ヘヨ。

○敵

凡てエホバノ旨ニ逆フモノハエホバノ敵ナリ。然し彼ヲ愛シテ救ント爲し賜ふ。吾モエホバト同じ旨ヲ以テ働、更ニ敵ヲ恐るゝ事勿れ。詩ヲ讀メヨ。

○牧師或ハ傳導師

日 牧師ハ太古ノ預言者のものにして神ノ默示を受けて神ノ旨ヲ人々ニ傳へ又後ノ事ヲ預言せり。又祭司ノ如ク神ニ祭をヲ備へ

人ニ神ノ旨ヲおしへるもの也るが如し。

故ニ常ニ神ト交リ其御旨ヲ人ニ傳へおしへ又證據するもの也。

故ニ神不知者ニ教ヘヨト云ヘバ之ヲ教ヘ、また悔改メヨト云ヘハ之ヲ行ひ、また勸めと云ヒ玉ヘハ勸ませ、之ヲ止めと云ヒ玉ふを知れば之を信者ニに告げ、熱心ナレ、愛ヲ熱せよ、備せよと云ヒ賜ふを悟れば之云ヒ神ハ汝ヲ愛す汝の信を知れり。故ニ安かれと云ヒ賜ふを悟れば之を告げよ。即ち神ノ御旨ヲ信者ニ告げ信者之願を神ニ告る仲立人の如きもの也。神ハ聖靈ニ由テ之ヲ受與し賜フ也。故ニ之ノ任ヲ受たるもの偽善者にして己ノ意を行はゞ呼鳴神ノ前ニ於て罪ナル事哉。

若シ神己ヲコノ任ニ招シ玉ハザルニ己ノ勝手即ち金ノ爲め或ハ名ノ爲杯ニテなるもの固より彼ニ旨ヲ通ずるを好み玉はず。故ニ御旨の奧義をさとらしめず又聖靈之御力を與へず。然れば何ゾかゝる人ニ由テ救るゝ處あるの理あらん也。又吾曹ハイエヌキリストノ證人也。

○諸教會(多ノ眞ノ信仰
ナキ教會ノ有様)

(一) 神ノ旨ニ從はず己ノ旨ニ從ふもの多し

(二) 信仰より智識を重す

(三) 主ト兄弟を愛する愛ハ薄きなり

(四) 熱心ナル心なく、又ヌルクシテ信者ト不信者ノ區別難し

(四) 廣き道を歩み争もあり。酒、烟草をのむもあり。樂ニ沈るもあり。高慢を言ふもあり。不平心を懐くものもあり。此ノ世の財貨を第一ニ愛するものあり、又眞ニ神を愛する心より神ニ財を奉るもの、なし。

(五) 傳道會社ハ如何。金ト學問ニ由リ神ニ頼る心なきが如し。之を熱心ニなすものなし。傳道するものハ金の爲めになすもの多し。外國傳道會社之金ヲむさぼり常ニ其少きを不平トナシ宣教師ト日本信者之間ニ常ニ不平心ある也。ア、

(六) 十字架之道を愚トナシ只學問を貴ぶもの、如し。(七、八、九)
(七) 聖靈を受けて生たる信者ハ幾らある也。

(八) 世トソヒ供ナラント又即ち政黨杯其他政府、社、職業等世人ノ望ト同じき望を持ち之ト共ニ事を爲さんとするもの、如し
(九) 人ノ心ニ事ヘテ神ノ心ニ事ヘザルナリ

(十) 衣服、食物、家、道具杯を實ニ重じ、之が奴隸となるもの多し。

(十一) 己の行ニ由テ義トセラレント欲しまた常ニ罪ニ支配さるゝもの、如し。

然レバ如何、是れ神の旨ニ合ふたると謂ふ可きや。是れ未ダ罪之下ニ在る名のみ信者ニして實ハ死たるものニあらずや。今神ハ此教會ニ向テ何を考ヘ賜ふや

○學校

大阪之學校ノ神ノ旨ニ合はざる事ハ信者ノ心より之を愛し神の榮の爲ニせざる事、委員ハ各々ニテ意ニ爲さんとする事也。故ニ之を誘ふる事起れり。神ハ今信者ノ心を責め玉ふなり。

他之學校

第一ニ學問ト己ノ道德を重じ神を愛せざる事也。信仰薄き事也。

不信者ニ付きテノ御旨

悔改メテイエスニ頼リ救はるゝ事也。

○今何ヲ求メ玉フヤ

先ツ教會ノ清まる事也。故ニ愛ヲ以テ神ノ旨ニ從ふて教會ノ前ニ固ク人意ニ抗し神の旨を顯はすべし

(一) 學校ノ事 (二) 傳道社ノ事 (三) 更生ノ事 (四) 煙草、酒ノ事 (五) 世ト交ル事 (六) 利ノ事 (七) 神ノ旨ニ事フル事 (八) 罪ヲ犯ス可ラザル事 (九) 信仰ノ事

○慎一人ノ罪ニ付テ一抵抗

心ニ勵む時ハ殊ニ慎メヨ。恐クハ誤リニ陥ラン。人ノ罪ヲ定むるを慎メヨ。恐クハ汝ノ罪モ定メラレン。永ク忍耐セヨ。

神ノ愛ヲ思ヒ敵ヲ愛スル心ヲ忘ル可ラズ。人ノ過ト罪ト頑固ト愚ヲ見テ之ヲ嘲弄スルノ意アル可ラズ。(タトヘ人ノ知ラザル

所トモシ又悦ブノ心アル可ラズ。神ノ御旨ニ從フテ其ノ心ヲ憐
ミ悲ミコノ人ノ救ワレン事悔改ムル事ヲ望み待つべし。又働く
べし。心ハ之ニ由テ憂フべし。併し時ニ由テ怒ル心アルべし。
兄弟ノ愛情ヲ持ツべし。即ち惡ヲ惡ミ之ニ逆フ。併し悔改ヲ欲
スル也。

併し其ノ怒リ惡マル、爲メニ己ノ本心ヲ曲ゲテ和ニナル可ラ
ズ。固ク。己ノ本心ニ從フテ言フべし。又人ニ悔改ヲ勸ムル時
ハ神ハコノ惡事ヲ實ニ嫌ヒ玉フテ、又正シキ神故コノ惡事ハ亡
ニ陥ルヲ示し、又今神ハ汝ノ悔改ヲ待チ玉フ事慈悲アル親心ヲ
以テ待シ玉フ可し

又兄弟ノ誤リハヨク認メテ之ヲ知り復ヒ之ニ陥る可ラズ。又兄
弟が誤リヲ正し、在キニ進み又互ニ相愛する事を勸メ又之ニ成
る様ニ働く可し。

○決心

余ハ神ノ御旨なれば悦ンテ死せん。併し正ト愛ノ爲メニ死ス可
シ。又餞ゆべし。人ヨリ捨ラルべし。人より謗ヲ受くべし。惡
まるべし。

記

○聖書

日 實地ニ戰ヘバ必ズ心勵み又必用の神ノ武具ヲ要すれば必ズ之ヲ
多ク得可し。又心ハ常ニ熱心ナルべし。又多ク神ノ言葉ヲ要ス

べし。故ニ多ク求メ得べし。然レバ實地ニ戰場ニ出ルニ若クハ
無シ。

神モ之ヲ多ク助ク可シ。

明治十六年八月下旬より

十月十八日まで

(表紙缺)



(前缺)

(二)更生スルトハ如何

(イ)目開カル眞理を悟ル。

(ウ)イエスヲ信ゼバ、今迄ノ罪ノ重荷ト罪ノ詛ヨリ赦サル、ナリ。

(四)心ニ自由ヲ得ルナリ。

(五)神ト眞理ヲ愛スルナリ。故ニ靈之悦ニ充ざるゝなり。

更生せし者ト國の例。ポールノ事。ザーカイの事。ハワイ國とマダガスカルノ事。

綿汝曹モイエスヲ信ゼバ、心更生し永遠無限生を得可し。

○更生

更生するとは、アダムの性質が、イエスキリストの性質ニ生れ更るなり。

○吾ハ末小兒なり

吾ハ末ダキリストニ在る小兒なり。故ニ常ニ學び、常ニ謙遜ニ達したる牧師たちニならひ、兄弟之物を受け追々大人ニ成長す可し。(加拉太書六章三節を視る可し。)

また聖書を研究する事、神學を學ぶ事ら、祈願スル事ヲ常ニ務む可きなり。

八月二六日 安息日 朝 祈祷會

彼得前書二章二節又雅各一章十九節 五篇。服部他之助

○イエスの言葉

聖書ニアルハ重ニイエスキリストの口ヨリ出シ言葉ナリ。之ヲ説明スルハ實ニ大切ニシテ可慎事也。今主イエス之ヲ言ヒ玉ヒシ後、汝之ヲイエスノ前ニテ人々ニ説明スルトキハ、豈ニ慎マ

ザル可ンヤ。吾ハイエスヨリ優レル者ならんや。然レバ、謙リ
テイエスニ祈リ問ヒ其御旨ニ適ヘル様、イエスヲ敬フテ無誤説
明ス可キ事ならずや。故ニ不知事ハ知ラズト明ニ言フ可シ。

○説教スルトキノ心得

説教スル眞理ハ神ノ眞理ナリ。之ヲ吾ニ教ヘシハ聖靈ナリ。又
之ヲ聞ク者ヲ感化セシムル者ハ聖靈ナリ。此福音ヲ初メシ者ハ
イエスキリストナリ。然レハ榮ノ歸スル者モ三位一體之神ナ
リ。故ニ吾ハ只神ノ器械、神ノ僕ナレバ實ニ神ノ前ニ謙リ、神
ヲ敬ヒ只神ノ示シ玉ヘル眞理ヲ宣ブ可キナリ。又聞ク人ヲシテ
其ノ言葉ヲ人間ノ言葉ノ如ク輕蔑シテ聞カシムル事勿レ。神ノ
言葉即ち神ノ口ヨリ出デ、神ノ靈ヨリ出ル眞理ナルヲ悟ラセ、
神ヲ敬ヒ、神ノ言葉トシテ悦ンデ聞カシム可シ。即ち神ノ言葉
トシテ各人ノ心ニ受ケシム可シ。然レバ吾ハコノ世ノモノ、己
ノ智、己ノ榮ハ十字架ニツケテ、只神ニ心ヲ奉ゲテ福音ノ役ヲ
務ム可キナリ。神ノ言葉ヲ聞クハ一言一句モ實ニ難有可敬ナラ
ズヤ。

○吾ハ善牧者なり。善牧者ハ羊の爲に命を損つ。(約翰傳十

章十一節)

日 記

(一)羊ハ自ら養フコト能ハズ。牧者之ヲ導ク。

(二)迷ヘバ自ら守ルコト能はず。(九九匹ヲ殘シテ迷ヘルモノヲ

尋スル譬)

(三)病或ハ疵ヲ受ケバ牧者之ヲ療治ヲ施ス。瘦セタルモノ肥シ弱
キモノヲ強くせり。

四)若シ穢ルレバ、直ニ水ヲ以テ洗ヒ清ムルナリ。

(五)諸獸ヨリ自ら守ル能はず。又盜人ヨリモ守ル能はず。牧者之
ヲ守ル。

(六)牧者ト羊ハ互ニ愛する也。牧者ハ己ノ羊ヲ識ル。又羊ハ牧者
ノ聲ヲ聞イテ、之ニ従ふ。

七)コノ譬ヲ考へ見れば、吾ヲ信者ハ羊なり、

イエスハ善牧者なり。然れば羊ハ只牧者ニ頼リ命ト幸ヲ得る如
く、吾ラも只イエスヲ信じ、常ニイエスト共ニ在リ、其御助ニ
由テノミ惡魔ヨリ免レ、罪ヨリ清リ、永遠無限生命を得るな
り。然レバ己ノ行、己ノ力ニ由テ義ヲ守ル能はず。只イエスニ
頼る事なり。故ニ信者ハ學問ヤ己ノ精神ヤ働キヲ勵むとも、如
何ニ力ヲ盡しても、惡魔之奴隸ヨリ免レ安ヲ得る事能はず。イ
エスニ頼む事ナリ。此の二の道ヲ誤ル勿レ。羊ハ己ノ力ヲ出ス
コトヨリモ、牧者ニ從ヒ牧者ニ頼ルハ尤も安き道なり。

又、イエスハ羊牢の門ナリ。門ヨリ入る者ハ其の羊の牧者な
り。(約十の二)故ニ眞の牧者、眞のイエスの牢ニアルイエス
ノ羊ハ門ヨリ入ルナリ。故ニ汝ヲ人ヲ信ぜず、人ニ從はず、人

ニ頼らず、自ら己ノ心ヨリイエスヲ信ぜよ。イエスヲ愛セヨ。即ち汝目ライエスノ門ヨリ天國ニ入レヨ。又當ニ内ニアルトキモ、道ニアルトキモ、働クトキモ、敵ノ中ニアルトキモ、夜中モ、晝モ、イエスナル善牧者ト共ニ在ルベシ。水ナク草ナケレバイエスニ祈リ告ゲヨ。敵ナル惡魔、汝ヲ害せんとせば只イエスニ頼レヨ。即ち常ノイエスヲ視、イエスニ祈リ、イエスヲ信じ、イエスヲ愛し、イエスニ従ヒ、イエスノ聲ヲ聞キ、イエスの靈を受け、イエスヲ離ルゝ事勿レ。

○説教題

家（ホーム）之内（天國と成セ）

八月二十八日 朝祈禱會

約翰傳十四章二十六節

凡ての信者ニ聖靈達されん事。又郡山奈良ニ於てイエスの言葉ヲ思ヒ出しイエスヲ信ずる様祈る事。

河村、松田妻、林、井岡、中川母、橋本弟、井岡大工、靜間、土居、山田之盲女、石原、佐伯、山本、巖田、石川、宇の。絹川。

浪花教會。長澤純一。大畠政吉。三田之爲

八月二十九日 朝祈禱會

耶利米亞記卅二章十六節ヨリ

信者ヲ強メ玉ハン事。數々作り玉ハン事。今晚ノ集リノ爲メ、此大和の國ニモ神之榮顯われん事
信者ニ勝を得させ玉わん事
罪人悔改めん事。

浪花教會、侯のくめ。大石睦世。

レビツト氏之爲め。

○祈禱

父ハ祈ヲ聞キ、願ヲ與ヘ玉ふ者、イエスハ父ト吾ラ之仲保人
聖靈ハ吾ラノ祈ル心ヲ助ケ、又父之遣シ玉フテ、父トイエス之
旨ヲ吾ラノ内ニ行ひ玉ふ神なり。イエス祈ヲ教シトキ天の父ヨ
ト云ヘリ。是ニ由て父ニ祈ル事ヲ知る可し。

又約翰傳十四章二十六節

又羅馬八章二十六、二十七

八月二十九日 朝祈

コリント前書二章

奈良、郡山、（以下七字分不明）

其他

○傳道

吾ライエスキリストニ救ワレ聖靈ノ恩化ヲ受レバ、其ノ喜溢レ

出デ人々ニ宣ベン事ヲ欲スル也。

又其他眞理ニ感ゼバ、之ヲ人ニ傳ントスル心ハ誰ニモ起ルナリ。故ニ女モ小兒モ無學者モ學者モイエス之福音を傳ふる事を得るなり。其心之感動を傳ふる人ヲ得るなり。女ハ説教セざるも其人ニ適する人ニ其福音を宣ぶる事を得、小兒ハ其友ニ傳ふ事を得る也。誰ニても道ニ深く感ゼバ口ニ言ヒ顯わさざるを得ざるなり。又之を宣傳ふ人をも得るなり。故ニキリストノ信者、男女長幼ニ拘らず傳道し預言する也。

(使徒傳二章十七、十八)

○傳道ハ神之能ニ由テ成ル

如何ニ善キ説教スルモ、如何ニ論ズルモ、神之ヲ助ケザレバ救ヲ受ルモノ一人モナシ。眞の傳道ハ神ノ助ニ由テ成ルナリ。奈良之傳道モ神助ケ玉ハン事を祈ルベシ。己ノ力ニ由ルヨリ、己ノ心ヲ勵ます事ヨリ、己ノ智ヤ辯ヲ振フヲ勉ムルヨリモ、己ヲ虚くし、神ノ助聖靈之助ヲ仰ぐ可し。信ず可し。傳道神ノ開キ玉フ事ニ由ルナリ。神ヲ渴望ス可し。祈ヲ專一ニス可シ。

記 ノ助アルナリ。神ノ導アルナリ。

日 神ノ助ニヨリ神ト共ニ傳道スルハ豈ニ幸ナル事ナラズヤ。

○交際

子ハ母ニ萬事任す可し。取扱ヒ惡しきも之をヤカマシク言ふ可

らず。又之ヲ子ノ前ニテ決して母ニ誤リヲ言ふ可らず。又子ヲ重ニ父ニ從はせ、母ニ遠からしむる勿れ。もし妻ニ教ゆる事あらば、夜中子供之眠りし後柔和ト愛ト尊敬ヲ以テ諭す可し。

また妻之他人ニ交ワル事ヲモ、夫餘り指揮す可らず。

九月二日 安息日 祈禱

○祈禱 (一)讚美 (二)感謝 (三)悔改懺祭 (四)祈求 (五)獻身即禱祭

○私ノ祈 公ノ祈

○神之聞き玉ふ事

祈ハ神ニ交ル事ナリ。故ニ事アルトキモ、ナキトキモ、朝モ、夕モ、晝モ、常ニ祈リシテ神ニ交ル可し。吾ヲ友或ハ妻ト毎日交リ或ハ禮ヲ述ベ或ハ願ヒ或ハ問ヒ或ハ互ニ歌ヒ或ハ互ニ話シ或ハ互ニ物ヲ與ヘ或ハ互ニ喜ビ互ニ慰メ或ハ互ニ助ルナリ。如是神ト交ルニハ祈ヲ以テ交ルナリ。或ハ感謝シ或ハ讚美シ或ハ神ノ愛ヲ求メ或ハ聖靈ノ交リヲ受ケ、喜、慰ヲ得ルナリ。吾ヲ祈ヲ以テ神ニ告ゲ、神ハ願ヲ答ヘテ恵ヲ下シ、力ヲ與ヘテ吾ヲニ應じ玉フナリ。故ニ神ヲ愛スル者ハ祈禱スル事ハ豈ニ幸ノ至リナラズヤ。

(詩五十五之十七)

○説教

説教スルニ無學ナ人モ學者モ小兒モ大人モ信者モ未信者モ信強キ人モ弱キ人モ男モ女モミナ感シ悟リ、救ニ導ク説教ハ尤モよろし。

○イエスノ心ヲ持テ

イエスノ心ヲ以テ説教し、兄弟、罪人ト交リ、貧キ人ニ交リ、敵ニ交る可し。

イエスハイエスノ敵ナルポールニ逢ヒシトキ、悔改メハ直ニ罪ヲゆるし、其迄怒ヲ發せず。また姦淫セシ女ニアヒシトキ吾モ汝ノ罪を定めずと云へり。又ザーカイナル罪人ニアひシトキモ、其罪を責めず、今日汝之家ニヤドラント云へり。イエスノ柔和、憐を以テ、罪人ニ交リ、イエス之福音を傳ふ可し。

○諫メル事

人罪ヲ犯せシトキハ本心ニ責アリ。故ニ怒アリ。然れば之ヲ諫メル、柔和ヲ以テス可し。また時ヲ歴テ言フ可し。

○題

X約書第一の一ヨリ五章迄
信者ハ罪ヲ犯スカ或ハ犯サハルカ。

○夜之題

X路加五章三十一節。又使徒傳三章八。イエスハ靈魂之醫師。

○人の事ヲ思ヨリ、己ノ救ヲ思へ。

吾ラ人間ハ人の事ノミニ目ヲ注グヨリ、己ノ事ニ目ヲ注グハ尤モ大切ナリ。先づ己救ワレテ人ヲ救ニ導ク可し。己レ行フテ人ニ勸ム可し。然レドモ人ハ人ノ事ヲ思フテ、己ノ事ヲ思ハザルモノナリ。故ニ説教スルニ、論ヤ又人ノ事ヲ論ジ、國々ノ事ヲ論ズルヨリ、聞ク人各々ノ己ノ救ヒニ關スル事ヲ説ク可し。必ズ他處ヲ射ズ、其人ヲ射テ得ルヲ務ム可し。

○何故人ハ道ヲ受ケザルヤ

眞理ならざる故カ、眞理ヲ悟ラザル故カ、證據ナキ故カ、否、人ノ心人ノ榮ヲ求メ己ノ名譽ヲ欲、靈ノ喜ヨリモ肉ノ情慾ヲ樂ミ好ム故、コノ肉ヲ離ルルヲ喜ばず。故ニ神ト神の事ヲ愛スル心ナキ故、目ヲ閉ヂ、心ヲ頑ニシ、悟ラン事ヲ恐れ、眞理ヲ防グ故、悟ラザルナリ。(ヨハネ傳三章二十一節)

勝ヲ好ム人ハ夜ハ出デ晝ハ穴ノ中ニ隠レ、光に出デザルナリ。彼ハ光アルヲ知ラザルヤ、否ナ、知レリ。然レドモ自ラ光ヲ惡ム故、光ニ出デザルナリ。或友其人ニ光ノ幸、益ヲ教ユルト雖ドモ彼曰ク。光ハナシ。光ハ無益ナリト云ヒ、光ニ來らず。論ト證據ニハ伏スルトモ、光ニ出ザルナリ。又出ル心ナキナリ。是レ何故ならんや。彼ハ暗ヲ愛して光ヲ惡ム故也。凡テキリストヲ不受者ハ吾ラノ敵ナリ。故ニ敵ヲ妨グ可し。敵ハ神ヲ謗リ、眞理ヲ隠サントスルナリ。可慥也。

○郡山之信徒

郡山之信者ハ未ダ幼少之小兒ナリ。故ニ神ハ追々之ヲ育て玉ふを謝す。故ニ吾ハ小兒之乳を慕ふ如く、母ニ頼るが如く、キリストヲ慕ヒ、キリストに依頼し、且つ諸兄弟之勸を受ば日々成長す可し。

(コリント前書三章一節、又彼得二章の二節を視る可し。)

○互ニ人之徳を建つ可し

如何ニモいハ人ニテモ救ニ導く可し。路加傳十五の三ヨリ十の牧者之一匹之迷ひし羊を尋ぬる例。又帖撒羅尼迦前書五章之十一節に、互ニ慰め又おのゝの徳を相建つ可し

又哥林多前書十三章四ニ、人の益を圖るなり又人之惡を念はず又凡事包容又愛は寛忍をなし又然れば我儕強き者ハ強からざる者の懦弱を負て己の心に悦ばざるをも爲す可き事なり。我儕おのゝ隣の徳を建てんために、善を以て之を悦ばすべし。(羅馬書十五章)

又ポーロ曰く、吾猶太人ニハ猶太人の如く異邦人ニハ異邦人之如くナリ、如何ニもして彼等數人を救わん爲也と。

記 然れば郡山之信者ニ對してハ其情を察し、大阪之信者ニ對してハ其如く交り、各々之徳を建るを働とす可し。人ニ弱キ人アリ。強キ人あり。辨ノ巧ナルアリ。拙ナルアリ。精神活潑ナル

アリ。遲鈍ナルアリ。併し神ハ誰もかもイエスニ由テ、其有様ニて救ひ玉ふなり。故ニ各々之事情を察し救に導く也。又短氣ナル人アリ。忍耐強キ人アリ。凡テ一様ならず。

○傳道

今郡山、奈良、其他大和之人々ニイエスとイエス之福音を顯はす可きなり。如何ニしてあらはす事を得んや。

○説教題

X世の末(馬太傳二十四章)

○説教之爲方

説教スルニ飾リト論辨ヲ止メヨ。如何トナレバ、飾の爲メニキリストト其福音ヲ隠スコトアリ。如何トナレバ、人々只、飾ニ目を注げ、キリストヲ見ざるなり。たとへば、余非常ニ錦ヲ飾らば人々吾衣服ニノミ目をつけ、吾ヲ見ざるなり。

また論辨を加ふるも、無學ナル人ニキリストト其福音を辨へざる事あり。キリストノ凡テノ説教モ譬モ飾ト論辨を用ゐず。故ニ婦女子ニも其眞理を悟り得可し。また十二使も、キリストノ歴史を書くニも更ニ飾ヲ用ゐて繁雜ナル事ナシ。

又イエス祈リヲ教ヘ玉ヒシモ、實ニ短く心之儘ニ祈る様教ヘ玉ヘリ。

ホールの哥林多前書二章ニある説を考ふ可し。又哥林多後書二

草十七節ニ我儕多之人の如く、神の道を混亂せず、即ち誠ニヨリ神ニ由りて神の前ニキリストに在りて言ふなり。故ニ説教ハ極愚ナル無學ナル者ニもよく悟らるゝ様ニなす可し。また聞きし人悉く其説教を覺へる様ニす可し。

また心ニ言葉ヲ論ニ感ぜず、又苦まず、只福音を感じ、己之罪を苦しむ様説教す可きなり。飾モナク辨モナクシテ人々感ズル説教ハ能アル説教也。故ニイエス之福音をあらはすニハ學術ヤ能辨ニテ眞理をあらわすニあらず。聖靈之大能ニ由テ可顯也。世ノ人實ニ巧ニ造りし事ナリト誇ルモノアリ。然れ共キリスト教ハ學術ヤ人智ニテ造りしものニあらず。飾ナキ方便ナキ實事の咄なり。

○傳道

傳道ハ只口ニ道を宣へ傳ふ而已ニあらず。聖書ニある神の旨を行ふ事、大ナル傳道する事也。イエスを見ヨ。全く神の旨を行へり。たとへ人道ニ反スルモ之ヲ行へり。故ニ人々大ニ驚き、或ハ怒リ或ハ感じ或ハ尋ねしニ由り、イエスハ神の力ヲあらはし又眞理ヲ人ニ明ス機會を得、大ニ神の旨ト神の榮を顯せり。如是今日も聖書ニある眞理ヲ行ヒ更ニ世風ニさそわれず全く神の旨を行へ、又教ヘヨ。然らば人々神の能を驚き福音之眞理を求むるニ至るべし。

○聖書研究方

人ニ聖書を教ゆるニハ可成學ぶ人ニ言はしめ、其説を聞き、愚ナル人之心ヲ導く可し。餘り自らのみ言ふハ大ニ損也。聞人之心を多く用ひしむるハ大ニ益なり。只教ゆるものハ之ヲ導くのミニテ、重ニ研究するハ學ぶ人ニ任す可し。

○イエスニ任す者ハ常ニ幸あり。

吾ら罪あれば大ニ悲ありと雖モ、もし其罪を白狀セバ、キリストハ免し玉ふなり。其時の人ノ前ニテハ己の榮を失ふと雖モ、之を意とせざればイエスハ柔和ニして謙遜なれば、直ニ免し玉へば、更ニ憂となす事なし。イエスハ誤あり、罪あれば之を戒め之を教へ玉へば、之ヲ立腹せず、之ニ從ひ、其戒ニ從はば、其罪免され、且つ信仰進歩し、却而幸を増すものなり。然れ共己之榮を求め己之道ヲ放(つ)ンすれば、常ニ禍多かる可し。約翰第一書を研究す可し。

○祈

信じて祈らば聞かる可し。弱き信者之爲メ、又試ニある信者、又己之弱きを知り、神ニ罪ヨリ救ヒ、罪ニ誘われず、却テ救ヒ出し玉へ、又世ヨリ救ヒ出し玉へと祈らば、之を聞き玉ふを信じ祈らば、聞かる可し。

また聖靈を祈らば、下し玉ふを信ぜバ、聞かる可し。又金も世

之救も信じて祈る可し。

故ニ余ハ何事何處何時ニ由らず罪ニ誘はるゝものなれば、説教スル前ニも人ニ交る前ニも何處へ行く前ニも常ニ祈りて聖靈を受けて行く可し。羅馬書第八章九節ニ、モシ神の靈爾曹ニ住まば爾曹ハ肉ニ在らで靈ニ在ラン。凡そキリストの靈なき者ハキリストニ屬さざるものなり。高慢ト私ト情慾ハ肉之心なり。是ハ吾靈ト吾國之幸を減るものなり。

○聖靈

謙遜ならざれば聖靈を受ける事能はず。十二使並ニポーロヲ思ひ視よ。彼ラ實ニ謙りたる心ヲ作り聖靈之バプテスマヲ受ケケタリ。

又吾ラ説教ヤ働ク爲メニ先づ聖靈を祈るは誤なり。先づ祈るハ罪ヨリ救わるゝ爲なり。即ちキリストヲ己ノ心ニ受る事また凡テ罪之誘ニ勝つカヲ與ヘ玉ヘト、又吾心之有様を教ヘ玉ヘ、暗き心を照し玉ヘト祈る可し。さらば與へらる可し。

○祈之室

祈ノ室ニ、凡ての心ニ、キリストヲ敬はしむ可し。各々之心ニキリストト聖靈を感ぜしむ可し。

記

日 ○人の罪ヲ赦セ

人ヲ輕しめ人を責メ戒むるハ、惡し事なり。凡て吾曹は弱きも

のなり。故ニ神の憐を考へて救ヒ之道を宣ふ可し。人ハ神の憐ニ由て救われ、神之正ニ由て罰せらるとなり。故に法律をとくよりも救を宣ぶるを務む可し。

○祈之集を導く事ハ

神の旨ニ合ふ祈を奉げる様、導く事なり。たとえば口ニ飾り心ニ信なき事なき様、またあまり口ニ未く言ひ度ガリ、其他神之嫌ひ玉ふ事をさけ、悦ビ玉フ祈之出來る様導く可し。説教も勸も神之榮之擧る事ハ大ニよし。

○人ヨリ吾ヲ責メヨ

人の弱ヲ例ニ言フヨリ、責むるより、己之弱を思ヒ、之ヲ責め又憐ヲ乞フ可し。また人之罪を責むるより、己之罪ヲ責む可し。

○聖靈

吾ラムデーの如く多之人ニ説教する事、聖靈之能を要せざるも、己ノ心之爲メニ入用也。又一人ヲ導くニ必ズ入用也。其爲め即ち神之旨ニ従ふて、聖靈を求む可し。然らば之を得可し。

○説教

吾口ヨリ出でし言ニ由テ、人之心化すと思ふ勿れ。是れ聖靈之聖書之眞理を以て働き玉ふ能なり。

○イエス之爲め之働

必ず其人ヲイエスニ由テ（如何ナル頑固人も如何ナル罪人も）救わんとし、又信者ヲ勸まさんとせば、必ず説教も働も有るニ相違なきなり。愛カ、施カ、説教カ、話カ、看病カ、何カキリストの爲めに働ク事アルナリ。働ナキ人ト働ナキ時、働キ處あるや。否。誰ニも何時何處ニも働ある也。毎日身ヲ殺して汝之働を完全ならしめよ。

○浪花教會、説教題（九月十二日夜）

X我ハ門ナリ。若し人我ヨリ入らば救われ、且つ出入を爲して、學を得可し。

（初題之説明）

(一)神ニ近くハイエスヨリス。

(二)イエスノ名ニ由テ聖靈を受く。

(三)イエスハ門ニして常ニ出入して學を得、生を保ち得るなり。

故ニ吾ラ常ニイエスニ在らざれば、直ニ罪ニ陥るなり。

四門ハ盜賊ヤ狼を守る爲メニ設ケタル物、羊ト羊牧の出入之門

ナリ。故ニキリストハ吾ラヲ惡魔ヨリ守り玉ふものなり。

(四)イエスハ吾曹人間ニ尤も近し。即ち人ナリ。故ニイエスニ行く可し。馬十一の六ヨリニ、凡て勞れたる者また重を負ル者

ハ我ニ來れ。我れ汝を息セン。我ハ心柔和ニして謙遜者なれば、我鞭を負て、我ニ學べ。爾ラ心ニ安平を獲可し。

又希伯來書二章十七、十八ニ、是故ニ神ニ屬ける事ニ就テ矜恤ト忠義ナル祭司之長となりて、民の罪を贖はん爲ニ、諸事ニ於て、兄弟の如くなるハ宜なり。蓋カレ自ら誘われて艱難を受けたれば、誘わるゝものを助け得るなり。

(四)イエスハ近クノミならず、吾ラノ内ニ在スナリ。

馬太二十八の二十二、夫れ我ハ世の末^{まは}マデ常ニ爾曹と偕ニア

ルナリ。アーメン。

又馬太傳十八の二十二、吾名の爲メニ二三人の集レル處ニ

ハ、吾も其中ニ在ればなりと。

又約傳十五章、爾曹我ニ居れ。サラバ吾マタ爾曹ニ居ラン。

(四)信仰ニ由テキリスト吾ラノ内ニアリ。

以弗所書三章十七のキリストヲシテ信仰ニ由テ、爾曹の心ニ

在らしめ。

又ローマ書ニ、夫れ人ハ心ニ信じて義トセラレ、口ニ認はして救わるゝなり。

(決尾)

(一)世の人學問ヤ人智ヤ道德ヘ目ヲつけ、キリストヲ視ず。故ニ神ヲ知らず。

(二)吾ラモ兎角人の心ヤ行ニ目ヲ付け、或ハ人品ヲ評し、人の心ヲ取ヲ務メ、或ハ道理ニ走り或ハ己ノ力ニ頼リ、或ハ人ヲ

學び、キリストヲ忘ルゝ事多し。キリストニ在らざれば決して罪ニ勝つ力なし。又實を結ぶ事なし。

(三)キリスト汝ニアルヤ。

キリスト吾ニ在テ生ルナリ。キリストニアルモノハ實ヲ結ブ。キリストニアルモノハキリストノ形ニ似ル。

ローマ書七の二十四ヨリ八の一ヲ視ヨ。

○吾ヲ祈る可し。イエスキリストハ昨日モ今日モ永遠モ變らざるなり。

○リバイバルハ神ノ喜ビ玉フ處也。

リバイバルハ神ノ榮ノ擧ル事ナリ。イエスノ救ノ廣ル時ナリ。聖靈の働之振ヒ起る事ナリ。即ち人心ニ己ト欲ハ燒ケ盡き、神ノ旨イエスノ心聖靈之思ガ人心ニ燃ヘ立つ事ナリ。故ニリバイバル神ノ榮ナリ。故ニ吾ラ之ヲ祈るハ神ノ旨ニ可なへる事を祈るなり。是ハ人ノ榮ニあらず。もし彼ノ教會ハ起リ立テしと言フハ、更ニ人間ノ榮ニあらず神の榮なり。吾ラ常ニ心、神ノ事ニ燃ヘ立ち、熱心なる心を持つ可し。即ち愛も信も忍も謙も働毛清も感も、凡事、心聖靈ニ由テ熱くなる可し。

記
主曰く、我爾が冷カナルか或ハ熱アラシム事ヲ願ふ。とかく人は己ノ情欲、利欲、名譽の爲メニ熱心トなるなれ共、是れ虚き事ナリ。吾ラハ神の事ニ熱心なるべし。

○罪人を導く

罪ニ難み惡ニ傾く弱きものあらば彼をキリストニ倚らしめよ。キリスト彼ヲ愈さん。吾を愈さん。吾を愈セシモノハキリストナリ。

○説教

神の道ハ言葉ニあらず。能ナリ。故ニ吾考ヤ想像ニして、未ダ己ノ行わざる事を宜ぶ可らず。聖靈之能ニ由テ己ノ得たる能以テ道ヲ宜ぶ可し。

○我誠ニ曹ニ告ン。告シ改マリテ嬰兒の如くならずバ、天國ニ入る事を得じ。(馬太傳十八章)

吾曹之罪ニ陷るハ小兒ナル大人ブリ愚ナル智ブリ弱キものなるニ強きが如く慢るが故也。

今ヨリ謙り、朝ニ夜ニ神ニ祈り、聖書を讀ミ種々之靈之本ヲ讀ミ、之ニ感じ、常ニ聖靈ニ由らば罪に勝ち得可し。

又吾ハ無知なるを覺へ。人ヲ優れりとし、長上ニ問ヒ學ビ、又神ニ學ぶ事を可務也。

又廣き道ハ惡魔ト其從者之行く道ナレバ、之ヲ行く勿れ。之ニ行かば惡魔之謀ニ陷る可し。狹き道を行かば罪ヲ犯さず。

如是敵ト己ノ弱キ有様を悟り、眞ニ神ニ倚らば、常ニ勝を得て安からん。

眞ニ小兒心の祈りハ神ノ旨ニ適へるなり。

又神ハ吾父なり。吾ラハ愛セラルル子供ナリ。故ニ小兒の如く謙り、其他父ニ從ヒ學ぶ可し。又父ハ子を愛シ玉へる故凡ての信者を守り玉ふハ疑なし。故ニ信じて兄弟の爲めに祈る可し。

○救ノ道ヲ阻ムモノハ何故

彼ラハ救ヲ求ムルニあらず。神ニ迷ヒ神ヲ謗らんとする故、眞理を悟らず。例セバ救ノ道あらば己ノ罪ヲサトリ悔改メ救ヲ得可し。然るニ神ノ救ノ道ノ立方ヲ論じるものアリ。

是れ眞ニ彼ハ救ヲ求むるニあらず。神ト論ぜん爲メナリ。

九月十三日水曜日 浪花教會 祈祷會 澤山氏司會

(一)馬太七の八一十二 (二)馬可十一二十四 (三)路十一の十三

(四)路十八の一八 (五)約十五の七 (六)約十六の二十三 イエスの祈りニ付テ教ヘ玉ヒシ、要處。

○凡ての事信じて爲せ

兄弟ト交ルニモ祈ルニモ導くニモ説教スルニモ何事ニモ主の恵アルヲ信て爲す可し。イエスハ如何ナル罪人も救ヒ玉ふを信じ、聖靈を祈れば降るを信じ、働を爲せば實ヲ結ぶを信じて神の働を爲す可し。不然れば主より恵を受ける事少からん。

○教會設立之事

三日朝九時ヨリ一

(一)議員・議長・書記ヲ選ブ事

(二)教會ヨリ送り書狀ヲ讀ム事

(三)公會ヲ設クル主意ヲ問ふ。

浪花ヨリ別ル主意

(四)牧師ハ有ルカノ問

其給料並ニ雜用費(所有品)

(五)人會者ノ試験

(六)牧師ノ試験

神戸教會、兵庫、多聞、京都三教會、大阪四教會、外國宣教師、尔數十八教會へ報ず可し。

説教者、按手ノ祈祷者、公會へ勸ヲナス者、牧師ニ勸ヲナスモノ、牧師ニ握手スルモノ、新牧師ト共ニ晚餐ヲ守ルモノ

舊約書 聖書問答。

○愼

大人ノ前ニ出ズルモ敵ノ前ニアルモ衆人ノ前ニアルモ、大火事ノ時又盜賊ニ逢ヒシトキ其他非常之時、決して狼狽せず、靜止シ、謹愼シテ、事ヲ處す可し。然らば何事も誤リナク眞理を行ふを務ム可し。

○傳道

提摩太後四章二又二章の十五

哥林多前書三章七節

○結婚論並ニ夫婦一致、十年を費スモ研究す可し。

結婚スルモ、互ニ愛シ一致セザレハ之ヲ得ず。故ニ他人ヨリ勸メ或ハ一方如何ニ慕フモ之ヲ得ず。其他夫婦ハ一致せざれば幸福を得る事なし。故ニ一致し難き時ハ一致スル事ヲツトメ、一致ノ出來ル時ヲ待ち事を行ふ可し。もし之ニ反シ一方ノ意ニ何事も爲さんとせば、常ニ爭ヒ止む時無る可し。

○信用

兄弟(當地ニテモ大阪其他ニテモ)ヲ信ジ、説教シ、勸ヲなし、交リヲなす可し。

又之ヲ爲す聖靈之御助けある事を信じ爲す可し。

又傳道するも教會設立モ聖書賣、傳道も學校も必ズイエスノ名ニ由テスル事ハ、成ると信じて爲す可し。

哥林多前書十三の七ニ、凡ソ事包容およそ事信じ凡ソ事望ミ凡ソ事忍ぶなり。

○説教

神ノ言葉ヲ、神ノ旨ニ適ヒ謙リテ神ニ祈リ聖靈を受けて宜ぶ可し。然らば能ある言葉となる可し。

日 ○安息日 説教題

X財を慕ふは諸の惡事の根なり(提摩太前書六章十節)

X馬太傳八章二十四ト二十五節

○説教

説教ヲ爲し、信ずると信ぜざるハ其人と神ニ委ネ、只信仰を以テ道を宜ぶ可し。

○己を義トセン爲メニ、神を偽者とし、神を無きものとする也。

馬太十九章十六ヨリ二十二迄

ローマ書二章一と四章の一節を視る可し。無神論ヲ稱スルモノ己ヲ義トセンが爲也。

又或ル人煙草を止メントシ、イエスノ名ニよらず己は其能あるとするものありし。如是事道を義とする故なり。又或人ハ未來ニ於テ刑罰を受るも可也と、口ニ稱スルモノアリ。その人之本心如何。

九月二十四日

○問

(一)夜學校を開く如何

(二)教會設立ニ付て備へスル事如何

(三)余之勉強如何

書 舊新約聖書、リバイバル、天路歷程、ムーデー氏ノ傳、諸譯

四聖書實例之事

役員、書記、諸務、會計、答辨者、營膳方

○主之晚餐

エボバ、イスラエルヲ埃及ヨリ導入せし事を常ニ覺エ、神ニ感謝し、神之事を知らん爲めに踰越之節之祭ヲなせし如く、平日ハキリスト吾ら之爲ニ血ヲ流し、吾ラヲ救ヒし事ヲ覺エル爲メニ、晚餐ヲ守らしたり。故ニ神ハ古之事蹟を覺エルハ神之旨ニかなへるなり。

○題

X 利未記二十六章

X 爾勵みて悔改メヨ (默示錄三の十九)

神吾ラニ困難、憂、病を與へ玉フハ吾ラヲ懲らしめ悔改メサセン爲メナリ。此時早く悔改むるものハ救はる可し。吾ラ心ト行ヲ調べよ。神之旨ニ適はざる事ハなきや。神ニ逆ふものハ禍其門ニ伏ス

○牧師ノ任

吾ヲ牧師傳教師ト爲スモノハ、人間ニあらず神なり。

吾ニ按手之責任ヲ授けしものハ、イエスナリ。此ノ任ヲ神ノ旨ニ從フテ爲さしむるものハ聖靈なり。故ニ吾ラヲ之ニ任じ、其力ヲ與へ玉ン事ヲ神ニ祈ル可し。又兄弟ヲ吾ニ按手し之ヲ祝ス

ルモ、亦神ノ恵ヲ受ン爲なり。故ニ按手禮ノ時ハ常ニ神ノ恵ノ降ラン事ヲ祈る可し。吾ニ之ノ任ヲ成就し善牧者トナルヨウ聖靈之概ガレン事ヲ祈ル可し。

提摩太前二ノ七。コロサイ一章ノ一。使傳六ノ六。使八の十七。使傳十三の三。

○何事も本心ニテ之ヲ爲せ

按手禮も洗禮も晚餐も、祈祷モ、勸メモ、説教モ、儀式ヤ己ノ智ヤ例ニテ上向ニテ決シテスル事ナク、聖靈ヲ受ケテ神ノ能ヲ受ケテ眞實ニなし、其時神ノ恵ヲ受クルヲ目的トス可シ。故ニ何事モ人間ノミノ爲ス事ニアラズ。其内ニ神ノ靈アリ、興リ、祝シ、助ケ慰メ玉フ事ナリ。之ヲ常ニ忘レズ何事モ實事ニ行フ可し。

○神ノ教ト懲メヲ侮ル事勿レ。

小兒ノ時母ガ勉強セザレバ、責メ、其他教へ戒メル事、何故か更ニ悟ラズ。之ヲ不平ヲ言フ事アレドモ、大人トナリ母ノ愛ト眞ヲ知ル可シ。又小兒ノ時裸體ヲ戒ムレバ小兒ハ何故かを知らず。然レドモ大人トナリ初めて之ヲ悟ルナリ。

如是吾ラ神ノ戒ト教ヲ、如何ナル目的ナルヲ知ラザルモ、神ハ吾ラノ父ナレバ之ニ從フ可シ。

○題 (See of Bible text Book page 147)

X 滅亡ハ近シ悔改メヨ

ローマ書二の五。馬可九の四十四、馬太三の十。馬太十一の二十、馬可八の三十六。馬太二十四之十二ヨリ二十五の十三迄。春過ぎ夏起て吾ハ救はれざりし。

X 地ニ在てハ自ら實旅なり。寄萬者など言へり。希伯來十一の十三。哥林多前書七の十八ノ二十四。又哥林多前書七の二十九ヨリ三十一迄。

○凡ての人ヲ友ト思へ

説教スルトキモ、如何ニ罪人も之を己の友人兄弟と思ヒ、愛を以テ道を宜ぶべし。

○朝祈祷

毎朝聖靈を受けん爲ニ祈ノ集りを爲す也。信仰を祈らば毎日需要を得可し。

○題

X 愛 X 信仰

○九月四日 夜

記
祈祷を爲して、教會設立ヲ決ス。其際力之弱キト維持方ヲ危ムモノアリシカドモ、神ノ力ヲ信じ其力ニ依リ大ニ勤ム心ヲ持テ、之ニ決セリ。又其節今教會設立ヲ辭スルハ、吾ラ前ヨリ神ニ祈、設立ヲ願ヒシガ今之ヲ聞キシニ神ニ之ヲ辭スルハ、大ナ

ル誤ナリト悟リシモノアリ。又浪花教會ヨリ離ルハ、愛ヲ離ルハカト疑フモノアリシ。

○毎月曜日之夜教會設立相談ト定ム

○夜學校

先ツ傳道スル者ヲ教育スルト定メ先今ヨリ森村金松、中川竹松、中江汪ノ三氏ニ英語ト舊約書ヲ教ユ可し。又之ニ組スル者ハ誰ニても加入ス可し。

○弱ヲ助ケテ人ノ徳ヲ建ルヲ働トセヨ

聖靈ハ吾ラノ弱ヲ助ケ玉ヘリ。(ローマ書八ノ二十六)

イエスハ煙レル火ヲ滅ス事ナク、傷メル葦ヲ折ル事ナシ。又曰ク、重ヲ負フモノハ吾ニ來レ。吾ニ汝ヲ息マセント。吾ライエスニ行ク可し。聖靈ニ倚ル可シ。又イエスニ萬事ヲ任ス可し。吾ハ妻ノ弱ヲ負ハザル可ラズ。故ニ右ノ頼ヲ打タバ左ヲ向ケヨ。一里ヲ強ラバ二里ヲ行ケ。萬事依頼スル事ハミナ之ヲ爲セ。又弱キヲ助ケ殘ス事勿レ。

又忠告シ戒メントセバ定て平和、親切ヲ以テ、時ヲ窺ヒ氣嫌ヲ窺ヒ之ヲ言ヒ、彼ヲ助ケテ、常ニ徳ヲ建テシメヨ。又誤リヲ直ニ言フ勿レ。時ヲ待テ、又是非善惡ヲ明ニセズシテ言フ勿レ。十分考テ眞理ヲ明ニして之を告ぐ可し。

又常ニ同感アル可シ。而シテ彼レ罪ニ陥らんとする時ハ、神ニ祈ル可シ。

又兄弟親類ニモ病或ハ困難ヲ助ケルヲ働トス可シ。此時ハ之ヲ人ニ謙ラズ、自ラ困難ニ當リ助ケ可シ。又罪ヨリ救ヒ永遠ノ命ニ導クヲ働トス可シ。善ノ處ヘ行クヨリ苦ノ處ヘ行く可シ。又如何カシテ罪人ニ交リ之ヲ罪ヨリ救フヲ働トス可シ。又罪ニ陥リ易キ弱キ信者ノ弱ヲ負ヒ助ケルヲ働トス可シ。

〔即ち人之徳ヲ建るを働とす可シ。(ローマ書十五章一節) 又(馬太十八ノ十ヨリ)

即ち兄弟之爲メニ生命ヲ捨ツ可シ。即ち吾ラ凡ての奴隸トナル可シ。

故ニ説教モ働モ勸モ悉ク熱ノ愛ヨリ起る可キナリ。吾ラ神ノ愛ニ感ジテ愛情ヲ熱クス可シ。人惡ヲナスモ怒ル勿レ。之ヲ報ユルハ神ナリ。然レバ他ニ怒ル可キ事ナキナリ。又吾ラハ神ノ恵ニヨリ、人ノ弱キヲ助ケラル、又助タル事ヲ得ルナリ。其他ハ只神ニ祈リエスニ任ス可シ。

○小兒

小兒之鳴クノハ何カ可求事カ苦ミアルカ病アルカナレバ、コノ時其情ヲ察シ助ク可シ。

○コノ世ノ有様

吾ラコノ世ハ旅ナリ。苦ノ世ナリ。息ム處、望む處ハ天國ナリ。故ニコノ世ハ更ニ顧ミテ天國ノミヲ慕フ可シ。此世ノ有様ハイエス程ニアラバ足可シ。イエスハ一生十字架ヲ負ヘリ。又狐ニ穴アリ空ノ鳥ニ巢あれ共、人ノ子ハ枕する處ナシ。又飢エ、衣服、富ナシ。又世ノ名ト富ト更ニなし。吾々常ニイエスヲ思フ可シ。

故ニ病、困難、迫害、無學、貧乏、十字架ヲ悦ンテ受ク可シ。コノ世ノ有様ハ直ニ去ル可シ。下ヲ見ズ上ヲ見ヨ。

○ Inquiry Meeting or (Anxious Meeting)

人々聖靈之光ニヨリ己之心ノ有様ヲ知り、如何ニして救はるゝやと心ニ驚キ恐レ心配する時イエスニ導ク集リナリ。人々ニ同感を以テコノ集リヲナス可シ。

○毎夜之働

夕方ニ小少ヲ教育ス可シ、夜ハ(月曜日)聖書研究並ニ教會設立相談(火)小少ノ爲メ説教(水)祈禱會(木)説教(金)奈良(土)用意(日)朝 聖書、午後兩度之説教(金)婦女之集。

○説教ヲ毎日爲し得ルヤ

説教スル事ハ神ノ靈ノ働ナリ。聖靈之ヲ免し之ヲ要し玉ヘバ毎日爲シ得ルナリ。

(一) 毎日聖書ニ充サレ心清ク、愛ニ熱心トナリ、心燃ルガ如クアル可シ。

(二) 己ノ智ヤ考ニテ作りし説教ニアラズ。聖書ニアル神ノ言葉ヲ宣ルナリ。又實地之事ヲ宣ルナリ。即ち飾リナキモノナリ。

(三) 短キ説教ニテヨロシ。

(四) 無學者、貧人、憐ムベキ人、罪人へ福音ヲ傳ルナリ。

(五) 熱心ノ信仰ヲ以テス可シ。

(六) 何事モ速ニ決シ速ニ取扱フ可シ。

○尋問會

説教後、尋問會ヲ開ク可シ。而シテ集リノ終リシ後ハ問ナキモノハ直ニ歸らしむ可シ。無益ノ嘶ヲ爲さしむ可らず。又集ノ初モ無益ナル嘶ヲナスヨリ、ミナ人ヲ導キ或ハ聖書を讀ミ、或ハ祈リス可シ。

信者ハミナ聖書ヲ携て來ル可シ

○見舞

見舞ふ時モ時ヲ久ク取ル可ラズ。用なければ直ニ其ノ家ヲ出ズ可シ。家ニ至らば肉ト靈ニ乏き處ナキヤヲ調べ、もし可助事あらば助く可シ。萬事忙シク爲ス可シ。

日

○各信徒之働

各信徒熱心ニ主ノ榮ノ爲メニ働ク様、常ニ勸ム可シ。又各々神

ノ用事ヲ與ふ可シ。

(一) 人ヲ招ニ行ク事 (二) 聖書ヲヨム事 (三) 祈スル事 (四) 家ヲ治ム

ル事 (五) 金ヲ出スコト (六) 教會ノ用事スル事 (七) 傳道スル事

(八) 集ニ來ル事 (九) 子ヲ教育スル事

大抵毎日熱心ニ、主ノ爲メニ働かざる可ラズ

○祈禱

祈禱するトキハ、人ノ心ノ如何ヲ考ヘズ、人ノ心ニ感ズルヤ否ヲ考ヘズ、只神ノ旨ヲ考ヘ神ノ悦ビ玉フ様、聞き玉フ事ヲ考ヘテ、熱心ニ主ニ祈る可シ。

○奈良説教題

X 靈ト道ヲ以て拜す可シ。

(一) 説明

(二) 人間ハ宗教動物

(三) 儀式ト場所ト唱言ニ由テ神ハ聞き玉ハズ。(四) 其祈ニよらず、

神ハ恵ヲ與ヘリ。(五) 偽ニ祈ル人ハ徒ニ神ヲ拜セリ。

(六) 靈ヲ以テ祈ル可シ。

(七) 眞ヲ以テ祈ル可シ。

(八) 神ノ旨ニ從テ祈る可シ。

(終) 汝ら光ヲ與ヘン事ヲ祈ル可シ。罪ノ有様と來世ノ有様ヲ悟ルよう祈ル可シ。悔改メテ救われん事を祈る可シ。聖靈ヲ受け

更生する事を祈る可し。然る後日用之人用物ヲ祈る可し。

爾曹まづ神の國と其義とを求よ。然らば此等のものハ皆ナなんぢらニ加ふる可し。

○友愛を以て道を傳ふ可し

初めて逢ふ人も、友之如くニ、兄弟之如く考へ、實ニ憐ト愛ト柔和ト心易キヲ以テ交リ、道ヲ宣ぶ可し。説教スルニモ勸ヲナスニモ萬人之徳ヲ建て、永生を得せしめん事を熱ニ思ヒ道を宣ぶべし。

○人ノ前ニテ信仰を保て

如何ナル不信者如何ナル敵如何ニ業惡人ノ前ニ於ても、心ニ聖靈之助を受けて、熱心ニ神ニ頼リ熱心ニ神ヲ敬ふて道を宣べ、祈ヲ奉く可し。人之前ニテ揺スル事勿レ。

提摩太後書一章七節

○傳道

異邦人へ殘ラズ傳道するを務む可し。提摩太後書四章十七節。

然れど主吾と共に在リて我ニ力量を豫へ給へり。是れ已れに由りて道ことごとく傳り、異邦人をして皆之を聽しめん爲なりと。

○題

X Search me, O God, and know my heart. Try me and know my

thought and see if there be my wicked way in me, and lead me in the way ever lasting

○

己ノ荏弱ナルヲ忘ルト罪ニ陥る可し。また己之弱きもの罪あるもの只恵ニ由りて救はれたれば、また、他人を憐み救ニ導く可し。其の心ハ私モかく危キ罪より救はれたり。汝も同じく救はれ玉はる可と、柔和と謙遜を以て道を宣ぶ可し。例セバ、今余己ノ罪の爲めに救シテ祈り只今救はれしニ他之同じ罪ある兄弟ニ其罪を責ムル權あらんや。なし。吾ヲ只彼ニ吾の如く救ニ頼らざるやト勤むる事を得る而已。

○惡魔ハ離レシヤ

惡魔ハ常ニ離レズ。吾ヲ誘ふなり。また吾肉の欲も離レズ。併し今、之ニ敵し戦ふなり。其戦止む時なし。もし其敵眞ニ、離レタリト思ヒ氣ヲ救サバ、直ニ不意ヲ撃たれ、敗北ス可し。故ニ常ニ慎ム可事ならずや。

○リバイバル

リバイバルハ只聖靈之恩化ナリ。政府ノ勢ヤ學者ノ勢ヤ衆人ノ流行ニ由テ、かゝる出來榮え之起ニあらず。全く聖靈之恩化ニ由ル事なり。

○題 朝

聖書ヲ讀ム勸メ、働ノ勸メ方

X 聖靈恩化之起ラン事ヲ祈ル事（リバイバルヲ祈ル事）

九月三十日

X 熱からん事を願ふ（黙示録三章十五節）

(一) 吾ラハ神ノ悦ビ玉ヲ旨ヲ爲す可し

(二) 神ハぬるき信者を好み玉わず。（勸メテ惰らず心を熱くして

主ニ事ヘン。ローマ書十二章ノ十一節）

(三) 吾ラ勸みて悔改む可し。

(四) 熱心ニ傳道す可し。

ローマ書十章

提摩太四章十七節

彼得後書三章九節

(終) 聖靈之御降臨ヲ祈る可し。

障害ハ世ト肉ト惡魔ナリ。

九月三十一日

X 剛腹にして悔なきの心に循いて己の爲メニ神の怒を積みて、其義鞫の顯はれん震怒の日に及ぶなり。（ローマ二の五）

(一) 神ハ約ヲ變ル事なし。又僞ル事なし。必ず義鞫アリ。

(二) これ神ニハ偏視なければなり。（ローマ二の十二）

(三) 非ず。凡の人を僞とするも神を眞とす可し。爾の告る言は義

とせられ爾が鞫ラルルとき勝を得んと録されたるが如し。

(ローマ三の四)

(四) 爾神の審判を免れんとするや。(二の三)

(五) なんち神の豊原なる仁慈と寛容なると恒忍たまふとを藐視する乎。其の仁慈ハ爾を悔改に導くを知らず。（ローマ二の四）

(六) 己の爲メニ怒ヲ積みて怒之日ニ至ルナリ。其怒の火ハ滅えず。蟲ハ、盡きず。

(約) 今日其聲を聞かば心を剛腹ニする勿れ。

(3) 汝之終ハ盜の來るが如く來る可し。

(4) 聖靈ヲ離レシムル勿レ。聖靈ハ己ニ導けり。

○ 多ノ人其時悔改メズ、今ニ至ルマデ暗キ奴隸トナレリ。

(1) かれ日。己れ慈惠の時に爾に聽また救の日に爾を助けたりと。今ハ恩惠の時なり。今は救の日なり。（コリント後書

六章の一と二）

○ 信者ハ時間ヨリ早く來る可し。然らざれば初ての人來り難し。

○ キリスト來れり

(1) ヨハネ之用意

(2) 諸處ニ、行きて人々ヲ救ヒ恵ヲ施シ力を顯はせり。

ヨハネ傳十六の十四に、彼れわが榮を顯さん。蓋しわが囁を
受け爾曹ニ示せばなり。と

(三) イエスを受けし村ハ多く救はれ、之を防ぎしものハ恵を受け
ず。(約四章四十より四二。又馬可五の十七)

(四) 又イエスハ吾ラ之不信ニ由テ、其處を去り玉ふ。

馬太傳十三章五十八。

(五) 惡魔ハ神の言を偽トセントス。

魔ハ信仰ヲ奪はんとす。

魔ハ火を消さんとす。

(六) 吾聖靈の充されん事を祈る可し。信を益セ玉ヘト祈る可し。

吾ら罪人をイエスニ導き來る可し。

○神之言葉 (以賽亞五十五、十ト十二) ヲ視ヨ

神ノ言ならば眞理ニ相違なし。之ニ優ル眞理ある事なし。然ら
ば吾考ヨリ優ル事無限、又之ニテ暗ヲ輝さざる理あらんや。コ
ノ言葉神ノ救、不悟の理あらんや。之ニ由テ悔改メざる事あら
んや。之ニ由テ心さゝるゝが如くならざる事あらんや。之ニ優
る智あらんや。之ニ由テ惡ヲ防グ事を得ざらんや。聖靈ハコノ
言葉を用ひて働か玉はざらんや。コレハ神ノ心ヨリ出で、口ヨ
リ出でたれば、コレコソ神ノ悦ビ玉ふ御旨ならずや。是よりヨ
キ可信證據あらんや。故ニ神の言ヲ言フニ憚ル事勿レ。又之ヲ

輕ル勿レ。己を外ニして他ニ神を教え、眞理を教ゆる言葉ハあ
らざる也。他ニ眞の安を得る眞理ハなきなり。

聖靈之光ト聖靈之働ニよらされバ、神之言葉眞ニ、人心ニ働か
ざるなり。

○聖靈ハ證據ヲナセリ

約書第一章の七節

馬太傳三の十六。又希伯來二の四。約傳十五の二十六

ローマ書八章の十六。約書一の三章の二十四、吾ラ聖靈を受く
ると神トイエスヲ體ニ知り、更ニ疑なし。また己ノ神ノ子、己
ノ救われたるも體ニ知るものなり。

X(七)。今ハ惠恩の時なり今は救の日也。〔哥林多後書六章之一

と二〕

(一) 其説明

今神が聖靈を以て汝ニ神をあらわし、眞理を教玉ふ時、今ハ
神が汝ニ悔改を命じ玉ふ時、即ち今ハ天國之戸の開けたる
時、救はるゝ日なりと言ふ意味也。

(二) 其恩恵之時救之日ハ常ニ吾ラ之上ニあるものニあらず。久し
く止まるものニあらず。其時過去れば救はるゝ日なし。

(三) 吾ラ各々ニ罪ニ陥りし日と救之日ト審判ノ日と刑罰ノ日あ
り。

(四) 其救の日に神聖靈ニ由テ救主を示し、また己ノ罪を知らせ、悔改ヲ命じ玉ふなり。此日ハ恩恵の日なり。救の日也。

此日ニハ神ハ慈愛ト寛容と恒忍を顯はし玉ふなり。故ニ更ニ刑罰なし。

(四) 其救ノ日ハ永遠になきなり。其時過去らば如何ニ汝が悔改メ度ふても、神ハ赦し玉わず。如何ニ天國ニ入り度ふても、戸ハ開れず。如何ニイエスニ頼むもイエスハ吾汝を知らず。吾を離れて云れと云ヒ玉ふなり。

聖書、今イエス曰く。凡て勞れたる者、また重を負ふ者ハ我に來れ。己れ汝を息ませんと。

後審判ノ日ニハ惡を爲す者ヨ。我を離れて去れと。(馬太八の二十三) 其處ニテ哭シ切齒する事あらん。

今ハ切齒し父を呼び救を頼むものハ救はる可し。

併し後ニハ如何ニ切齒し悔改むも、無益なり。神ニ呼ぶも應なし。光を求むも之を得ず。而して救之日ハ永遠復ビ來らざる可し。

Strive to Repentance and Salvation

(四) 耶和華曰、我靈必ズ不_レ因_レ人_レ有_レ過_レ恒與_レ之_レ爭_レ、蓋其爲_レ肉體_ニ。But 姑_レ弛_レ期_一一百二十年。(創世紀六章之三)

聖靈人ト爭ヒ玉ハザルヨリ一千二千年生きたれ共一人も悔改むるものなし。聖靈を消したるものハ神を知らず。罪を感ぜず。死ニ至テ初めて目醒すものなり。

(終) 兄弟姉妹ヨ今ハ視ヨ。我戸の外ニ立テ叩く。もし我聲を聞いて戸を開くものあらば我其人の所ニ就らん。默示錄三の二十

今ハ恩恵の時なり。今ハ救の日也。今ハ聖靈汝ラ之心を悔改ニ導いて曰く。悔改メテイエスを信じて救を得可しと。以賽亞五十五の六ニ爾宣_レ求_レ耶和華_ヲ可_レ獲_レ之時_ニ爾宣_レ顧_レ之_ヲ於_レ其尙近_レ之時_ニト。

Seek ye the Lord which he many be found. Call ye upon him which he is near.

又以賽亞六十五の一節

素_レ未_レ問_レ我者今我爲_レ其所_ニ詢_レ。素_レ未_レ尋_レ我者今我爲_レ其所_ニ遇_レ。素_レ未_レ以_レ吾名_ニ而稱_レ之_ニ國_ニ、我已_レ謂_レ之_ニ云_レ視_レ我也、視_レ吾也。

○罪之認

(一) 病之兄弟ニ Sympathy の缺タル事 (二) 親族ニ愛ノ缺タル事 (三) 妻、子、ニ對スル務ノ不足 (四) 怠リし罪 (五) 勸ト同感の缺

(丙) 滯在屈ヲ、延ばせし事 (巳) 言葉之過チ (ウ) 謹慎之不足 (カ)

信仰之不足 (内) 肉之慾 (巳) 神ニ約束を違エし事、是れ吾れ熱心ならんと言ヒ、心ニ之を行はず、之を務むると言ひ、之を怠りし杯之罪也 (巳) 兄弟之愛之不足

(兄弟ノ事)

(ア) 離レシ處ヲ合せ冷タルを熱し破れたるを補ヒ足らざるを足し傷めるを愈し玉らん事を祈る可し。神ハ能はざる處なし。

○リバイバルを祈る可し。

リバイバルハ神ノ榮の顯はるゝ日也。如何トナレバ神力をあらはし玉フ故、信者ハミナ罪を悔改メ、神ニ迫り、イエスニ會ヒ、實ニ其御榮ヲ見て信を増し、神を愛する愛をまし且つ多く恵を受ける也。また多ノ人神ノ榮ヲ視テ髓ニ神ノ存在を知る也。吾ラ全く己を捨て、神の榮之顯わるゝ爲め祈る可し。

○神の道之知ル可キヲ尋ねざるハ罪なり。

神ノ旨之可智不知、己之心の罪ト過ハ知らるるニ之を求めず。自ら眠り罪ニあるハ罪なり。光を求めて己之心を知り、また神の道を尋ねて、己を捨て、神の道ニ從ふ可し。

○心傷ム人

心傷ム之人ハ耶和華近レ之悔レ靈者其必救レ之兮。義人之苦難多矣。然耶和華悉ク救レ於其中。(詩三十四の十八と十九) 爾

必ず牛膝草(ヒスブ)を以テ我ヲ潔クセバ則チ我レ淨を得ントス。滌^ハ我ヲ我靈ヨリモ白ラントス。

○悔改

汝ち過ありし時其惡を知り、また其當分本心之責を受ケタリシモ、暫時時を歴て心ニ之を忘れ其儘ニ捨て置くや。之を隠スハ己ノ心の器ニ罪を積み込ミ怒之日に顯ハスナリ。之を認メテ悔改ササルモモノハ一己ノ心ニ罪を蓄ヘザルナリ。前之過ヲ思ヒ己ノ心ヲ調ぶるハ大ニ心配ナル故、苦しき故、之ヲ忽ニスル者ハ舟ニ穴開き水之入ル音を聞、之ヲなをざりニしてをくが如し。信者でも罪ありて悔改メざれば、救はれず。却テ罪重し。如何トナレバ十分ニ法律を知り神あるを知テ犯したる故也。又悔改むれば救主あるを知りながら悔改メヌ故なり。

聖書ニ主ヨト言フモノ盡ク天國ニ入ルニ非らず。唯これに入る者ハ、我天に在す父の旨に遵ふ者のミなり。

ヲ一神ヨ。私ヲ調べ玉テ私ノ心ヲ知り、私ヲ試ミテ私の思を知り、若し私ニある惡しき道あらば、私を導いて永生に至らせ玉へ。

然れど、彼れすなはち眞理の靈の來らんととき、爾曹を導きて、凡ての眞理を知らしむ可し。

吾ヲ信者罪ヲ聖靈ニ由テ教ヘ貫ヒ全く悔改メヨ。然らざれば安

きと聖靈を受けず。

火ニテ燒ルが如く、信者不信者を問はず、罪あらば心傷み安なし。

其行を責められざらんが爲ニ光ニ就らず（ヨハン傳三の二十）

ハ、恰も小兒が少の傷ヲ恐レ醫を避ケ藥を嫌ふが如く終ニ死病ニ陥る也。

○X悔改 聖靈ヲ除ク勿レ

詩の五十一

X（罪ヲ認メ悔改メヨ勵ンデ）

ローマ書九の二十二。二十三

○ Sympathy

己ノ事を顧ミズ人ノ事を顧る可し。人ノ心人の苦、人の病、人の情、人の有様を察し、其人之心トナリ彼を憐む可し。然らば怒ナク却テ平和ヲ保ち其人ノ徳を建る事を得ん。また人ノ困難、弱を助る事を得可し。イエスハ小兒ヲ祝シ小兒を愛み小兒之祈ヲ聞き玉フナレバ、吾ラハ素ヨリ小兒ヲ吾朋友として、親み交る可きなり。

記 ○謹慎ス可き事

日 吾ラ天父ト、イエスト、聖靈ト、天の使の前ニテ説教し、人ヲ勸メ人ヲ戒メ人ヲ教ヘ人ニ交ルモノナルが、如何ニ謹慎如何ニ謙遜す

可き事ナラズヤ。己レ一人居る時モ衆人ノ前ニアル時も同じ信仰を保つ可し、即ち祈リヲナスニモ神を敬ふニモ聖靈を祈るも人ノ前ト獨リト更ニ變る可らず。イエスノ福音を恥るものハイエスも吾名を天父の前ニ恥ぢ玉ふ可し。

○傳道ハ愛ナリ

愛ハ己ヲ忘レテ人ヲ顧ミ、人ノ事ヲ思フ事ナリ。愛ハ己ニ止ルモノニアラズ。人ニ對シテノ事ナリ。吾曹もし己ノ事ノミ思ヒ、之ノミスレバ愛ハナキナリ。廣キ愛ハ、廣ク人ニ交リ人ノ事ヲ顧ルナリ。故ニ人ノ信仰ヲ思ヒ其進ヲ祈リ、又其爲メニ働キ、又暗キ眠レル人ヲ起シニ行クハミナ愛ナリ。故ニ汝愛あらば凡ての人ノ事ヲ思ヒ、其教はれん事を祈り、又順々ニ行き各人ニ福音を解く可し。是れ大なる愛なり。又信者、人之信仰人之幸不幸を考へ、人ノ徳を建る事を務むるも大ナル愛ナリ。人ニスマメ人ニ教ヘ人ノ爲メニ祈ルハ愛也。是らノ事ヲなさず、之ら之事を思はざるもの愛なきと知る可し。親類も愛し其教はれん事を毎日祈る可し。

また時ニ書狀を以て勸む可し。

又汝凡ての教會を愛す可し。

X "Striving to enter in at the Strait Gate"

是故ニ爾曹神に服ヘ惡魔を拒げ。然らば彼なんぢらを逃去ら

ん。(ヤコブ四の七)

○イエス立ト云へバ立つ可し。之ヲ爲セト言エバ爲ス可シ。爲ざれば神の恵を受けず。

○

泣け。熱心ナレ。(人狂氣セリト言ン)

夜モ眠ラス。切ニ祈レ。戦へ。

(雅各四章九節)

○X汝デイエスニ救ワレシヤ、聖靈ヲ受けしや。

イエスは來レリ。聖靈ハ降レリ。何故汝ハ受ケザルヤ。神ハ惜ミ玉ハズ。神ハ妨げ玉ハズ。神ハ詛ヒ玉ハズ。神ハ亡ニ導キ玉ハズ。神ハ離神ヨリ離レ玉ハズ。汝ヲ罪を神ニ歸せんとするや。己の子を惜まずして我儕衆の爲に之を付せる者ハ、豈かれニ併へて萬物をも我儕ニ賜はざらんや。(ローマ書八の三十二ヨリ三十九迄)

視ヨ。吾戸の外ニ立て叩く。もし我聲を聞て戸を開く者あらば、我その人の所に就らん。而して我ハその人と偕に其人ハ我と偕に食せん。(黙三ノ二十)

又以賽亞六十五の一。又約傳三の十六。

又神曰く。神ハ一人ノ亡ビルヲ好み玉ハズトアリ。然れば吾ヲ妨グルモノ神ニあらず。神ハすゝめ呼玉フナリ。神救ヲ立

テ、何ゾ之ヲ求ムルモノヲ阻ム理あらんや。

又聖靈ニ付テハ路加傳十一章、九ヨリ十三ヲ視よ。

今此處ニ流レタル水ヲのまず、落ちたるコナを取らざるハ吾罪ナリ。吾ヲ救ニ行くを妨げ聖靈を受けるを障ヘル者ハ吾罪ナリ。世の惡魔ナリ。此障ハ悔改メバ取ル可し。世ト己ヲ捨つ可し。心を開く可し。惡魔ニ勝つより力を出して戦フ可し。惡魔を防ぐ可し。

罪ヲ悔改メヨ、泣ケヨ、悲メヨトアリ。而してイエスニ行ケヨ。然らば汝を救ヒ玉ハン。

又己ヲ捨テ、十字架ヲ取テ從ヘヨトアリ。又勵みて悔改メヨトアリ。汝神ニ向テ然らば何ゾ惡魔ヲ作ルヤト。罪ト愚ト過を己ニ歸せず神ニ歸するや。神ニ言ヒ逆フヤ。是れ汝の罪ナリ。神ハ可讚美者ナリ。アーメン。

又リバイバルヲ妨グル者モ神ニあらず。吾ヲナリ。惡魔ナリ。世ナリ。之ヲシル可し。神戦ニ出ズ可シト言ヒ玉フニ出デザレバ、何ゾ勝を得させ玉はんや。立テト命じ玉フニ吾ヲ不立ば何ゾ立ツノ理あらんや。

○説教ト福音之爲ノ働キ

吾曹ノ働ク日ハ毎日今日ノミナリ。明日ハ不知。故ニ今日信じて爲セ。今日悔改メシメヨ。今日可播種子を蒔く可し。別して

穡時ニハ毎日實を刈り入ルムヲ信じて説教し働く可し。信じて働く可し。今日悔改メシメン、今日救ハレシメント決心して説教セバ力あるなり。聖書ニ明日ハ明日之事ヲ煩慮セヨト。今日ハ今日ノ事ヲ思煩へ。今ハ慈恵ノ時ナリ。今ハ救ノ日なり。今日其聲を聞かば心を剛腹ニナス事勿れ。人ノ子ノ來ルハ夜盜ノ來ルが如しと。常ニ目醒セト。

○戦ヒハ初れり。今ノ日景況如何。

奈良ニアル兄弟、龍田ニアル者過日三人靈生せしもの又當地ニテ吾ラミナ戰ヲ初メたり。

今日ハミナ勝ちしや。其報を聞くを渴望ス。此戰ハ聖靈之刃ニテ勝を得可し。(以弗處六の十ヨリ二十)

又(希伯來十二ノ一)汝ノ兄弟ハ出デテ戰フニ汝ハ此處ニ安座スルヤ。吾ラ之戰ハ一生止む時無る可し。

○天國ハからし種の如し

創世紀十五章を視る可し。其時神ヲ信ずるものハ少し。併し神曰く。星の如くならんと、また世界ハ異邦のものになるに之ヲ汝ニあらんと。如是今日も今異邦人の數多し。また處も共有ナリ。然れ共後々ハエホバニ歸せん。

日記

○信仰

創生紀十五の六。如何ナル有様ニアルモ只神ノ約束を信ず可

し。

○怠リハ罪ナリ

聖靈ヲ受けざれば受る迄祈る可し。また愛不足と思へば十分ニ至ルまで考へ且つ求めて得可し。

○大ナル罪

余ハ今傳道士と神爲し玉へり。(微少と雖トモ)然レバ羊牧ナリ。導手ナリ。然れば吾レ祈ヲ怠リ働ヲ怠リ精心を冷セバ、信者ヨリ神ハ聖靈ヲ取り玉フカ。モーゼ杖を擧げれば戰ニ勝ち手を下セバ負けたり。吾レ目醒して信者の爲メニ祈る可し。常ニ聖靈ニ充さる可し。不然れば信者も眠る可し。今ミナ目ヲ醒セシヤ未ダネムルヤ。ア、。

○活す靈の法ハイエスキリストに由て罪と死の法より我を釋せばなり。(ローマ八の一)

(一)肉ト靈之戰ヒ

(二)肉ニ從フモノハ獸心ニ陥リ聖靈ヲ消し増々死ニ至ルナリ。

(三)是れ己れの主イエスキリストなるが故に神に感謝す。

(七章二十五)ト(八章の一)

聖靈ハ肉ヲ殺し玉フナリ。

何聖靈ハ肉之心ヲ以テ祈ルモ得からず。肉ニ在ルモノハ聖靈ナキ証ナリ。キリストの靈ナキモノ、キリストニ屬セザルモノ

ナリ。

(四)聖靈ハ証據ナリ。(種々の)

故ニ父ヲアバト稱ヒ、神ト靈ヲ慕フナリ。心因ノ有様ニ由テ

働かず。常ニ喜、愛、平和、清、ニ充サル可シ。

汝ラ聖靈ヲ受けしや。

収穫^{カウイ}までニながら長おけ。我かりいれの時まづ稗子^{カラスムキ}を抜きあつ

めて焚ん爲に之を束ね、麥をば我倉に收よと言はん。(馬太傳

十三章三十)

○祈求

凡て心配ナル事ハ主ニ祈り告げよ。需求スルモのハ求メヨ。弱

きものハ祈る可し。

主ハ悉ク助け得可し。

説教場モ、金モ、兄弟ノ心ノ事、有様ノ事モ、リバイバルの事

モ、己之心の弱キ事モ

○イエスニ學べ。神の道ニ由レ

人ノ心ヲ調ラベルヨリ神ノ道ヲ調ベヨ。人ヲ學ブヨリエスヲ

學ベヨ。神ノ言ハ勝を得ルナリ。神ノ企ハ勝を得るなり。不出

何事人ノ心ハミナ曲げて神の旨ニ従ハセヨ。

○家之祈禱會

家ニ於て聖書を読み説教を復讀し共ニ祈禱する事を務む可きな

らん。

○聖靈ニ由ル

撒加利亞五章六節又詩三十三の十六。

○Mr Robe (Regeneration)

○人ニ誘レズシテ神ニ誘ル可シ

たとへ人ハ不信仰ニナリ罪ニ行くも、吾ハ只一人ナル信ヲ保テ

罪ヲ戰慄スル程惡メ。人ハ神ヲ不敬モ吾ハ只一人ナルモ神ヲ敬

へ。人ハ祈ラザルモ吾ハ祈レ。

萬事人ノ心ニ從ヒ人ニ倣フコト勿レ。吾ハ只イエスニ倣ヒイ

エスの心ヲ以テ心トス可シ。又何事モ神ノ心ニ適ふ様ニなし人

ニ誘はるゝ事勿レ。

○イエスヲ人の前ニ言顯はせ。

馬太傳十章の二十四より三十三迄。又吾ライエスノ道ヲ好ムモ

ノ、前ニテ道ヲ言フハ易けれ共、之ヲ誘り之を惡ム人の前ニイ

エスノ徒ト言ヒ、且つイエスノ證據ヲ立テ、イエスに祈ルハ六

ヶ敷けれ共之ヲ爲ざれば、イエスモ吾ヲ恥ぢ玉はん。約傳十

八の十六ヨリ二十七。又使徒行傳四章の十八ヨリ二十迄。

X罪の償ハ死也。神の賜ハ我儕の主イエスキリストに於て賜

はる永生なり。(ローマ書六の二十三)

(-)罪トハ卽はち法律ヲ犯スコトナリ。(ヨハネ書三の四)

(二) 慾すでに孕みて罪を生み罪すでに成りて死を生む (雅各一章十五節)

(三) 律法ハ人の畢生 *As long as he lives* その主たるを知らざる乎。
(ローマ七の一)

律法ト吾ラ之生アラバ罪ハ死スル事ナシ。律ハ神ノ立テ玉ヒシモノユヘ永遠消エズ。然らば死ト罰モ永遠ニ至ルナリ。

キリストニ在らざるものハ永遠罪ノ身、死スル事ナシ。

四) 而して罪ハ誠の機に乗じて我中に各様の貧慾を起せり。律法なければ罪ハ死スルモノナリ。(ローマ七の八)

又誠命まこときたりて罪ハ活きかへり我ハ死ねり。(ローマ七の九)
律法を守り善ヲ行ヒテ決して罪ヨリ贖ハルゝ事ナシ。

(五) 又故ニコノ世ニテ如何ニ苦ヲ受ルモ、來世ニ永遠罰を受ルモ、罪ハ死ナズ。然れば吾ヲ救フモノハ誰ゾヤ。故ニ罪の償ハ死ナリ。

救ノ道

(一) 神の賜ハ——永生なり、又然れば我兄弟ヨ。爾曹もキリストの身により律法に就テハ殺されしものなり。これ別人ほかの人すなはち死より甦よみがへされ給ひし者ニ適きて神の爲メニ果を結ばんとなり。(ローマ七の五) 又羅馬書八章三節

(二) 蓋なんぢら恩の下に在て律法の下に在ざれば罪ハ爾に主とな

る事無ればなり。(ローマ六の十四)

(三) 故ニキリストハ不可量苦ヲ受ケ永遠の罰ヲ受ケ盡シタル故、之ニ由テ即ち十字架ニ由テ罪ハ死セリ。吾舊キモノハ死セリ。而して今ハキリストト共ニ甦リ恩ノ下ニ生ルナリ。故ニ吾ラハ永遠キリストノ恩ニ由テ救ワルゝ事ヲ得ルナリ。

實ニ永遠ノ死ヲ受ルモ不盡罪を只キリストヲ信じテ救ワルゝナリ。併しキリストニ行クモノハ全ク行ク可し。即ち舊ノ身ハ死ニキリストニ在テ生ク可し。永遠キリストト居ル可し。キリストニ由テ肉ヲ殺シテ實ハザレバ生ル事ナシ。コノ救ノ日ハ今日ナリ。之ヲ怠ルハ吾罪ナリ。

イエスヲ離ルゝモノハ恩ノ下ヲ離レ律法の下ニ行クナリ。然レハ罪ハ活きかへり死吾ラニ主トナル可シ。

吾ラ罪ニカツカハ恩ノ下ニ在ル事ナリ。

十月十日 祈禱會 リバイバルノ起ラン事

X 目を醒して終まで忍ぶものハ救はる可し。

惡樹ハ善果ヲ結ブ事能ハズ。又善樹ハ惡果ヲ結ブ事能ハズ。

(一) 路加十一の九ヨリ十三 聖靈ヲ祈れば神ハ惜まらずして與ヘ玉フナリ。

(二) 馬可十一の二十三より二十六、信仰

(三) 約書二の十六と十七。

吾ラハ聖靈ノ宮ナリ。又靈ヲ消ス勿レ。聖靈を憂シムル事勿レ。又惡魔ニ處ヲ得さしむル勿レ。又惡魔ヲ防げ。さらば彼レ避け去らん。又常ニ目を醒して祈レ。

○何事も祈禱セヨ。

兄弟弱キカ蹟くかする時、如何ナル説教して勸メン、何を以て諫メンカハ煩慮セしが、是よりハ何事も信仰を以て神ニ祈らん。然らば必ず聖靈之御感化ニ由テ悔改メシムルヲ得可し。また末信者之爲メニモ信仰を以て祈る可し。然らば終ニ更生する事あらん。其他何事も信仰ト斷食ト祈禱ス可し。大和中之事並ニ(二字不明)救ヲ祈ル可し。

○X我儕カ此望(希伯來書六の十九)

(一)此望ハ此の世ニあらず天國之事なり

(二)それ神の造りし物ハみな美なり。感謝して受るときハ棄べき物なし。(提摩太前四の四)凡ての物われに可ならざるなし。

然れど我その一をも我主となさず。(コリント前の六の十二)又身ハ淫を行ふために非ず。主の爲なり。(又世ノ事ハ航海の舟中の糧の如し。)(コリント前書六の十三)

(三)此二件の易なき事(希伯來六の十八)

(四)(希伯來七の十九)

(終)兄弟ヨ我みづから之を取りと意はず惟この一事を務ム。

即ち後ニ在るものを忘れ、前に在るものを望み、神キリストイエスに由て上へ召して賜ふ所の褒美を得んと標準に向ひて進むなり。(腓立比書三の十三、十四)

又イエス曰けるハ、手を擧げて後を顧る者ハ神の國に當はざる者なり。

(路加九章六ノ十二)

今迄ノ得た者ト此世ハ後ノ物ニテ捨テシもの也。之を顧みるものハ亡ブ可し。又今迄ノ働ト經驗ト學問、智、或ハ金ハ後ニアルモノニテ、之ニテ満足す可らず。安心す可らず。只先ニアルト國ヲ得る迄ハ一ツニ進ムを勸ム可し。完全ナル者ナシ。

○奈良説教題

X肉の事を念ふは死なり。靈の事を念ふハ生なり安なり。(ロマ書八章六節)

一マ書八章六節)

(一)肉ヲ念ヒ肉ニ從フモノハ禽獸ノ有様ニ陥ル。

(二)朽壞くわいざる神の榮光を變かて朽壞くわいべき人および禽獸昆蟲けいじゆうの像に似す。(羅馬一章二十三)

又彼等ハ神の眞を易へて偽となし、造物主よりも愛造物を崇奉たがりて之ニ事ふ。(ローマ書一章二十五)而して慾ヲ放ニス

ル事ヲ徒ニ祈ルナリ。

(三)かれら心に神を存ることを願はざれば神も彼等が邪僻よこしまなる心

を、壞きて行まじきことを行すニ任セリ。(ローマ一の二十八)

是れ神ヲ知ル事能はざるニ至し故ナリ。禽獸ハ素ヨリ神ヲ知らざるなり。

四肉の事ヲ思フハ死ナリ。其果ハ燒ル可シ。

靈ノ事を念フハ生ナリ。安ナリ。

(一)神ノ事ハ神之ヲ顯ハシ玉ハザレバ、之を悟り得可き者なし。如何トナレバ神人間を造れり。故ニ之ニ悟リヲ與へざれば之を知り得るものなし禽獸ニハ其智なし。

(二)蓋人の知る可き神の事情ハ人に顯明にして既に神これを人に顯はし給へば也。それ人の見ることを得ざる神の永能永遠の能力と其神性神性とハ、造られた物により、創世ヨリ以來さとり得て明かに見る可し。是故二人々推誘るべきやうなし。

(ローマ書一の十九、二十)

是れ神の造られしものニあらはせり。

(三)然れ共其造られしものを見て悟る靈なければ知る事能はず。

心の清き者ハ福なり。其人ハ神を見ごとを得なければなり。

(馬太傳五の八)

日 記
四清き事ヲ思ヒ、靈之事を思フモノハ聖靈ニ導かれて神の情事を明ニ悟り得ルナリ。

(結尾) 肉ノ事ヲ念フモノハ禽獸ニ陥リ神ノ事ヲ悟らず。其果ハ亡サル可し。靈の事ヲ念ヒ求ムルモノハ聖靈ヲ受け、神の事を明ニ悟リ神より恵を受けて心の目明クナリ。神ヲ知り神ニ求め生ト安を得るなり。

○聖靈ノ能

如何ナル説教も聖靈之感能あらざれば更ニ力ナシ。聖靈あれば口ニ言フ神の言ハ兩刃の刀の如クニ利ク當るなり。是ハ眞の咄なり。故ニ吾ヲ信者ハ毎日朝より夜まで目を醒して祈り、また聖靈を消ス勿れ。憂しむる勿れ。惡魔ニ處を得さしむる勿レ。

肉ニ事る勿レ。また斷食ト祈禱セヨ。聖書の言葉ト清き思ト聖ナル諸本ヲ讀ミ、心ハ聖事ニ熱心ナレ。又怠ル勿レ。働け。また人の前ニ神トイエスト福音を恥づる勿レ、更ニ憶セス尊はれず大膽ニ眞を守り祈ヲなし神を敬ヒ熱心なれ。夫人を聖靈ニ由テ起ス事ヲ務メヨ。又常ニ謙遜ト柔和ト愛モ熱切ニあれ。また世の事物ニ心を奪はるゝ勿レ。

○毎日の食物

(一)吾ら毎日何を以て信仰の生命を保持スルヤ、即ち神の言葉ト聖靈ナリ。

それ神の言葉ハ活きてかつ能あり兩刃の劍よりも利ク氣と魂また筋節骨髓まで刺し割ち心の思と志意を磨みがく察みわくものなり。

(希伯來四の十二)

〔萬物下シテエホバヨリ出ザルモノナシ、又下シテ神の旨ニテナラザルモノナシ。〕

〔未信者ハ神ニ榮ヲ歸スル事ヲ好マズ、萬事萬物ヲ偶然トナスナリ。〕

(常ニ感謝す可し)

○凡ての事感謝す可し。(帖撒羅尼迦前五の十八)

是れイエスキリストに由て爾曹に要め給ふ神の旨なり。

(説明) 感謝トハ神の賜ヲ「喜ビ」、「難有かり」神ニ「御禮」ヲ言フ事ナリ。又受ルナリ。

(一) 凡て神ニ逆フモノハ神ニ不平ヲ言ヒ神ヲウラミ神に言ヒ逆フナリ。

又(羅馬九章二十)に嗟^ア人よ。爾何人なれば神に言ヒ逆フヤ。造られし物ハ造りし者に向て、爾何故ニ、我を如此^カつくりしと云ふべけんや。

又(ローマ書一の二十二)神と崇めず、亦謝することをせず。

(二) 衣¹ 食² 住³ 子³ 其他萬物ニ於て謝す可し。

(1) イエスハ衆人ニ食物ヲ與ヘル時祝謝して與ヘリ。又ポールハ舟中ニテパンヲ取り凡ての人ニテ神ニ謝シ之ヲ擘いて先

づ食いし二人々も食フ。

○吾ラ人ニ招かれ其人ニ禮ヲ述ルヲ知ル。況ンヤ之ヲ與ヘ且ツ消化セシムル神ニ謝セザル可ンヤ。

(2) 衣住、イエスハ枕スル處ナシ。豈満足して神ニ謝せざる可ンヤ。

(3) 子供³の爲メニ謝セザル可ンヤ。人子供ニ衣服ヲ貰ヘバ其貫

ヒシ人ニ謝するを知り其子ヲ與ヘ玉フ原の神ニ謝せざるや。又教育する教師之恩義ヲ知る。然して之ヲ日夜成長し智を延ばし玉フ、生命を保ち玉フ、神之恩義ヲ忘れ謝せざるや。

(三) その言盡されぬ神の賜物に因て我神ニ感謝する也。(コリント後書九の十五)

○イエス答へて曰けるハ天地の主なる父よ。此事を智者達者に隠して赤子に顯したまふを謝す。(馬太傳十一の二十五)

(四) 貧乏ノ時ト病メル時(ジヨウブの一の二十ヨリ二十二又二章の九)

(結尾) (1) 然れば何事も神ヨリ出で又毎日神の御恩なき日ハなき故、凡ての事ニ於て常に感謝す可し。又如何なる有様ニあるも決して不平不足を思ふ可らず。不平ヲ言ふハ神ニ向て之を言ふ也。

(2) 吾ラ感謝シテ罪ヲ犯スコトヲ得るや。たとへば酒ヲのむ時感謝し得るや。煙草。また感謝して事ヲ爲ス可シ。又人ヲ偽リ或ハ盗ミ之ヲ感謝して得べき也。約二の十六。又提摩太前四の四

(3) 常に喜ぶ可し。感謝セバ喜ト幸ある可し。罪ヲ犯さざれば感謝。

(4) 施ヲナスハ人ヲして神ヲ感謝せしむ。(コリント後書九の十一)

○何故人ハ神の眞理を悟ラザルヤ。

(一) たとへば神ニ感謝す可き説教スルモ感^(マ)革なきはずなり。如何トナレバ自ら罪ノ下ニ在り、苦アルニ何ゾ感謝する事を感じンヤ。

(二) 罪人ハ神ヲ恐レ離からんとし或ハ神ヲ惡ム心アリ、輕蔑スル心アル故、祈リヲ笑ヒ或ハ嫌ヒ誇リ忤して感^(マ)革なきなり。

(三) 又其眞理ヲ悟り得、聖靈ヲ受けざる故、恰も暗き中ニテ物を尋ね物ヲ見ントスルが如し。

(四) また肉之事ノミ念フモノハ神の靈之事を感ぜず又受けざるなり。

(五) 己ノ義ヲ立ントス。故ニ罪ヲ白狀シイエスニ頼ること好まざるニ由ル。

日記

○説教題、馬太傳十三の十一。

X 如何ニシテ眞の神を知り得るや。

(一) 神ヲ知ラズ、神ノ恵ヲ味ハズ、神ノ眞理の分ラザル人ハ或ハ偶像ヲ神ト思ヒ或ハ己ノ服ヲ神トシテ事へ或ハ無神論ヲ稱ヘルナリ。

(二) 神ノ^{かぎりなき}本能と其^{神の}神性は、又眞ト偽ハ、人間ノ五官ヤ外物ノ有様ニ由テ知ル可きものニあらず。心の有様即ち心の善惡の有様ニ由テ辨へ得可きものなり。

(三) 今人々此福音を信ぜざれば、たとへキリストの奇蹟ヲ視るも信ぜざらむ。

○イスラヘル人エジプトヨリ出ズル事

○又學者バリサイ人のキリストの奇蹟ヲ見テ信ぜザル例

四心の善惡ニ由ル

譬並ニ病人ノ物ヲ正シク見正シク判斷スル事能ハザル例

(1) 高慢ナル者ニハ其眞理隠ル

○自ラ智と稱へて愚魯なる者となり(羅馬一ノ二十二)

○十字架の教ハ沈淪者に愚なるもの救はるゝ者ニハ神の能たる也。(歌林前一の十八)

○此の如き人ハ此の世の神その心を盲ましたる不信者なり。

(コリンタ後書四の四)

又惡者依テ其驕態不レ求レ神凡其ノ思念以テ爲レ無^ス神。

(2) 肉ノ人ハ靈ノ事ヲ受けず暗ハ光ヲ惡ム。

○惡者以^テ心欲^ス爲^シ誇^ル得^ル則^チ祝^ス謝^ス忽^ニ耶和華^ヲ

(3) 頑固ナルモノハ悟ラズ。

イザヤの預言に爾は聴ども悟らず。

〔不知シテ誇リ〕

且ツウツ人 視ども見へず。蓋はこの民目にて見、耳

にとき、心にて悟り、改めて我ニ醫されんことを恐れその心を頑くし耳を蔽ひ目を閉たりと云いしに學へり。(馬

太十三の十四、十五) 眞アレバ之ヲ疑ヒ、只己ノ説ニカナ

ウ事ノミヲ求メ何か誤リヲ尋ントス、己レ眞理ヲ學ント思

ハズ。己ノ智ニテ其眞理ヲ偽リニ爲サント試ム。

○故ニ人々神ニ從ハザルハ眞理ならざる故ニあらず。己ノ

説ニ合ハヌトカ肉欲ガ捨テ難きとか六ヶ敷きとか言ふて從

はず。

(4) 人ノ榮ヲ望ム故ナリ。

爾曹ハ互ニ人の榮を受けて、神より出づる榮を求めざる者

ニ何で能く信ずる事を得んや。

(約六の四十四)

(結尾) それ神の怒ハ不義をもて眞理を抑る人々の凡てのこの不虔不義に向て天より顯はる。(ローマ書一の十八)

(1) 然レ共、心ヲ悔改メバ、神ヲ知り得可シ。

○心の清キモノハ福なり。其の人ハ神を見る事を得べければなり。(馬太傳五の八)

○イエス曰けるハ天地之主なる父ヨ。此事を智者達者に隠して赤子に顯はしたまふを謝す。(馬太十二の二十五)

○然れど神は其靈をもて之を我濟に顯せり。靈ハ萬事究知また

神の深事をも究知るなり。(哥林前二の十) それ人之事ハ其中にある靈の外に誰か之を知らんや。此の如く神の情ハ神の

靈の外ニ知るものなし。

○悔改メナバ聖靈を受けて神之其の美しき事を感じ可シ。また

眞理を知る可シ。祈る心ある可シ。凡ての幸ある可シ。心更

生ず可シ。神の榮光を視る可シ。心善を爲ス力を得可シ。凡

ての靈之勝を悟り得可シ。

○孔子ヤシヤカ位ナ人ハ今世界ニ衆多アリ。

汝ラ彼ラヨリ大ニ勝レタル千萬ノ人イエスヲ信ぜり。又イエ

ス教ハ幾人幾國の人ヲ感化せしや。然らばシヤカヤ孔子の一

人の證を受ケテ神ト聖靈ト千萬の正き人學ざる之證振ヲ受ケ

ザルヤ。

ザルヤ。

ザルヤ。

悔改メズシテ何時迄神ニ逆フヤ。増々暗ヲ増スナリ。増々重キヲ増スナリ。増々神ニ遠カルナリ。増々神の怒の日ニ近クナリ。

力ヲ盡シテエホバヲ求ム可シ。汝ヲ算術學術ヲ研究し、或ハ其眞理を求ムルニ悟らざれば直ニ捨ルヤ。否ナ。況ンヤ永遠の神ヲヤ。また汝ヲ王や位高キ人ニ近ク爲メニハ力ヲ盡し其道ニ適フヨウセザルヤ。況ンヤ神ニ於テヲヤ。以賽亞五十五の六二爾宣求^ムエホバ^ヲ可^レ獲^ム之^ノ時^ニ爾宣^レ頌^ム之^ヲ於^テ其^ノ尚^近之^ニ近^ク心ニ神ヨリ光ヲ見また聖靈ノ力又經驗あらざれば世の波ニ直ニ打滅さる^ル也。人ハ人ナリ。變ルナリ。神ハ不^レ變^ムもの也。不死不朽者也。人ハ朽ルモノナリ。凡ての力ニまけるものなり。

○神ハ光アレト云ヘバ光ア

リ。首ニ開ケト言ヘバ開

ケリ。イエスハ光ナリ。

彼ヲリ受ケヨ。

情欲ニ充サレ罪ヲ犯して聖

靈ニ感ゼンヤ。高慢ナル心

在テ豈神の奧義ヲ感ゼン

ヤ。

My son give me thy heart

○兄弟之爲メニ常ニ祈る可シ

記 我心ニ願ふ處と神ニ祈る處ハイスラヘルの救はれん事也。(ロ

日 一マ書十の一)

完全に進む可し。(希伯六の二)

常ニ目を醒して祈レト、又常ニ備ヘセヨト、又終まで忍ぶものハ救はる可しとハミナ主イエス之戒ナリ。またイエス曰。熱からん事を願ふと。然れば凡ての兄弟が起り立つ爲メニ聖靈之患ヲ熱心ニ祈るハ神の旨ニ適へる也。

○聖靈自ら教ヘ玉フ

爾曹を導きて此の眞理を知らしむべしと、また末の世ニ至り聖靈を凡ての人に注ん。爾曹の子女も預言すべし。各人その邦人と其兄弟に教へて爾主を識れとまたいハジ。蓋小より大ニ至ルまで我を識らん(希伯八の十一)

然らば聖靈自ら吾ヲヲ起シ玉はん。また凡ての人ニ聖靈を溉ぎ玉はん。信じて神ニ祈る可し。説教之出來ヤ學術之深淺ニ由ルニあらず。聖靈ニ由ルナリ。もし其ニテ人々神ニ悔改ムルならば今日之西洋ノ文明或ハ種々之本ニ由テキリストヲ信ず可きニ之ニ沈ム人も悔改メズ。然らば只人ヲ救ニ導く能ハ聖靈ニ由るなり。聖靈ニ感ゼバ萬事萬物ハ神之榮ヲ顯はす也。もし惡魔ニ在るものハ萬事萬物ヲ偶像或ハ偶然ニ歸する也。如何ナル眞理も心ニ益を與ふる事なきなり。

○牧者

吾ヲハ、信者各々己ノ心ニテ主ニ頼り主ヲ愛スルよう、即ち主ニ導く事なり。然れば其人之心内ニ在る時、主ニ在リテ悦ぶよ

う徳を建てしむ可し。

故ニ信者ハ各々己ノ經驗あらざる可らず。不然バ眞の信者と言
う可らず。

故ニ各々其人ニ經驗せしムル事尤も大切ナリ。例セバ一家ノ信
又各々之祈ヲ聞かれる事、自ら心ニ聖靈ヲ感じ熱心ニ主ノ御用
を（一字不明）し、また日々ニ惡魔と戦ふ抔なり。己之心ニ知
らざれ、他人より受る事能はず。

故ニ各々己ノ事ヲ信じて神ニ祈る事を勸む可し。

○宣教

人員ノ減ズルト増スニ心ヲ付ケズ又人ノ憎ム或ハ好ムニ關スル
ナクまた之を行フ難爲ニ關ルナクまた名譽美惡ニ掛念スルナ
リ、只神ノ旨ト言フ宜ベ、只人ノ永ノ救ト幸福ニナル道ヲ宜ベ
テ臆スル事勿レ。またこそくの愛ニ引さるゝ事勿レ。人々罪の
爲メニ悲ムハ大ニよろし。

併し眞の愛ヲ離ルゝ事勿レ。

○題X天ニ財ヲ畜フ可し。

X人ハ二人の主ニ事フル事能はず。（馬太六の24）

X穿き門ヨリ入れよ。（馬太七の十三）

X我よりも子女を愛む者ハ我に協ざる者なり。（馬太十の37）

Xエホバハ全能之神也。

大阪日記

十日 午前十一時大阪ニ着

十一日 朝 祈禱會あり。

十二日 朝 祈禱會 新島氏熱心ニ祈禱

澤山氏ハ病體を持ちながら朝暗より信徒ニ先て起きた
り。（余浪花ニ於て説教ス）

十三日 浪花教會之信者ハ無學者多しと雖ドモキリストノ形を

持ち、熱心之心を持てり。

十四日 （女之集りありたり。）

○未信者もキリストノ證ヲ立る事あり。

○春村之商業○中川之事

○神ニハ難行約束ナシ

神ハ如何ナル約束ヲ爲し玉ふも行ヒ難き事なし。また如何ナル
事も人ニ命ずる權アリ。故ニ其終リハミナ善き結果トナルナ
リ。其命ハ教ハ吾ラノ小き賤しき心ニハ難解處アリト雖ドモ神
ハ之ヲ正シク解し玉フ智あるなり。また神ハ如何ナル難き事も
人ニ教ユル智あるナリ。一モ疑ヲいだかず、神之言葉ヲ信ず可
し。創世記十八章十四節、またアブラハムニイサクヲ捧ぐ可し
と命ぜり。また聖靈之約束アリ。然れば何事も神ニ能はざる事
なきなり。

神は聖靈ニ由テ人々ニ罪ノ恐ル可キヲ感ぜしむる力アリ。又慰
ヲ與フル力アリ。又信仰ヲ熱心ニナサシムル力アリ。又更生せ
しむる力アリ。又凡ての眞理を知らしむ力アリ。然レバ吾ヲ
起し玉フモノハ吾が熱心ヤ、力ヤ、智ニあらず。エホバの聖靈
ニよるなり。然れば聖靈之恵を熱心ニ祈る可し。

○傳道ト説教ト祈禱

説教モ勸モ祈モ只感じたるを言フノミニあらず。作りテ言フニ
あらず、第一神の旨を考へ實地爲ントスル事ヲ祈り要スルモノ
ヲ祈る可し。説教ス可し。

空ヲ打ツニあらず。目的ヲネライ打ツ可し。また傳道モ暗ノ中
ニ光ノ出來ルヲ待ツニあらず。吾ヲヨリ光ヲ持參す可し。人々
眠より自ら醒むるを待つニあらず。吾ヲヨリ聲ヲ出しテ呼び起
ス也。故ニ罪の悔改ヲ爲すニも何ニの罪を赦し玉へ、又人ノ罪
ノ救はる事も誰の何之罪ヲ悔改メシメ玉へ、又何村に聖靈ヲ下
し玉へ、コノ暗ヲ照し玉へト目的ヲ以テ祈る可し。又教會ヲ立
てしめ玉へ、又其入費ヲ與へ玉へト祈る可し。また誰ヲ導き玉
へ救ヒ玉へト祈らば其人ヲ實地導く可し。其人ノ救はるゝ迄ハ
働く可し。リバイバルヲ祈るも其一々の待つとも來らず。信者
日より招ニ行く可し。また凡ての暗ヲ照シ玉へト祈らばてる迄ハ
働く可し。信仰を以て、萬事を爲す可し。吾ヲヨリ其ヲ行はざ

レバ罪人より起ル事ヲ試ミざる可し、吾らより起さん事を試ム
可し。今奈良ト近在へ傳導す可也。また郡山之萬人ノ目、醒す
可し。信者より働き始む可し。然らば聖靈も之を助け玉ふ可
し。又祈りモ聞かる可し。罪人ハ自ら惡魔の奴隷トなりたれば
自ら戦つ力ナシ。故ニ吾曹より其愚ニ勝つようたゝかふ可し。
また目ヲ醒す可し。暗ヲ輝ス可し。即ち光ニ逆ヒ嫌フ罪人ニ勝
ヲ得るよう聖靈之助ニ由て戦ふ可し。

二月十八日 夜 木曜日

○説教

X若しわれら眞理を曉得せられし後、尙ホ放縱に罪を犯さば罪
を贖ふ犠牲また有ることなく(希伯來十二章二十六)

X信仰(希伯來十一章)

X終まで忍ぶ者ハ救わる可し

(一) 祈モ終りまで忍ビ祈ルモノ、即ち久ク忍ブ者ハ與へラル可
し。

(二) 如何ナル困難も永ク忍ブ者ハ救わる可し。

(三) 傳道も何日までも待ち、只信仰を以て爲すものハ勝を得可
し。カモ得モ義トセラルゝモ美名ヲ得るも信ニあり。神ハ
信ヲ見テ報ひ玉ふなり。信じて働き且つ祈る可し。神ハ眞
實ナリ。昔より之信者ハ一生困難ヲ受けしもコノ世ニテ其

報ヲ得ざりし。吾ラ今直ニ得るにあらざるなり。

○罪之説

(一) 本心ヲ責メザル罪アルヤ。

(二) 罪之責ハ消エ果ル時アルヤ。

(三) 己ノ本心ノ責、衆人ノ本心ヨリ受ル責、神ヨリ受ル責、刑罰

ヨリ生ズル責、記憶ヨリ生ズル責、

(四) 罪ハ一時吾本心ニ隠ル、モノカ、然レバ顯ル、時ニ罰ヲ受

クベキモノカ。

(五) 審判ヲ受ル時生ズル刑罰、

(六) 赦サル、罪ト赦サル可ラザル罪の區別。

(終) コノ可恐重キ罪を悔改メ、救主ナルキリストヲ信じ、恵

ヲ施シ玉フ聖靈ニ従ハ、全く救はれて眞の安を得可し。罪之

責を忘る可し。

罪之説

(一) 本心ヲ責メザル罪アルヤ

(二) 知ラザルハ罪ニあらず。故ニ責メズ

(三) 一時本心ニ隠ル事アリ。顯ルレバ再ビ其責ハ免カル可ラ

ズ。

(四) 其他一ノ罪モ本心ノ責ヲ免ル可らず。

(二) (i) a 己の本心ノ責

(a) b 人の穩レタル事ヲ鞠ソ日ニ成ル可し。他人ノ本心ヨリ受
ル責メ。

(b) 其日ニハ凡この事裸ニテ顯ルトアリ。(以上二行はbの註
としてあとに書かれている)

(c) 神ヨリ受ル責メ

(d) 我儕が心もし、我儕を責メバ神ハ我儕が心ヨリ大なるニ
より、凡ての事を知り給はざるなし。(ヨハネ書一の三の
二十) (以上三行はcの註としてあとに書かれている)

(e) 刑罰ヨリ受ル責メ

(f) 此ラの者ハ究なき刑罰にいり(馬太二十五の四十六)

(以上二行はdの註としてあとに書かれている)

(g) 記憶ヨリ生ズル責メ

(h) 外の幽暗に逐ヒヤれ、其處ニテ哀哭切齒スルことあら
ん。(馬太傳二十五の三十)

(i) 罪の責ハ消エ果ル時あるヤ

(j) 罰せらるべき者ヨ。我を離れて惡魔と其使の爲ニ備タル熄

エざる火ニ入れよ。(馬太二十五の四十一)

(k) この時に人々死を求めんと爲れと能はず。死んと願へと死ハ
遁れ去らざる可し。(約黙示の九の六)

(l) 又(約黙示十八章の八ヨリ十九)

(不赦罪)

①馬太傳十二

②希伯又六の章六節、又十の二十六より三十

③約翰書第一の五の十六ヨリ十八

○平和ヲ求ム者ハ福ナリ

常ニ凡ての人神ト和ぎ、又吾ハ凡ての人ト和ぎ、凡ての隣ハ彼
ヲノ隣ト和グ事ヲ求メ常ニ働ク可し。

説教スルニモ常ニ心ニ愛を熱心ニ持ツ可し。凡ての人ニキリス
トの愛を顯はすを働とす可し。信者之働ハ愛なり。

○靈之事

靈之事ハ重ニ己ノ靈ニ由テ明す也。故ニ教學ぶニ外面ノ事ヤ人
之事ニ比セズ、己ノ心ニ比し己ノ心ヨリ道ヲ學ビ守るし。

○信仰之祈禱

己ノ事モ他人之事モ萬事信仰之祈ニ由テ勝つ可し。信仰之祈ハ
萬人ヲ救ふ可し。不然れば如何ニ己ノ力を出すも必竟無益也。

神ニ能わざる處なし。人ニ能ハザル事也。

○聖靈ナキ言葉ハ力ナシ

記
心罪ニ支配され、世ニ支配さるゝ時ハ、如何ナル眞理ヲ聞くも
如何ナル言葉ヲ聞くも、たとへ各々其道を知るも、罪より離れ

日
御助を得る可らず。只今を救ヒ之ヲ助け得るものハキリストト

聖靈なり。「蓋はかれ自ら誘ハれて艱難を受けたれば誘わるゝ
者を助得るなり。(希伯來二の十八)

故罪人之悔改の信者と成るも聖靈ニ感ぜざれば能はざるなり。
故ニ救われん爲ニ信仰を以て祈る可し。

○人ハ弱し神ニ祈レ

罪ヲ犯セル人あらば其爲メニ祈れ。弱キ者あらば強セラレン爲
メ祈れ。悔改めざるものあらば悔改むる様祈れ。人ハ弱く只救
ニ由テ強クナル可し。然れば(以下缺)

明治十六年十月二十日

(表紙)

明治十六年十月廿日

日記

大和郡山

成瀬

「己の子を罪の肉の狀となして、罪のために遣はし、其肉に於て罪を罰しぬ。ローマ八の三」故ニイエスハ罪ノ肉故ニ或ハ疲レ或ハ苦ミ或ハ飢エ抔せり。もし罪ノ肉ノ狀ならざれば苦ハナキ筈ナリ。然ればカノ大苦ヲ受けしハ罪ノ肉の狀ナリし故ナリ。然れ共一点ノ罪モ犯さざりしなり。

○キリスト之苦難

彼得前書四章一節。

(一)イエスハ神でありながら、僕トなり玉ヘリ。是れ吾ラノ罪ヲ贖わん爲メ之愛ナリ。

イエスハ人ヲ支配スル神ながら、人ニ役ワレ、人ヲ裁判スルモノナルニ歸テ罰ヲ己の身ニ受玉ヘリ。

(一)我以^レ背付^ニ付^テ我者、我以^レ頬付^ニ付^テ我者、我不^レ掩^ニ面^ニ於^テ辱^ニ與^レ唾^ニ (以賽五十の六) 又以賽亞五十三章ヲ視る可し。

(二)いかれ四十日野に在りてサタンに試られ、獸と共にをれり。

(馬可一の十三)

誘ワルゝ程ツラキモノハナシ

「イエスハ実ニ人間トナリ玉ヒ、試みられし故也。吾ラ山ニ行キ獸ト共ニ四十日アリ。サタンニ試みらるゝ苦ミ異なる事なし。」

不食不飲ザリし。

(二)後ち飢ヘタリ。四十日四十夜食フコトヲせず。後飢エタリ。(馬太一の二) 又道ニテ飢エシ事アリ。

都城へ返るとき、飢エければとあり。(馬太二十一の十八)

は渴けり。サマリヤノ女ニ水ヲ求メリ。其時実ニ疲モ飢モ渴モ忘れて道を説き、女を憐み玉ヘリ、イエス疲倦^レて井の傍ニ

座せり。

(四) イエスノ心愛悼ル事アリ。愛へ悲ミし事アリ。涙を流せし事あり。

(五) イエス痛く哀ミ切りに祈れり。其汗ハ血の滴りの如く地ニ落ちたり。(路加二十二の四十四)

(六) イエスハ家なかりし。

馬太傳八の二十

(七) 彼ハ捨ラレシ。

(八) 人の子きたりて食ふ事をし飲むことを爲れば、又食を嗜ミ酒を好む人、税吏、罪ある者の友ナリと云ふ。(馬太傳十一章の十六) ヨリ

一章の十六) ヨリ

我この世を何に譬へんや。童子街に座し、其侶を呼び、己れら笛ふけども爾曹おどらず。哀めども爾曹胸うたずと言ふに似たり。

蓋しヨハ木食ふ事飲む事を爲されバ、鬼ニ憑れたる者なりと人々言へり。

(九) 彼等ミナ一斉ヒトツクよばりて此人を除き、バラバを我儕に釋せと曰ふ。(路加二十三の十八)

(十) かれ己の國ニ来りしに、其民これを接けざりき。(ヨハネ傳一の十章) ○世爾曹ヲ惡むときハ、爾曹よりも先ニ吾を惡

むと知れ。

(一) 窘迫セラル。

ユダヤ人イエスを窘迫めて殺さんと謀ル。

其他誘テレ。売レ。渡サレ。

弟子ミナイエスヲ離れて去りシ事アリ。ペルゼブルト言ハレシ事アリ。

ペテロの如き弟子も三度イエスヲ否ミタル事アリ。

又鞭タレシ事アリ。唾セラレシ事アリ。罪人ニ陥サレシ事アリ。

(二) 点ノ罪ナキニ終ニ十字架ニ掛リ、苦ミ、終ニ死タリ。

り。

(終) 我儕もし彼と偕ニ苦を受けなば、彼と偕ニ栄をも受く可

し。(ローマ書八の十七)

○かれ自ら誘ハれて、艱難を受けたれば、誘わるゝ者を助得るなり。

(希伯書二章十八節)

○X是れ人には能ざる所なれ共、神ニ於ては能はざる所なればなり。(馬可十の二十七)

(一) 弟子たち甚く駭き互ニ曰けるハ、然ば誰が救を受く可きやと。

富豪ハ金の奴隷トナリ、之ヲ失ハン事ヲ畏レ、或ハ之ニテヲゴ

リ、只金ニノミ心ヲ奪われ、之ニノミ頼リ神ヲ求メズ。

貧乏ナ人ハ心ノ事ヲ捨テ置き、糊口ノ事ノミヲ思ヒ煩ヒ、義ヲ求めず。

學者ハ高慢ニして神ヲ賤メ、只己ノ才ニ頼ム

無學ナル人ハ偶像ヲ神トシ、太陽ヲ神ト思ヒ、盲目に等し。

壯健ナル人ハコノ世ノ樂ニフケリ、病人ハ只一時の苦ノミヲ思ヒ、神ヲ求メズ。(惡人ハ光ヲ惡ミ、善人ハ己ヲ義トス。)又

(弱(二字不明)ト勇者)

或ハ商賈、名譽、親類、朋友、ニ關シキリストニ從フ事能はず。

(二)故ニ如是人ニ道ニ從ヘ道を守れ、と言ふハ恰も盲目ニ見る可し、足ナヘニ歩く可し、病人ニ働く可し、死人ニ食フ可し、鏈ニテしバラれし者ニ自由ヲ得可しと言ふ如く、人ニハ能はざる処也。如何トナレバ己ニ罪ヲ犯し罪ノ奴隸トナリ、爲ントスル事ヲ爲ス能ハズ。努ントスル事ヲ防グ能わざるなり。即ち罪の下ニ買れたるものなり。

(三)然れ共神ニ於テハ能はざる処なし。

イエスハ誓の目ヲ開き、手ナヘ足ナヘノ足ヲ愈し、凡ての病人ヲ愈し、死人を甦生せしめたり。如是今も靈魂之眼を開き、病を愈し、救ヲ得サセ玉フ能あるなり。

(一)神ハ如何ナル六ヶ敷き事モ解明ス智あり。また如何ナル約束モ爲し得可し。

(二)神ハ如何ニ汚レタルモノモ、如何ニ頑固ナル心ヲ持つモノモ、全く清メ玉フ可し。

(三)如何ニ弱きものニも大膽ナル力ヲ与へ得可し。

(四)神ハ如何ナル誘ニ逢ヒ、如何ナル有様ニある人モ救て得可し。羊ト狼ト共ニ住ミ、ヒヨウトヤギト共ニ寝ネ、犢ト獅ト共ニアリ。而シテ小兒カ之ヲ導く可し。

○常ニ神ノ前ニあらば罪ヲ犯さず。

神ヲ離ルト惡事ヲ思フナリ。信仰強キハ神ノ靈ト共ニアルガ故ナリ。神ノ目前ニアラバ口ニ心ニ行ニ罪ヲ犯さざるなり。人ノ心を悦ばず爲メニ働かず、神の心ヲ悦ばず爲メニ働く可し。

○青年會

父ニ依テ働ク事

爾曹のうち二人のもの地ニ於テ心を合せ、何事にても求めば、天に在す吾父ハ彼等の爲メニ之を成し玉ふ可し。(馬太十八の十九)

我ハ葡萄樹、爾曹ハ其枝なり。人もし我に居り、己れ亦彼に居らば麥の実を結ぶ可し。蓋もし爾曹己れを離るゝ時ハ何事をも行能ざればなり。

(ヨハネ十五の五)

(3) 神ノ榮ノ爲メナリ

然ラバ人々爾曹の善行を見て、天に在す爾曹の父を榮む可し。

(馬太傳五の16)

○我儕をして善事を行はしめん爲めにキリストイエスの中に造り給へり。此事ハ吾曹ニ行はしめんとて預メ備へ給ひし所なり。(以弗所書二章十)

(4) 小兒モ聖靈ヲ受ルノ約束

神いひ給く。末の世に至りて我わが靈をもて凡ての人に注がん。爾曹の子子とちめ女も預言す可し。又なんぢらの幼者ハ異象をみ、老者ハ夢を見る可し。(使傳二の十七)

○只天國ヲ望ミ、コノ世ノ名譽、位、富、安樂ハ忘レテ、永遠ノ生ヲ望ンデ働ク可シ。兄弟ヨ。我自ら之を取れりと思ハズ。

唯コノ一事を務む。即ち後ニある者を忘れて前ニ在るものを望み、神キリストイエスに由て上へ召して賜ふ所の褒美ヲ得ント、標準に向テ進ムナリ。(腓立比三の十四)

神學

第二章

○聖書ハ神の言語ナリ。

(一) 兩約書之神ヨリ出タル内部之證據

神ヨリ默示ノアル可キ事

(1) 神ハ奇蹟ノ默示ヲ爲し得可し。神ハ萬物の働ヲ以テ已ヲ顯し給フト雖モ、吾曹の現在或ハ永遠の大切ナル事ニ於テ顯ハサズル問題多クアリ。即ち靈魂不朽ノ事、或ハ人類ハ如何ニ罪人トナリタル事、或ハ罪ノ爲メニ憤ノ道アルヤ否等ノ事ナリ。是れ父ナル愛アル神ニ於テ默示シテ、吾ヲノ靈魂ヲ慰ム可キ事ヲ能はざらんや。神ハ純善、全智ノ神なればなり。

(2) 默示ハ実ニ人の冀望スル事ナリ

碩學之理學者ワクレタスの如き如是默示ノアラン事ヲ望ミン也。

吾人ノ日の限界ノ先ノ見エヌ如く、智も限アリテ道理ニテハ如是事ハ悟ル事能ハズ。故ニ默示アルハ實ニ人の冀望スル處ならん。

(3) 必要ナル事

(一) 人ノ説ハ人の行ヲサバク、十分之導ニあらず。如何トナレバ人ハ屢々心變り或ハ殊ニシ或ハ反對スルモノナレバナリ。

(二) 人ノ論ハ十分ナラス。如何トナレバ或人ハ眞神ヲ拜し或人ハ神の造りシモノ或モノハ己の手の業ヲ拜し或ハ無神論を唱フルナリ。たとへ凡て自然造化之本ヲ持、理論の力を持つと雖も、如是有様ナリ。

(三) (マ)

(一)

福音ヲ聞ク者。屢々是ハ眞ニ神の言語ヤ否ヤト疑フモノアリ。

如是疑ハ聖書ニアル神の徴の不足ヨリ生ズルニアラザル故、假令其徴候ヲ増加スルトモ其疑ヲ去ル事能はざるなり。其疑の本ハ其人の心の有様ニアルナリ。モシ人、神の前ニ心正シカラザレバ、キリスト教の礎ナル證據の要點ハ定メ得可ラザルナリ。

故ニ甲ノ心ニ動カザル證據ヲ與フル眞理モ、乙ノ心ニハ疑フ可ク信セザルノ有様ナリ。而シテ一人の心ニモ屢々不信ノ心ヨリ信仰の心ニ速ニ轉リ變ル事アリ。然レドモ外部の彼ニ顯サレタル證據ハ更ニ異ナラザルナリ。外部ノ徴ノミの量ハ、正シキ信仰ニ導クコト能はず。

エジプトニ於テ多ノ可驚奇跡ヲ見タルイスラヘル人ハ紅海ノ水ヲ陥ち陸の如く渡リ或ハ日々天ヨリ奇跡のパンヲ受ケ或ハシナイ山ニ於テ神の震ヘル聲ヲ聞キながら、彼ラノ神トシテ金の犢牛の偶像ヲ造れり。

又キリストノ奇跡ヲ日々ニ彼ノ前ニ於テ見シ人々ハ彼ヲ十字架ニ付ケヨ、十字架ニ付ケヨト呼ハレリ。故ニイエス曰けるハ、若しモーゼト預言者ニ聽かずバ、縦ヒ死ヨリ甦る者ありとも其

勸ヲ受ケザル可し。と(路加十六の三十一)

故ニ今日福音ヲ信ゼザル人ハ、假令キリストノ行ヒシ凡テノ奇蹟ヲ見ルト雖ドモ、信ゼザル事ヲ決シ得可し。

故ニ信ゼザルハ眞理の證據の不足ニ由ルニアラズシテ、彼等の道徳心之有様ニ由ルナリ。「我儕の福音もし隠るゝならば沈倫者ニ隠るゝ也。此の如き人ハ此の世の神その心を盲したる不信者なり。是れ神の像なるキリストの榮の福音の光をして、彼ラノ心ヲ照さざらしめんが爲なり。」(コリント後書四章三、四)

此教ハ吾人日々ノ經驗ニ一致スル事ニ外レタルモノニアラズ。故ニ眞理ハ之ヲ顯ハス心ト一致スルニアラザレバ、其ノ眞理ヲ正シク悟ル事能ハザルナリ。拔萃シタ或ハ熟考スベキ眞理ハ之ヲ悟リ得可ク、適宜ノ教育ヲ受ケザレバ眞理ハ見エザルナリ。

五官ニ觸ルベキ物ヲ以テ言ヘバ、之ヲ見ル人ト美麗ノ精神ト一致スルノ力ナキ時ハ其ノ絶美ノ價ヲ定メル事能はざるなり。徳義、宗教ノ眞理ニ關シテハ尤も然り。故ニ心の有様、其の悟リニ合ハザル可ラザルナリ。若し吾人ノ徳義心全ク罪ニ由テ消滅スルトキハ道徳ノ區別ヲ悟ル事能ハザルナリ。故ニもし吾ラノ心腐敗したるときハ眞實之眞理ニシテ心ノ清キモノニハ眞理ト見ユルモノモ。吾人ニハ眞理ならざる可し。罪ヲ恕ム可キ感觸ナキモノハ神の義キ鞫ヲ信ズル事能ハズ。

故ニ若し其ノ人ノ本心ヲ醒マセシナラバ、他ノ證據ヲ用ゐズシ

テ眞ニ自ラ罪人ナルヲ感ゼシム可シ。(故ニ心ノ清者ハ神ヲ見ルヲ得。又更生セザレバ天國ヲ見ル事能ハズ。)

○何事も神ニ託ス可シ。

金ノ事モ、兄弟ノ事モ、己ノ有様モ、神を信じ任ス可シ。神之ヲ導キ玉フ可シ。併し力の及ぶ丈ハ働ク可シ。可成ハ活計ノ事モみて都合よく信者の爲メニ世話す可シ。或ハ學校へ入レ或ハ西京、大阪へ働ニ送り其他種々ニ導ク可シ。

○一應躰キタル人の爲メニ祈ル事

一旦信じて躰イタル者ハ神ノ眞ヲ知ル故ニ其人ニ聖靈の聲即戸ヲ叩キ玉ハン事ヲ祈る可シ。然らば前の聞キにし眞理ヲ以テ光ヲ與へ、目ヲ醒スコトあらん。(哥林多五章の五節)

○主ノ爲メノ働キ

各々己ヲ忘レテ主ノ爲メト人ノ爲メニ働ク可シ。然らば其働ヲ主必ス恵マン。かゝる人ニハ必ず働もある可き人ナリ。今余モ己ノ名ヤ月給ノ爲メニ働かず、其働ニ乏しきモ神の爲メニ働かんとせば、其働き多くある也。然レバ己ノ學校、己ノ教會、己ノ働ト思フ念更ニナキ筈也。只主ト人ノ爲メニ働ク可シ。

記
○イエスノ此世ニ降り玉ヒシハ罪人ヲ悔改メシメン爲メナリ。

日
故ニ吾ラ學者ヤ義人ヲ悔改メシメント働クニあらず。病人ヤ罪

人ヤ惡人ヲイエスニ導き悔改メシメン爲ナリ。

罪人ヲ悔改メニ導クニハ、愛ハ尤も人用ナリ。イエスハ罪人ノ友トナリ。共ニ食リ共ニ交はれり。之ニ由テ其愛を知る可シ。

○題

樹ハ其の實ニ由テ知ラル可シ。

○教育

犬や蟲や猫ヲ恐ルムトキ之ヲシカルヨリ之ヲ助ケさとす可シ。不然ざレバ憐ヲ失ヒ、また尙ホ助ケナキヨリシテ恐ルム心生ず可シ。また病の時も助ケテ力を與ふ可シ。憐みある可シ。

◎○說教の時聖靈ヲ受ル妨

(一)高慢即ち己ノ智己ノ辨己ノ學問攄ニして己の功の如く思フ事。

(二)初ノ時神ニ心ヲ任スヨリ、人ノ心ニ動かさるゝ事。即ち善ク言フコトトカ上手ニセントカ或ハ神ニ祈ルニモ人ヲ耻ぢ或ハ恐ルゝ事等。

(三)說教中、高慢即ち己ニ頼ル心の生ズル事。また人の謗り或出入の爲メニ心ヲ奪わるゝ事。是れ神ヲ忘ルムヨリ生ズ。故ニ人ノ心ヲ思フヨリ神の旨ヲ思ヒ忘る可らず。

(四)說教ヲ止ムルトキ神の聖靈ヲ疑フ事。或ハ高慢ナリ。

(五)終の祈禱ハ尤も大切ナリ。もし信仰ナクバ力ヲ失フ。即ち此

祈禱ハ只神ニ己の及バザル處ヲ頼ムナリ。任スナリ。恰モル一
サーガ衆中ニ立テ神ヨト呼ビ、祈リシが如し。

○X馬太傳十一の二十八より

(一)イエスハ救の働ヲ休み玉ハズ。

(二)イエスヲ招ケバ必ず來り玉フ。また此處ニ止り玉ン事ヲ祈レ
バ止り玉フ。(サマリヤ人の如し)

(三)またイエスハ來り玉ヘバ、イエスハ吾ニ來レト自ラ招キ玉ヘ
リ。

(四)誰ヲ招キ玉フ。

(五)イエスニ行クトハ如何

病ヲ愈し或ハ病ヲ隠してイエスニ行くものあり。是れ誤ナ
リ。

然れバイエス彼ニ安ヲ與ヘ玉ハン。是ハ愈サレテ其經驗ヲ得
可し。

詩五十五の二十二

○働ノ日

日曜日、郡山ハ同前。奈良ニ説教ヲ開ク事。

月曜日 歌と相談、聖書研究

火曜日 神學

水曜日、祈禱會

木曜日、（マ） 金曜日休

土曜日 奈良傳道

○X説教題

○信仰ニ由テ義トセラル、事

○獨一眞神

X X X 説教續き

(其種子ヲ育て實ヲ結ばせ悦ビ玉フモノハ主ナリ。
故ニ其實即ち榮ヲ視テ、神の悦ビヲ吾悦ビトス可し。

○傳道ハ凡テ主ノ宰リ玉フ。

之ヲ起し之ヲ導くものハ神ナリ。聖靈ナリ。故ニ奈良ニ道ノ傳
ワリ、豊浦ノ婦人ノ道ヲ聽きしも、筒井ノ婦人ノ事モ、中川ノ
姉ノ事モミナ神ノ導き玉フ事ナリ。如是神ハ救フ者ヲ導き給ヘ
る也。凡テ罪人ヲ救ヒ給フ事、罪人の目を醒し給ふ事ハ聖靈之
働也。

○第二章(説教) 自分

宣教ハ自ラ味ヒ、自ラ經驗し自ラ悟リタル神ノ奧義ヲ宣ル事ナ
リ。故ニ第一自ラ救ワレ自ラ聖靈ヲ受ケ自ラ神ト共ニ在ラザレ
バ、コノ義務ヲ盡スコト能ハザルナリ。

若しめしひのもの譬者の相せば二人とも溝に落つ可し。(馬太
傳十五章十四節) 故ニ宣教スル尤モ備ヘス可キモノハ己の心ナ

リ。又馬太傳七章の二一五

(イ)愛傳道ハ愛の働ナリ。コリント前書十三章ヲ視ヨ。故ニ吾
ラ第一神ト交リ、第二人ト交ル可シ。人ノ罪ヲ免ルシ決シテウ
ルサキ心アル可らず。敬フ事モアリ

(ウ)信仰ノ心ヲ強ル可シ。神ノカトイエスノ救ト聖靈之働ヲ信
テ傳道ス可シ。信あらば信の如クナリ、惡ハ逐出サレ、病人ハ
イへ、負キ者ハ福音を聞き、聖靈ニ感ジテ心サムル、が如クナ
ル可シ。

(ロ)謙遜 もし高慢ナル心ヲ持テバ神も用キ給ハズ。聖靈ヲ與
ズ。又人モ之ヲ聞カザルナリ。如何ナルヨキ説教モ辨舌も之ヲ
受ケザルナリ。

(ニ)爾曹の言、つねに恩を用ゐ且鹽を以テ調和べし。(哥羅西四
章六節) 爾曹の衷にある望の緣由を問人には、柔和と畏懼を以
て、答をなさんことを恒に備へよ。(彼前三の十五) そは人の
怒ハ神の義を行ふ事をせざればなり。(雅各一章の二十)

(四)常ニ剛毅ナル可シ。

約書一章一ヨリ九迄

(イ)多ノ敵アルトキモ懼ルゝ事勿レ。

日 記
(ウ)人々信じ従はざるもムーデー氏のノアニ付テ讀み勵みし如
し。

(ロ)種々の困難起リ、また信者の内ニ困難ある時も同じ勵ミを
持つ可シ。

(イ)人々ニ誇ラルゝ時モ、人員の少キ時も、人ノ信仰冷ナル時
モ、人々説教ニ注意せざる時も、熱心ある可キ筈也。常ニ
己之心火の如ク燃エ立つ可シ。

(ウ)祈禱、説教前も説教中も後もまた常ニ神ニ祈ル可シ。

(ロ)聖靈を受くる事を妨グルモノ是れ説教中の心得。

是の紙ヨリ五枚目(三三五頁)の◎記號の説教の時聖靈ヲ受ル
妨ヲ視ル可シ。

○女子教育

余を神ハ選ンデ女子教育ニ用めん爲めに、前より定め玉ふるを
知る故ニ、此の事も常ニ忘る可らず。

○X

Xもし義人僅じて救はるゝを得ば神を救わざるものと罪人ハ何
處ニ立んや。(彼得前書四の十八)

X馬太傳十章の三十四、四十

X救之道

X At hand Revelation (1.3)

○祈の時常ニ大切ナル事ハ柔和ニして兄弟之罪を免す事な
り。

又汝立て祈禱する時もし人を憐むこと有らば、之を免せ。蓋天に在す爾曹の父に爾曹も亦その過を免されん爲めなり。もし爾曹免さずば天に在す爾曹の父も亦なんちらの過を免し給ハジ。

(馬可十一の二十五、二十六)

常ニコノ事ヲ忘ル可ラズ。不然レバ神ノ旨ニ適フコト能はず。

○經驗

經驗ノ實ハ譬ノ自分ノ目愈サレシ事ナリ。故ニ吾曹モ人ノ爲メニ祈リ人ノ悔改メシ事ヤ愈サレシ事ニアラズ。己ノ心ノ更生ノ事、聖靈ヲ受ケシ事己ノ愈サレシ事、喜ノ事等ナリ。是れ實地之經驗ニテ不確ノ眞理と謂ふ可し。

○説教

イエスハ常ニ吾上ニ在玉フヲ信じ謹慎信仰ヲ以テ説教ス可し。又聖靈ノ能ノミニテ由テ説教ス可し。如何ナル方法ヲ用キタル言葉モ無益ナリ。聽衆ノ顔ヲ見テ説教ス可し。然レバ聖靈ニ感ゼシヤ或ハ罪ニ責メラル、ヤ或ハ怒リシヤ凡テノ人ノ心ノ有様ヲ知ル可キナリ。

説教ハ神ノ言葉ヲ以テ私ノ意ヲ述べ、吾思フ人ニ傳ヘルニアラズ。神ノ語ヲ以テ神ノ旨ヲ宣ブルモノナリ。故ニイエスニ祈テ其旨ヲ知ル可し。

又吾思ニ由テ神ノ導クコト能はず。故ニ只祈リテ神ノ靈ニ導カ

れて眞の傳導す可し。

説教ハ祈の如き潔きものなる可きなり。如何となれば聖靈ニ由テ言ヘバナリ。故ニ祈ル如く説教モ常ニ祈ル心ヲ以テ神ヲ敬ヒ、聖靈聽聞人ニ感徹スル事ヲ待ツ可し。

又熱心の愛情ある可きなり

○病ヲ驗ベテ醫者ヲ求メヨ。

(一)病ヲ知ラザル者アリ。

(二)人ノ病ヲ知テ己ノ病ヲ知ラザルモノアリ。

(三)病ヲ知テ之ヲ治スル事ヲ懸念セズ、失望シテ心ヲ蓋サマルアリ。

四)自殺スルアリ。自ら水ニ溺ル、アリ。毒ヲ食フアリ。

(五)病ヲ知り愈ン事ヲ欲し、醫者ナキニ苦ムモノアリ。

馬可五章二十一ヨリ三十四。

○説教

聖靈御降臨アルトキ、幾何ニても力アル説教出來ルナリ。

○傳道、戸ヲ叩キ玉ハン事

未ダ罪ヲ悔改メ又人ノ爲メニハ、主ニ祈リ戸を叩キ罪人ヲ起シ玉ハン事ナリ。起されバ戸ヲ開ク力ナシ。併し起スモノナケレバ目ヲ醒スコト能はず。如是イエスノ靈ニ由リ罪アリト知らざればキリストニ來ルモノナシ。目ヲ醒マシムルモノイエスノ力

ナリ。故ニコノ事ヲ祈ル可シ。

○吾不足ノ物ハ愛ナリ

心神ニ付き人ニ付愛ニ富まん事を求む可シ。働く可シ。愛ニ不足ある時ハ凡ての徳ニ不足を生ずるなり。

何事よりも先づ互ニ篤く相愛する事をす可シ。蓋は愛ハ多の罪を掩へばなり。(彼得前書四章八節)

なんぢら互ニ愛を負ふのはか凡ての事人に負ふ勿れ。蓋は人を愛する者ハ律法を完全すればなり。(羅馬書十三章八節)

○説教(神學)

コノ務ヲ爲スニ考フ可キ者三ツアリ。即ち神ト自分ト他人ナリ。

(1)神ハ主人にして吾ハ雇人、他人ハ葡萄園ナリ。(馬太傳二十章ヲ見る可シ)

故ニ凡テコノ働ヲ己ノ物ト思フ可らず。只神の榮ノ爲メノミニ働く可シ。吾ラハ其實を自ら取るものニあらず。神ニ歸へす可シ。然れば神ハ天國ニ於て銀幾何之賃ヲ受く可シ。

(2)故ニ己ヲ捨テ、只主ノ爲メニ働くモノ

もし自らコノ畠ヲ奪ひ、己の榮ヤ己ノ益ヤ己ノ名譽ヤ己ノ都合ヤ己ノ意ニ従ふて爲すものハ、神の物ヲ奪ひ偽善者之報ヲ受く可シ。馬太傳二十一章三十三ヨリ四十一

(3)其働ハ異ナレドモ主ハ同じ

故ニ神の園ニ於て或ハ雜草ヲ、拔クモノアリ。或ハ耕スモノアリ。或ハ種エルアリ。水漑クモノアリ。或ハ刈入レルモノアリ。ポーロ曰ク、我ハ種エアポーロハ灌ぐ。長る者ハ惟神なりと。(哥林多前三の六)

而シテ其の園ハ世界ナリ。故ニ何處ニ於テ何事ヲ働くも只主の多メナリ。即ち何レノ教會モ何れの學校もミナ主の園ナレバ、凡テノ榮ヲ喜ビ、全ク己ノ利ヤ榮ヤ都合ヲ顧ミずして主の爲メニノミ働く可キなり。△例ホワイトフィールドの説教中ニ言ヒシ、末日之裁判ニイエスノ前ニ出テ諸教師ノ言ヒシ言葉

四神ノ爲メニ働くモノハ己ニ主ヨリ選ばれし者ニ限ル

其園ニ働く爲メニ雇われし者ハ己ニ更生し、聖靈ヲ受ケシモノニ限る。而シテ己ニ更生しし信者ハミナ働く者なり。馬可講義に傳道ノ一事ハ然獨關^カ於有職之人ニ凡ソ爲^ル耶穌之徒^ト皆宜^ニ爲^ル道作^ル證^ス證^ト謂^フ各人^ハ需^ム登^ル堂^ニ說^ク經^ヲ乃有^リ機會^ニ可^キ與^ニ鄰里^ト携黨^ト作^ル證^ス證^ト至於登^ル堂^ニ即^チ株^ニ宜^ニ有^リ才^ト德^ト之人^ト爲^ル之^レ(ローマ十の九、雅各三の一、コリント上十二の二十八、エペソ四の十一)

(4)神ヨリ働キ場ニ遣サル可シ。即ち其命ヲ蒙ラザル可ラズ。

ポーロ悔改メシトキ曰けるハ「主ヨ我に何を行しめんと爲給ふや。主かれに曰ひけるハ、起て。呂に入らば爾行す可き事を示

さる可しと。(使傳九の六)

イエスこの十二を遣きんとして命じ曰けるハ、異邦の途ニ行く勿れ。又サマリヤ人の邑にも入る勿れと。(馬太十の五)

其他使徒行傳八の二十九、又使十の二十、又使徒傳十三章二三節、又使十六の六と七、又使徒傳二十の二十三、二十八、又使二十一の十一

神ハ凡テ今聖靈ニ由テ可行道ヲ示シ玉フナリ。昔火の柱靈の柱ニテ導かれしが如し。

故ニ吾曹自ら勝手ニ己ノ身ヲ爲ス可らず。神ニ祈リ御命ヲ受ク可し。是ハ祈ト聖書ト有様ニ由テ決ス可きなり。然レバ汝ラ主ニ心ヲ奉げしなれば汝之働ニ付テ憂フ可らず。

(四)働人不足ノ時ハ主人ニ祈レ

馬太傳九章の三十八節

(五)働ク力ハ神ヨリ受ク可し

働ク者ハ日々食物ヲ食シ力ヲ養フ可きナリ。此食料ハ主人ヨリ出すものなり。如是吾ラノ力ハ神ヨリ聖靈ヲ日々受ク可き也。

又日用ノ糧ハ素ヨリ與ヘ玉フ約束ナリ。

(六)蒔ク種子ハ神ヨリ受ク可し

即ち神の言葉ナリ。吾ヲ全ク己ノ思ヤ己ノ企ヲ宜フ可らず。神ニ祈リテ神ノ旨ト言ヲ待つ可きなり。罪人ニハ悔改ヲ宣ヘ、目

ヲ醒セシモノニハスムメ、弱キモノニハ主之旨ヲ述べ、高慢ナルモノニハ謙ヲサス可し。モシ己ニ勝手ニ自分の種子ヲまき實ヲ結バサル樹ヲ生ゼバ、其樹モ働クモノモ共ニ不滅火ニテ燒かる可し。蒔ク時アリ。水灌時アリ。刈ル時アリ。之ヲ誤ル可ラズ。

XXX 續き

(四)奈良説教處ニ付テ 安息日之事等

(三)三味線業之事

(二)安息日之事。牛乳商。コヘ取ノ事

(一)埋葬ノ事如何、中川竹松の如き如何、凡テノ偶像ニ關スル

事

○祈禱

(一)天に在す爾曹の父ハ求る者に聖靈を豫へざらんや。(路加十一 章十三)

(二)信ゼバ必ず得可し。(馬可十一の二十三) 祈禱と斷食ニあらざれば遂出スコト能はざる也。(馬可九ノ二九) 然れど疑ふことなく信じて之を求む可し。疑ふものハ風に撼されて翻へる海浪の如し。(雅各一章六節)

(三)爾曹求めてなほ得ざるハ爾慾のために費さんとして、妄に求

むるが故なり。(雅各四の二三) 税吏ハ遠かに立て天をも仰ぎ見
ず、其胸を打て、神よ、罪人なる我を憐み給へと曰へり。(路
加十八章十三)

なんぢ祈る時ハ嚴密なる室にいり戸を閉て、隠微たるに在す爾
の父に祈れ。(馬太傳第六章六節)

先づ往きて爾の兄弟と和ぎ、後きたりて爾の禮物を獻げよ(馬
太傳五の二十四)

若し聖靈ニ由て身體の行爲を滅さば生く可し。(ローマ書八章
十三)

四況して神ハ晝夜祈る所の選びたる者を、久しく忍とも終ニ救
はざらんや。(へ路加傳十八の七)

(イ)妻ニ向テ怒リヲ止ムルノミナラズ、愛し慰ム可シ。

(ロ)子供ヲ憐ミ愛ス可シ。

(ハ)老人ヲ母トシ父トシ兄トシ敬ヒ愛ス可シ。

(ニ)信仰ヲ以テ信者ノ爲メニ熱心ニ祈ル可シ。

(四)兄弟ヲ熱心ニ愛ス可シ。

(イ)私ト名譽ヲ更ニ思フ事勿レ。他ノ兄弟ト教會の榮ヲ望む可
し。

(ロ)己ノ事モ兄弟ノ事モ只天國ノ事ヲ思フ事熱心ナル可シ。此世
ハ全ク捨ツ可シ。

(イ)一人ニテ嚴密ナル室ニテ斷食ト涙ヲ流し熱心ニ祈ル可し。

(ロ)吾レ主トナリテ働くニあらず。神の働の起立つハ聖靈主トナ
リ玉フナリ。故ニ聖靈吾曹を起して働を初メ玉ふなり。故ニ神
之恵を待つ可し。吾が力や勢を出す可らず。併し聖靈行ケト教

ヘバ行き、立てと命ゼバ立つ可し。實ニ聖靈之感化ニあらざれ
バ心ヲ更生せず、またたとへ一時感を起スモ復々後の有様ニ陷

る可し。説教モ實ニ聖靈ニ感ゼザレバ能なし。人心も眞ニ聖靈
降らざれば目を醒スコトなし。又眞ニ聖靈ヲ受ケされバ肉ヲ殺

スコト能はず。

(イ)説教ハ只神ノ意ヲ傳フルモノトナル可し。故ニ聖靈ニ由テ教
ヘラレ聖靈ニ由テ感ずる可し。聖靈自らおしヘ玉フ如く、聖靈

ニ由テ神ノ言語ヲ心ニ感ゼシメ玉フが如く、神の言語を語る可
し。

(ロ)祈禱セバ神ハ眞ニ其人ヲ悔改めし玉フ事アリ。また追々悔改
むる有様ニ導き玉フ事アリ。

(イ)余或兄弟の爲メニ聖靈ヲ受ケシ事ヲ祈ルニ彼ハ金ノ事、世ノ
事ヲ祈り。如是神ハ吾願ハ御旨ニ適はずして可求事を不知事
ある可し。聖旨を考ヘテ祈ル可きなり。

○一家ノ愛

今日ハ如何ニシテ妻子ヲ愛シ慰メ助ケンカト考て、眞實ノ愛ヲ

日々二行フ可シ。假令怒ルトキモ忍耐シテ愛ヲ顯ハス可シ。

○題

X 二心ノ者ヨ、爾曹の心ヲ潔くせよ。(雅四の八)

X 聖靈(雅各四の五)

○傳道

傳道ハ常ニ罪ヲ悔改ニ導き、キリストニ由テ救われ聖靈之感化を受けしむるニ外ならず。

○何故聖靈ヲ受ケザルヤ。

今イエスノ足下ニひれ伏し私ニ聖靈ヲ下シ玉ヘト祈レバ、イエス答ヘテ曰、汝何故ニ之ヲ要スルヤ。余答ヘテ曰ク、私ノ肉の罪ヲ殺シテ靈ノ活ン爲メナリ。穢ノ潔まらん爲メナリ。又私ノ心ハ暗キ故光ヲ得ン爲ナリ。又世ノ罪人ヲ悔改メシメ救ハンガ爲ナリ。即ち汝ノ榮ノ爲メナリ。即ち聖靈ニ由テ説教ヲナシ聖靈ニ由テ罪人罪アリと悟らんが爲ナリト。

イエス答ヘテ曰ク。汝求メテ得ザルハ爾慾の爲メニ費さんとして妄ニ求むるが故也。子ヨ、心ヲ與へ、然らば吾レ聖靈ヲ與ヘン。子ヨ汝の心ヲ驗ベヨ。

主ヨ然リ。私ハ他ノ教會ニ汝ノ恵ヲ下シ、リバイバルアリシヨリモ、吾働ニ與ヘ玉ヘト。是れ私心ナリ、又他ノ兄弟ニ先ダチ聖靈恩化ヲ受ケシト慢リシナラン。又吾働、著書ヤ教育ヤ傳道

杯ニ慢リシナラン。又己ノ無學ニ慢リシナラン。余ハ神學モ英學モまだ出來ません。又信仰モ薄シ。

人員ヤ人ノ力ヲ増サン爲メニ悔改ヲ傳ヘシ處あらん。又其説教ニテ私之榮トナサズリシヤ。而シテ全く汝ノ榮ノミヲ擧グル事ヲ務メザリシ。アム。又リバイバルヲ兄弟ニホコル處アリシナラン。アム、吾ハ困メル人ナル哉。主ヨリ悔改メマス故、免シ玉ヘ。聖靈ニ由テ心ヲ變ラセ玉ヘ。又主ヨ、私ノ意ニ事ヲ行ヒ只汝ノ意ヲ傳ヘズ。主イエス曰ク、汝信ゼバ得可シト。弟答ヘテ曰ク、吾信ズ。吾信ナキヲ助ケ玉ヘ。

○重荷

其汝の罪之重荷ハ大阪或アメリカヘ行き或ハ余ニ來ルモ更ニ息シアリ。汝ちイエスニ行く可シ。さらば如何重荷も心配も安ニなる可シ。又ハ世界中ヲ巡廻スルモ安を得ルコトナシ。馬太傳十一の二十八。

○説教

説教ハ永キヲ要セズ。飾ヲ要セズ。大音ヲ要セズ。只聖靈ノ力ト神トイエスノ言葉ヲ顯ハスニアリ。實ニ神ノ聲ノ如ク聖靈ニ由テ實地ノ感化アラシム可シ。

罪人悔改メ救ヲ得ば人員ノ増スヲ悦ブニあらず。人ニ報知スルヲ悦ブニあらず。只神の榮ト其人の眞に救われしを悦ぶ也。

吾らイエスノ恵を受けば萬事十分也。

○當地之困難

人ヲ養フハ主ナリ。人ノ生命ハ神ニアリ。健康ハ神ノ力ナリ。また雨を降し産を生ずるも神ナリ。心ト智ヲ與フルモ神ナリ。もし神、人民を憐み玉わざれば一人も生活を得るものあらず。然れば先づ天國と其義を求むるものハ凡て需要之品加へらる可しと。併し今大和國ハ困難ナル時なり。之を忍ぶものハ救わる可し。

今之困難ハ眞ニ神より來る困難ニあらず。信者之信仰ト熱心ト忍耐之足らざるより生ずる事ならん。

○吾喜ハ何乎

然ども惡鬼の爾曹に報し、事ハ喜とする勿れ。爾曹が名の天に錄されしを喜とす可し。(路加傳十二章二十) 吾ラノ喜ハ多人ノ悔改メ惡鬼ノ出し事ニアラス。(素ヨリ之モ喜ナレドモ) 吾各自ノ喜ハ己ノ靈ノ死病死苦死重ヨリ愈サレ、實ニ心安クナリシ事、健全愈快ヲ心ニ受ケシ事、又吾名ノ天國ノ帳簿ニ記サレシナリ。譬ハ人ノ目の開キシヲ喜ビシヤ。否ナ。眞ノ喜ハ己ノ目の開キシ事ナリ。如是吾ラモ己ノ心ノ愈エシ事ハ十分ノ喜ナリ。己ノ病ハ捨置キ人ノ病ノ愈されん爲メニ働クモノハ眞ニ喜悅ノ心ナキ也。故ニ又人ノ事モ亦然リ。人員ヲ増シテ社ヲ建

記
日

ツルハ傳道ニあらず。死人病人ノ救ワル、事ナリ。故ニ他ノ教會モ己ノ教會も區別あるものニあらず。何れハ教會ニも救われバ何ゾコノ喜ニ若クモノナシ。又今當地ノ信者ミナ當地ヲ出ルモ彼ラ愈されシナレバ、何ニあるも天ニあるも吾心ニふ満足ナシ。吾ハ只愈サレシ事救ワレシ事が眞の喜ナリ。

○イエス救主ハ靈の醫者ナリ

吾罪ノ病ヲ愈サレテ健全ヲ得タリ。然ルニ後チ情慾高慢杯ノ病再出シタリ。吾レ眞ニイエスノ足下ニ伏シ、コノ病ヲ愈シ玉ヘト祈リシ。實ニ其病去リタリ。ア、喜シキ哉。吾今ヨリ如何ナル病モイエスニ頼マバ愈シ玉ハン。兄弟よ。汝チ情慾モ利ト慾モ飲食ノ情慾モ其他如何ナル病モ、イエスニ頼リナバ愈サル事ヲ得ン。

○イエスノ福音ハ實地之働

イエスが人ノ靈ヲ救ヒ玉フハ醫師が病人ヲ愈スガ如ク實地ナリ。病人ナラザル人ニ醫者ノ事ヲ咄しても餘處事ニシテ聞クならん。如是罪ヲ感ゼザル人ハたとへヨキ醫者がある咄シラスルモ更ニ感ジナシ。故ニ目ヲ閉ヂ肉に在ル人ニイエスノ十字架ヤ眞の奧義ヲ咄スモ更ニ感ジナシ。イエス曰ク、犬に聖物ヲ與ふる勿れ。また家の前ニ爾曹の眞珠を投與る勿れ。恐クハ足にて之を踐、ふりかへりて爾曹を噓やぶらん。(馬太七の六) 又ボ

一ロ曰ク、兄弟ヨ我さきに爾曹ニ語れるとき靈ニ屬る者に語るが如くする能ハズ。惟肉ニ屬る者の如く、亦キリストに在る赤子に語る如くせり。(哥林前三の一ト二)又曰ク爾曹ハ堅き食物ならで乳を用べき者となれり。(希伯來五の十二)然れば福音ヲ傳フルニ謹慎ナル可し。妄ニ聖書ヲ讀ミ聞セ或ハ己の感じヲ傳フルモ益ヲナサズ。モシ其人病ヲ知らざれば如何ニ藥ノ功能ヤ愈エシ幸ヤ愈エシ術ヤ愈ル方法ヲ教ユルモ無益ナリ。故ニ其人ニハ病ヲ悟ラスハ肝要ナリ。又病ヲ知り病ニ苦ムモノニハ病ヲ知らしむるニ及ばず。醫師ト藥ヲ教ユ可キナリ。故ニ福音ヲ傳フルニ赤子モアリ。肉ニ屬クモノモアリ。大人モアレバ各々ニ應じたる食物を用ゆ可きなり。

又福音ハ實地ニテ悟ル可キナリ。感ズ可キナリ。只學問ニテ智識ヲ以テ悟ル可ラズ。更生ハ更生セシ人ニワカリ、聖靈ハ聖靈ヲ受ケシ人ニ分り、救ノ喜ビ愈エシ幸ハ之ヲ己ノ心ニ受ケシ人ニ分り、神ノ愛ハ之ヲ味ヒシモノニ悟ル可ク、祈ノ應驗ハ祈ヲ聞かれし人ニ分り、只如何ニ聖書ヲ讀ムモ如何ニ道理ヲ聞モ其奧義ハ悟らざるなり。眞ニ心ヲ頑ニセシ人ニ如何ニ救ノ道ヲ言フモ心ノ幸ヲ言フモ天國ヲ言フモ祈ノ事ヲ言フモ感じナシ。イエス曰ク、更生セザレバ天國ヲ見ル事能はず。故ニ更生セヌ人ニ神學をおしへ祈ヲおしへ、或ハ聖書の奧義ヲ如何程教ゆるも

無益なり。其人ハ罪ヲ悟ラセ目ヲ醒まさせイエスニ來ルヨウおしへ導く事肝要なり。又聖靈ノ力ハ之ヲ受ケテ後二分ルモノナリ。故ニ眞ニ福音ヲ悟るハ實地之ヲ受ケし後ナリ。故ニ福音ヲ知らんとおもふものハ只神學ニテ研究するヨリ實地行フ事ヲ務メヨ。然らば日ニ其眞理を悟り得可し。たとへ聖書之注解ヲミナヨムモ傳道方ヲミナ勉強スルモ之ニ更ニ己ニ行わざれば一モ眞理ヲ知る事能はず。神の國ハ言ニあらず。能なり。

又福音ノ經驗ハ人ノ經驗ヲ多ク讀ミタルヤ見タルニアラズ。經驗多キ人トハ自ラノ心ノ内ニ實地經驗ヲ得シモノヲ言フナリ。然らざれば不動證據ニあらず。即ち内ノ證據ナリ。故ニ各々救はれ、印己^(マ)ノ心ノ内ニアルナリ。故ニ心ニ罪ノ大ナルヲ感じイエスニ頼リ、眞之心ニ安ヲ得シ人ハ聖靈モイエスモ悟リシ人ナリ。不然れば如何ニ本ヲ讀ミテ、斯ク多ト理ヲ究ムルモ己レ實行セザレバ更ニ眞理ヲ知らず。恰モ譬他ノ譬人ノ目ノ開かれしヲ聞キムテ曰ク、誰々ハ譬聞キノソゾジャト言フヲ知り自ラ愈サレザルガ如シ。故ニ只福音ノ言ヲ多ク人ノ耳ニ入レルヲ務メズ一々行ワシムルヲ務メヨ。又天國ニ入ルモノハ聞キシモノニアラズ。之ヲ行ヒシモノナリ。

又盲他ノ人ノ目開キシヲ聞キ、さらば吾モイエスニ行き愈サレント決心セシトキハ、未だイエスノ幸ヲ知りシモノニアらず。

自ラ行キ聞カレシ後初メテ其喜ヲ自分の心ニ得可シ。「祈
夫婦ノ愛モ子ノ誓モ祈禱會モ一家ノ祈禱會モ實地其幸福を味わ
はざれば其眞理ハ分らず。かれ答けるハ罪人なるや、否、われ
之を知らず。我ハ警者なりしが今日明になれる此一事を知る。

(ヨハネ傳九章二十五) 實に彼ノ目ノ開キシ其力ト言ヒ其幸ト
言ヒ實地ノ事故、コレ慥ナル證據ハナシ。如是、今日ノ證モ實
地心ノ愈エシ事ナリ。コノ證ヲ受ケザル人ハ證ナカラン。

なんじら道を行ふ者となる可シ。徒これ聞くのミにして自己
を欺ク勿レ。(雅各一の二十二)

○白ラ喜ベ

自ラ救ワレシ事愈サレシ事ヲ喜ビ人ノ前ニ喜ヲ表ス可シ。

○傳道

傳道ハ凡テノ病人ヲ愈ス働ナリ。故ニ病氣ヲ知らず事トイエス
ナル醫ヲ教ゆる事ナリ。故ニ愛ノ働ナリ。故ニ熱心ノ愛ヲ以テ
病人ヲ輕蔑セズ之ヲ憐ミ熱愛ヲ以テ人々の爲メニ働ク可シ。故
ニ惡人ヲ怒ル勿レ。之ヲ免シ忍ビテ導ク可シ。病人ニ働ノ出來
ざる事憂ル事ヲ責ムル勿レ。憐ム可シ。働ノ出來ザルハ當然ノ
事ナリ。如何トナレバ病人ナリ。故ニ愈サルハ事ヲ勸ム可シ。

日記

○全ク己ヲ捨テヨ。然ラバ得可シ。

神ニハ能ハザル事ナシ。又難キ事ナシ。又不足ナシ。故ニ吾ラ

全ク悔改メ己ノ道ヲ捨テ又己ト智ト金ト世ニ頼るを止メバ、必
ズ神ハ吾ラノ祈リヲ聞キ玉フナリ。故ニ如何ニ弱クナルモ如何
ニ小クナルモ如何ニ難クナルモ全ク主ノ旨ニ從へ。然ルノチ神
ハ助ケ玉フナリ。「衆の人を敬ふ可シ。彼得一の十七」

○祈禱

祈ハ啓ヲ神ハ聞キ玉ハズ。心ヨリ眞ニ祈ルナラば神ハ必ず聞キ
玉フナリ。神ハ靈に靈ナレバ靈ト眞ヲ以テ祈ル可シ。信じて祈
ル可シ。信ゼザレバ神ヨリ何ヲモ得ルト思フ勿レ。

○題

X 凡て我愛する者ハ我これを責メ之を懲ス。是故ニ爾勸みて悔

改メヨ(約默示三の十九)

午後説(マ)

X (夜題) 汝の病ヲ驗ベヨ。

爾われに何を爲られんと欲ふや。(馬可十の五十二)

○常ニ喜ブ可シ。(帖撒前書五の十六)

吾曹憂フル事勿レ。常ニ喜ぶ可シ。眞ニイエスト友ならば如何
有様ニも喜ぶ可きなり。

○大和基督青年會ヘノ勸メ

(-) 鐵能利鐵人能利ニ其友之面ニ亦然箴言17
相對人心對人心ニ亦如レ是善友賢友ハ吾手本トナシ、愚ナル
面ニ於テ水ニ面與レ面

女、弱キ友ハ之ヲ教へ、コレ亦吾心ヲ磨クナリ。又友ノ誤リヲ見テハ吾惡ヲ矯メ、吾ヲ惡ムモノハ之ヲ愛シ吾忍耐ヲ増シ、

人吾ヲ諫ムルトキ如何ニ怒リテ言フモ其人ニ理あらば悦ンデ受ケ、自分ノ誤リヲ正ス可シ。たとへ自分ノ爲せし事善ニもせよ怒ル可ラズ。柔和ニ説明す可シ。

(二)公益ヲ計ルモノナリ。

無^レ指^シ引^キ者^ニ則^チ民^性性^性議^者衆^ヲ 則^チ得^ル安^ヲ (箴十一ノ十四)

今日日本之有様ハ如何

曰故ニ之ヲ爲、尤モ大切ナル事ハ汝ラノ基礎ナリ。エホバノ岩ノ上ニ働ヲ立ツベシ。然ラザレバ種々ノ腐レコノ社ニ起らん。又風雨ノ爲メニ倒サレン。即ち人ノ滅シタ時或ハ金ノ不足ノ爲メ或ハ利ノ爲メニ倒ルヽナリ。

(四)一致

(五)謙遜

(六)獨立ノ氣象

(七)忍耐

日本學生の例、英學書生の事

(八)望ヲ大クシ、小ヨリ初メ大ニ進ム可シ。神ノ働ハ凡テ芥種ノ如し。

エール大學校、マウントセミナリー學校、アメリカ合衆國、アメリカン傳道會社、の如し。

(九)大和ニ於テ事ヲ爲スコトヲ得ルヤ

○受諫時

明治十八年六月六日より

二十二日まで

(表紙)

Journal of the work

紀元一千八百八十五年六月

男女交際論

明治十八年六月ヨリ

日記

於伊勢

Nizo Naruse
Hisai
Ise Japan

(一)人間交際の本 (二)往古ヨリ人心の汚穢 (三)誘悪の勢力 (四)吾國の有様 (五)男女の間を清潔ニ爲すの方法 (六)聖靈感化力 (七)心を守るの方

日 記
(以下二六頁より書き始む)

(はり紙)

六月六日

七日(安息日)

〔記録〕

○安息日。

午後婦人集

りニ於て、

万寿枝路加

傳を教ゆ。

(七日)

家(波瀬村) 中村弥太郎、道中山の景色美なるを感ぜり。

六月八日

雨天にて久居ニ留り、諸處ニ書狀を出し、午後齊藤氏と共に伊藤景勝氏の父(七十七歳)ニ道を語る。初め彼の説を聞き、惡魔の策ト罟を認め、一々之を殷き、きりすとの眞理を説けり。彼の説は人ハ死して直ニ消滅するものなりと。併し説明後、共ニ祈禱して歸へれり。吾思ふニ親しく罪人と接し、よく其心を調べ、一々キリストの眞理を顯はすハ、實ニ大切にして、眞理を残す事なく、其人の誤りを残さなく、力を残さなく、其處ニて心を明ニならしめ、凡ての雲霧をあらしめ、直ニ悔改める事を

勧め、其人の爲め、其日のみ恵の日なりと信じ、道を語るべし。如是萬人の心を之を察し、益ある事ハ残す處なく語る可し。使傳二十の二十と二十一、

夏中當地ニテノ働、人々即集會を作り福音を宣ふる事、家々ニ行き證する事、聖書を教ゆる事、歌、西洋縫裁を教ゆる事、信者各々ニ働を教ゆる事、

能く人と交り、其人の經驗と考を聞き、己の益となし、また其人の徳を立つるは、吾らの可務事也。人と話ス時ハよく其人の經驗を聞き、徳を建つ可し。

津の人ハ基督教を嫌ひ説教處ニ家を借す人なく、信者ら大ニ力を盡せしも、未だ之を得ず。止むを今ハ久居ニ留れり。

イエス曰はく、萬民ニ福音を宣べよと。故ニ吾らの望ハ二あり。一ハ萬民ニ、二ハ福音を宣ぶ。故ニ此目的を達す可し。此を如何ニ妨ぐるものありとも其妨ニ勝ち、之を除く爲めに働き之を達せざる可らず。故ニ人々集まらざれば家々ニ行きて語る可し。或ハ道にて咄す可し。如何ニもして萬民ニ偏く傳わる様、力を盡す可し。第二其人疑へは之を開き、賤めば之を導き、如何もして人心を福音ニ導き、福音の奧義を示し、之を信するよふ、之を味ふよふニ働く可し。只此福音ニよりて救はる可し。

○毎火曜日ニ默示録研究する事ニ定む。又歌。

○福音ハキリストの奧義ナリ。故ニキリストヲ顯ハセバ、吾職ハ盡ルナリ。

○信者の一家、實ニ幸福なる有様を感ぜり。

六月九日

齋藤氏と谷田兼母ニ道を咄し、午後川村老人（八十七）ニ道を勧め、共ニ祈禱し次ニ集ニ道を語る。彼ハ心の誘ニ勝つ力無きを悲めり。種々神の言葉ニ頼る事を教、只共ニ祈禱せり。夜ハ五味氏の宅ニ於て默示録研究及び歌の稽古せり。何れも心ニ感じ、また人の靈ヲ憐む心ありし。

六月十日（以下一字不明）

○福音の傳わるは一人ニて速ニ傳るものニあらず。凡ての信者は隣ニ傳道せざる可らず。たとへばコレラ病の如き一人より他ニ移り、又他ニ移、直ニ諸方ニ傳わるが如し。

○イエス曰、隣を愛するハ己の如くせよと。故ニ他人の靈之有様ト救ト、之ハ己の靈之有様と思へば、必ズ憐む心起り、其人の爲に熱心祈る心力を盡す心生ずるなり。また他の信者の徳を建て、増々信仰の進み心の潔まる事を深く考へ、働くなる可し。

○人々救はるゝ事ハ、聖靈之御恩あらざれば能はざる事故、人

の靈魂の事を己の事と思はゞ、熱心祈禱し、求む可し。

○吾ニ二の目的あり。一ハ萬人をキリストニ由テ救ハン事ニハ只福音ヲ傳フル事ナリ。「我ハギリシヤ人及異邦人また智人および愚人にも負へる處あり」ローマ一の十四、「只この一事を務む即ち後ニ在る者を忘れ前に在るものを望み神キリストイエスニ由テ上ヘ召て賜ふ所の優美を得んと標準に向て進むなり」腓立三の十四、「われイエスキリストと彼の十字架に釘られし事の外は爾らの中ニありて何をも知まじと意を定められばなり」哥林多二章の二、此職を遂んニは、堅き強き心あらざれば決して得ざる也。此熱心は祈禱に由て神より受けざれば、決して得ず。昔より神の道の傳わり、多の人靈救はれしは只聖靈之御能なりし。然れば、今日も亦然る可き也。フキネー氏曰く、吾祈禱を怠れば力ある説教を爲し得ずと、神の道は言葉にて傳はらず、能ニ由て傳るなり。併し此福音が傳るニまた人心レインに入る種々様々の妨あれば、之ト戦ひ、勝たざれば福音を受ける事能はざるなり。祈禱するニ、必ず得ると信じて祈る可し。働ニ、必ず成ると信じて働く可し。

記
人の必ず亡ブル事ヲ堅ク信ぜざれば、熱心生ぜず。「吾ニスコットランドを興へ給へ。然らざれば吾ニ死をあたへたまへ」と祈禱ある可し。吾らは人を救ふの働を爲さざれば、此世ニ生る

の道理なし。神は必ず祈を聞きたまへば、必ず成ると信じ、常ニ祈禱して其を成さんと務む可し。神より答ありて、其人が救を受けるまで、熱心ニ祈禱す可し。○吾ら今世ニ於ての働は、人の靈を救ふ事と信者の徳を建て、即ち育つるニあり。祈禱も此ニニあり。他は皆な之ニ屬する物なり。イエスキリスト及十二使徒其他ルーサー、ムーデー、ヒーター、其他凡ての信者働も、此外ニ出でず(又己ノ救ト教育ハ素ヨリ)。人の爲めに熱心ニ働は是れ愛なり。

「もし人その兄弟の死ニ至らざる罪を犯すを見れば祈りて死ニ至らざる罪を犯す者に生を豫ふ可し」約書第一の五の十六。「夜も晝も祈禱に斷えず爾を懷ふニ由て」提摩後一の三

「われら祈禱の中ニ爾曹の事を陳て常ニ爾ら衆人の爲に神に感謝す」帖撒羅前一の二

「聖靈自ら言がたきの懺歎を以て吾儕の爲ニ祈りぬ」
Rom 8. 26

「人の家二人らば先づその家の安全ならん事を求へ」路加十の五

「彼らが聖靈を受ん爲に祈れり」使傳八の十五

「然れど爾の信仰絶ざるよふ爾の爲に祈れり爾歸らん時其兄弟を堅せよ」路加廿二の三十二

「イエス曰けるは彼等を救し給へ其爲す所の知ざるが故なり」

「萬人の爲に願告、祈禱、懇求、感謝せよ」提摩前二の一

「爲^レ爾息^ヲ於^テ祈禱^ニ而^テ獲^テ罪^ヲ於^テ耶和華^ニ」云々撒母前十二の23

○信者ハ、各々基督ノ福音を傳ル働ヲ熱心ニ務メザル可らず。

素ヨリ皆ナ衆人ニ説教ハできざらん。然れども、晝モ夜モ其人

ノ爲メニ祈り、或ハ如何ニ導き得るか神ニ祈り、或ハ本を借

し、或ハ集ニ導き、己ノ全力全心ヲ入レテ働かば、一人の靈を

救ふ事を得ん。然る後又他ノ人ヲ導き、漸々衆人を救ひ得るニ

至らん。

迷へる者を引き返すは、其靈魂を死より救ふ也。

故ニ傳道ハ、貧乏人ニ施し、或ハ溺死を救ひ、或ハ病人を助

け、或ハ燒け死せんとする人を救ひ、或ハ賊ニ殺されんとする

者を助けるより大事にして美事ナリ。如何となれば、無限靈ヲ

地獄の火より救ひ天國ニ救ひ出す事なれば也。

○水曜日ニ付、夜祈禱會ニ施て、男女信者とも熱心なる祈禱ノ

會ありし。

六月十一日

朝、綱嶋、本間氏ニ書狀を出す。

○午後齋藤氏と共に伊藤庄五郎氏ニ行、福音を語る。彼ハ只キ

リスト教信者の行ニ感じ、己も如是行を爲さば、人より愛敬せ

られんと思へり。故ニ神と和く事又靈魂上之救之大切なるを説
きしが、悔改ニ力を盡さんと云へり。

○吾ら一人を導くにも全心全力を盡さざる可らず。もし其人の

救となる事なれば、己の生命をも捨つ可し。素より時も智も金

杯ハ悉く盡す可きなり。其人の救ヲ延す勿れ。今日只今悔改メ

ヨトス、メ、其悔改ト救ニ妨げあらば力を盡して全ニ至る可

し。

○夜伊藤氏宅ニ於て黙示録研究並ニ歌修業せり。

六月十二日

神ハ昔より今ニ至るまで天ニあり。地ニあり。即ち在さざる處

なき神なり。其の存在と御働は萬物に顯はれたり。如是キリス

トモ神なれば、天ニ在スト雖ドモ又吾が傍ニ在スナリ。即ち在

さざる所なき神ナリ。其子の御働ト性質は聖書ニ顯はれたるが

如し。また聖靈も神なり。

其働も昔より今ニ至るまで顯はれたり。故ニ此の三位一體の

神ハ眞の神なれば、きりすとも聖靈も眞神として顯ハサヅル可

らず。拜せざる可らず。今晚の集りニハ、此三位一體の神來り

玉フナリ。人々此神より恵ヲ得可し。今晚語り給フモノハ聖靈

の神なり。救ひ給ふものはキリストナリ。赦し給ふものは神な

り。今晚ノ集ハ人の集ニあらず、人の賑ニあらず、誰を頼ミ誰

を榮めんと、誰より恵を得んと、誰の説教を聞んと思ふて行くや。キリストより、聖靈より也。此信仰なきものは神より恵を得ず。今晚聖靈の御聲を聞せ給エ、キリストの御恵を受けしめ給へ、神の榮光を顯したまへ、アーメン。神の御能を顯したまえ、「夫れ吾は世の末まで常ニ爾曹と偕に在るなり」と馬太廿八の二十、「爾曹の父の靈その衷ニ在りて言ふなり」馬太十の二十、「彼等ハみな聖靈に滿され其聖靈の言はしむるに隨ひて異なる諸國の方言を言はじめたり」使傳二の四、「われれ此事を語るに人の知慧の教ゆる所の言を用ゐず聖靈の教ゆる所の言を用ゐる也」哥林多前二の十三、「キリスト我ニ在りて生ける也」加拉太二の二十、「且つわが口を啓るとき言を賜はり侃々して福音の奧義を示し」以弗所六の十九、故ニ説教せんとするとき、吾何を言はん思煩ひ、己の智、考、學問、辨を頼んで説作らんとする勿く、只祈禱して神ニ頼り、神より受け、神の御恵其集りニ降る事を切ニ祈り、只之ヲ重々得ち望む可し。決して吾力を望む可らず。故ニ言フ可き言は人より受けず、己の考より受けず、本より受けず、人の説教より受けず、祈禱して聖靈より受く可し。又之を言フニも只聖靈の言はしめ給ふニ任せ、侃々として己を忘れ、信仰ニよりて言ふ可し。人々は聖靈之聲を聞き、聖靈ニ更生せられ聖靈ニ育られ守られざる一人も、眞理を

悟り、心潔り、光を保ち得るものなし。此福音は人智の及ぶ處ニあらず。人力の支配する處ニあらず。故ニ人を造りしは神なり。人の靈を救ふ者は基督なり。人を教へ人を變へ給ふものは聖靈なり。吾らは神の僕也。神の使者也。神の用る給ふ道具也。集りニ神來り給はず、只人間の智と辨のみあらば、其集りハ何も益とならず、一點も一分も救の爲とならず。故ニ是死神。恵たまはざれば、集りを止む方然る可し。ヨ一神よ、來りたまへ、恵みたまへ、聖靈は大學者よりも智きなり。聖靈之教より善き教を教ゆるものなし。

○(生命之價) 馬太十六の 久居、説教

日本ノ人ハ學者或ハ士族或ハ正キ士ハ宗教ヲ賤しむる風あるは何ぞや。是れ他なし。今迄日本ニある宗教ハ偶像教、人作教、偽りの宗教なりし故也。吾も然り。小兒の時ハ宗教心ありしも、已ニ學問を初め、究理學、とふを研究するニ至りテハ、大ニ宗教の愚なる事を知り、之を捨て、無宗旨トなれり。之ニ反宗旨トハ何く信じて疑はざる也。如何となれば、眞理と合ふ乎。其説明が故なり。其結果も亦實ニ反對する也。其理を説(萬町ニ於く可し。

開會) ○是より生命の事ニ付て説ん。此生命ハ永遠の靈

の生命也。此生命の價は世界中よりも貴しとあ

(1) り。併し此中ニ生命は此世限りと思ふ人ありや。

○併し造ニ 何故然考へらるゝや。道理ニ合ハザルヤ。然し(2)

そふ思ふも 今存在スル者が消滅スルトハ却テ道理ト合はず。

の少し。 其理、(3)然らば死んで復た甦るハ道理ニ合はざる

其理。 や。併し種子の理を考へ視よ。又カイコのカヤル

ノ理を視よ。又肉體の復ビ他の物トナルヲ視よ。

是れ造物主の能ナリ。又眠る理を視よ。又生れる事を思へ。又

初めてアダムイブノ造られしを思へ。吾が靈の與ヘラレシヲ思

へ。然らば其神ハ甦し得るハ信じ易き事ならずや。(4)然らば今

迄甦ヘリし者なき、信じがたしと思ふや。然し甦りし人あり。

アクノ、エリヤ、モーゼトアリヤのイエスト共ニ山上ニ顯はれ

し事、ラザロ其他。

又尤も甦の證ハキリストノ甦りし事也。キリストハ神の御子ニ

して神なり。彼ハ神の御約束ニ従ひ、救主となりて世ニ降り、

萬民の罪を贖はん爲十字架ニ掛りて死に、三日目ニ甦り、四十

日間弟子に顯はれ、弟子の見るが中ニ靈ニ乗りて天ニ登れり。

昔より之を撃んと試みしも、決して得ず。却て證據を得て信者

となりしもの多し。汝らもし之の眞偽を研究せんと聖書を調べ

なば、必ず信するに至らん。或ハ撃てキリストハ死なりと

云々。其答、弟子偽リヲ言フト。其答……。

或ハ弟子神經病ニ掛りしならんと。其答……。然らば信ナリ。

又其後聖靈の證あり。今世界萬國の人ハ其證を爲すもの也。然

ればキリスト天ニあり。又人ハ甦る事を造ニ聖者ニ證しせば、

必ず甦る可し。然れば實ニ此生命は價ものニあらずや。此世の

生命と永遠の生命トノ比較、然らば何ぞ此生命を救はるゝ事ニ

力を盡さざるや。此世の生命さへも重し、もし之を失はんばや

いニは、全心全力を盡すニあらずや。難船せし時の譬。然らば

何ぞ永遠の生命の救を求めざるや。前二述べし死て甦り今天ニ

あり此處ニある救主イエスキリストヲ信せば、罪を赦され、聖

靈を受けて心潔まり、今夜より救はるゝ事を得也。

六月十三日

本問氏ト津ニ行き、辻本金之介及母ニ面會。種々信仰(上ノ

事)語合ひ、かつ聖書を讀ミ讚美、祈禱し、次ニ山中町次郎氏

其父母ニ妻ニ面會。種々咄し讀書、讚美、祈禱して、共ニ久居

ニ歸へれり。

人ノ信ズル事、善を爲ス力、道之傳わる事、世ニ勝つ事ハ、全

く御聖靈之御働ナリ。常ニ之を信じて働く可し。もし其信を失

はゞ、直ニ能を失ひ、世ニ負けるもの也。

六月十四日(安息日)

朝九時より聖書研究。後勸め「凡ての事考へて善きもの守る」午後如之集り○澤山牧師より書狀到來。大ニ慰を受く○當地之信者愛深く、小子を厚くせられ或ハ御馳走を送らるゝあり、或ハ風呂をわかし、或ハ招かれ、キリストの十字架を思へば身ニ餘る待遇と思ひ、恐縮感謝之至リナリ。

○人々は基督教を如何ニ思フヤ、吾は老人なれば吾子ニは之を信ぜしめんと。○或ハ曰ク、吾ハ吾國過半信ぜば信ぜんと。或ハ一家揃ふてならば信ぜんと。○或ハ吾子吾妻ハ信ぜしめん、されど吾ハ信するニ及ばずと。○或ハ國の爲めに益ありと。或ハ一家を修むるニ益ありと。即ち宗教を道具ニ用みんと欲するものあり。○外交ノ爲めニ信ぜざる可らずと。○或ハ曰く、吾は耶蘇仲間ニ入らば親切なる故之ニ入らんと。○或ハ之ニ反して、耶蘇教を信ぜぬ理ハ、人ニ笑ハルトカ、或又金ヲ損ヌハ日曜日を守らぬばならぬとが、或ハ商法の爲如ルト利スル何とか、或ハ酒、煙草を止めねばならぬとか、或トカ醫者ハハ一家が修らぬとか。「凡て如是心を持つ者之ヲ守ルガハ、未だ此教の靈なる事を知らず、肉の事を思ひ善トカ學校肉の事を思ふもの也。是れキリスト教の主意ニあ教師は之ニらず。キリストの教ハ靈ノ事ナリ。靈魂ノ救ノ事從ふ可きとニして、罪の赦サルゝ事、心潔まる事、安を得る

か然ざると事、永生を受くる事なり。世の事ハ更ニ關係無きか是れ皆なり。世の事ハ只神の御旨を行ひ、神の誠を守世の事なり、惡魔と戦ふなり。即ち此世は旅路ニして只旅是れ凡て行の道筋而已なれば、如何なる生涯を終るも只神世ノ考ニシの旨ニ適ひなば之にて足る事にて、只吾らの望之て世の益を得んとして働くは永生なり。

得んと考 ○又耶蘇信者ニはか様な學者が居るとか、如何ナリ。肉慾 朋友があるとか思ふて教會ニ入るを望むもの、或ナリ靈の慾 ハ耶蘇教の教會ハ貧乏人や賤者が多き故、入會するを好まずとか、是れも神を識らず肉の事を思ふ又肉の樂がの人なり。ないとか

○不信者ハ神を潰シイエスを賤む。吾ら信者ハ之を讚美し、祈禱し、信仰し、信仰し、崇め、神を尊ぶ可し。是れ一の證ナリ。又神ハ必ず榮を顯さん。又不信の心ニ厭せられず、聖靈ニ由て惡魔に勝つ可し。神は必らず、不信者の中ニ於てもかならず存在したまひ、恵ミたまひ、能を與へたまへば、更ニ憶する事なく信者而已の集△

(ハリ紙)
○疑問 (一)孔子男女交際ニ付宜たる處、同處ニあるや。
○感事 (二)ソクラテスノ事ニ付

○聖靈ニ感じタル人々の説教とまた他之書をも引用す可し。
(以上四行)

△と等しく、信仰ト喜ト讚美とある可し。吾ら、不信者の中キリストニ敵する中ニ於て、神を榮む可し。

○基督を信ずる緣由

世人ハ多く基督を信ずる緣由を知らず。種々の説を稱ふる者あり。其由ヲ辨論す可し。

○説教するニ、人ニ吾言葉ニ注意するを思はず、神の前ニ己を省る様スベシ。即ち吾ハ神ノ前ニ如何なるもの乎ト考ヘシムベシ。故ニ吾も己の力や智を振ふ可らず。また餘り道理ニ心を導く可らず。神の前ニ導く可し。信者ハ常ニ神と偕ニ在り、神の前ニ己の心を調べ、神の聖旨を爲ス事を務む可し。

(Fenney) ○“How did you become a christian? just made up my mind to serve The Lord”

○本町ニ於て説教す。大抵六十名位の聞人ありて謹聽せり。神ニ各々祈禱し其御答ありて、聖靈の御助を蒙りたり、「神ニ祈禱スル内ニ人々入り來レリ。」

六月十五日

○聖書もあり、又吾らも常ニ口ニて兄弟よ、姉妹よ、或ハ父よ母よ、と曰フ。然れば眞實ニそふ思ひかつ行て、即ち吾一家と

云ふ事を忘るゝ勿れ。

○喜ある時ハ感謝し、憂、或ハ思煩ある時一々神ニ祈り告げよ。

○己を思ひ、己の力を以て何かせんとする時は直ニ失望し、氣力を失ふ也。然れども常ニ神ニ頼りて萬事を爲さば、失望する事なし。如何トナレバ、神ハ全能ニして能はざる處なく、何時も變りたまはず、遠久ニ續いて可敬言事を爲したまへば也。

○吾ら傳道するニ、只感じたる而已ニて足らず。人々眞ニ悔改め、靈更生し、惡魔の手より出され生命ニ移るまでは、全心全力を盡して働く可き也。其迄は満足す可らず。是れ其人の更るまで熱心ニ祈禱する事也。只人の心之更る事、また門開け多人ニ道傳わるハ只神の恵ニよる事なれば、信じて祈る可し。

○信者ニ不信者ニ關らず、人が吾働ニ付て何を思ふかニ注意ス可らず。是れ肉也。只神の前ニ全くならん事を考、又只人の救を眞ニ受る事而已を思ふ可し、只人の靈魂上の救ニのみ心を保つ可し、説教せし後も之を聞きし人の靈ハ如何ニなりしか、其種子ハ如何ニなりしか、己ニ鳥ハ啄ミ盡したるか、或ハ其人ハ救われしか、また如何なる試あるかと、他の事を思はず只聞きし靈の事を思ふ可し。吾説教の善惡や凡て己の關する事を思はず、人靈の救ハルゝ事を思ひ祈る可し。吾れ能く説教せしを悦

ぶ勿れ。其人の益トなりしを悦ぶ可し。又人々が吾ニ付て如何ニ思フか更ニ意トせず、キリストニ付て如何ニ思ふや、神の前て己の靈ニ付て如何ニ思ふや、己の罪ニ付て己の行ニ付て如何ニ思ふや、惡魔ニ付て如何ニ思ふや、其人の聖ハ何乎、喜ハ何乎、と其人の靈を考フ可し。吾事は直ニ忘るゝのみならず其時モ吾ニ付て思はず、只彼己の靈ト神を覺ゆる様爲す可し。人々ハ人の説教の善惡を思ふ可らず。即ち人々ハ人の行を感心スル事ヤ、或ハ人の品行を評スル事ハ必要ニあらず。自ら之を行ふハ大切ナリ。如是實ニ人の益を計らん爲に働かば倦む事なく、また力を落す事無らん。即ち人々は何を爲し居るや、何を思ひ居るやよく知るべし。

如是精神を持つ時ハ、己れ喜を得るも、安を得るも、榮を得るも、譽あるも、樂を得るも満足する能はず。凡ての人々、共ニ其恵ト安ト幸ニ預からざれば眞ニ悦ばざるべし、然れば共ニ喜び共ニ憂る事を得べし。即ち己の如く隣を愛する事也。然れば宗派等の區別を思ふ事無る可し。

○安息日論ニ付キ問答す。

記
六月十六日

日 ○過日來說教を聞きし人及び各カ人ニ語りし人、其の爲めニ祈りし人、未だ一人も悔改め全く更生せしを聞かず。(併し聖書

を研究し或ハ集りニ來りし人(素より來る者)あり然れども神ニ信じて其人の救わるゝ迄祈る可し。素より人の力ニては心變る能はされども、聖靈之御惠降らば其人更生する事あらん。故ニ信仰を落さず、愛を以て祈禱を怠る可らず、如何ニして神ハ人心を更へ給ふかは知らざれども、聖書と神の御約束あれば之を信じて祈る可し。人は信仰ニ由て救はる可し。

○イエス曰く。行きて萬民ニ福音を傳へよと。故に此傳道の業ハ、教育とか政事とか演説とかの如き比ニあらず、全く神の救ニしてノア大洪水の爲めに舟を造るが如く、ソドムゴモラの燒かるゝ時ロトと妻其他子供らを導き出すが如き事ニして、人の生命を救ふの業也。故ニ世ノ事と同一ニ爲す可らず。而して是れ全く神之御惠なれば、人間の企や力ニて爲す可らず。只祈りて神ニ頼て働く可し。而して今世ニ在る間ハ毎日信者を守ると、未だ福音を聞かざる人ニ眞の福音を傳ふる事、信者の職分也。人ニ福音を傳ふる二人の永生を思ふて傳ふ可し。

○今日は伊藤氏宅ニ於て默示錄研究し且つ伊藤氏老人と聖書之教ニ付談す。又今夕中島氏なる人來り共ニ道を語れり。

郡山教會 土肥一家 神澤 中江

松田一家 澤山保羅 平尾 西川

中川竹松 海老名氏 玉田 中川

加藤一家 (荒蒔村) 田中 其他

橋本一家 岡野 福井 伊勢時雄

藤本 松 吉川 (大阪) 奥野

同 妻 西本 福嶋 上代

上田芳江 益海 前神 綱崑

山田一家 佐治 ○浪花教 宮川

鈴木一家 (奈良) 會女學校 古木

森村一家 井上 林 河本

青木 原 河村 長田時行

久居 未信者 鈴木久 業新次郎

齊藤 川村老人 鈴木芳輔 阿村紀次

五味 鈴木芳雄 同一家

伊藤 伊藤老人 前原騰馬 佐畑虎熊

本間 谷田母 同叔母 佐畑信之

(津) 小川 同八三

中山 同元次郎

辻本 同道次郎

金之介 葵周介

同祖母

同叔母

同叔父

安息日ニ物ヲ買ふ事○物を見ニ行く事○世の事ヲ考ヘル事○物
を(二字不明)り分り或ハ借り返し之事○勘定の事○人を雇ふ
事○世人と相談する事○役處ニ出ずる事(以上三ニ行棒線ニテ消
ス)

○安息日ニは靈之宴を設け、如何ニして人ニ福音を傳へんと、
主ニ如何して事へんと思ひ計る可し。

○安息日は損徳の爲めに破る可らず。

○安息日を守るニ付迫害ト(二字不明)ト生命を失フトモ、守
る可き價あり。如何となれば神の法律なれば也。

○是れ神の法律なれば、善く考へて神の悦びたまふよふ守る可
きなり。

郡山教會御中

澤山保羅様、古木寅三郎

久居信者御中、成瀬仁藏(以上三行マ、)

(以上三頁ヨリ書き始ム)

六月十七日

○水曜日ニ付祈禱會、凡ての兄弟姉妹の熱心なる祈禱ありし、
勸「人の子は亡びたる者を救はん爲めに世ニ來れり」馬太十八

の十一。

六月十八日

○當地之信者ハ愛深きの集リト聖書研究を愛し、互ニ先を争ひ集ニ行く風也。また朱ト筆を携へ聞きし事を書記し、また吾れ信者之内へ行けば、種々の問を爲して、己の益を得んとする風なり。

○偶像教ト基督教ノ區別

(一)人々此キリスト教も他の偶像家の如く己の利を得んと欲し、或ハ商買なれば得意、先生なれば生徒を得んが爲種々の力を盡すものとし、故ニ曰く、此宗教を信ずれば金を呉れると

又西洋人

か、或ハ貧乏人は助けて呉れるとか、未だ曰ふもの思ふものあるは何也、○其答を辨論す可し。

が國を取らん策を

(二)キリスト教の奇跡を矢張偶像教の法便なりとするもののあるや。

思ふもの

○其答

ある也。

偶像教の奇跡ハ(一)神經病即ち其信ズル者の誤(二)偽

造証據不十分(三)道理ニ暗キヨリ起ル誤リ(四)其教ト結果ノ(二

字不明)

日記

眞神ノ奇跡の(一)神經病ニあらざる證(二)偽作ニあらず、上帝の能なる十分な證(三)道理ニ合ふ(四)其教ト結果ノ全良ナル事

(三)人の言葉と神の言葉の證

眞の宗教ハ宇宙ニ一ならざる論

天主教トクリキ教の聖書を用ひざるを言ふ可きや如何。

○本町四丁目ニ於て説教(聽聞人三四十名)

(一)マホメット教ハ宗教ヲ方便トシテ國ヲ得ンガ爲に戰爭ヲ以テ此宗教ヲ廣メ、自ら王トナリタリ。佛教ハ人ノ氣ニ合フヨウニシテ、即ち人の情慾ヲ以テ道を廣メタリ。其目的ハ己の利を得んが爲也。故ニ佛教ハ國々代々ニ由テ異ナルナリ。其他の偶像教も其目的ハ己の利を得んが爲めに於て、人の情慾を以て宗教を廣メタリ。

故ニ世人ハ物ノ眞偽を辨せず、基督教も同じク其目的ハ何乎、

己の利の爲にして、人を方法弄或ハ情慾を以て導くものなりと思ふもの此町ニありと聞く。故ニ或ハ曰ク、耶穌を信ずると金を呉れるそふじやとか、或ハかく外人が是宗旨を廣めるは吾國を奪わんとする故とか。併し人々此教ト其結果を見れば、直ニ其異なる處を悟る可し。(一)「窄き門ヨリ入れよ」馬太七の十三。

(二)金ヲ與ヘン故此宗旨ニ來れと云フヤ。「富める者の神の國ニ入るハ難い哉」(馬太十九の23)又(路加十四の二十五)

(三)佛教の如く惡を爲しても南無陀佛と稱へば救はるゝとある

や。否。(馬太七の二十一)

四刃ヲ取り之ヲ廣メ、或ハ國ヲ取ルモノ乎。答 馬太廿六の五
二〇使傳一の六。

(終)此教の廣まる理。

(一)目的 (二)聖靈之感化力

(2)偶像教の奇跡ハ

(一)神經病ニして已より起るもの也。信仰ニよりて病の愈エル理。

幽靈の事。

(二)偽作即詐偽 (1)吾國ニ或神ニ由テ跛の愈エシ咄し (2)レンゲ
をぜふ其他グリーキの偶像其他例多し。また方使多し。併し
偽作故 證據なし。

(三)道理ニ暗キ故誤る。(一)水ニツケテ字顯ハル。(二)ボスポルノ事。

(四)山神ニ行遇フコト。鳥地獄といふ。

(四)其主意の悪キハ結果の悪しき事

基督教の奇跡

(一)神經病ニあらざる事

(初)キリスト

(一)ノアノ大洪水

教ニ奇跡ア

(二)四十年の跛者、三十八の病一時ニ

ルハ道理に

愈エシ事アリ。生來の醫の目開く。

合フ。

(二)キリストの甦の事。

「ノア、モ

ノゼ、イエ

スノトキ」

「病人ノ愈

エン事」

「水上ヲ歩

シン事」

「物ヲ造リ

シ事」

「天地ヲ支

配セシ事」

「甦年セシ

事」

(二)偽造ニあらす。

(一)四十年跛者のまねでけるや。

又生來四十年醫のまねでけるや。

(二)數千人の中、又敵の中にてキリス

ト此奇跡を行へり。

(三)數萬人を三年中ニ愈せり。

(四)キリストの復生

(五)聖靈之證(心の經驗)

(3)人間の言葉と神の言葉の區別

(一)人間の言葉ハ救の益ニ立たざる事

(二)偶像教ハ想像より起りし事

(三)キリスト教の神の默示なる事

(四)道理ニ合ふ事 (五)歴史ハ預言と合

フ事 (六)著者ノ品格ト神ノ證 (七)實

際神の能の保獲ト其約束の經驗ニよ

る事

六月十九日

己ノ快樂、己ノ益、己ノ榮譽等ハ全ク捨テ、榮ヲ神ニ歸す可

し。人を己ニ導かず、己を顯はさず、キリストを顯はし、人々

をキリストニ導く可し。

(一)實ニ吾は弱くして、キリストニ頼る信去らば直ニ躓き弱る可し。又御聖靈之御恵あらざれば吾ら能去るを覺ゆ。然れば常ニ主と偕ニ在りて活る事働く事を得れ。全く神の恵なれば常ニ榮を神ニ歸へし、己を謙る可し。

(二)人の悔改ムル事、救ワルゝ事、潔まる事、育つ事、立つ事、悉く主ニ頼るものなれば、道の傳り人の救はるゝ事、榮を主ニ歸し、常ニ讚美す可し。常ニ己の弱きを忘る可らず「我に言給ひけるハ我が恩汝ニ足り蓋わが能は弱ニ於て全くなれば也この故ニ寧ろ欣びて自己の弱に誇らん是れキリストの能われに寓らん爲なり」哥林多後十二章九節

「自己の弱に誇らん」哥林後十二の九

「もし我必らず誇る可くは我が弱ことに誇る可し」同十一の三十

「誇る者ハ主ニ因て誇る可し」哥林多前一の三十一

「爾曹宜縁其聖名而榮々、凡求耶華和者ハ心宜喜樂。」

歴代上の十六の十又三十五節ヲ視よ。以賽亞四十一の十六、

「誇る者ハ主を誇る可し蓋自ら譽るに非らずして主の譽るものと爲るれば也」哥林多後十の十七。

「主キリストの十字架の外ニ誇る所なからん事を願ふ」加拉六

の十四、「キリストとイエスニ由て誇り肉體に恃ざる我儕は眞の

割禮を受たる者なれば也」腓立比三の三。

故ニ吾らは只主之御恵顯、御榮光輝き、多くの人々救はるゝを喜となす可し。而して神は人の行や價ニ由て恵を賜ふものニあらざれば、誰ニても主を信する者ハ救はれ恵を受けるを信じて常ニ働く可し。又主之御恵あらば、如何なるものも主之御用ニ立つ事を得るをも信ず可し。吾無き事、吾無能なるを知るも、全能の主あるを確く心ニ誇り、吾ニ主の恵あるを確く信す可し。

○本間氏之内にて默示祿研究。後十三人の熱心祈禱ありし。

六月二十日（土曜日）

辻本及中山氏へ行、聖書研究、祈禱して歸れり。又櫻井氏ニ

行、借宅ニ付相談し決定せり。

六月二十一日 久居

大ニ聖靈御 朝 聖書研究 甚く罪を悔改めし者あり。午後二

恩化あり 時よりの集。

○（説教）救の道（羅馬の十の九）

今ヨリ五千三百年以前ニノアト云フ人あり。此人ハ義人ニテ神ヲ敬ひ、善を愛し、世の罪を嫌ひ、人々の惡を憂ひし人なるが、此時代ニハ己ニ人類多く繁蔓セシガ、悉ク神ニ背キ、己の我儘ニ世ヲ送り、心を穢シ、只食飲之樂ミ或ハ娶り嫁ギ商賈耕シ杯、此世ノ事肉體ノ事ノミニ心を用み、更ニ神ノ情ヲ思ハ

ズ。神ノ法律を破り、神ノ罰アルヲ恐レズ。却テ神ノ事ヲ賤メ、己ノ力や偉大ナル事ヤ、英雄(豪傑)ナドニ慢リ、世ノ名譽ヲ求メタリ。ノアハ義人ニシテ人々ノ如是罪惡ニ陥リタルヲ見テ、之ヲ憂ヘ悲ミ、神ニ祈リ聖靈ヲ受ケテ彼らの罪ヲ責メ、悔改メテ神ニ安する事を熱心ニ勸メタリ。然レドモ人々ハ更ニノアノ言ニ心ヲ用ゐず、之を聞くを好まず、却テ之ヲ賤メ遠ク、只世ノ樂ト利欲ト名譽杯を樂ミ、罪を悔改ムル色ナク増々惡ヲ貫けり。「耶和華見^レ世人之惡貫盈凡其心念之所圖維^レ者、恒ニ惟作^レ匿^レ。」創世六ノ五。

故ニ神ハ此民ヲ大洪水ヲ以テ悉ク滅シ盡スコトヲ定メ玉へり。

「耶和華曰、我靈必不^レ因^レ人有^レ過恒與^レ之爭。蓋爲^レニ肉體^レ姑弛^レコト期^レ一百二十年。」創世記六ノ二。

「一人ノ亡ぶるを欲ミ給はず衆人の悔改ニ至らんことを欲ミテ我儕を永く忍び給ふなり」彼得後三の九、此節ニ由テ見れば神ハ人を滅し給ふを好ミたまわず。然れども、如何ニ人ノ良心ニ聖靈働きたまひ争ひたもふも、罪を悔改めざるニよる。

而して義人ノアニ、方舟ヲ造リノア其外信じ従ふ者を救ふべきを命じたまへり。又神ハ必ズ大洪水ヲ以テ凡テノ惡人ヲ滅シ、罪ヲ悔改メテ此方舟ニ入ル者ハ救ハル、事ヲ命じたまひしならん。ノアハ百二十年の間義道を述べ罪ヲ悔改メ、救ノ舟ニ入ル

ヲすゝめしならん(尤モ憐ノ心ヲ以テ)。併し或ハ此情天白日ニ何ぞ如是事あらんと神ノ言を信ぜず、或ハノアが此世ノ樂を爲さず、己の財をも費して舟を造るを賤め笑しものもあらん。

或ハ吾ハ此迄で金儲する方樂シ故、方舟の如き究屈ナ所へ入ルヲ好まずと。或ハ余は此世の家名譽を捨て行くを欲せずと。或ハ余ハ一家族擧テ行けばよいけれども、余一人吾家を去ルヲ好まずと。或ハ吾ハ汝ノ言ニ従ひ度も、人が笑フ故、或ハ親が承諾せぬ故と、各々種々の言わけを作り世の肉欲ニ溺れ、更ニ救の事を顧る者無かりしが、終ニ百二十年を歴、ノアト一家八人又凡ての蓄類方舟ニ入り戸を閉ぢしが、果して七日目より大雨降り四十日晝夜降り續け、凡ての高山ヲ没し諸高山より高き事一丈五尺ニ及べり。故ニ凡ての家畜も金銀衣服も諸共ニ没れ、萬民悉く死せり。而して水の引くるハ一年間掛れり。

只今ノ世もノアノ時代と同様にて、凡ての人々ハ罪を犯し神ニ背き、己の慾を放ニして、神ハ凡ての人を無限滅すことニ定め給へり。然れども今暫く忍び給ふ也。今日の方舟ハイエスキリストニして、己ニ其舟ハ備り、凡て之を信する者ハ救はるゝ事を得る也。今日ハ世界萬國ニ其福音ハ傳はれり。併し昔の如く或ハ傍り、或ハ賤め、或ハ種々の斷りを述べ此救の舟ニ入るを好まず。多くは自ら無限刑罰ニ入らんとする也。

(終)

(一)汝らハ暫ク世の樂を爲し、無限刑罰を受ける積りなるや。或ハ救を求むるや。余此處ニある諸愛兒姉ハ之を望むものと察する也。

(二)然らば已ニ其救の舟ニ入りしや。或ハ末だ此世ニありて、其救舟の外ニあるもの乎。

悔改
梅改
ず。即ち暗ヨリ肉欲ヨリ人情ヨリ其他凡て此世の物を
むる事
捨てざる可らず。

四救舟ニ入らざる可らず。是れ生けるイエスナリ。イエスハ十字架ニ掛り、死より甦り、今神の右ニありたまふ也。此イエスの名を呼求めなば救はるゝ也。而せば必ず聖靈ニよりにて心潔り、暗ヨリ出で天國ニ入り、萬事神の旨を守り、凡ての事信者と交り、世を離れなば救はる可し。

六月二十二日

記
雅各二の二十六

H
「吾ら只眞理を辨へ、又一時決心するも其て足らず。常ニ續けて行はざれば其信仰ハ死る也。神を愛する事も人を愛する事も道

を宣傳ふる事も信仰も戦も潔キ事も祈も聖靈御恩化も活き續く事にて、一時の事ニあらず。また前ニ取越し置かるゝ事ニもあらず。用意し置く可き事ニもあらず。前ニ光を受けをき、考へ置くも、其時ハ其時の行ある也。故ニ誘も惡魔の働も常にあれば常ニ戦ふ能あらざる可らず。是れ只聖靈御能ニよる也。故ニ説教も、活きたる説教ハ其人ニ今働くものを爲し、活けるものを云ふ可し。同じ説教も又其人の有様ニよれば、必要なるもの也。改ニ常ニ説教、祈禱、戦を要する也。昔イスラヘル戦を爲せしニ神の能ニ由テ勝てり。今日も如是毎日戦あれば、實地此戦争を爲ざる可らず。此戦争ハ前ニ策略を考へをき、或ハ方法を備て置くも、器械を備へをくも、實地戰場ニテよく戦はざれば負けるが如し。其時ニ其時の戦なれば常ニ其用意ある可し。曲斷大敵と云ふ諺ある如く、常ニ神の武器を取り戦ひ居らざれば、襲れて敗北す可し。而して吾ら種々書物を讀むハ、恰も戦方を學ぶが如し。然れども實地其場ニ望まば、其戦方の如き戦起るものニあらず。必ず其時其方を用ふる可らず。

○この町ニ於て路傍説教ス。已ニ警察へも其義届置きしが、夏の事故外は大ニ涼しく、且つ明月雲ニ輝リ夜静なれば、實ニ説教するニ都合よく、神の御恵ニより福音を十分ニキリストノ宣ふる事を得たり。耶蘇教説教と書たる燈灯をノ

福音ハ片隅　キニ掛け、讚美歌を歌ひ人を集め其より説教を初
ニ行ハル、めたり。

モノニアラ　○「われ幽暗ニ於て爾曹ニ告げしことを光明ニ述
ズ。凡ての　べよ耳をつけて聴きしことを屋上に宣播めよ」馬
耳ニ入る可　太十の二十七。

キモノナリ。　太陽は世界萬國萬民ニ輝らざる處なきが如く、キ
リストの義の太陽を萬民の心ニ輝す可し

明治十八年六月二十四日より

七月二十三日まで

(表紙缺)



(前缺)

答ふ可きや。

記 黙して何を言ふ可らず。主イエスキリストの手本ニ倣ふ可し。

日 又擾亂となり口々ニ喧くなる時ハ黙して神ニ任ス可し。

「然るにユダヤ人ハ之に敵ひ且つ誹りしニ因パウロ衣を拂て彼

らニ曰けるは爾らの血は爾らの首ニ歸す可し我は咎なし今より異邦人ニ適ん」使徒十八の六。

○若し識らざる事を尋ねられし時は如何ニせんや。

吾之を識らず。識りし學者ニ問ふ可しと答ふ可し。然るに汝識らずして信ずるは忘信也と云ハ、吾ナ吾信ずる處の眞理と証ハ知る也。故ニ之を信ず。併し吾は神ニあらざれば、識らざる處なしと云ふ事能はずと答ふ可し。

「かれ答けるは罪人なるや否われ之を知らず我ハ瞽者也しが今目明ニなれる此一事を知る」約九の25

又哲學杯或ハ虚き辯論するものある時ハ、吾れ如是空き無益の辯論、想像論を好まずとて之を避く可し。

「妄なる益なき談および知識と偽り稱る辯論を避く可し」提摩太前六の二十。

○併し自ら過をなして責められ、謗られ、打れ、棄られなば禍也、「爾らもし過を爲し撻られて之を忍ぶとも何の嘉べき事ならんやされど善を爲して苦められ此を忍ば、神ニ嘉稱を得べし」彼前二ノ20。

○何故二人々ハ吾儕を嫌ふや。

(一)肉ト靈ト互ニ相敵る故 (二)高慢ニ由テ世人ハ己ノ説ヲ以テ議

論ニ勝んとする故也。如是人ハ眞理を悟り難し。吾ら品行を直す時惡む心、穴を云フ心、非難する人と思フ事、何吾儕道を傳ふるハ何乎。私ノ事あり、或ハ己の爲めにする者と誤認する事、

故ニ眞の柔和、忍耐、慈悲、仁愛、正直の熱心より道を語る可し。之ニ謙遜を加ふべし。

○〔説教題〕○神ハ人間ヲ如何ニ造り給ひしや

本町の北方の路傍ニ於て説教ス。外ニ於て大聲ニて宣言する故、其近邊之家々の人ハ家の内より聞く者も多くあれば、集まる者と共二百名位之聴衆ありしならん。至極謹聴せり。

○又水曜日ニ付、祈禱を濟し路傍説教ニ出掛けたり。

六月二十五日

○福音を傳ふる事

「イエス彼等ニ曰けるは偏く世界を廻りて凡ての人ニ福音を宣傳へよ信じてバプテスマを受ける者は救はれ信ぜざる者は罪ニ定められる也」馬可十六の十五・十六

「種まく者播ニ出しが播けるととき路の旁ニ遺し種あり空中の鳥來りて啄み盡せり又上うすき礫地に遺ちし種あり直ニ萌出たれど日の出しとき灼れしかば根なきが故ニ稿れたりまた棘の中ニ遺し種あり棘をだちて之を蔽げりまた沃壤ニ遺し種あり實を結

べること或ハ百倍或ハ六十倍或ハ三十倍せり」馬太十三の三一

八 「彼ハ播き之ハ穫と云るは之ニ就て眞也」約四の三十七

「われら彼より恩恵と使徒の職を受これ其名の爲に萬國の人々をして信じ従ハせんと也」ローマーノ五

「我ハ凡ての人ニ負る所あり是故ニ我力を盡して福音を爾ら羅馬ニある人々ニも傳んことを願ふ」ローマーの15

「然れば信仰は聞よりいで聞處ハ神の道ニ由る也」ローマー十の

十七

「救はるゝ者ニ就ても沈淪者ニ就テモ我儕神の爲にはキリストの馨香なり」哥林後二の十五

「我この福音の爲に立られて宣傳する者となり使徒となり異邦人の師となれり」提摩太後一の十一

「彌道を宣傳ふべし時を得るも時を得ざるも勸みて之を務め云々」提摩太後四の二

「以テ涙而播者、將ニ以レ喜而獲」兮。彼出。則涕泗而出携ニ眞種」兮、來。乃欣喜而來、携ニ其禾束兮。詩百二十六ノ五、六

如是今吾も此ノ福音ノ奧義を宣傳ふる者となりたれば、救はるゝ者ニも沈淪者ニも今實ヲ得るも得ざるも、只全能全智ニして種を育て給ふ神ニ任せ、吾ハ萬民の耳ニ聞へる様偏く廻りて

順々ニ福音を宣言す可し。

○吾ら常ニ心ニ十分神より教を受け置き、時の需要ニ従ひ別ち與ふ可き者となる可し、

「イエス彼等に曰けるは然らば天國ニ付て教へられたる學者は新しき物と舊き物とを其庫より出す家の主の如し」馬太十三の五十二

「時ニ及て糧を彼等に豫へさする爲に主人がその僕等の上ニ立たる忠義にして智僕は誰なる乎」馬太傳廿四章の四十五

○人ハ自由を有する事を忘る可らず。故ニ人の自由の性を明ニ知り之を敬ひ、此性ニ從ふて人を勸む可し。

○説教題（眞正の幸福ト生命ハ如何ニシテ得可キヤ）
（一）凡テ人ハ幸福ト生命を求むるもの也。

本町堂丁目ニ於て路傍説教せり。聴衆六七十名

六月二十六日

○たとへ未信者ニ語るニも信者ニ語ると同様初めニ十分ニ祈禱し、謙遜柔和、己を忘れ信仰を保ち、聖靈ニ由り人ノ靈之無限亡びる事を思ひ、眞の憐を以て傳道す可し。傳道ハ此世ニ財を奮へる業にあらず。天國ニ財を集る業なれば、常ニ天の事を思ふて傳ふ可し。

○幼キ信者ノ爲の七則

（一）毎日密室の祈禱を怠る可らず。又祈る時ニ神其處ニ在して汝

の祈禱を聞きたまふ事を忘る可らず。

（二）毎日密室ニテ聖書を読むことを怠る可らず。又汝聖書を読むときハ神汝ニ話シたまふ事と凡て神の言ひたまひし事を信じて、行ふ事を忘る可らず。

（John）
（Jhon 6:39）
○余思フニ、凡テ蹟ク事ハ此ニ則テ意ルヨリ初まるモノト信ズル也。

（三）汝要せぬ事ハ決して神ニ求む可らず。又如何ニ己が惡しく見ゆる事ニても、汝自分の事ニ付き眞を神ニ語る可し。而して如何なる事汝ニあるも、キリストノ名ニ由テ赦サレ、汝の在る可キ有様とならしめたまはん事を求めよ。

「神は靈なれば拜する者もまた靈と眞をもて之を拜す可きなり」約四の二十四

（四）一日トいへども主イエスの爲めに何か爲す事を試みずして過す可らず。而して毎夜イエスは汝の爲めに何を爲したまひしかを思ひ出し、又汝はイエスの爲めに何を爲したる乎を自ら問ふ可し。

（馬太五の十三——十六）又馬太十の四十二

（五）汝或事を爲さんとして善なるか惡なるか疑ある時は密室に入り跪き神の恵を祈るべし。「爾曹の爲す所の諸事トク或ハ言ある

ひは行みな主イエスの名の爲めに之を爲し彼ニ由て父なる神

ニ感謝す可し」コロサイ三の十七。汝もし之を行ふ能はざれ

ば惡也。「疑ふ者もし食は、罪ニ定めらる是れ信仰ニ由て食

はざれば也すべて信仰ニ由てせざる者ハ罪也」ローマ十四の

二十三。

(四)汝の信仰或ハ行爲を他の信者ニ較ぶ可らず。多々の人々如是

行へば之を慥むべし。「自ら譽る者あり我儕敢へて之と匹之

と較ることをせず然れど彼らみづから互ニ度りみづから互ニ

較ぶれば智なきものなり」哥林後十の十二。只主キリスト汝

ニ何を爲スコトヲ欲したまふを尋ね、力を盡して彼ニ從ふべ

し。

「我羊は我聲を聞きわれは彼らを識りかれら我ニ從ふ」約十

の二十七。

(五)如何ニ汝感ズル事ニテモ、神の言葉ニ反對スル事ハ信ズ可ら

ず。汝自ら問ふべし。「神の言葉眞ならば吾感ぜし事ハ眞な

るを得るや」而してもし何れも眞なる能はざれば、神を信じ

自分の心を偽とすべし。「非らず凡ての人を偽とするも神を

眞とすべし爾の告る言は義とせられ爾が鞠るゝとき勝を得

ん」ローマ三ノ四「神の子を信する者ハ其衷ニ此證あり神を

信ぜざる者ハ神を詭者とす蓋神のその子の爲に証せる證を信

ぜざればなり」約翰第一書の五の十

○默示録研究、及音楽

六月二十七日

○克^キレ^レ己^ニ、棒^ツ己^ヲ、負^ツニ^キ十字架^コ之事^ノ (傳道ノ職)

(一)耶穌の爲ト福音の爲、即ち眞理の爲には如何なる慾ヤ樂を

も捨て之ニ克ち、如何なる嫌ひなる事をも之を爲して眞理

を守り、之が證人となる可し。

「我戦は空を撃が如きニあらず己の體を撃ちて之を服せし

む蓋はかの人を教へて自ら棄られんことを恐れれば也」哥林

前九の二十六、七、

「我儕を試探ニ遇せず惡より琢出し給へ」馬太六の13

「聖靈ニ由て身體の行爲を滅さば生く可し」ローマ八の十

三

「我キリストと偕ニ十字架ニ釘られたり」加拉太二ノ20

常ニ聖靈ニ滿されて熱心なる可し。

「我主イエスの名の爲には常に縛るゝ耳ならずエルサレム

に死るも亦甘ずる所也」使徒二十一の十三。

「哥林後六の一——十」世ノ物ニ心ヲ注ぐ勿れ。又如何ニ

人が笑フトモ少シモ惡を免ス勿レ。心ヲ免ス勿レ。常ニ嚴

格ニ守れ。

「窄き門より入れよ」馬太七の十三。

(二)「食物、衣服、家、金、杯ノ事ハ有ルモノヲ足れりとし、更ニ思煩フ勿れ、只神ニ任セ意トナス勿れ。」馬太六の三四ト三十三、又提摩太前六の六一——十、

(三)常ニ熱心ニ勉強スベシ。

「爾の行爲ト勞苦を知る云々」黙示二の二

「心を之ニ寄せて専ら之を務むべし爾自ら己を随むべし亦教ゆる事を慎むべし恆ニ此等の事を務めよ如此おこなふ時は己を救ひ亦爾に聴く者を救はん」提摩太前四の十五、六。

「なんぢ道を宣傳ふべし時を得るも時を得ざるも勸みて之を務め各様の忍耐と教誨を以て人を督し戒め勸む可し」提摩後四の二

「我三年の間夜も晝も斷ず涙を流して各人を勸しことを憶ふべし」使傳廿一の三十一、

「勤勞ニも睡らざるニも食はざるニも云々」哥林多後六の

五

「怠惰者ヨ、宜シク就レ蟻、觀ニ其所ニ作、致シ己爲レト智」。箴六の六。

四吾身體ハ神の器なれ。よく養生して健全を守る可し。

「爾の胃のため及び爾しばく疾ふニ因て恆ニ水を飲むこと勿れ少しく葡萄酒を用ふべし」提摩太前五の二十三、

(四)傳道之精神

「心ヲ盡し精神を盡し意を盡し主なる爾の神を愛す可し亦己の如く爾の隣を愛す可し」馬太二十二の三十七、八、の精神より起らざる可らず。

(1)異邦人の中ニ神の名を讚美する事なり。「此の如く人々の前ニ爾その光を耀かせ然れば人々爾らの善行を見て天ニ在す爾らの父を榮むべし」馬太傳五の十六。

「凡そ人の前ニ我を識ると言ん者を我も亦天に在す我父の前ニ之を識ると言はん」馬太傳十の三十二。

「爾ら身ニ於ても靈魂ニ於ても神の榮を顯はすべし」哥林多六の二十、又神の愛を顯はさん爲也。「われイエスキリストと彼の十字架ニ釘られし事の外ハ爾らの中ニて何をも知るまじと意を定めたる也」哥林多前二の二

又神ニ付きキリストニ付聖靈ニ付き証を爲す者也。即ち神の証人也。

又神の言葉を宣傳ふる者也。即ち神の御存在又御働ハ凡て宇宙ニある如く、其聲も宇宙ニ聞ゆる也。然れば吾ら聖書ニある深き神の奧義即ち神の聖旨を世界萬民不殘ヘ宣言す

可き也。

(2)人を眞ニ愛する熱心より起らざる可らず。

世界の凡てこの罪を惡ミ之と戦ひ之を驅除し、人の靈魂を眞ニ愛し之を救ふの精神にて傳道す可し。然れば人の罪のある處ト其大なる禍の在る所を親く知り、之を如何にして救ひ得る乎、如何なる幸を與ふる事を得る乎、其靈魂の價の幾何乎ある杯審ニ知り、力を盡して此福音を傳ふ可き也。又之を爲スニ必ず惡の靈と戦はざるを得ざるを覺ゆ可き也。此目的より他ニ出で、熱心なる可らず。

(3)決して名譽心ある可らず。只神ノ榮の顯はれし事と、己の如き人が救を得、光を得、益を得しと、己が神より命ぜられし職を思ニ由て盡せしを、喜とす可し。又之ニ反するを憂とす可し。故ニ福音の爲ニハ己れ誇られ、捨られ、惡まれ、遠けられ、或ハ殺さるゝも甘じて受く可し。

(4)何を宣ぶ可きや

「益ある事ハ残す所なく之を宣べ或ハ人々の前或ハ家々ニ於て宣べ」使徒二十の二十、

「我教る所は我教ニ非らず我を遣しゝ者の教也」約傳七の十六。

「地の極ニまで我證人と爲るべし」使傳一の八、

「聞くところは神の道に由る也」羅馬十の十七、

「誦讀と勸勉と教訓を勉め云々」提摩四の十三、

「異邦人の師となれり云々」提摩後一の十一

「眞道を正しく領ち教んことを務むべし」提摩後二の十五

「獲^レ智慧^ニ之人得^ル聰明^ニ之人福矣。蓋市^ニ智慧^ヲ善^ク於^テ市^ス」

銀^ノ 智慧^ノ之^レ利^ハ、善^ク於^テ精^金」箴言三の十三、十四

「然れど彼すなはち眞理の靈の來らんとし爾曹を導きて凡ての眞理を知らしむべし」約傳十六の十三。

「彼眞理の爲に證を作せり」約傳五の三三

「人もし我を遣せし者の旨に従はゞ此教の神より出ずるか

又己に由て言なるかを知るべし」約七の十七

「己れ爾曹ニ眞理を語るに何故われを信ぜざる乎神より出

し者ハ神の言を聽く爾らの聞かざるは神より出でざるニ由

て也」約傳八の四七

「イザヤ復いふ彼等目にて見心にて悟り改めて醫るゝこと

を得ざらんが爲に彼その目を瞽し其心を頑梗ニせりと此故

ニ彼ら信ずること能はず」約の十二の四十

「それ十字架の教ハ沈淪者ニは愚なるもの我儕救はるゝ者

ニは神の能たるなり」哥林前一の十八。

神は十分の眞理を以て福音を顯はしたまふ也。然れども世

人之を悟る能はざるは自ら心を暗するの罪ナリ。故ニ吾らは神の眞理を残す所なく世ニ揚言す可き也。宇宙は眞理ニて満つ。人もし心を誠ニして之を求めば眞理を悟る事を得可し。

常ニ眞理を以テ争ふべし。(創世記六の三)

(四)聴衆ニ向テ如何なる精神を有す可きや。

(一)耳を開き心を注ぎ、聴く人ニ向テハ謙遜、柔和、畏を以テ十分の愛心より熱心ニ証す可し。

(二)耳を閉ぢ心頑ニする人ニ向テハ忍耐と智識を以て心を開かしめん事を務むべし。十分の力を盡し、一言でも心ニ残さしめん事を務むべし。

(三)心を説教ニ留めず避け去らんとする人ハ力を盡して後、去る人ハ其儘ニし、心を動かさざるゝ勿れ。只聞く人ニ心を注ぎ語るべし。

(四)眠る人、餘處見する人、誇る人あらば、耳ある者ハ聞くべしとて其人ニ注意する勿れ。聞く人ニ云フべし。

(五)聞人一人あるも之ニ語るべし。一人も無きも力を盡すべし。

(六)聞人聞き居るや或ハ否ナ。餘り心煩せず己の職を盡すべし。

○今夜ハ黙示録研究

六月二十八日

朝 聖書研究

○聖靈ニ由テ重生する事

(一)人ハ水と聖靈ニ由テ生れざれば天國ニ入る事能はずと。故ニ如何程道を聞いても信者と交りても、或ハ洗禮を受け教會ニ入りても、もし聖靈ニ由テ生れざれば、天國ニ入る事能はざる也。或ハ未だ洗禮を受けずとも、今己ニ聖靈ニ由テ生れたりしモノハ救われたる者也。故ニ洗禮を受けて救わるゝ、ニあらず。救われし故洗禮を受ける也。今此處ニある兄弟姉妹ハ聖靈ニ由テ生れしや否や。余今次ニ重生するとは如何なる事乎、又如何ニして重生する者乎を述べれば、之ニ由て白らの心を照し見、己ニ生れしや否を知り、又未だ生れざる者あらば生代る道を求められん事を願フナリ。

(二)重生ニあらざる事

(1)説ト考の變るニもあらず。たとへば偶像教の無益なるを悟り、之を止め或ハ拾テ、眞神の教のよきを知り、此教でなけ(一字不明)ねばならぬと云ふ考ニあるも、未だ重生せしニあらず。

(2)又聖書を多く識りし事ニあらず。

ニコデモを視よ。

(3) 説教を感じ又聖書を感じ、或ハ涙を流し或ハ泣き呼ぶ事ニもあらず。

フエリクス王を視よ

(4) 善を慕ひ惡を惡むの情ニもあらず。

(5) 又善が勝ち惡がまけん事を望む心

(6) 又善を譽め惡を責める事同じ

(7) 天國を愛し地獄を惡む情同じ

(8) 洗禮を受け教會ニ入り凡ての儀式を守るも、生れ代りし証ニあらず。

ニあらず。

○シモンヲ視よ。○猶太を視よ。

(9) イエスニ祈り又イエスの爲に働くも、生れ代りし証ニあらず。

馬太七の二十一を視よ。

然らば身體か或ハ靈の組立か異りて來事乎。たとへば今迄覺の悪い人がよくなるとか或ハ身が振ふとか、或ハ酒すぎが酒嫌ニなるとか、煙草すぎがきらいニなるとか、ある情欲がなくなると乎、今迄知りし事ハ忘れてしまふとか、衣服や金がほしかつたのが少しもほしくなくなるとか、如是變りあるや。今迄奇麗なと思ひしものハ奇麗でないよふニなるとかあ

るや。否々決して然らず。

第三然らば何が代るの乎。眞の重生とは何乎。

(1) 心の變る事也。即ち心の選ぶ事が代る也。主の變る事也。

戰の變る事也。即ち今迄ハ肉欲を逐げん爲め眞理ニ背いて惡

を選びし也。然るニ今より之を悔改めて欲ニ戰ひ神ニ従ふ事

也。又己を捨て、神ニ従ふ事也。

(2) 肉欲ニ従ふ即ち己レは何乎。罪を知り欲ニ支配され善を知

りて従はざれば、即自由を得ぬ間ハ重生せし者ニあらざる

也。

(3) 愛とは何乎。

(4) 即ち重生せし者ハ罪ヲ犯さぬ者となりたる事也。

約書三の九と五の四

第四如何ニシテ生るゝ事ヲ得るや。

聖靈ニ由テ生ルゝナリ。

○神は愛ナリ。

「それ神はその生たまへる獨子を賜ふほどに世の人を愛し給

へり此は凡て彼を信する者に亡ること無しして永生を受しめん

が爲なり」約傳三の十六

(一) 神の愛ハ造り給ひし萬物ニ由テ知らるゝ也。(又其御支配ニ

由テ識らるゝ也)

(1) 萬物 (2) 人身 (3) 靈 創世記一章

(二) 然らば神ハ何故毒蛇を作りしや、惡しき獸を作りしや、暴風ありや、又病、苦、死アルヤ、と。

答 罪を犯してより也。罪を悔改めしめん爲也。聖書ニ愛する者を鞭つと。

(三) 然らば神ハ全能ならば、何故人を惡人ニ作り人を罪ニ陥れて苦むるや。是れ愛の道ニ合ふやと。

答 神ハ人を惡ニ造り給はず、自由なる道德の人を造れり。

即ち法律ヲ與へ、之ヲ選ブカ惡ヲ選ブカの自由を與へたまへり。是れ神ニも人ニも吾ニも萬物ニも有益幸福^{イゼ}を得可き

律法ナリ。之ヲ破る者ハ罪ナリ。是れ自ら犯せし罪ナリ。

此自由あらざれば道德あるものニあらず。他の萬物ニ同じき也。

四 然らば人曰はん、神は愛ならば罪を赦したもふも可ならん
と。

(1) 神の御性質ハ義なれば罪を赦したまふ事能はず。○例せば義人ハ惡を愛する能はざるが如し。

(2) 潔き法律ノ性質ヨリ論じて

政府法律の例 又天地の治まらざる事

グリークの王ノ事

(四) キリストヲ降したまひし愛

(一) グリーキ王ノ例

(二) 盜人ト國王太子ノ例

(三) 併しヤハリ人ハ自由故、神ハ之を妨げたまはず、聖靈ニ由テ人を導きたまふ。其愛如何。

四何故乎。神ハ愛ナリ。故ニ吾らハ何の報も望まずして働クナリ。

(路加六の三十一ヨリ)

○信せば救はるべし。

午後二時より重生三付、齋藤ニて説教。未信者四人聞けり。

其他信者らの中大感(一字不明)ありたり。

○夜ハ本町四丁目ニ於て説教す。至極謹聴せり。聴衆も大分ありたり。

六月二十九日

○人の徳を建つ可し。

「然ば爾曹も靈の賜を慕ふ者なるニより教會の徳を建る爲に其賜の豊ならんことを願ふべし」哥林前十四の12

「然れど預言する者は人ニ語りて其徳をたて勸勉を爲し安慰を豫ふる也預言する者は教會の徳を建つる也」哥林前十四の

三と四

「愛は徳を建るもの也」哥林前八の一、「是故ニ我儕人と和睦せんこと、相互ニ徳を建てんこと、を追求むべし」羅馬十の十九

「我儕おの／＼隣の徳を建ん爲ニ善をもて之を悦ばすべし」ローマ十五の二

「キリストの體の徳を建」以弗四の十二

「愛をもて眞理を行ひ長て凡てのこと首なるキリストに效しめん爲也彼を本として全體すべて百節の助によりて聯絡鞏固その肢體おの／＼分量に循ひ方行て其體を育てみづから愛ニ由て徳を建る也」以弗四の十五十六

「凡て汚たる言を爾曹の口より出すこと勿れ只時ニ從ひて人の徳を建つ可き善事を云ひ聴く者をして益あらしむ可し」以弗四の二九

「是故ニ爾曹常ニ行せる如く互ニ慰め又各々の徳を相建つ可し」帖撒前五の十一

人ハ如何ニして幸福を得るもの乎

(一) 罪の赦サル、事 (二) 心の潔まる事 (三) 善き果を結ブニ由テ
四善を行ひ惡ニ勝ツニ由テ (四) 神を愛し又人を己の如く愛するニ由テ (五) 神ト人トニ愛せらる、ニ由テ (六) 徳を積ミ其他
進歩するニ由テ (七) 眞理ヲ悟ルニ由テ (八) 益を得るニより

(十) 十分善き望を得るニより (十一) 義務を盡すニ由テ (十二) 吾行フ可き道を知るニ由テ (十三) 受るより與るは幸也 (十四) 肉ノ靈の事を念ふは生命也 平安ナリ

如是人の事を顧み、人の徳を建つ可し。即ち毎日人の徳を立て人を愛し慰むるを勸く可し。

○吾儕は何ニ進歩するや。

「教の基は再び置ことをせずして完全ニ進むべし」希伯來六の二

「惟義人の道ハ旭光の如く久して愈々光り日中ニ迄ぶ」箴言の四の十八。

「天に在す爾らの父の完全が如く爾らも完全くすべし」馬太五の四十八。

「吾れ今知ること全からず」哥林前十三の十二

「肉と靈の凡の汚を去て自ら己を潔くし神を畏れて聖潔ことを成就す可し」哥林後七の一

「我これらの望を既ニ得たりと言ふニあらず亦己ニ全せられたりと言ふニ非らず或ハ取ることあらんとて我たゞ之を追求む(キリストを得さんと我を執へ給へる也脱) 兄弟よ我自ら之を取りと意はず只この一事を努む即ち後ニ在るものを忘れ前ニあるものを望み標準に向ひて進む也」腓立三の十二、十

三、十四

「我儕かれを傳へ諸人を勧め諸般の智慧をもて諸人を教へ諸人をしてキリストの中ニ完全を得て神の前ニ立しめんとす」

哥羅西一の二十八。

「爾ら全く且備りて缺る所なからん爲に忍耐をして全く働かしめよ爾らの中智慧足らざるものあらば夫の咎むる事なく惜むことなくして衆人ニ豫る神ニ求めよ然らば豫られん」雅各一の五。

(一) 智識ニハ日々無限進歩する也。

(二) 信仰も進むなり。

(三) 働くことも増大する也。

(四) 能の増スナリ敵も増スナリ。

(五) 誤り減じ眞理ニ進む也。

(六) 心増々潔まる也。

○今夜は伊藤氏の宅ニ於て黙示録研究せり。

六月三十日

津ニ移りし以後久居ニ於ての働

(一) 黙示録研究 一週ニ一度

(二) 音楽 一度

(三) 信者の爲メ説教一度

一週中ニ
二夜當
地へ來れ

ば如何

○未信者の爲説教一度

(四) 安息日ニ聖書研究の處を一人の信者ニ授け置くこと

(五) 安息日説教する人ニ手傳スル事

○今當地之信者の義務ハ當地之爲メ祈禱する事と、一ヶ人二道を傳ふる事也、常ニ熱心ニ爲すこと也。

今種子蒔きも十分爲す可き時也。又獲收もす可き時也。今各信徒全力を盡して種子を蒔き水漑ぎ耕り十分祈禱して實のりを待つ可し。十分力を盡して實のらざると云ふ事昔より無し。未だ力の盡し様足らざる也。ポーロの働を手本と爲す可し。又吾が神の恵を得し事、吾が育ちし事は何ニ由りしかよく考へよ。必ズ非常なる力と勉強と眞理を聞き事と祈禱ニ由て、今此處ニ至るを得しニあらずや。然らば人を救はんとせば、亦た其丈の力を盡さざれば能はざるは當然の事なり。

人々は未だ眞理を識らざるニ由て迷ふなり。今後は十分眞理を証して倦ざる可し。即ち眞の愛の道を盡す可し。吾らは何事ニ由らず常ニ愛ニ居りキリストの誠ニ居らば心平和喜悅ニ滿つる事を得る也。愛の爲めに熱心の力を盡せば幸多し。

○吾はキリストの命ニ従ひ、常ニ人の徳を建つ可き眞理ヲ宣言す可きものとならん。

○津ニ於テ之働き

(一) 信者之徳ヲ建ツル事

(二) 信者之家族、親族、朋友の爲めに一々人ニ近接し神の眞理を説き、キリストニ付証する事

(三) 定日ニ於て聖書研究會を初むる事

(四) 聖書の價を知らしむる事 (一)之を行はしむる事 (二)其意味を教ゆる事 (三)聖書を用ゐる事をおしへる事 (四)疑問

を聖書ニ照ス事 (五)己の心ヲ調ふるニ (一)行を決するニ

(二)眞理を求むるニ (三)神の約束を知る爲めニ (四)神の聖

旨を知る爲めに

(四) 説教處ニ於て定日ニ説教する事

(五) 路傍ニ於て説教する事

(六) 毎日必死之全力を盡して忠義ニして主ニ事ふ可し。

(七) 聖書並ニ類書は津ニ有之也。

(八) (憐) 如何なる罪人ニても眞の憐を以て道を語る可し。高慢

と輕蔑と怒りと責メとは愼みて避け、忍耐して道を傳ふ可

し。常ニ憐むことを忘る可らず。即ち基督之十字架を負ひ十

字架之道を宣ぶ可し。

(九) 吾ら此世界ニ在て人の靈を救ふの働を爲さざれば何の樂あら

んや。今日日本ハ吾らの神と共に働く畑ナリ。此三千七百萬の

亡びたる靈を救の熱心ある可し。此を皆な列入れせば安心し

て休むべし。故ニ多くの働夫増すことを祈る可し。

今吾らの目的ハ三千七百萬の靈を迷の道より引返し、之を死

より救ふ事也。他ニ目的なし。是れ吾が兄弟姉妹なり。而し

て天ニ於て神ト天使ト凡ての人と和ぎ愛し無限樂む事也。誰

か一人でも地獄ニ亡びて苦むを悦ぶものあらんや。然らば十

分力を盡して働く可きなり。

(一) 感謝會 祈禱會何れも熱心ニ祈禱ありし。

七月一日

今日より津ニ移る積り之處、大風雨ニて(近年稀なりと聞

く) 動く能はず。又過日来降り續ニて路傍説教する積りの

處、終ニ雨之爲其意を果す能はず。

(二) 夜ハ伊藤氏之宅ニ於て一家族と共に祈禱し、後ち種々明日ニ

延ばさずして悔改むる事を勧めたりしニ、大ニ感ずる處あり

て悔改むるの決心ありし様子を、翌朝彼の老妻より聞く。彼

ハ大ニ喜び姉の祈禱ありしを謝せり。

七月二日

今日も洪水後ニて橋落ち旅行難きニ付、津ニ行く能はず。

(三) 黙示録研究及偶像之爲出金ニ付て説

○岡野氏之爲祝詞

○第二誠

(一)第二ノ誠ハ何乎。

答出埃及記二十の四、六。

(二)此誠ニ由テ何を禁ゼシヤ。

偶像を拜する事及び神の言ニ反對したる偽ノ方を以て祈禱する事を禁ぜり。

「爾此神ニ俯伏スル勿レ亦之ニ役事スル勿レ其の爲ル所ニ効フ勿レ惟盡ク彼ヲ滅シテ盡ク其偶像ヲ毀ツベシ」出埃及廿三ノ二十四

(三)然らば凡ての像を造る事ハ禁ぜられしや。

答否ナ動物の像を造る事ハ免されたり。然れども拜スル爲ニあらず、又迷の用となすニあらざる也。

天使や、モーセノ蛇や、等の如し。

然らば昔の宮ハ如何。神ニ形ドル像ハあらざりし。

(四)此誠ニ由テ神ハ何を命じたまひしや。

答神ハ靈なれば靈と眞を以て拜する事を命ぜり。

約傳四の二十四と、詩の二十九の二。

(五)如何なる事ハ眞の祈禱ニ屬するや。

答 聖書を讀む事 ○福音を宣言する事 ○祈禱と讚美 ○

神の定めたまひし晩餐 洗禮式を守ル事。

神ノ名ヲ妄ニ稱スル勿ル。

(六)神ハ如何ニして此誠を行ハシムルヤ。

○吾儕ノ聖キ祈禱に付き神の熱心を覺へ、又神の怒ト子孫の子孫まで恵を施したまふ事を感じしめて、復律五ノ二十九ト哥林十の二十一、二十二

(七)何故此誠を是非守らしめたまふや。

○如何となれば彼の榮を他の物ニ歸するを好みたまわず。又善結果の源なる神の眞の禮拜を捨て、迷ひたる惡しき禮拜の方なればなり。

七月三日 (津)

今日午前十一時過、津ニ移れり。本間、澤山、綱嶋、鈴木、前神、秦の諸氏へ各々端書を出せり。

○その生命を得る者は之を失ひ、我が爲に生命を失ふ者は之を得可し。

汝心を潔く保ち神の旨ニ従はんと欲せば、全く世の生命を捨つる決心なかる可らず。如何となれば世の生命を惜む者は靈の生命を失ふなり。イエス曰く、己の生命を惡む者ニあらざれば吾弟子となるを得ずと、

ポーロ曰く「我キリストと偕ニ十字架ニ釘られたり既に己れ生るニあらずキリスト我ニ在リテ生る也」加拉太二ノ二十。夫れキリストニ屬する者は肉と其情及び慾とを十字架ニ釘た

り」加拉太五の二四

「もし肉ニ從ひて役なば死ぬべし若し聖靈ニ由て身體の行爲を滅さば生くべし」羅 8:13

故ニ肉の欲を爲す爲めニ行を爲さば罪を犯スナリ。肉ナリ。

然れども之ニ反し、愛の爲め即眞理を行ふ爲めに生る也。故

ニ之ニ反せば生命をも捨つべし。如何なる肉の欲をも殺すべ

し。如何なる苦をも忍ぶべし。即ち眞理を守らんと肉ニ逆ひ

戦ふなり。此戦を常ニ戦はざれば心を守る能はざる也。故ニ

肉の事は決して一點も罪なれば爲さず、一生ニても肉の事は

爲さず、と決心して在らざれば、肉ニ勝つこと能はざる也。

事を爲し物を爲スニ事の爲物の爲めに爲す勿れ。靈の爲眞の

爲愛の爲に爲す可し。説教も説教の爲に説教する勿れ。人の

爲愛之爲救之爲に説教す可し。傳道も傳道の爲に傳道する勿

れ。人の靈を救ふ爲に傳道す可し。

○不平を思ひ之を口ニ發するハ罪ナリ。

たとへ病ニなるも貧くなるも、常ニ不平を言ふ者ニして感謝

する能はざる者ハ神ニ背くものなり。如何となれば神萬事を

寄り給へば也。何事をも不平ニ思ふ人ハ眞の平安を知らざる

也。何事も感謝する事を知るものは眞の平安を知りしもの

也。

○「患難ハ忍耐を生じ忍耐は練達を生じ練達は希望を生じ希望

は恥を來らせざるを知る」ローマ五の三・四・五

「神曰たまはく吾汝を爐の中ニ選ぶ」と。吾憐情の敵中ニあ

るなり。議論の敵中ニあるなり。種々の敵軍の中ニある也。

○人は二人の主ニ事する能はず、馬太六の二十四

○二心の者よ爾曹の心を潔くせよ、雅各四の八。

(一)二心の者とは如何なる人乎。

(二)何れか難き。

(三)何の主ニ事するハ安き乎。

(結語) (1) 全ク法律ヲ守ルベシ (全悔改ムベシ。)

(2) 全ク靈ニ居るベシ (全ク潔スベシ。)

(3) 全ク神ニ從ヒヌ頼ルベシ。

(4) 全ク力ヲ盡スベシ (全ク惡ト戦ヒ勝つべし。)

(5) 常ニ即ち全時潔ヲ守ルベシ。

(6) 全ク天國ノ事ヲ念フベシ。

(一)二心の者

(1) 全ク潔まらず、可成ハ神の誠を守ると云ふ人也。

(2) 全ク神ニ從はず。何か肉欲トカ妨あらば神の旨ニ背くもの

也。即ち全ク神ニ頼らざる也。

(3) 今日ハ熱心明日ハさめる人。

(二) 何れか安き

(1) 罪ヲ犯ス尤モ苦シ。全ク肉ヲ殺ス尤モ樂シ。

(2) 人ト交際ニ付テ

(3) 安息日を守る事

(4) 肉ヲ全ク制シ全ク戦ひ勝たば幸也。

(5) 苦ヲ全ク受る幸也。

(6) 終日全ク聖を守る、尤樂シ。

曰全ク主ニ事するは難き事乎。

否ニ心を以テ主ニ事へんとするハ尤も難し。然れども全ク主ニ事するハ安き事也。

○朝九時より聖書研究及説教

○午後八時半より衆人へ説教、當日は雨天なれども聴衆大凡三十名餘

七月十日

六日より十日まで岡野氏結婚式の爲郡山ニ歸へる。然れども大阪大水害ニ付延引。空く伊勢ニ歸へる。併し種々の益ありし。

記 ○岡野氏新郎新婦の祝筵ヲ賀ス

日 回想スレバ今を去る事七年前、一少女子あり。母親に携へられ、屢々浪花會堂ニ來り、基督の福音を聽せられ、終ニ神の

選を蒙り、穢れし世より救出され、神の光の輝ける梅花女學校ニ入れられたり。其性溫和、從順、常ニ全力を盡して勉忍し、本校學科の全を卒へ、加之常ニ神の恵ニ育てられ、己ニ克ち神を愛し人を愛する道を學び、何乎主の用ニ立んと備へたりしが、神ハ斯る美德を備へたる婦を養成し、之を岡野兄に與へて其助ならしめたり。兄ハ大ニ神ニ恵まれし者にて、主基督を信ぜし以來、常ニ善戰を戦ひ、福音の爲めに己の名利を失ふをも損とせず、益々一切を主ニ捧げ、眞理の証を爲すを樂む。然るニ今日斯る十分の助を得、二倍三倍の能を増し、以前ニ優れる精兵、勇士、タランとす。

後來愛兄姉の家ニは如何なる幸福あらんや。その幸福の存する愛ハ何處ならんや。飾りたる家ニもあらざらん。積み蓄へたる財ニもあらざらん。名譽官位ニもあらざらん。衣服器具ニもあらざらん。然らば何ならんや。即ち夫ハ妻を己の身として愛し、妻は夫を敬ふの愛心ニあり。是れ感情より起る一時の愛ニあらず、良心の愛ニして、外物の誘導の爲に動き變るものニあらず。困難の時は互ニ慰めて忍耐力を得、貧苦の時は主ニ任せて喜び、疾病の時は看病者ハ施すの樂あり、病る者ハ受るの慰あり。足らざる處ハ互ニ補ひ、鈍き處ハ互ニ鍊り、一方氣儘なれば一方忍び、一方醇すれば一方慰め、一

方倒れんとすれば一方起し、一方嚴なれば一方和し、一方弱れば一方激まし、一方失望すれば一方勧め、一方旅すれば一方待ち、夫業を務むれば妻内を治む、況して健全、富貴、平安の時ニ於をや。

今神ハ此新郎新婦を合して一體となせり。後の幸福想像すべし。月増し年重るニ従ひその幸福亦加増すべけん。聊弟ノ思フ所ヲ述ベ以テ今日ノ祝詞ニ代フ。

○互ニ憐あるべし。

愛は罪を蔽ふとあり。故ニ信仰弱きもの學足らざる者吾より劣りたるもの難ある者等を憐み顧み、罪を免し之を慰め愛し勧め、常ニ人の徳を建てることを務むべし。

○津ニ於テ

每安息日 水曜日説教 二度未信者の爲

一度信者の爲

○祈祷會 水曜 一度

○聖書研究 一度

○各ヶ人ニ傳道する事

七月十一日

○信者ハ悉ク福音の爲めに過すべし。

〔一〕天地萬物ハ福音を述ブルモノナリ。

〔二〕天地間の萬物ハ福音の爲に用ゐらるべきなり。

金モ、體モ、智モ、其他の萬物も、

〔三〕牧師、教師、傳道師、新聞社、著述者は全く福音を述ぶる者也。

〔四〕商人、書生、婦人、少年、信者ハ悉く福音を述べまた証する事を得る也。

(1)尤も能ある証人は善行を行ふ事也。

「爾曹は地の鹽なり、爾らは世の光也人々爾らの善行を見て天ニ在す爾曹の父を榮べし馬太五

若し鹽を保つ信者あらば友其人ニ近き信を増し、罪人其人

ニ近き良心を責メ、人々其人を見て神の眞理を感じ、穢れ

たる者心を改め、此善行程強き感化力は他ニなからん。

かゝる人教會ニあらば教會潔り、かゝる人家ニあらば家中

救はれ、かゝる人學校ニあらば學校直くなる也。かゝる人を我國ニ尤も多く要する也。

「爾曹心の中ニ鹽を有て」馬可九の五十

即ち心ニ愛ト忍耐ト憐ト慈悲ト潔ト義ト謙遜ト熱心ト平和

ト能ト智ト信ト望を十分有つ可し。

是れ凡ての信者の出来る働也。常ニ聖靈ニ感じたれば之を行ふを得べし。誘ある時ハ戦ひ憂ひ怒り力を盡し祈祷して

之ニ勝ちて心を全く潔くす可し。

(2) 祈禱ニ由テ働く可し。

切ニ人を救わんとし又悔改めしめんと思ひ或ハ話さんとする根も、其機會なく或ハ辨なくんば、熱心ニ不斷ニ其人の爲に祈禱すべし。神は其祈禱ニ答へて或ハ心を動し或ハ機會を與へ或ハ人を遣し、何乎神の手術を以て之を救ひたまふべし。此祈禱ニ由て萬民の爲に働くことは如何なる信者ニても能ふ事也。

(3) 口ヲ以テ福音を宣ふる事

人多くは吾ハ辨鈍し、或ハ學少し、或口拙し、或ハ人ニよく咄する事能はずと。然れども是れ無道理のいひわけなり。素より悉く説教する能はず。聖書を説明す能はず。併し眞ニ心ニ愛心あらば必ず人を感ぜしむる言を口ニ出さず也。眞ニ罪を嫌ふ心あらば必ず罪を証スル言ヲ言フナリ。心ニイエスの愛あらば必ず口ニ言顯はすなり。一言ノ返事一言ノ勸メ一言の証、實ニ人心を動す也。又一言の笑或ハ一言の怒亦た人心ニ感ずる也。然れば已感したる語は必ず口ニ言ふ也。

日記

「心ニ充るより口ニ言るゝ者なれば也善人は心の善庫より善ものを出し惡人は惡庫より惡きものを出す也」馬太十二

の三五

「人の前ニ我を識ると言はん者を我も亦天に在す我父の前ニ之を識ると言はん」馬太十の三十二

吾ら親類、一家族、内ニ來る人、隣の人々、必ずあるべし。此らニ交る際常ニ福音の証する言葉を言はゞ大なる働也。吾ら日々互ニ交り或ハ咄し或ハ共ニ居る人共ニ逢ふ人ニ、一々不殘福音を宣べなば、吾らの職ハ足れる也。汝時なしと言ふや。之有り。他の咄する時あり。汝辨なきや。他の世俗嘶する辨あり。汝機なきや。他の咄する機あり。汝咄する人なきや。必ずあり。已ニ汝の近邊ニある人ハ救れしや。然らば實ニ可祝事也。已ニ働く可き人なきや。決して然らざらん。汝何故ニ福音を証せざるや。汝の内の親族、出入の者、朋友ハ悉く救はれしや。此働も能はざる者とは一人もなからん。汝熱心二人の靈を救はんと思ひ、人の徳を建てんと熱心せば、必ず人を救ふ可き、人の徳を建つ可き言葉、口より出るん。

故ニ自ら救ト平和を心ニ得可し。更らば必ず衆人ニ証するを得ん。

(4) 職業ニ由テ

信者ハ一人も業なきものなし。各々受けたる業を六日の間

ハ熱心ニ勉強、忍耐し、己の義務を盡し、目的ハ神ニ事ヘ國の爲に即ち愛心より起る企を勵み、即ち一家ヲ養フベキ義務、人ヲ救フの心、借金あらば返ス精神、其業ニ由テ人を益する精神より起る心ナリ。安息日を堅く守る事、約束を決して違エザル事、實ニ清淨潔白ニ業を爲スコト、之らを務むるハ善ニして神の福音を証するもの也。

聖書ニ妻ノ務、夫の務、人民、官員の義務、僕、下婢、各々の義務を盡す可きを教へたり。

(5) 金即ち財を以テ

儲ける金ヲ節儉し無益ナ飾ヤ煙草ヤ酒ヤ之ヲ止め、傳道會社ニ金ヲ出し福音を傳ふ可し。尤も多く金ヲ善の爲に出すこと即ち一切を主ニ捧ぐべし。

即ち世人ハ金ヲ己の肉欲ニ費さんとす。信者ハ之を人を愛して、多くの人の救はれ人の幸福を得るの中、保となさんとする也。

(6) 身體モ時間モ

信者ハ之を神ニ捧げて福音の爲に用ゐる也。未信者ハ肉欲の爲ニ用ゐ果す也。たとへば煙草を喫して肉の爲等ニ感情ト神經をあたへ其他酒色無益の咄ニ時ト身を費す也。

(7) 他モ

凡ての恩、智、考、想像等も福音ニ捧ぐべし。

○日々可成神の御用ハ熱心勉強必ズ之を遂ぐべし。

(一) 服部(今日)ヘ書狀 (二) 中山ヘ行く事 (三) 馬可研究 (四) 信者の爲説教 (五) 夜の説教

○如何ニして此惡の充ちたる市街を救ひ得るや。

(一) 人力の及ばざる處ナリ。

如何なる能辨ニ説き廻るも如何なる學力を用ゐるも、只人力ノミニては決して及ばざる處也。

(二) 神の全能ニ由テ能ふなり。

「爾らもし芥種一粒ほどの信あらば此の桑樹に拔て海に植れと曰ふも爾曹ニ從ふべし」路十七の五、

「然れども聖靈爾曹ニ臨に因て後爾曹能力を受けエルサレムユダヤ全國サマリア及び地の極にまで我が證人と爲るべし」

使傳一の八。

「吾は衆の使徒よりも多く勞めたり此は我ニあらず我と借ニある神の恩也」哥林十五の十、

「主ある夜まぼろしニパウロニ語給ひけるは懼るゝ勿れ默せずして語るべし蓋われ爾と借ニあれば爾を害せんとて責る者なし且つこの邑ニ我多の民あり」使傳十八の十、

神ハ萬物を造り日々之を主りたまふものまた主の目ハ萬民の心ニ徹り萬人ニ萬物をあたへたまふものまた全能全智ニ在して如何して此町ニ福音を語るやは明ニ知りたまふ處也。又何を言ふ可きや、如何ニ行ふ可きや、明ニ知りたまふ也。然れば吾儕己の智や或ハ人を頼まず、只全能全智の神を頼み神と偕ニ働く者と爲る可し。神の指揮を受く可し。主の言を信ずべし。聖書の話を信ぜば神の奧議ニ違ナシ。

四、
「我儕をして世ニ勝たしむるは我儕が信也」約第一書五の

世人の數多キ事、官位、富貴、學者杯世の物を懼るゝ勿れ。慕ふ勿れ。頼む勿れ。ポーロの如く之をフン土の如く思ふ可し。

又全く聖書の神の言葉を重じ之を自ら守り之をのみ宜ぶべし。ポーロの精神ニ倣ふ可し。神ハ之を信する者を救ふを善となせる也。之を賤め捨つる者は亡ぶべし。

「それ十字架の教は沈淪者ニは愚なる者我儕救はるゝ者ニは神の能たる也是故ニ神は傳道の愚なるを以て信する者を救を善とせり」哥林前一の十八と廿一、

「神の道を混さず眞理を顯はして神の前ニ己を衆の人の良心ニ質す也、我儕の福音もし隠るゝならば沈淪者ニ隠るゝ也」

哥林後書四の二と三、

「我輩ニ爾曹ニ到りし時も言と智慧の美たるを以て爾らに神の證を傳へざりきわれ蓋イエスキリストと彼の十字架に釘られし事ノ外は爾らの中ニ在りて何をも知るまじと意を定めれば也」(哥林多前書二の一・二脱カ)

「我は福音を耻とせず」ローマ一の十六

故ニ常ニ福音を心ニ保ち福音の通りを全く行ひ福音を全く口ニ述べよ。此より他ニ移る可らず。他の言を混す可らず。人智ト企を用ゆ可らず。常ニ神の言を道トシ心トシ手本トシ(一字不明)トシ光トシ常ニ之を離る可らず。人ニも之を教ゆ可し。故ニ聖書を多く讀むべし。

信者の務ニ三あり。(一)十分ニ福音を讀み心ニ十分感ズル事

(二)福音を行ふ事 (三)福音を傳ふる事 証する事也。

聖書は全く神の言葉ニして之ニ従ふものは全く神ニ従ふもの也。之を知る者ハ神を知りしもの也。之ノ福音を守ると否ニより人の幸福ト禍ト別れ死ト生ト別れ世の末日ニ至り救わるゝと亡び定まる也。此眞理は天地ニ在する眞理ト符合する也。此聖書を守り信する者ハ昔より誤るものなし。故ニ此神の言を信じ行はゞ神吾と偕ニありて行ひたまふ也。人、之を聞き之を見て信ぜざれば滅ぶべし。

「人もし我が言を聞いて守らざるとも其罪ニ定めず我來りしハ世の罪を定んために非らず世を救はんため也我を棄てわが言を納れざる者の罪を定むるものあり即ち我が言ひし言終の日之が罪を定むべし」約傳十二の四八、

「凡て我が此の言を聽て行ふ者を云々」馬太七の二四

モーゼ其他預言者ハ只神の言を聞き、之を行ひしのみにて安かりしが、今も尙ほ如是、今日凡ての事神の言を聞くを得ば之を守らば實ニ安し矣。

七月十二日

○聖書安息日説教題

(一)自然ノ天啓ニ由テ (1)神アル事 (2)神ヲ敬スベキ事 (3)善惡ヲ區別し善ヲ爲し惡ヲ妄ム事 (4)末來ノ賞罰アル事 (5)救ヲ要スル事 等ハ神ノ造化ト支配ト己の良心ニ由テ知ルヲ得れども、人之ヲ知テ神ヲ崇めず善ヲ知テ善ヲ爲さず終ニ心暗クナリ偶像を造りて神となし、偽の方を以テ祈りトなし、無限の想像説を作りて迷ふニ至れり。

(二)人智の及ばざる所あり。

(一)神の奧義を盡ス能はざる事

(二)神の聖旨を知る能はず、

(三)神よりの黙示ハ何の書ニあるや。

孔子トシヤカノ事

(1)神ニあらず、預言者ニあらず。

(2)天地の道理ニ背く事あり。

(3)行フ力ナキ事

四聖書の神の黙示なる事

(1)著者

(2)其眞理。誘タル事

(3)預言の合フ事

(4)行ハルム力ト結果

(結句)

(一)此の聖書の語ニよりて生死別る。

天地は變れん、然れど吾が言葉はうせじ。

(二)信仰薄キハ聖書を読まず、行はざるニより、

又聖靈ヲ消スも之ニよる。

(三)凡テノ敵ハ此又ニテ勝つを得、自由を得るなり。

天主教ノ事 又此聖書ニ反スル事ハ信ず可らず。

聖書ハ意味 之ニ反スル行ノ人ハ偽善者なり。

を悟らず、解説リヲなして四(1)一時眞理悟られぬとて、輕蔑スル勿レ。

注意せず、(2)難キトテ、捨ツル勿レ。

行ハントシ (3)面白ナイトテ、止ムル勿レ。

テ讀まず、其原因ノ

得度心なく (一)食ハズ、見ズ、聞ザル故也。

して讀まば 即ち肉ニ由テ。

何の益ニも (二)行ハザル故、即ち行フ爲ニ調ベザル故。

立たざらん。(三)需要ニ從フヲ、求めざる故也。

食物も囙ん

で味ヲ味ひ、今晚は大凡四十名位來り、終まで謹聽せり。時已

呑んで消化 ニ熱せり。人々道を聞かんとするニ至れり。神の

せざれば 御惠なりと感謝せり。今晚ハ安藤兄及齊藤氏と吾

益とならざれなり。

るが如し。 七月十三日

用事 (一)林・服部・原の諸氏へ書狀を出す事

(二)辻本・山中へ行く事

(三)祈祷ルーサー傳ト神學を讀む事

Sawaya-
ama
Paul

○今の時ニ如何ニ行ふ可きや○説教ニ付キ

○説教するニ、言葉ト説教組立ト風杯ニ、心を取

らるゝ勿れ。只神ニ頼り、其眞理志を入れト人

の靈を憐む熱心より語るべし。

常ニ福音より外る可らず。必ズ福音を語るべし。今ハ惠の時

救の日なれば、十分力を盡して種子を廣く蒔き、又獲入るゝ

時也。

○聖書ニある福音ニ頼るよりよき眞理宇宙ニある事なし。之ニ

由らざれば他ニ求めて一も吾心を養ふものはなし。また之を

傳えを証し人之を信ぜざれば、彼らを救ふ他之道はなき也。

故ニ只其眞理を探究傳道すべし。

傳道スルの目的 人を救はんとするニ、其人今日の禍福或

ハ今日教會の都合や吾働の爲め杯、一時の事を思ふ可らず。

一人を救ふ事ハ其人永遠無限ニ幸福トナリ、之ニ反せば無限

の死となるを確信し、また吾働の報勘定も、此世ニある教會

より受るニあらず、キリストの日ニキリストより受る事を望

として働く可し。人の報や榮を決して望む可らず。

○福音ニ依而如何なる肉欲より脱するの道あり。如何なる弱き

ものも救はるゝ道あり。此町を動す道あり。穢し心を潔むる

の道あり。故ニ衆人ニ此福音の語を混亂せずして説き、之を

教へ之を勧め之を悟らせ之を守らせ、眞の救を受けしむる事

を得せしめよ。

○説教する時ハ人ニ行はしめんとて、説く可し。

「是故ニ凡てこの言を聽て行ふ者を磐の上ニ家を建たる智人

ニ譬へん」馬太七の二十四

「爾ら道を行ふ者となるべし徒之を聞のみニして自己を欺く

者となる勿れ道を聞くのみにして之を行はざる者ハ鏡に照して本来の面をみる人ニ似たりかれ己を照し觀て去後直ニ其如何なる相貌なりしかを忘る」雅各一の二十二、

○如何なる苦痛も身體を害せざる事ハ忍耐せよ。

譬へ眠たくても身の健康の爲惡しく益なければ眠る可らず。

忍耐勉強す可し。又頭痛くても體を害はざるまでハ續けて勉むべし。又義務ハ少々身ニ害あるも忍んで爲す可き事あるなり。

○眞の幸福を得るの道

「受るよりも與るは福なり」使徒傳二十の三十五

吾ら己の益己の樂とふを欲する時ハ必ず失望、不愉快、不平、立腹、心配、トアリテ眞の幸なし。併し己を忘れ人の益ヲ計り人を顧み人を憐み人を己の如く愛し人之身トナリ心トナリ人を察し人の徳を立つる事を務めなば、實ニ幸福多きもの也。實ニ満足するもの也。

○人ニ道を宣る精神

(一) 慢る爲ニあらず。喋々スル爲ニあらず。人を樂ます爲ニあらず。

(二) 實ニ人を眞實ニ憐み彼を救フントスル精神及び眞理を重し偽を驅除スル爲ナリ。道を語るニ其精神尤も必要ナルモノ

ナリ。

(三) 人を見舞フニモ憐ミ顧みる所ありて行く可し。書狀亦然り。著書亦然り。

○何故人々此道ニ入り難きや。

「窄き門より入れよ沈淪ニ至る路ハ闊くその門ハ大なり此より入るもの多し命ニ至る路ハ窄くその門ハ小し其路を得るもの少し」馬太七の十三、十四

「窄き門ニ入るために力を盡せ我爾らニ告げん人らん事を求めて能はざる者多し」路十三ノ二十四

凡て人ニして肉欲あらざる者なし。或ハ高慢あり。名譽心あり。酒を好むあり。煙草を好むあり。利を愛するあり。其他種々して之を捨て之ニ勝ち、神ニ從ひ靈ニ移る事實ニ難し。故ニ人を道ニ入り難き也。又一度入るも一生中窄き道を行くこと實ニかたく多く躓く也。故ニ力を盡して入らざれば能はざるなり。

信者ハ此一生中、己の敵を防くと人の敵を防くと忙しき程也。

常ニ防ぐニイエスの言葉以てし、常ニ主耶穌の言葉を守らば、幸ならん。

今日人が道ニ入る能はざるは何か。必ず肉の妨あるニよるな

り。又人の平和を害するも、肉之妨あるニよる也。

(一)如何ニせば肉より脱して靈ニ移るや(眞理ニよる)

(二)如何ニせば肉の誘ニ勝ち、常ニ靈ニ居るや(眞理ヲ守るニよる)。

(1)眞理を十分ニ知る事即ち己の罪たる事、神の賞罰のある事、肉ニ事へバ死靈ニ從ハハ永生を得ざる事、また肉の樂ハ一時の情ニして惡魔の導なる事、己の罪ニ付十分良心の責ある事等眞理を十分悟らば、肉より脱するを得可し。

「爾曾もし我道に居らば誠ニ我弟子也かつ眞理を識らん眞理ハ爾曾ニ自由を得さすべし」約傳八の三十一と三十二、即ちイエスの語りたまひし眞理を識る事也

(2)悲ミ憂ヘ力を盡して罪を一々悔改めてキリストを信ズル事也。我儕をして世ニ勝たしむるは我儕が信なり。

(3)己ニ非常の力を出し肉より脱し心ニ自由と平和を得ば、其心ハ吾心を守り、惡魔と常ニ戦ひ勝つこと也。

「なんじら惡魔の奸計を禦ん爲に神の武具を以て裝ふべし云々」以弗六の十―二十までヲ視る可し。

常ニ肉の情ト惡魔の言ニ決して心を寄せず、只神の言葉を守り從ふ可し。

○吾は神の役者ニ選れしならば又人を教ゆる者となりたれば、

疑問と世の爲め感ぜし事と氣ニ掛る事等一々探究、之の帳ニ記し、心を明ニし人を教ゆる備を爲す可し。イエス曰く、蛇の如く智人鴿の如く和なれと(マタイ傳十の十六)

◎何の主人ニ事ルハ吾益なるや。

(1)「イエス曰く凡て惡を行ふ者は惡の奴隸なり。」と。人もし肉の欲ニ支配され罪を犯す者は肉の奴ナリ。酒の惡を知りて止むる能はざれば酒の奴ナリ。色ニ沈ム者ハ色の奴也。利ニ心醉する者ハ利の奴也。煙草を止むる能はざれば煙草の奴也。

其他名譽の奴アリ惡魔の奴アリ。

肉欲の誘ニ勝ち神を愛し神ニ從ひ常ニ眞理を守り如何なる身も眞理の爲めニハ之をすて如何なる苦も眞理の爲ニは之を忍び如何なる誘も之ニ勝ち、常ニ心を一筋ニして神ニ從フ者ハ神の奴眞理の奴靈之奴也。

(2)何れの主人が過酷ニテ惡く吾を惡ミ吾を苦め吾を亡し吾を押し吾を打ち、何れの主人が吾を愛し吾慰め吾を益し吾を助け吾に幸福を與へ吾を憐み吾ニ生命を與ふるものなる乎。

然れば汝肉ニ居る人ハ余ハ思フニ、肉ニ事へ惡魔ニ事フル方安く樂しく幸多し。如何となれば酒をのみ色ニ沈り利を得れば肉の樂言ハン方なく、人ニ榮められ身ニハ樂あり。然れど

も神ニ事へなば、味き酒を止め面白きしばいニは行かず色ニ沈らず實ニ究屈千萬何の樂あらん。何の幸あらん。只苦あるのみと。又人ニは捨られ誇られ云々。

(3)是れ無知の獸心を持つもの己を欺かれ云ふ言ニして、真理ニあらざる也。余次ニ其眞理を述べん。

(一)なる程惡魔ニ從ひ肉ニ從ひ事へば、樂あり快愉あり幸福ある様ニ見ゆれども、是れ人を殺さんとし苦めんとし亡さんとする奸略にて、もし之ニ掛らば必ズ亡びん。たとへば人魚を釣るが如し。ナルホト甘キ飼あれども、其中ニ吾を殺ス害針ありて、一時呑み込み甘イト思フヤ否ナ直ニ傷ミある苦、生ずる也。又鳥を取ルニ罟を用ひ其中ニ鳥の尤も好む餌を入れて鳥を捕ふるなり。如是人惡魔の奸計ニ掛り肉欲ニ從フ時ハ其樂ニ見ゆる中ニ、毒の針即ち罪の針ありて彼の靈を亡ボスナリ。

(二)即ち酒を主として事フル人ハ第一の望は酒を飲み度にて、仕事を爲スニも酒を飲まん爲身代も時も力も酒の爲ニは之を費し、之ニ捧げる人也。此人は酒より善き樂はなしと思ふなり。此人ハ酒を多量ニ飲み己の身を苦めるもたとへ病を發するも即ち身を酒ニ捧げ身を酒壺とするもの也。故ニ追々苦を増し足も手も動かず目も見えず心も慥かならず、終ニは倒れ

るニ至リ、其翌日ハ働もできず酒毒を受けて苦む也。又時も金も之ニ捧げ終ニは家も衣服も之ニ捧げ貧乏の難ニ陥る也。

其爲め盗人ニなるあり。乞食ニなるあり。子を殺すあり。妻を殺すあり。如是惡事を爲して終ニは己も亡び無限地獄の刑罰ニ陥るなり。故ニ酒と云主人ニ事へなば、汝を苦め盗人として監獄ニ來り病ヲ與へ汝の妻子を常ニ打ちたゞき終ニは汝も子供も殺し無限地獄の苦ニ陥る、實ニ殘酷ナル主人ニアらずや。

(三)煙草を主人と爲スモノアリ。

彼ハ毎月十錢二十錢をもし善ニ用ゐば必ず人を救ひ或ハ人を救へ或小兒の教育を爲スヲ得て、靈ニ喜あるも、之を煙草ニ捧ぐるなり。而して節儉スベキヲ知るも己ニ乞食ニナルモ之ヲ止ムル能ハズ。コレ程吾慰ハなしと考へ之ニ事フルナリ。カクコノ主人ハ汝の財を奪ひ又身を烟べ肺ヤロニ悪しき臭を付け神經を傷メ時を無益ニ費さしめツマリ汝ニ益を與へズ汝ヲ害スルモノ也。

(四)色ヲ主人トナスモノアリ。

之ハ色程人間ニ樂アルモノナシト思ひ或ハ遊女町ニ行を尤も樂となし或ハ妾を置き常ニ目と心ニ淫慾を充し、心も身も金も時も此爲ニは喜んで捨て又ハ心ハ汚るゝも道ニ背くも色を

尤も重じ之ニ沈るもの也。此主人ハ尤も人をよく誘ひ欺いて、人を亡ボス惡也。之ニ事ヘル者は一時の樂ト思ひ種々の苦を受け、終ニは此主人ニ殺さるゝ也。なるほど初ニは愉快なるが如し。併し度を過スニ付、肺病、胃病、バイ毒等自身ニ受け苦み難み鼻を陥され顔を傷られ身を食はれ終ニは死スルモノアリ。又其が爲めに妻を殺し人を殺し子を飢し終ニは己ニ其報を受け又心を滅スモノハ良心の責あり。又其一時の淫慾の爲ニ自分の靈を地獄ニ亡ボスモノナリ。

イエス曰ク「凡そ婦を見て色情を起す者ハ中心己ニ姦淫したる也モシ右の眼爾を罪ニ陥さば抉出して之を棄てよ蓋五體の一を失ふは全身を地獄に投入ラルゝヨリハ勝れり」馬太五の二十八、三十、

(四)財ヲ主人とする者あり。

此人ハ睡テモ金儲の事のみ思ひ、如何もして金を蓄んと常ニ働くものなり。之モ汝ヲ憂シメ苦シメ或ハ殺し或ハ汝ヲ惡人トナス主人ナリ。

金あらば盗人の憂あり。損の憂あり。如何にもして増さんとする憂あり。モシ死ル時ハ惜むの心配あり。又金の爲め賊ニ殺されし者あり。又利を愛スル爲善を爲さず或ハ人ニ偽を云ひへツラひ、或ハ慈善の心を生せず種々の惡を生ずる也。

「財を慕フハ諸の惡事の根也」提摩前の六の十、又馬太傳六章十九、二十一ヲ視よ、

(六)其他人々尤も重し尤も愛し、其目的の爲萬事を爲して之ニ事する事ハ即ち其人の主人也。今此町ニある凡ての人々は此世ト財ト世の樂の奴隷ナリ居る故、此町の惡ト亡ビト腐財ハ存する也。即ち萬人惡魔ヲ主として事する故、眞の平和なく生命なく望なき也。

即ち名譽、衣服、職業、遊等を主とするものあり。

(四)全能の神ニ事へまた神之眞理ニ事フルトハ萬事萬物を神の旨ニ從フテ爲し、萬物を其爲めに費し又之ニ反スルナレバ、如何ナル樂も捨テ如何ナル苦も受け人ニ迫ラルゝモ殺ルゝモ食ヲ得ざるも決して志ヲ變ぜざるなり。

即ち心を盡し精神を盡し主なる爾の神を愛すべし。又己の如く隣を愛す可し。

此主人ニ事フレバ富ト健全ト安ト愛ト幸ト永生トを受ける也。實ニ常ニ喜び多く又常ニ吾を善人となす也。其結果ハ西洋諸國を視よ。

結「肉の事を思ふ者死也靈の事を念ふ者生なり安なり」ローマ八の六。

「其生命を得る者ハ之を失ひ我爲に生命を失ふ者ハ之を得べ

し」馬太傳十の三十九

「若し人全世界を得るとも其生命を失はゞ何の益あらんや
タ人何を以て其生命ニ易んや」馬太十六の二十六。

(色) ソロモンノ五百の女ヲ持シ事

(位) 英國の王の事

(財) ソロモンノ財の事

「又天國は畑ニ藏レタル寶の如し人見出サバ之ヲ秘シ喜ビ歸
リ其所有ヲ盡トク賣リテ其畑ヲ買フナリ」馬太十三の四十四
「又天國ハ好眞珠ヲ求ントスル商人の如し一の値貴き眞珠を
見出さば其所有ヲ盡ク賣リテ之ヲ買フナリ」馬太十三の四
五、

○神の愛

「それ神ハ其生みたまへる獨子を賜ふ程二世の人を愛し給へ
リ此ハ凡て彼を信する者ニ亡ること無して永生を受しめんが
爲也」約三の 16

「聖靈自ら言難きの慨歎を以て我儕の爲めに祈りぬ」ローマ
八の二十六、

「靈熱心を以て我儕を愛しむと語るを爾ら虚きことゝ意ふ
や」雅各四の五、

(一) 故ニ熱心人ノ爲ニ祈禱せよ。

(二) 熱心説教せよ。

(三) 聖書と類書を讀ましめよ。

(四) 交テ各々人ヲ導け。常ニ熱心を以てせよ。

(五) 常ニ育つるニ亦熱心なれ。

(六) 常ニ神の全能なるを信じて此業を務めば、失望する事なか
らん。

らん。

吾儕をして世ニ勝たしむる者ハ我儕が信なり。

○吾儕今日天國の爲ニ働クニ

(一) 名譽の事 (二) 吾儕ニ付き人の評

(三) 教會の都合。 (四) 世ノ事人ノ事と思フ可らず。

右之事ニ誘ハレテ肉の考ニ誘わるゝ勿れ。

七月十五日

○愛

「唯愛ニ由テ行ク所の信仰ノ益あり」ガラテヤ五の六

「靈の結ぶ所の果仁愛、喜樂、云々」加拉五 23

「潔心ヲモテ互ニ篤ク相愛すべし」彼前一の二十二

「爾らの行ふ所みな愛を以て行ふべし」コリント十六の 14

「衆の人ニ善を行すべし」加拉太六の十

「何事よりも先互ニ篤ク相愛する事をスベシ蓋愛は多の罪を

掩へばナリ」彼前四の八。

故ニ凡ての事受を以て行はゞ法律を全する也。人を勧め戒め教へ導き人の徳を建るも愛也。互ニ善意を以て交り共ニ愛へ共ニ喜ブモ愛ナリ。福音を傳ふるも愛なり。

善人を愛し敬フハ當然之事なれども、惡人罪人へハ如何ニせんや。

「神ハ其生みたまへる獨子を賜ふ程ニ世の人を愛し給へり」約三の十六。

「罪人の爲に死たまへり——キリストハ我儕の尙ほ罪人たる時我儕の爲に死たまへり神は之ニ由て其愛を彰し給ふ」ローマ五の六の八

「爾曹の敵を愛し云々夫れ天の父は其日を善者ニも惡者ニも照し爾を義者ニも不義者ニも降せ、給へり」馬太五の四四、五

「神の其子を世ニ遣し給へるは世の罪を定めんとニあらず彼ニ由て世を救はん爲也」約三ノ十七。

故ニ耶蘇ハベテロニ罪を責めず吾ニ從へト。又サマリヤノ罪を犯せし婦人之罪を責めず只永生の福音を宣べたへり。

ザーカイモ如是。又イエスが死より甦り十二使徒ニ逢ひたまひし時も、キリストの御愛心深キヲ見るべし。

即ち愛ハ人の罪を免し忍び惡人ニも罪人ニも善意ヲ以テ道を傳ふる事也。即ち人の罪ト惡ヲ惡ム事ト罰スル事ト詛フコトハキリストの十字架ニ由テ滅シ、人の價ニよらず只惠ニ由テ救ハル、ナリ。併し人ハ如是惠ヲ捨テ、終まで心を頑ニする者ハ無限亡ボサル、ナリ。然れども其恩を傳ふる時ハ其の罪を免して傳ふ可きなり、故ニ人之爲メニ祈ルモ道を傳ふるも愛心より爲ス可きなり。

○基督教道之目的

(1)

(一)金儲ノ爲ニアラズ。(二)職業ノ爲メニアらず。(三)國ヲ取ル爲メニアラズ。(四)名譽ノ爲メニアラズ。(五)樂ヲスル爲メニモあらず。

(2)愛ノ爲ナリ。

(一)感情姑息ノ愛ニあらず。

(二)眞の愛ナリ。

(三)キリストの愛ニ勵されて、起る働ナリ。

(一)世人ハ今日まで偶像ニ慣レ、キリスト教モ同様スル者アリ。

故ニ今日ハ之ヲ辨セント欲ス。

夫レ偶像教ハ利己主義ニシテ其目的トスル所ハ己ノ爲メニス

ルノ外ナシ。

(一)外ヲ廻りて經ヲ讀ムモ法事ニ來ルモ寺ヲ飾ルモ守リヲ作ルモ宮寺ヲ營膳スルモ只利ノ爲ナリ。

故ニ手ニ鉢ヲ持チ人の錢カ米ヲ出スヲ待ツ也。又經ヲ讀むも錢次第ナリ。ハラ玉ヒヲ言フモ錢次第ナリ。又守リモ金次第ニ由テ大キ小イアリ。余が知ル人ニ僧アリ。官主あり。正選宮其他祭り・法事ハ何の爲メカ。只錢の勘定のみ。錢ヲ出サバ災難も免れ錢ヲ出さば成佛も出來ると教へ只錢ヲ取る事のみを考フルナリ。如是事ハ先祖の爲ニなるや。また神ニ喜バル、事ヲ得るや。決してなし。只法主の爲ニなるのみ。

又僧や祭司となる人ハ何故ニなるや。職業の爲のみ。口の爲のみ。自ら眞理を感じて爲るものあらず。此ハ何ニも爲し様子なし。故ニ法主ニせよ或ハ親が僧故之を次ぐ也。もし今日活計が六ヶ敷なれば他ニよき金儲あらば他の職ニ轉じたきも官員ニなれば今より儲少し。商賈すればヤハリ才智なし。百姓すれば苦し。故ニ此僧の職ニをれば實錢も上り食物も上り大ニ樂ニして錢儲ある故不得止此職ニ居るもの多し。余の知る人ニ多し。故ニ眞理を重せず未來ハ法使となし世の汚れ亂るゝも之を意とせず。何故キリスト教を

ハク撃スルヤ。ダン家の減り職業の衰ルヲ恐レテナリ。決してキリスト教の害あると意フニあらず。己の爲ナリ。此らは今日佛教神の品行を目して知るべし。

(二)キリスト教ヲ之ト同視スルヤ。

(1)傳道者トナル人

傳道費ヲ出ス人

(2)キリスト教ハ眞理ヲ重ズル事

即ち愛の目的

(三)其結果

○明木曜日の働

(一)夜中、歌ト未信者の爲説教二度

(二)金曜朝 默示録ト説教

今晚之説教來聽人大凡四五十名

○一飯ノ爲メニ長子の業を罵れり(希伯來十二章十六、十七、十八、三、四)

七月十六日

(一)ソローハ嗜慾ノ爲メニ己の父子の業を賣れり。是れ一時肉慾を放ニシ無限生の辛を輕ぜしニ由る。

(二)今日も多く眞の神を明ニ知り心を潔くする事の尤も平和幸福あるを知り無限天國の賞罰あるを知り、淫欲の尤も可慕樂と思ヒ其慾を制する能ば眞理を聞いて之ニ從はず、終ニ己の身

を亡ボスモノアリ。是れ一飯の爲めに己の天國を嗣く家子の業を輕じ賣るものなり。

村山應忠の例。

(三)浪花教會リバイバル(二字不明)凡ての人々平和を得しニ、一人の信者ハ煙草の爲に平和を得る事能はざりし。是れ肉慾の爲に己の受く可き恵を惡魔ニ賣り渡すもの也。

(四)或ハ酒を止めがたき或ハ利を愛する心或ハ名譽杯の肉慾を捨て難く生命を失ふ者多し。是れ一飯の爲めに永生を賣るもの也。

(五)食物の爲ニ豕子の業を賣るものあり。

是ハ或人が金を出して呉れ養ふて呉れるものあり。然るニ其人ハ耶蘇嫌なり。己は實ニキリストの眞理を感じ救を求むるも若し耶蘇に従ヒ度も、己を世話し己を養ふ人の爲にキリストニ從はざる者ハ食の爲即ち一飯の爲に永生を賣る者也。

一飯ノ爲メニ之ヲ賣らざる者

(一)「試むる者彼ニ來りて曰けるは爾モシ神の子ならば命じて此石をバンド爲せよイエス答けるは人はパンのみにて生るものニあらず唯神の口より出る凡の言ニ因ると録されたり」馬太

記

四の三、四

(二)ヨセフノ試ニ勝ちし事「創世紀三十九の四、十五、」

(三)橋本安平氏煙草を止めし話

「凡の物我ニ可ラザルナシ然レドモ凡テ益アルニアラズ凡の物我ニ可らざるナシ然レド我その一をも我主トナサズ」哥林多前六の十二

四吉川寅藏氏の事

其他キリストを信する爲め、追出されし者職業を奪われし者生命を取られし者も夥し。

凡て彼らは一飯の爲に豕子の業を渡さざる者也。

結(一)何の肉慾の爲めに制せられ神の旨ト思フコトヲ行ハズ、全ク良心ニ平和ヲ受ケザル者ハ、一飯ノ爲メニ永遠の生命を賣るもの也。

(二)職業或ハ己の飲食の事を思煩ひ、救の事を怠る者は一飯の爲めに生命を失ふもの也。

(三)汝ラ一時の慾ト永遠の幸を交易スル事ヲ好むや。此世ニ在リテ心の平安ト神の恵と又來世無限生命とを、一時の慾を慾ニシ直ニ其樂ハ消エ後ニ無限苦ヲ生ズル肉慾ト交換スル事ヲ、益ありと思ふや。

イエス曰く

「若し爾の一手爾を礙さば之を斷り去れ云々」馬可九の四十三——五十一

然ればたとえれば手を斷る程六ヶ敷トモ慾ヲ去ルべし。

又曰く

約傳十二の二十五を視よ

又馬太六の二十四——二十六。

此ハ老人デモ少年デモ守ルベキ言ナリ。モシ此のイエスの言を守らざる者ハ天國ニ入る事能はざらん。

○「若し罪を犯せば我儕の爲に父の前ニ保惠師あり」
J. John 2. 1

○久居本町籠屋宅ニ於て説教

七月十七日 (久居)

朝八時より默示録研究及び信者の爲ニ説教ス。

○常ニ聖靈を消スコト勿ク祈禱し、人々の全く救を得るニ至るまで忍耐すべし。

常ニ愛心を燃す可し。

○罪の根ハ心の Intention ニあり。

○聖靈

「人もし渴ば我に來りて飲め我を信する者ハ聖書ニ録し、如く其腹より活ける水川の如く流れ出べし」約七の三十七、三十八

十八

「なんち心ニ憂る勿れ神を信じ亦われを信すべし」約十四の

一

「然れど我與ふる水を飲む者ハ永遠渴く事なし」ヨハネ傳四の十四

「われ平安を爾曹ニ遣す我平安を爾らニ豫ふ我豫ふる所は世の豫る所の如きニあらず爾曹心ニ憂る勿れ又懼るゝ勿れ」約傳十四の二十七

「神を敬ひて足ることを知るは大なる利也」提摩前 六の六

「蓋我將ニ以テ水對ニ於渴者、將ニ以テ對流ニ水於乾地。我將ニ以テ我靈ニ對ニ於爾、以テ我福ニ對ニ於爾、以テ賽亞四十四の

三

吾儕聖靈を受けざれば肉ニ支配され心ニ憂あり。眞を行ふ方なく良ニ幸なくよき結果を結ぶ能常ニ心ニ満足する能はざる也。然れども聖靈の恵を對るゝ時ハ大ニ心ニ平安と満足と力を得て、更ニ渴く事無きが如し、吾儕常ニ祈禱して此安を得べきなり。

説教するニも道の爲ニ働くニも己の智識や辨や力ニ頼、聖靈ニ頼る可し。只其御感化を仰ぎ其御教を宜ぶ可し。常ニ己を忘れ神を覺ゆ可し。

故ニ如何なる荒地乾地なるも失望する事なく、神ニ祈禱して聖靈之雨御濕を待つ可し。此御惠降らば果を結ぶ事を得可し。

○罪人の救ハル、ハ全ク聖靈御働ニ由ル事

(一)一々疑問ヲ解キ眞理ヲ知ル事

「今爾曹曉ることを得ず然れど彼即ち眞理の靈の來らん時爾曹を導きて凡の眞理を知るべし」約傳十六の十二と十三

「ルデヤと名る婦きゝみたり主その心を啓きてパウロの語ることに心を用ひしめたまふ」使徒傳十六の十四

(二)良心ノ責起る事

「彼來らん時罪ニ付き義ニ付き審判ニつき世をして罪ありと曉らしめん」約傳十六の八

「彼等之を聞て其心刺るゝが如し」使二の三七

(三)神ノ事ニ付き慥ナル証ヲ受ル事

「証を爲ス者ハ三即ち靈と水と血此の三のものゝ歸する所ハ一なり我儕もし人の証を受る時ハ神の証ハ更ニ大なるべし神の子を信する者ハ其喪ニ証あり」約書第一の五の八と九、十

(四)肉を殺又カ

「若し聖靈ニ由て身體の行爲を殺さば生くべし」ローマ^{十三}八の十三
「若し聖靈ニ由て身體の行爲を殺さば生くべし」ローマ^{十三}八の十三

記

日

「また救の膏及聖靈の劍を取り云々」以佛所六の十七
「爾曹ハ主より沃れたる膏その衷ニ存れるが故ニ人より教を受るニ及ばず其膏すべての事を爾曹ニ教ゆ」約第一書二の二

七

(六)善果ヲ結ブコト

「靈の結ぶ所の果ハ仁愛、喜樂、平和、忍耐、慈悲、良善、忠信、溫柔、撻節」(Galatians, 5:22)

(七)説教者ハ只聖靈の器タル事

「是ニ於て彼等みな聖靈ニ滿され其聖靈の言はしむるに隨ひて異なる諸君の方言を言ひはじめたり」使二の四

「みな聖靈ニ滿されて臆する所なく神の道を宣ふ」使徒傳四の三十一

「彼等ステパノの智慧と之ニ由テ言ふところの靈に敵する」と能はず」使六の十

「主の靈われニ在す故ニ貧者ニ福音を宣傳んことを我ニ膏を沃て仕じ云々」路四の十八

然れば昔より聖靈ハ常ニ説教して道を説き又キリストの福音を証し、常ニ熱心ニ傳道したまふものなり。其只聖徒の口ニ由テ宣べたまふなり。故ニ昔より聖徒の能辨、智識ハ己の物ニあらず、聖靈なり。

されば今日ムーデー氏の如きヒイニー氏、フイトフイネ氏の如き、皆ナ聖靈の御聲ナリ。

固より聖靈ニよらざればかゝる智識ト能力ト感化力ハあらず

る筈也。されば今日日本ニ於ても眞二人を救ふの説教する者ハ聖靈ト偕ニ居リ、聖靈彼ニ在リて、言ひたまふ也。

又聖靈ハ常ニ福音を臆スル事勿ク憚ル事ナク、熱心ニ常ニ宣傳ふる事を切望したまふ事を忘る可らず。

又聖靈吾ニアリテ言ひたまふ事、吾ハ聖靈の聖キ宮ナル事ヲ忘ル可らず。

(八)聖靈ハ罪人の救ハル、事ヲ熱望したまひ、熱心の祈禱を爲したまふ事。

「聖靈も亦吾儕の荏弱を助く我儕は祈るべき所を知らざれども聖靈みずから言難きの慨歎を以て我儕の爲に祈りたまふ」

ローマ八の二十六、

「聖書ニ神の我儕の衷ニ住しめ給ふ靈熱心を以て我儕を愛むと言へるを爾ら虚きこと、意ふや」雅各四の五

又聖靈をして憂へしむる勿れとあり。

(九)神ハ萬人を日々養ひ其靈の有様を貫きたまふ如く、聖靈ハ在サザル所ナク知らざる所なれば、かならず吾儕の口の届かざる所目の及ばざる所ニ於て働きたまふ也。故ニ萬人の爲に祈るべし。故ニ吾ト離レ居ル兄弟の爲メ、又ハ今日ニ掛らぬ兄弟の爲ニも熱心ニ祈る可し。聖靈は在さざる所なき眞の神なり。

常ニ汝福音の爲に働くニ聖靈の御働ある事を忘る可らず。密室ニ入り祈る事を怠る可らざるなり。

(十)常ニ聖靈ハ變りたまふ事なければ更ニ失望する事勿れ。

「聖靈の御智慧限りなく御力も衰る事なく其愛も變る事なければ常ニ聖靈と偕ニ在りて働く事を覚え、聖靈常ニ熱心ニ働きたまふ事を覚え、常ニ臆スル勿れ。失望スルナク懼るゝ勿ク憂る事勿れ。

「我レ爾ヲ離レズ亦爾ヲ棄テズ爾發強剛判ナルベシ」約書記一の五と六

聖靈常ニ吾を憐ミ吾が爲め祈り給ふ程なれば更ニ失望スル事勿れ。此傳道の業ハ吾好む所のみニあらず。キリストの立て神の望み聖靈之廣めたまふものなれば、吾れ此の職に居リ之ヲ務むるは神の悦ビたまふ所なり。アーメン。

(十一)汝福音の爲ニ働カンと欲せば先づ己の心を顧み祈禱し、福音を調べ、神ニ近くことをせよ。然れば終ニ神の聖旨を悟るを得ん。而て説教の題を祈らば必ず神より與へらるべし。

○我儕が自己の能と徳を以て、此人を行しいが如く何ぞ我儕、目を注るや、(使傳三章十二節)

(十二)此節の説明

(十三)今日此教が世界ニ傳り、實ニ可驚結果ヲ顯ハシタルヲ以テ、

人々ハ之ヲ傳フル人の能ト德ニよると思フヤ。

(1) 西洋人の實ヲ見テ西洋人の能ト德と思フハ誤りなり。

○ワシントン、ガ―フィールド大統領の事

○メレイライオンノ事

○ムーデー氏ノ事

フキネ氏ノ事

(2) ハワイ國ノ事

マダカスガル其他異邦ニ傳道せられし事

(3) 今日日本ニ於テ見る事

(3) 故ニ神の全能の御助ニテ福音ハ萬國ニ傳わる故、人力ヲ以テ滅スコト能ハザルナリ。

(1) 昔より偶像教ハ之ニ逆ひし也。

是れ己の利を失はん事を畏れて也。

使傳一九の二四―二十八

昔より凡て偶像教ハ倒れたり。

(2) 惡ヲ放ニスル者ハ神ニ逆フ。

ニロー共其他の王ハ双ヤ兵ヲ以テキリスト教ヲ亡サント試

みたり。併し王ハ亡びキリスト教ハ殘レリ。

(3) 眞理ヲ識らずして逆フ者

使九の五

然れはキリスト教ノ世界ニよき結果ヲ顯ハスコト及ビ如何なる敵ニも勝ち進む人の能ハ德ニあらず。全く神の大能なる事を知るべし。

①(一)キリスト教ニ逆フ者ハ人ニ逆フニあらず全能の神ニ逆フナリ。「トゲアル鞭ヲ蹴ルハカタシ」(使徒行傳二十六の十四)

(二)汝等今道ニ感じたる者ハ人ニ目を注ぐ勿れ。是れ人の能ト

德ニあらざる也。早く此神を信じ神より恵を受けて、此亡

びんとする邪なる世より救出されよ。

今晚は久居本町四丁目ニ於て説教ス。聽衆三四十名謹聽せ

り。

七月十八日 津ニ歸へる。

○傳道の精神

(一)己ノ爲を更ニ思ふ可らず。慢る可らず。

(二)人を輕蔑ス可らず。

(三)愛と憐を以て傳ふ可し。

(四)忍耐スべし。

(五)人の益ト幸福ト實地ニ行フコトヲ熱望スルヨリ言フ可し。

(六)己十分辨へ己十分行ひ益ある事を宣ぶ可し。

○愛の道

(一)受るより與フルハ幸ナリ。

(二)己ニ克ち人を愛スルハ幸ナリ。

(三)己ヲ捨テ、神ト人の爲ニスル幸ナリ。

(四)己を悦バセス即ち己に苦ヲ受け、人ニ悦ヲ與フル幸也。

(五)己忍耐して人を憐むハ幸なり。

(六)己ニ損し人を益スル幸ナリ。

(七)己を謙り人を重ズルハ幸なり。

○審判ノ事

萬有ヲ支配し終ニ之を審判し極公平の處置を爲し得る智慧アル者ハ誰なるや。是れ全能の上帝ナリ。然れば吾ら智定らざる者より喋々せず、上帝ニ托スべし。

○神の愛

神の愛はキリストを吾儕の益即ち救はん爲ニ下し給ふ事ニ由て顯はれたる也。人の救ハル、ハ神ノ愛ト信者ノ之を傳へ人を救わんとする亦此の愛也。互ニ相愛する事ニ由て幸は得らるゝもの也。天國は何故ニ幸なるや。愛の充ちたる國なればなり。悔改むる心ハ愛を感じて起るなり。キリストの愛ニ感じ悔改めなば後ニ變る事なからん。又愛の心を以て人の心を以て人の爲に働かば、人之を憂み倦むの憂なきなり。

「知識は人を驕らしむ然れど愛は徳を建るなり」(Columbanus)
211
今より神ニ従ひ愛の力ニ育たざれば、人の爲働く事能はざる

也。

(一)それ神はその生たまへる獨子を賜ふほどに世の人を愛し給へり。

(二)此は凡て彼を信ずる者ニ亡ること無して永生を受けしめん爲なり。約傳三の十六節

(一)昔ハ只國を取り己の領地ヲ廣ムルヲ以テ目的トシタリシが、今日萬國公法ナル者ヲ創製し、萬國互ニ交際スルヨウニナリタルハ其源因ハ何ナルト考フルヤ。是れキリストが己の如く爾の隣を愛せよと命じたまひしニ由る。

又キリスト信者ハ名々己ヲ捨テ、人ヲ愛し或ハ野蠻ノ黨ニ行キノ道ヲ廣メルハ何故乎。是れポーロノ所謂

「キリストの愛吾曹を勵せり」哥林後五の十四の言葉を守るニ由ルナリ。

(一)宣教師が己ノ樂ト友ト國ト命ヲ捨テ、キリストノ福音を宣ブル精神

(二)婦人ノ働キ

(三)凡ての信者己を悦バセス神ニ捧ゲル事

(四)奴隸ヲ瘠セシ事業

(五)監獄著ノ働

(六)病人の爲ノ働

(4)其他貧院、啞院等ナリ

凡テ是れキリストニ倣フテ己ヲ捨テシモノナリ。其結果ハ愛ノ力ニ由テ結びシモノナリ。

(2)即ちキリストハ神ニして凡テノ榮ト幸天ニ於テアリテ、宇宙ノ萬物萬靈主ヲ尊めり。然るニ人間の凡テ罪に陥リ無限亡ブルヲ憐ミ、天ヨリ下リ人間トナリ人間ノ苦ヲ自ら受け又人間を教ヘ其ニ捨てられて之ヲ忍び、終ニ人間の可受刑罰ヲ悉ク受け、十字架ノ上ニ死せり。

是れ亡ブルコトナクシテ無限生命を受けしめん爲なり。

○道を語るニ誰ニ向テ語る可きや。

「耳ありて聽ゆる者ハ聽く可し」馬太十三の九。

「イザヤの預言ニ爾曹は聽けども悟らず視れども見ず蓋この民目にて見耳にて聽き心にて悟り改めて我ニ醫されんことを恐れその心を頑し耳を蔽ひ目を閉たりと云しニ應へり然れど爾らの目ハ見爾らの耳は聞くが故ニ福ナリ」馬太十三の十四
ノ十六

「耳ある者ハ靈の諸教會ニいふ所を聽くべし」黙二の七

「不義者ハ不義なる任ニし汚穢者ハ穢ノ任ニし義者ハ義なる

任ニし聖者は聖き任ニせよわれ速ニ至らん」黙二十二の十一

「イエス彼らの聽得る所ニ循ひ多かゝる譬をもて教を彼らニ

語れり」馬可四の三三

「聽ゆる耳ある者ハ聽くべし」馬可七の十六
故ニ耳ありて聽ゆる者を目的として、語るべし。

○愛の働

(1)己ヲ捨テ、人ノ益ヲ計ル愛ナリ。

(2)人ノ幸ヲ祈ル愛ナリ。

(3)人の爲メニ働くハ愛ナリ。

四言葉ヲ以テ働ク事

(1)佛教の如く己の利ヲ計リ或ハ名譽ヲ求め或ハ己の職業の如く思フテ宜ブルハ私ニシテ可賤者也。

(2)モシコ、ニ洋學の出來又醫者あり。彼の術の爲メニ實ニ有益ナル術ヲ翻譯してあたへば是れ愛ナリ。又ある工人ノ爲メ便利ナル發明ヲなして教へば是れ愛ナリ。如是人ノ徳ヲ建ツ可き益トナルベキ眞理ヲ探究して、只其人の徳ヲ建ツ可キ爲メニ宜ベナバ愛ナリ。たとへば戰士ニ戰爭ノ方ヲおしへ、染物やニ尤も新良方ヲおしへば愛なるが如し。

(3)人之爲ニ働クニ其人の身トナリテ考フベシ。即ち己の如く其人ヲ思フテ愛す可し。

故ニ道ヲ語るニ、説教の爲メ上手ニ言フ爲メニ説教す可ら

ず。人の益の爲メ即ち人の徳を建つるた爲メニ語る可し。

(4)人の徳を建る事ハ難き事乎。否ナ。若しありて實施の行あらば難き事ニはあらざるなり。

(5)言フ事ヲ先ニ考ヘズ、其人の爲を先ニ考ヘよ。

七月二十日

○何故果ヲ結バザル乎。

聖書ニある如く説教スルモ實なき時ハ、葉ノミの無花果樹の如く、水なき井、狂風ニ逐はるゝ雲の如キモノナリ。吾ら如何ニせば果ヲ結ブ樹、水の湧出る井、雨を降ス雲となるを得んや。

是れキリストと偕ニ居リ聖靈を受けて全く神の福音を傳ニあり。

「枝もし葡萄樹ニ連らざれば自ら實を結ぶこと能はず爾らも吾に連らざれば亦此の如くならん」ヨハネ傳十五の四

「人もし渴かば我ニ來て飲め我を信する者は聖書ニ録しゝ如く其腹より活ける水川の如く流れ出づべし」約翰傳七章三八せつ

「我口所^レ出^ル之言亦將^ニ如^シ是、必不^ニ無^シ果而歸^リ我、乃必成^ニ我所^レ悅^ム之者、必利^ニ達^ス於我所^レ遣^ハ之之事」以賽亞五十五の十一

十一

○フランクリンノ語ニ「善キ説教の外人民を教會ニ保つ者なし」

○「イエスハ神ニ立られて爾らの智慧、また義、又聖、また贖と爲りたまり」哥林前一の三十

又キリストハ道ナリ。眞ナリ。生ナリ。又我ニよらざれば人父ニ來ルモノナシトアレバ、信者ニも不信者ニもキリストは凡てナリ。コノキリストヲ宣べよ。

○神ト偕ニ居ル事

キリスト我ニ在リテ働キ玉ハザレバ、何ゾキリストヲ宣べキリストヲ顯ハスコトヲ得ンヤ。

「道ハ爾ニ近く爾の口ニアリ爾の心ニあり」ローマ十の八

「われイエスキリストと彼の十字架ニ釘られし事の外は爾らの中ニ在て何をも知るましと意を定めたれば也」哥林多前二の二、

「爾曹ハ神の殿ニして神の靈爾らの中ニ在すことを知らざる乎」哥林多前三の十六

「夫れ爾曹ハ活神の殿也神管テ我かれらの中ニ住り且つあゆまん我かれらの神となり彼ら我民とならんと曰給ひしが如く又汝ら彼らの中より出て之を離れ汚穢ニ捫ること勿れ我爾曹

を納ん」哥林多後六の十六—終
(一七九)

「我キリストと偕ニ十字架ニ釘られたり既に既われ生るニあらずキリスト我ニ在りて生る也」加拉二の二十

「夫れ吾ハ世の末まで常ニ爾曹と偕ニ在るなりアーメン」馬太八章二十

「七の金の燈臺の間を行む者此の如く言ふと」黙二の一
即ち神ハ吾らの心中ニ住みたまひ吾と偕ニ行ミ給ふものなれば、常ニ心を潔し神の言を守り其如く行ひ、善結果あらば神吾と偕ニ在す也。

神と吾と偕ニ在さば、吾心を導き教へ勵し慰め能を與へ祈を聞きたまふニ相違なき也。

モーゼノ時神偕ニ在セシ故神ノ聲を聞き是神ニ導かれ神の榮を視たり。十二使聖靈を受、如是心ありしハ神偕ニ在せしニよる。ムーデー氏。フキネー氏其他聖靈ニ滿されし人は常ニ神吾と偕ニアリト喜アリシナリ。コレ神偕ニ在セシニヨルナリ。今日モ神吾ニ在セバ必ズ之ヲ識リ喜ブナリ。聖靈を受けざる信者ハ未だ神を見ず。未だ神を識らざる也。

イエスト偕ニアル者ハイエスノ聲ヲ聞キ聖靈ニ感じ神の榮光ト愛ヲ見常ニ神ヨリ恵ト力ヲいたたくものなり。常ニ神ニ在りてキリストを宜ぶ可し。

○祈禱之事

日記

モーゼハ神ノ聲ヲ聞ン爲メ西丙山中ニ四十日アリ。
イエスハ神ニ交ル爲メ一夜中山ニ入りシ事アリ。

如是吾らモ神ノ聲ヲ聞キ又神ニ交リ神ヨリ愛ヲ受ントセバ、人ノ在ラザル密室ニ入り神ニ祈リ神ノ言ヲ讀ムコトヲ務メヨ。モシ之ヲ怠ルトキハ神ニ遠ル再シ。ムーデー其他聖靈之充サレ常ニ神と偕ニ働人ハ祈禱を常ニし聖書を讀むことを怠らざりしなり。リバイバルハ祈禱の返事ナリ。神ニ求メヨ。然らば與へらる可し。只口ニアラズ心ニ行フ可シ。必らず得可し。

「此類は祈禱と斷食ニ非らざれば出ることなし。」

Matthew 17:1

「爾らの父は求むる者ニ聖靈を豫ざらんや」路十一の十三
(一)朝早く起キテ密室ニ入り祈禱ト聖書ヲ讀むこと十分ニし今日

ノ可成事ヲ神ヨリ命ゼラルベシ。

(二)内ニ見舞フトキ初メ其家の爲メニ祈ルベシ。

(三)説教ノ前後ハ悉ク祈禱ニ費スベシ。

(四)其處ノ爲メニ働ニかゝらば、先づ祈禱會ヲ初むべし。

(五)集會ノ時モ祈禱して神ニ事ヲ可し。

「我儕多の人の如く神の道を混亂せず即ち誠より神ニ由りて神の前ニキリストニ在りて言ふなり」哥林多後二の十七

○今夜ハ松坂ニ來り安藤兄及松葉兄ニ逢ひ偕ニ祈禱せり。

○天國は近けり。悔改めよ。 Matthew 3:2

七月二十一日

松坂説教

- (1) 預言者及イスラヘル キリストヲ待ちし事
- (2) ヨハネの事

(3) キリストの來り玉ひし事

(4) 聖靈のバプテスマ

(5) 火のバプテスマ

結 (一) 吾國ニ今天國の來りし事

(二) 悔改よ。

(三) 聖靈と火のバプテスマヲ受けよ。

運動傍、二見浦ニ行けり。

七月二十二日 津ニ歸へる。

○主キリストニ事ヘル事

- (1) 己ニ克ち、己ヲ捨テ、己ヲ悦バセス、氣儘ニナサズ、萬事
主ノ旨ニ從ヒ主の命ヲ受けて、主ヲ悦バスヨウ爲ス可キナ
リ。

「凡そ我ニ來りてその父母、妻子、兄弟、姉妹、また己の
生命をも憎む者ニ非らざれば我弟子と爲るを爲す又その十
字架を任ずして我ニ從ふ者は我弟子と爲ること得ず」路十

四の二六、二十七

「今われ人の親を得んことを要るや神の親を得んことを要
むるや或ハ人の心を得んことを求むる若しわれ人の心を得
んことを求はばキリストの僕ニあらざるべし」加拉太一章
の十せつ、

(2) キリストと偕ニ居ることを忘る可らず。

「然れど主我と偕ニ在りて我ニ力量を豫へ給へり主また我
を救いて諸の惡事より離れしめ」提摩後四の十七、十八

「主或夜まぼろしニパウロに語給ひけるは懼るゝ勿れ默せ
ずして語るべし蓋われ爾と偕ニあれば爾を害せんとて賣る
者なし且つ此町ニ我が多の民あり」使十八の十、又約第一

書二の二七ヲ視るべし。

「願くは主イエスキリスト、爾の靈と偕ニあれ」提摩後

四の 22

(3) 故ニ主の爲ニ何を爲スニも己の力ヤ智ヤ辨ヤ企ヲ用ゐる事
なく、主ニ頼りて爲すべし。

「我ニ言給けるは我恩爾ニ足れり蓋わが能ハ弱ニ於て全な
れば也この故ニ寧ろ欣びて自己の弱に誇らん是れキリスト
の能われに寓らん爲也」哥林後十二の九

(4) 人々キリストヲ主として事ハ吾らは互ニ兄弟の如く相愛す

るを以テ、樂トナスベシ。

「爾らの師ハ一人即ちキリストナリ爾らは兄弟ナリ又地ニある者を父と稱ること勿れ爾らの父ハ一人即ち天ニ在す者也また導師の稱を受ること勿れ蓋爾らの導師ハ一人即ちキリストナリ爾らの中大なる者ハ爾らの僕となるべし」馬太二十三の八—十二

「我儕爾らの信仰を主らんとするニ非らず唯爾らの喜樂を助けんとする也蓋爾ら信仰ニ由テ立てばなり」哥林多後一の二十四

「蓋爾らの信仰をして人の智ニ由らず神の能に由らしめんと欲ば也」哥林前二の五、

「われら自己の事を宣るニあらず唯キリストイエスの主たること又我儕イエスに由テ爾曹の僕たることを宜ぶるなり」哥林後四の五

故ニ只キリストノ僕トナリ常ニイエスト偕ニあらば吾が爲ニは満足ナリ。此外ニ慰ト頼處ハ入らざるなり。其他人の僕トナリ人ノ救ハレ、ヤハリ吾ト共ニキリストの僕トナラシコトヲ願フベシ。

記 日

(5)キリストとキリストの十字架ヲ宜ベル事

「兄弟よ我輩ニ爾曹ニ到リし時も言と智慧の美たるを以て

なんぢらに神の證を傳へざりき蓋われキリストイエスと彼の十字架に釘られし事の外ハ爾らの中ニ在りて何をも知るまじと意を定められたれば也」(哥林多前二の一—二)

コノキリストを宣ブルニ、昔在りしが今ハあらざる歴史の如く、又天ニあれども今吾ヲ離れ居りたまふ如く宜ベズ、今生キテ我と偕ニありて働きたまふ主として事へ居ルキリストの如く宜ぶべし。即ちキリストニ事へ、其命として宜ぶべし。

「神の道を混亂せず即ち誠ニより神ニよりて神の前ニキリストニ在りて言ふなり」哥林後二の終

十字架ヲ宜ブルモ今ノ十字架を宜ぶべし。即ち今キリストノ愛今キリストニ由テ免サルゝ事とふを宜ぶべし。今日十字架ハ吾ガ必要ナリ。之ヲ宜ぶべし。

吾らハ主人ニあらず師ニあらず父ニあらず僕ナリ子ナリ弟ナリ只主の御命ニ従ひ主の家人を守る者なれば、其心を以て常ニ慎み謙るべし。主の與ヘ玉フ者ヲ衣或ハ食ひ又爲して満足すべし。

又三位一體の神を宜ぶべし。

(6)語る時の心得

道を語る時ハ主を敬ひ主ニ在り聖靈ニ感じ祈禱する精神を

以テ語るべし。人の智を混じ神の道を亂す可らず。

(一)臆ス可らず。

「吾が言フべき所の如く之を侃々して言得るよふ我が爲

にも祈るべし」以弗所六の十九、二十

(二)愛の味ヲ保つべし。

「爾らの言つねに恩を用ゐる且つ鹽を以て調合べし」哥羅

西四の六

(三)語りし後ハ人々益を得しや自の徳を建てしや、イエスを

主として事へ居るや、考へ祈るべし。

○病人及困苦人を慰むる道

聖書ニ善者と共ニ喜び苦む者を共ニ苦しむべしと。是れ愛の道なり。故ニ病人を思ふニは己れの病の時忍耐し神の旨を守るの心を持ち病人を憐むべし。また苦困者を憐むニは己れ困苦する時忍耐同情を以て憐むべし。實ニ弱き器を觸る如く慎みて爲す可し。粗忽ニなす可らず。

○聽衆人

聽衆の少も多きも其ニ由テ憂へ或ハ悦ぶ可らず。一人ニても救を受ける事を悦ぶ可らず。一人ニても力を盡し救わるゝ爲ニ説教す可し。一人の聽聞人あらば満足して語るべし。

水曜日ニ付説教ス。

七月二十三日

○此世ニ在ル目的

(一)傳道スルニ此世ニ在ル都合ノ爲メニ一モ爲ス可らず。即教

會の都合トカ評判如何トカ杯を考フ可らず。

(二)只永遠無限生命ヲ思フテ働く可し。

○世ノ人ハ世ノ生命ト財ハ實ニ重ズル事ヲ知ル。

毎夜太鼓ヲならし鳴子ヲ鳴らし又起して歩くは財ヲ守ルニ熱心なる事也。又病ニかゝらば直ニ醫を招き藥を呑み(一字不明)人命損せんとする時ハ直ニ之を救ひ助るの道を盡せり。是れ世人世の生命と財を重ずる徴ナリ。然れども永遠不朽尤も大切なる生命を重ぜず之を失ふも惜まず之を尋ねず之を守らず之を捨てゝ顧みざる也。

○神の言葉ハ活きたまへり。

「それ神の言は活てかつ力あり云々」希四の十二
然れば神の旨ニ適ひたる神の言を聖靈ニ感じて語る時ハ活きて能ある也。又キリストモ十字架も今活きたるもの也。故ニ汝活きたるキリスト十字架と言を宜ぶべし。

七月二十四日

○神ニ近け。

病ト試の時多く祈祷し神の中ニ避くべし。又危キ時惡魔の抗

撃スルトキ祈禱して主ニ在るべし。餘り己ニ依而負を取る可らず。

「汚穢ニ捫ること勿れ我爾を納けん」哥林後六の十七

「神ニ近け然らば神爾らニ近き給わん」雅各四の八

「爾曹イエスを見ざれども之を愛し今見ずといへども信じて

喜ぶ其快樂は言がたく且つ榮光あり」彼得前書一章八節

○吾キリストを得るニあらず、キリスト吾ニ在りて働キ玉フナリ。

「キリスト吾ニ在りて生るなり」加拉太二の二十、「吾ニ言

給ひけるは我恩爾ニ足れり蓋わが能ハ弱ニ於て全なればなり

この故ニ寧ろ欣びて自己の弱ニ誇らん是れキリストの能吾に

寓らん爲也」哥林多後書十二の九

「我ハ葡萄樹爾らは其枝也人もし我ニ居りわれ亦彼ニ居らば

多の實を結ぶべし」約傳十五の五

○今夜は久居市中ニ於説教（路傍）。終まで謹聴せり。

（以下最終ページのメモ）

野田村 伊藤老

里川清次郎君 阿部老人。

櫻井達男氏 谷田兼。

同 健吉 同父母。

同 母 西來寺町二十八番地

同 みよ

山中 軒 吉田郁

同 門二郎 山田曾弥町小樂

同 母 崎嘉作方寓

同 妻 玉井統英

辻本母

同 金

同 姉

昭和十八年七月廿五日より

八月廿六日まで

(表紙)

明治十八年七月廿五日ヨリ

日記

於 伊勢 成瀬

七月二十五日

○無私の愛

人の學問ヤ富ヤ其他人間の吾爲めになるを以て愛するハ私の愛なれば、私の心なく眞實の愛を以て傳道すべし。キリストノ言ト意を以て愛せば無私の愛となるを得可し。

○キリストを主として傳道する事

吾が主となりて人を救わんと考へ働くニあらず。又吾能と感化ニ由て人心を潔めるニあらず。

主キリスト自ら福音を備へ之を傳させ人を憐み吾らを御旨の儘ニ用みて働かせ給ひ、又傳道を計り之を定め之を支配し人心を感化したまふもキリストナリ。

然れば吾は全く己を虚しくし心も身もキリストニ捧げ、只其命じ給ふ事を言ひ又之を行ひキリストの僕の如く行ひ、又如何なる有様ニ成り行くもキリストニ任せ御旨を満足すべし。

故ニ吾務ハ多く祈禱しキリストニ在りて働く事なり。

キリストは世界萬國の主なれば亦世界萬國の諸教會の事情をも考へて主の聖旨を知る可き也

昔の預言者及使徒等は只神の事と神の聖旨と神の命を世ニ傳へし者也。如是吾曹も今日も只神の聖旨を世ニ教ゆる者なれば、親しく神に交り神の聖旨を明察し、神の行ひ玉フ事神の世ニ向ひ各々人ニ向ひ思ひ給フ全ク神の心を宣傳ふる者となる可し。之を傳ふるニ昔の歴史の如く思ふ可らず。今日の人民ニ今日神の行ひ給ふ眞理を宣ぶべし。又今日各々人ニ神の思ひ給ふ所を祈禱と聖書と聖靈ニ由て知り、之を教ゆる者となるべし。

「然れど神は其靈をもて之を我儕ニ顯せり靈は萬事を究知また神の深事をも究知るなりそれ人の情ハ其中ニある靈の外ニ誰か之を知らんや此の如く神の情ハ神の靈の外に知るものなし誰か主の心を知りて主を教ゆる者あらんや然ど我儕はキリストの心を有り」哥林多前二章十一十六を視よ

○神の心

(一)神 萬民の心を知りたまふ

「耶和華見レ世人之惡貫盈 凡ソ其心念之所ニ圖維者恒惟作レ惡」創世記六の五

「耶和華曰ソドムゴモラノ諸邑喧闐已ニ甚罪惡貫盈 我將ニ降臨 監レ其行爲」創十八の二十と二十一

「耶和華自レ天俯視レ人之嗣 欲レ見 或有 明レ於智而求レ神者 否 咸背逆 皆人ニ於汚ニ無レ善者 其一亦無レ有 兮行レ惡者 悉無レ知乎食ニ我之民 如レ食レ餅不レ顧 耶和華 兮」詩篇十四篇

二一四、又五十三篇の二ヲ視よ又ローマ書三章の十一二十ヲ視よ。

神ハ天ヨリ萬民の心中を洞察シ玉フニ、ミナ罪惡を犯し居るを視たまふなり。

今神ニ附テ日本人を視たまふ時ハ如何。又吾儕各々の心中を洞察したまふ時ハ如何。必ズ神を求むるものなく善を爲スモ

ノナク昔ノアノ時アブラハムの時キリストの時の如き有様ならん。即ち姦淫、偶像を拜し、偽リヲ言ひ、高慢、神なしと云ひ、神を漫り、眞理ニ逆ひ、酒ニ酔ひ、利を貪り、妒嫉、不義、肉欲、凶殺、争鬭、父母ニ不孝、頑梗、背約、不情、不慈なる者等の如し。

(二)耶和華自レ天監レ人之罪惡 心ニ有ニ如何ニ心ニ乎

「故耶和華悔ニ已造ニ人於地ニ而心憂レ之」(創世記六の六)

「緣テ此代ニ我憂歴ニ四十年 云斯民乃中心差謬者 素不識ニ我途 我已怒誓ニ於我不容ニ其入ニ我安息 兮」詩九十五の十と十一

「我見ニ悖逆之人 而厭棄以ニ其不守ニ爾言」詩百十九の百五八

「第彼悖逆 而使ニ其聖靈 懷ニ愛其遂轉 爲ニ彼敵ニ而自戰攻レ之」以賽亞六十三ノ十

「主の面は惡を行ふ者ニ向て怒れば也」彼得前書の十二

「それ神の怒ハ不義をもて眞を抑る人々の凡ての不虔不義ニ向ひて天より顯さる」ローマ一の十八

「子ニ從はざる者ハ生命を見ることを得じ且つ神の怒その上ニ留まらん」ヨハネ傳三の三六

(三)併し神は憐ミ富み給ふが故ニ、救の道を備へ萬民ニ悔改を命

じたまふなり。是れ神の無限の愛なり。

「一人の亡ぶるをも欲みたまはず衆人の悔改ニ至らんことを欲みて、我儕を永く忍び給ふなり」彼得後三の九

「なんぢら神の豊厚なると仁慈と寛容と恒忍たまふを藐視するやその仁慈ハ爾を悔改ニ導くなるを知らず云々」羅馬二の

四

「聖靈熱心を以て我儕を愛むと言へるを爾ら虚きことニ意ふや」雅各四の五

「神の聖靈をして愛しむること勿れ」以四の三十

「我儕なほ弱かりし時キリスト定りたる日ニ及罪人の爲に死たまへり。それ義人の爲に死るもの殆ど少なり。仁者の爲には死ることを厭ざる者もや有らん。然れどキリストハ我儕のなほ罪人たる時われらの爲に死たまへり。神ハ之ニよりて其愛を彰し給ふ。今その血に頼りて我儕義とせられたれば況て彼ニ由て怒より救るゝ事なからんや。若しわれら敵たりし時ニ其子の死ニよりて神ニ和ことを得たらんニは況して和を得たる今その生けるニ頼りて救るゝことを得らざらんや」ローマ五の六一—十

「われら神を愛するニ非らず。神われらを愛し我儕の罪の爲に其子を遣して挽回の祭物となせり是れ即ち愛なり」約傳第

一書四の十「爾曹の敵を愛シ云々」馬太五の四十四

「爾ら人の罪を免せ云々」馬太六の十四

「臆信なき曲れる世なる哉。われ何時まで爾曹と偕ニ居らんや我れいつまで爾曹を忍ばんや」馬太十七の十七

「イエス怒を含みて環視シ云々」馬可三の五

「ペテロを戒め曰けるはサタンよ我後ニ退け云々」馬可八の

三三

「九十九を山ニ置き迷し一を尋ざるや」馬太十八の十二

「金錢十枚をもち其一枚を失はゞ燈火を燃して家を掃除し之を獲るまでハ切ニ尋ねざらんや」路十五の八

「爾の弟死て復生き失ひて復た得たるが故ニ我儕喜びて樂む

は當然の事なり」路加十五の三十二

然れば神ハ罪を嫌ひ惡ミ憂ヘ玉フト雖ドモ、其怒を永く忍び、其罪人の救の福音を備ヘ萬民ニ悔改を宣傳ヘしめ、罪人の悔改むる事を待ちたまふ也。是れ實ニ難き事ニて敵を愛する事なり。吾らを愛する者を愛するハ易し。されど吾らを惡ミ背き逆ひ頭梗ニする者を忍び之を愛し悔改めしむる事ハ六ヶ敷事也。神は此愛を以て吾らを忍びたまふなり。又罪人を憐み救はんとしたまふ事ハ尤も熱心ニし、之を尋ね即ち種々の恵を以て救ニ導き給ふなり。吾ら今日世の罪を憂ヘ又キリ

ストの愛をもて之を忍び、如何にもして救はんと力を盡すが如く神も働きたまふ也。

故ニ吾儕も神の御聖旨を悟り、人の罪の可惡災あるは深く心ニ感じ、之を救ひ之を悔改めしむるニ熱心なる可きなり。

今多く人々ハイエスを愛せずまたイエスの愛を識らざれども、イエスハ永く忍び多の恵を以て彼らニ施したまハ禍をもあたへて彼らを戒め、彼らを追ニ愛あるものキリストを愛する者とならしめたまふなり。故ニ吾もキリストに倣ひ今愛なき味なき人々を愛し導き、キリストの愛を識りまたキリストを愛する者となるよふ導く可き也。イエスの愛ハ只口ニ稱ふるのみニあらず。眞實キリストの愛なり神の愛なれば人々之を知るべし。是れ想像ニあらず眞なり。キリストは舌を以て愛したまふニあらず。行と眞をもて愛し給ふの眞の愛なり。即ち只吾らがイエスハ愛があると口にて言フノミニあらず。キリストハ自ら吾儕を愛したまふなり。

七月二十六日 安息日

○安息日を守るニ付き

日記
安息日ハ神と共に居りて守る日なればたとへ一人にて、友なき處ニあるも退屈する理はなきなり。如何となれば己の罪の免サル、爲聖靈の(一字不明)がる、爲此地の人々の救はる

爲熱心ニ祈禱せば、實ニ不可言の幸あり。主キリストと偕ニ交る程喜あるものはなし。安息日ハ主と交る日なり。

○「然れば自ら立てり」と意ふ者ハ傾れざるやうに慎むべし」哥林多前十の十二。

「爾ら己ニ飽爾ら既ニ富めり爾ら吾と偕ならずして王たり云々」哥林前四の八。是れ自ら立てりと思ふもの

「ペテロ曰く皆ナ爾ニ就而礙くとも我ハ終ニ礙かじ」
matthew 26:33

然れど彼らの折られたるは不信仰ニより爾が立るは信仰ニ因るなれば誇る事勿れたる戒懼れよ」ローマ十一の二十。

故ニ吾儕成人の如く自ら歩行し得、また自ら敵を防ぐことを得ると思ふ可らず。吾は弱キモノ敵ハ強キモノタルヲ忘れ

ズ、只キリストニ頼り神ニ居るの謙遜の信仰あるべし。また己自ら人を教し得或ハ働き得るものと、成人心を有たず。

小兒心をもち、萬事神ニ頼りて爲す可し。是れ礙かざるの道也。惡魔も自ら慢りて落ちしニあらずや。如是吾儕も自ら慢

る心あらば必ず落ちるもの也。自ら説教を爲し得る、自ら人を救ひ得ると考フル時ハ水なき井雨なき雲實なき樹の如きものなり。又吾ハ戰士なり、如何なる敵襲來るも吾に敵するものなしと慢る時ハ負けるなり。吾ハ力なし。然れどキリスト

ハ吾が盾ナリト神の武具を頼ミ祈を常ニし神と共にをリ吾ハ

天下ニ敵スルモノナキ大將なるキリストの僕ナリ。キリスト吾を守らば吾ニ敵するものなしと信ずべし。吾儕世ニ勝つハ吾儕が信なり。然れば常ニ戰場ニ出づるニ己が氣儘の場處ニ出でず惟大將の指揮ニ從ふ可し。

「然れば我が愛する所の者よ爾曹常ニ服へる如く畏懼れ戰慄て己が救を全うせよ」腓立比二章の十二

○「主の靈われニ在らず故ニ貧者に福音を宣傳ん事を我に吾を沃て任じ心の傷める者を醫し又因人に釋ん事と替者ニ見させん事を示し厭制らるゝ者を縦ち主の禧年を宣傳んが爲に我を遣せり」路加四の十八・十九。

吾らが信仰する父と子ト聖靈の三一の神は世人の拜する偶像ヤ想像無有ノ神ニアラザルナリ。

(一)偶像ト異ナル事

(二)信仰ノ異ナル事

(三)ミダトキリストとの異ナル所

四キリストハ天ニ在し又アメリカニモ歐羅巴ニモ支那ニモ印度ニモアフリカニモハワイニモマダガスガルニモ日本ニモ在リ玉フテ 已ニ多ノ人々ニ聖靈ヲ以テバプテスマヲ施したまへり。今此人々ハ偶像ヲ捨テ、イエスヲ信じ之ニ事へ、日々彼ニ祈禱せる也。

イエス曰給く「イエス進みて彼等に語り言けるは天の上地の凡ての權を我に賜はれり是故ニ爾ら行きて萬國の民にバプテスマを施し之を父と子となし聖靈の名ニ入れて弟子となし且つ凡て爾らニ命ぜし言を守れと彼らニ教へよ夫れ吾は世の末まで常ニ爾曹と偕に在るなりアーメン」馬太廿八の十八・二十

(四)故ニキリストハ日本ニアル一萬餘の信者をよく知り之を宰リ之を宮ト爲したまふなり。また日本の其残りの三千六百九十九萬の人々の心如何をよく洞察したまふ也。

ノアノ時又詩ニ神俯シテ人心を見玉フニミナ惡を爲せり。創世六章と詩十四篇。神ハ之ヲ視テ惡ミ玉フトアリ。嫌ヒ怒り憂へ玉フトアリ。即ち姦淫、偶像ヲ拜スル事、貪ル事、

高慢、凡テ神の前ニ可惡者也。

(六)然らば何故神ハ之を罰し玉ハザルヤ。

是れ神ハ愛ニシテ未ク忍び玉フナリ。即ち人々之悔改メテ救われん爲なり。故ニ屢々天災をもて鞭チ福音を傳へて悔改めよと命じたまふ也。

即ち聖書ニ「それ神ハその生み給へる獨子を賜ふほど三世の人を愛したまへり」ヨハネ三の十六「又神の其子を世に

遣し給へるは世の罪を定めん爲めにあらず彼ニ由テ世を救はん爲也」ヨハネ三の十七。

されば今キリストハ日本の罪人を見たまひ之を亡さんとしたまふにあらず。救はんとし悔改めしめんとて人々を招き玉フナリ。昔キリストコノ世ニありたまひし時、世を救はん爲に來りたまひしニ、人々彼を誇り打ち終ニ十字架ニつけしも之を忍びたまひしく如く、今も日本の人々を永く忍び給ふなり。

即路加四の十八せつの如く心の傷める者を愈さんが爲也。

今日日本の有様ハ如是。併し皆ナ自らを悟るものなく各々己ニ慢り或ハ神なしといひ或ハ禍來らじと思ひ或ハ救を要せずとす。

(但然れども神ハ惠深く永忍びたまひキリストの眞理を宣播め、一方ニは彼らを鞭ちこらしめ、自らの心の貧キ傷める因人、瞽者なるを悟らせ玉フナリ。

(吾ハ智キ學者と慢りしも追々西洋ト交り實ニ吾國の愚なるを知りて謙る心を起さしめ玉フ。又行ト吾國の行如何。

(肉欲ニヨル者も之を放ニして病ト禍を受け之を厭ひ己は罪人なるを感ず。

(三)神なしと思フ人モ非常の天災ヤ禍ヤ病貧キニ陥リ實ニ神ヲ恐れ心を生ず。財ヤ己の勇氣ヤ學問の頼ニ足らざるを知る。

(四)己ニ頼テ常ニ惡魔ニまけて己の弱きを感じるニ至るあり。

(總)もし今夜己の心を知りキリストニ來るものハ幸なり。キリストを信じて満足せざるものなし。如何なる祈も聞れざる事なし、併し罪を悔改めざれば聞かれざるなり。

○「主たる爾の神を試む可らず」馬太四の七

己ニ欲ニ勝つ力を受けたとて自ら其欲の場合ニ臨み、自ら其欲を起し見るは神を試むるものにて勝を得る事能はざるなり。

○凡ての寶物の藏めたる倉は何なるや。

聖書なり。故ニ之より萬民ニ需要の物を出して人々ニあたへよ、また自らも之の倉より己の必要の物を出して用ゐよ。ムーデー氏の智識と説教(數十萬を救ひし)ハ之より出ず。スポージョン、フキネー、フイトフキールドの諸氏及其他の牧者ハミナ之より生命の水と糧を取りし也。また世界萬國の信者も日々之より、己を養ふ需要物及日々入用の器械をも得るなり。故ニよく之を學ぶ事をせよ。又神ニ祈る事を共ニ爲

よ。

「イエス彼等曰けるは然らば天國ニついて教へられたる學者ハ新しき物と舊き物とを其庫より出す家の主の如し」馬太十三の五十二、

○神を敬ひて足る事を知るは大なり利なり（提摩太前六の六）

集ニ於て神を崇め其他飲むニも食ふニも眠るニも、神を信じ神ニ事へる程喜しきものはなきなり。

○今夜は「キリストハ心の傷める者を愈したまふ」ニ付き説教ス。至極謹聽せり。

七月二十七日（月曜日）

○世人の爲ニ信仰を奪るゝ勿れ。

不信者のみニ語る時も全く神ニ信任し神の言葉を語り神ニ熱心祈禱し、不信者の不信仰ニ導かれ高慢我流を出し或ハ學術の話ニ渡り己の力ヤ才智、辨論ニ頼るの弊ニ陥る可らず。熱心の信者而已の集會の如く堅き信仰を以テ道を語るべし。信者ニは信仰と聖靈之御助ニ由らざれば果を結ぶ事能はず。

然れば素より未だ耳なき目なき未信者なれば、聖靈之御感化ニよらざれば人心を動かす可らず。

○實地之事を言はざれば感覺薄し。

神の今日其人ニ對して行したまふ事或ハ思ひたまふ直接の事、即ち其人ニ需要之事を述べざれば感覺薄きものなり。

○愛 Love

人を幸福ならしむる者ハ愛ナリ。もし此世界の人ニイエスの誠即ち第一ニ神を愛しニニ互ニ相愛せば實ニ天國如き世界となるなり。又キリストの教會が榮へるも人の増すも此愛道の行はるゝニよるなり。此愛心堅ケレバ教會碎るゝ事なし。

○愛ハ肉體の欲ヤ金ヤ衣ヤ外物ニあらず。是れ眞正の愛ニ逆フモノナリ。人、婦人の美を愛ス、是れ愛ニあらず。己の欲を愛し婦人の體ヲ愛スルナリ。或人富人を愛ス。是れ其人を愛スルニあらず。其人の持つ金ヲ愛スルナリ。或ハ長官ヲ愛ス。是れ其人を愛スルニあらず。其人の位を愛する也。眞正の愛は人の靈魂を吾靈を以て愛スル事即ち私の無き愛を云フナリ。

○キリストは神ニ在し人を亡ス力あれども之を用ひて己敵を亡ぼしたまわず。永く之を忍び十字架ニかゝりて死せり。是れ己ニ勝ち人を深く愛したまふ眞正の愛なり。キリスト一生涯を以て終れり。故ニ肉の樂ハ更ニなさらず一生中人の爲ニ苦を受けたまへり。また使徒パウロモ十二使徒一生涯みは悉く愛なり。是れ人の爲めキリストの爲にキリストの爲に己を

捨てしものなり。吾ら人の罪を免し人を忍べば愛増々深くなるものなり。吾儕ハ己を愛せず又金なく位なく肉醜き人を愛するは眞ニ人を愛するなり。如何となれば其人ニは物ニ價なし。吾ニ受るものなし、之を愛するハ眞の施なり。是れ眞正の愛也。キリスト世の貧きもの病めるもの無學なるものを友とし愛したまへり。是れ眞正の愛なり。忍ぶコトハ愛の深きコト愛を積むこと也。

○今日五時過より山中氏之内にて祈禱會を聖靈之バプテスマを受けん事を祈る。天主教信者三名其席ニ來れり。

七月二十八日

眞の愛ト眞の智識あらば人々感化せざることなからんや。然れば常ニ吾心ニ鹽を保ち光を保つことを務むべし。

○愛

吾儕此世ニありて尤も力を盡し成さんとする事ハ何乎。吾儕の眞正の目的ハ何乎。心を盡し精神を盡し意を盡し力を盡し神を愛し頼ひ其御旨を成しました己の如く隣を愛する事の外なき也。是れ此世ニ限るものにあらず。天國ニ登りても無限續くものなり。而して此目的と此働ハ何時まで歴ても終る事なし。また天地間の萬有が一致するも倦む事なきものなり。また如何二人々逆ふとも撓むものニあらざるなり。また何程力

を盡し何程進むとも眞正の人より嫉を受るものニあらざるなり。

「愛は永久も墮る事なし」 1st Corinthians 13:9

主キリストもポーロも其他使徒らも悉く是目的にて働きしものなり。

即ちキリストの十字架の賜を萬民ニ別ち、眞ニ彼らの救はれ互ニ相愛するようニ至る爲め今の暗より救はれ眞理の光を悟る爲め、人之苦痛を救はん爲め、神の榮光を顯はさん爲め等の働なり。常ニ此職を務むるを怠る事勿れ。

○吾ハ一人居るニあらず。キリストと偕ナリ。

説教する時も集を爲すときも一人居る時も吾れ一人と思ふ可らず。キリスト吾と偕ニ在し吾はキリストの僕なる事を忘る可らず。

○一時の事ニあらず永久ニ續く事ナリ

(一)吾儕信者ハ一飛ニ最上級ニ進むものニあらず。日々信仰をつけ経験を増し即ち日々神の恵ニ育ち成長するものなり。故ニ一度の説教ヤ一度の祈禱にて一時ニ山の如き信仰ト智識を得んとするは誤ナリ。此信仰の道も草木の育ち或ハ小兒の漸々成長するが如きものなり。即ち一日ニしてムーデー氏ヤヒイニー氏の如き信者とならんと思ふは誤なり。即ち漸々ニ

進歩する事を忘る可らず。併し非常ニ聖靈のバプテスマを受ける事あり。

(二)兄弟姉妹の進むも如是。追々ニ育つことを忘る可らず。毎日聖書を讀んで之を味ひ増々眞理ニ明くなり。屢々説教を聞きまた日々神の言葉を行ふて心を鍊り日々祈禱して神ニ近ずき神と偕ニ行き、人之爲め働き祈り、即ち愛ニも日々育ち、如是經驗も智識も力も育ち進むものなり。

(三)傳道も如是。初め種時、二ニ水漑き耕し水く忍び(四)收獲の時至らば多くの果を得べし。多く力を盡し多く蒔かば時至らば多く刈るべし。此收獲の時ハ即ちリバイバルナリ。

一夜に山が生ずるが如きものニあらざる也。

「於ニ夜ニ而生。於ニ夜ニ而亡也」約拿四の十

是れキリストの時ニもルーテルノ時ニもルーテルノ時ニも支那ニも、ハワイ國ニもアフリカニモマダカスカルニも日本ニ於ても如是なり。

七月二十九日 (水曜日)

○人々ハ何が聞き度也人間の智識か然らざん。神の活ける言葉が聞き度ならん。又誰より恵ヲ得度や人よりか然らず。キリストよりなり。然らば活るキリストと活る神の言葉即ち聖靈之働ある言葉を宣ぶ可きならん。

神よ今夜の集ニ恵を垂れ玉へ。主キリストよ今夜の集ニ臨みたまへ。御聖靈よ私の心ニ恵を漑ぎ玉へ。聽聞人の心を導き玉へ。アーメン。神よ今日中のみならず常ニ吾と偕ニ在し吾心を潔くなしたまへ。アーメン

(一)讚美歌

(1)神を愛し神を讚美スル熱心より謠ふ可し。是れ祈禱の如く重すべし。人の耳の爲に謠はず聖靈ニ感じて神を崇めて熱心ニ謠ふべし。サンキー氏を手本と爲すべし。又聖靈の恵降りし時ハ謠も祈の如く力あるものなり。歌ニ罪を感じ或は神の恵を感じる事多きなり。

(2)歌ふ前ニ人々ニ其意味を述べて人々が其意味ニ心をつけ歌ふように注意すべし。

(二)祈禱

(1)人ニ眞理其他話を爲スコトニあらず。神ニ告げ神ニ求める事なり。然るニもし未信者多き中ニても只人の心を考へ神を忘れて人の喜ぶよふ祈るは偽善なり。神の前喜ばれざる事也。吾儕人ニ眞理を咄さんとせば、祈禱ニよらず口を以て之を語る可し

(2)然れば祈る時ハ人を忘れ神ニ執心なる信仰をもて不得止精神より己の足らざる又聽集之爲め、眞實神の御恵を受けるよ

ふ執心の祈禱を爲す可きなり。即ち己の心なき事又人々も神より恵を戴かざれば何も益する處なきを深く感じて祈るべし。只儀式ならば祈る可らず、故ニ説教前も説教後も常に祈禱すべし。

(三) 説教 Preaching

(1) 今日神の聖旨とその約束と支配と愛とを宜ぶるもの

(2) 今日人の悔改ト救ひの道を宜ぶる事

(3) 今日信者各々が己の可爲事を知り又心を養はれ、即ち今日可行道を知る事と今日生命をつなぐ糧を得る事なれば

日々必要なるものなり。

故ニ説教は毎日ニても可爲可聞必要之者なり。

○キリストの愛

「然れどキリストは我儕の尙罪人たる時われらの爲に死たまへり神は之ニ由て其愛を彰し給ふ」羅馬五の八

(一) 神は肉眼ニは見エズ其聲は肉耳ニは聞エズと雖ドモ、物を造り之を支配し活きて能あり、又全智あり。天ニ在し又此處ニも在し又尤も深き愛あるもの也。

記
日
(1) 今迄吾國ニ於ては目ニ見エル者ヨリ他ニものあるを知らず。故ニ目ニ見エヌモノを用ひ又其價と能ある事も悟らざりし。

ワスとエレキの事

(四) 萬物ハ目ニ見エヌ物なるが目ニ見エヌ又尤も貴き者あり、是れ即ち靈ナリ。

人間の體ト靈トの事。

(二) 即ち神は宇宙の靈ニして萬物は神の體なりと云フモ可ならん。即ち天ハ神の御位ニして地ハ神の足だいなりとあり。

(1) 目ニ見エヌ神の事ハ目ニ見エヌ神の働ニよりて知らるゝなり。

萬物の造り方ニよりて神の智ハ知らるゝ也。

神の力ハ今日日の照り、地球の環り、風の吹き、雨の降なりと其他草木の成長諸遊星の運行ニよりて知らるゝなり。

(四) 天地の道理と歴史と人間の良心ニより知らるゝ也。

(四) 天よりの黙示と神の顯はれニ付き之れ尤も明瞭に神を識る事を得るの道なり。

天ヨリノ聲ト書物ヲ受ケシ事 (二) 奇跡 (三) 天使 (四) 預言者

(四) キリスト 是れらニ由り神の事は明ニ識らるゝなり。

(六) 聖靈

(二) 「われら今鏡を以て見る如く見るところ昏然なり然れど彼の時ニは面を對せて相見ん」哥林多前十三の十二。

「天ニ在我が父の面を常ニ觀バなり」馬太十八の十

「僕ども神の面を見云々」黙二十二の四

(三)神の愛

(1)前の論ニよりて神ある事神の全智全能なる事萬物を支配し又吾をも造りたり未來をも支配し又無不在處神なる事等ハ別りしが、尤も大切ニシテ人々の悟らざるハ神の御心の事也。

即ち神ハ人間を顧みたまふや。愛したまふや。或ハ只人間の惡を見て怒りたまふや。即ち神ハ天子の如く或ハ役人の如く或ハ學者の如く嚴重なるものが、素より神ハ王ノ王なれば天地の中神の如き恐ろしきものなし。併し神ハ慈母の如き愛をもちたまふ也。即ち人の飢あれば食をあたへ病めるものあれば慰め惡しき者を憐みたまふなり。其事ハ今日神の支配を見て知るべし。

(2)併し神の愛は尤もよくキリストニ由テ顯はれしなり。
ヨハネ傳三章と羅馬書五章を視よ。

今は已ニ神は吾國を恵み多くの宣教師を送り吾ら神の眞理と靈之救之道を知る事を得已ニ一萬の人々救はれしニあらずや。然るニ吾國の人々はイエスを賤め誇り十字架ニ掛る事を爲せるニあらずや。然れどもキリストハ之を免し永く忍び玉フ事昔ノ猶太人の如し。

(1)敵對せぬ事

(2)敵を愛する事

(3)貧乏人を愛する事 是れイエスの愛なり。

(例)今汝らキリストの福音を聞く者は幸ならずや。尤もキリストの憐を受けたるニあらずや。今罪を悔改めキリストを信する者ハ今迄の罪ハ免され神と和き神の子供となり天國の嗣子となる事を得る也。キリストと友なるを得るなり、殊ニ今キリストを信ぜし兄弟らハ幸ニあらずや。如何となれば神ニ選ばれしニよる。汝ら十二使徒ハ不幸なる者と思ふや。

○働き

各々受けし働を各々預りし力量ニ従ひ働かなば神の聖旨ニ適はん。善信者即ち主ニ心と身を捧げ神を愛し己の如く人を愛する事を知らば必ず働き度精神起らん。又己の働ハ何乎を知り又之を爲すの能をも受けん。さらば先づ己を捨て全く主ニ捧げる事を學ぶべし。

○今水曜日ニ付キリストの愛ニ付説教す。

七月三十日(七月)久居

(一)黙示 (二)説教學 (三)説教 (四)洗禮試験

○教會の心得を兼氏借スコト

○五味氏ニ書狀を出すこと

七月三十一日 (久居)

(1) 説教するの備へ

(一) 己の心を潔くし神と交り神に聞くこと

(二) 聖霊を受ける事 1 Corintians 9:26,27

祈禱する事 (moody) and (fiery)

(三) 神を愛し人を愛する熱心をもつこと

(四) 能辨なる事ハ精神ニある事

(2) 目的

(一) 神の榮光を顯はす事

(二) 教會の徳を建つる事

(三) 亡びたる靈を救ふ事

○ 四題を定める事

(1) 人の氣ニ入る様せず (四) 己の氣儘ニ爲さず (三) 惟神の旨

を知る事 (二) 人の有様ヲ知る事

(3) 何を宣ぶ可きや

(一) 活きたる基督を宣ぶる事

哥林前二の一―四、五

(二) 活ける神の言葉を宣ぶる事

(1) ローマ書十の十七

(2) 希伯來四の十二

日記

(3) 以賽亞五十五の八―十一

(三) 知識の藏は聖書也

(4) 説教を作る方

(一) 十分考へ祈る事

(二) 一々別ちて調べる事

(三) 書く事

(四) 骨を持つ事

(五) 結句之事

(5) 宣ぶる時の心得

(一) 祈禱と讚美

(二) 神の前ニ神ニ由テ言ふ事

2 Corintians 2:17,

(三) 人の心ニ動かされざる事

(1) 人の情ニ動かされざる事

(四) 耳ある者ニ語るべし

(五) 人ノ少キヲ意トス可らず

(二) 言葉と精神之事

警言と飾と重複を慥むべし

其結果は神ニ任ス事

○今夜は本町四丁目ニ於て説教、聴衆多かり

八月一日 (津ニ歸へる)

○辨論と實際行ふ事即ち言ふと人の徳を建る事

○眞正の幸福を得るの道

「受るよりも興るは福なり」使徒廿の三十五

「汝曹のうち大ならんと欲ふ者ハ爾曹に役るゝ者となるべし」馬太二十章の二十六

「是故ニ凡て人ニ爲られんと欲することは爾曹また人ニも其

の如くせよ」馬太七の十二

(一)神ヲ全心愛スル事

(二)世ヲ捨る事即ち肉を支配スル事

(三)人を愛スル熱心を持ツコト

(四)人ノ爲メニ己の身ト心ヲ勞シテ働ク事

(五)己を損して人ニ與ル事

肉忍耐スル事

八月二日 安息日

○今日如是人々大なる罪愆を犯し又大なる罪の來訪を受け又大

なる暗ニ住めば是れ人力にて之を救ふ事能はざるなり。全智

全能の神の義の太陽の光を以て人心を輝し全能の聖靈之御働

ニよりて人心を潔しキリストの十字架の償ニよりて山の如き

罪を教はれざれば、決して此世は救はる事能はざるなり。故

ニ吾ら全く己を虚しくし神ニ全く頼り其恵ニ滿されて働く可

し。

「爾曹もし芥種一粒ほどの信あらば此桑樹に拔て海ニ植れと

曰とも爾曹ニ從ふ可し」路十七の六

「神を信ぜよ(中略アリ)誰ニても其心ニ疑ふ事なく其言ふ

所の言は必ず成るべしと信じ此山ニ移て海ニ入れといはゞ其

言の如く成るべし」馬可傳十一の二十二—二十三

○此靈の大敵も神ニ由テ防ぐるを得るなり。

○説教するニ説教を人の感するよふ言はんと欲する勿れ。人の

罪より救はれ人の悔改め人の光を受け人の眞の幸福を受ん事

を祈り其實事を其人が受る事を熱心ニ願ひ之を聖靈之御聲ニ

て達する事を得ば、之を述べべし。恰も慈母が涙を流して子

ニ戒むるが如くすべし。

即ち言葉は愛を達する方法ナリ。

又吾が心の爲に心を勞し眞理を探求するが如く人の心ニ眞理

を顯はす爲ニ宜ぶべし。

又人々實ニ感じて之を聞くとも其後之を行はざれば満足する

能はざるなり。如何となれば親もし小兒ニ眞をよく教へ小兒

實ニ感ずるも親は之にて満足するものニあらず。小兒の行變

り眞ニ善良ニ至れば實ニ喜ぶなり。吾儕人を教ゆるも如是し。

即ち吾儕説教するの目的は一時人の心を悦ばすものニあらざるなり。故ニ説教を考るは人ニ言ふ論や言葉や組立等を考ふるニあらず。人を救ひ人の徳を建る事を考へ祈る可し。人の爲に祈待ほど大切なるものはなし。如何となれば其人の爲め神の恵を受ける程大切なる事はなきなり。

○「神を敬ひて足る事を知るは大なる利なり」提摩太前

六の六

(1)世を愛するより神を愛するハ大なる利なり。

(2)世ニ頼るよりも神ニ頼るは大なる利也。

(3)己ト人の智慧ニ頼るより神の智ニ頼るは大なる利也。

(4)神ニ近くの利

(5)神の聖旨ニ任ス事即ち足る事を知るは利なり。

(1)神の愛

(2)罪の赦さるゝ事

(3)光を心ニ受る故

(4)自由を受ける事

(5)慥なる頼り處を得る故

(6)永生を受ける故

○説教の能と言葉ハ何より受るや

多く祈待して神ニ交り人の有様を多く考へ多く心を勞して書籍を調べ多く人の爲に働かば、可言事は多く得可し。故ニ説教を考へるより人を救う事を考ふ可し。

即ちもし己ニ罪あると思ふ時は十分己の心を調べ又救はる可き道を求め潔まる可き方を探究するが如し。人を己の如く愛するならば人の爲に心を勞し探究す可し。吾が罪を犯せしは何故乎。肉の欲ニ引され之ニ勝つ力なきと眞理を知らざるニより、又眞の和平がなきは光を知らざるニよる。然らば他人が罪を犯し苦ニ居るは吾と同様ナリ。更に異なる事なからん。人の高慢、姦淫・盗ミ・嫉ミ・偶像を拜スル・亦吾の惡事ト同様ナリ。

然れば己の如く隣を愛せよとあれば、吾れ己の爲め力を盡し、如く、人の救の爲め盡すべし己の罪を自ら赦せし如く人の罪を赦すべし。己の罪を忍ばれしを悦ぶ如く人の罪の悔改を忍ぶべし。

又人の救はれ潔まるは吾が救はれ潔まるが如し。然れば吾か經驗ニ従ふて人の爲に働くべし。

八月三日

今朝來ル水曜日之說教會之爲、答世橋北結左側飯島萬次郎方を借ル事ヲ得タリ。實ニ神の備へたまひしものと感謝せり。

○説教の誤り

説教する時キリスト(活タル)とキリストの十字架と神の活ける言葉を語る事を忘れなば説教ニ益ナク能ナシ。又如何なる經驗を語るもキリストニ事ふる經驗ナリ。コノ目的を常ニ忘る可らず。

「是故ニ神は傳道の愚なるを以て信ずる者を救ふを善とせりユダヤ人ハ休徴を乞ひギリシヤ人ハ智慧を覓む我儕は十字架ニ釘られしキリストを宣傳ふ」哥林前一の二十一—二十三

八月四日

「凡そ祈禱の時その求ふ所のものは必ず得べしと信ぜは必ず得可し」馬可傳十一の二十四

「我言ひし所また宣べし所は人の智慧の婉言を用ゐず唯靈と能の證を用ゐたり」哥林前二の四

「神の情は神の靈の外ニ知るものなし」哥林前二の十一

故ニ(第一)神ニ祈らば何を言ふ可き神の宣べよと命じたまふ言葉を得可し。

(第二)「其いふ所の言は必ず成る可しと信じ此山ニ移りて海ニ入れといはゞ其言の如く成る可し」馬可傳十一章二三節

然れば其言は聖靈之御恵ニ由り必ず成る可しと信じ之を語らば、必ず結果あるべし。神曰給く。「吾口より出でし言は果なくして吾ニ歸らず。必ズ吾善ぶ處を成すべし」と。

(第三)信者となりて後ハ常ニ聖靈の御恵ニより育てられ救ニ至る可し。

今日も天より神の人ニ語りたまふ聲を聞く事を得る也。即ち今日神が人民ニ言はんとしたまふ言葉を聖靈ニ感じて聖書の神の語より宣ぶる時は神の言葉と同様也。神ハ今此ニ在りて人の心を視み之を(一字不明)り或ハ憐み或ハ怒りたまふもの也。

○神の聖旨

キリストは昨日も今日も永遠ニ變らざるなりとあれば、神もキリストも聖靈も變らざるなり。

即ち聖書ニ神愛フトアリ。怒り玉フトアリ。熱心をもて愛すとあり。永忍びたまふとあり。キリスト言難きの哭をもて祈

れりとあれば神は常二人の嗣を見たまひ常ニ眠りたまわず實ニ熱心を保ちたまふものなり。即ち神の世を思ひたまふ事ハキリスト天より地ニ降りたまふ程なり。また人を熱心ニ愛したまふ事ハ神が十字架ニ掛り苦を受けたまふ程也。又イエスは萬國ニ行き萬民ニ福音を宣べよと命じたまふたれば、萬民

を愛したまふ事知る可きなり。また今吾國ニも福音を宣べさせ給へは已ニ今吾國を顧みたまふ亦知る可きなり。

○神の言葉

「我口所^レ出^ル之言亦將^レ如^シ是^レ是^レ必^ズ不^レ無^レ果^シ而歸^ル吾^レ及^ビ必^ズ成^ル我^レ所^レ悅^ム者^ニ必^ズ利^キ達^ス於^テ我^レ所^レ遣^ハ之^ノ事^ニ」(以塞亞書第五十五の十二脱)

「それ神の言葉は生きてかつ能あり兩刃の劍よりも利く氣と魂と筋節、骨髄まで刺し割ち心の念と志意を鑿察ものなり」希伯四の十二

「天地は廢せん然れど我言は廢せじ」馬太廿四の三十五

「其の言の如く成る可し」馬可傳十一の二十三

然れは神の言は成れと命じたまへは天地も成り起きよと言たまへは死人も甦りたれば、今日も神の言は活き能あり。神の悦びたまふ事を成すべし。然れは婉言を用ゐるにも及ばず長き語を用ゐるにも及ばず、只神の口より出し言を用、只神の悦び玉フ所を語らば、聖靈其言の如く成就したまふ可し。神の思ひたまふ事成らざるといふ事なし。神の約束し定めたまふ事出来ざるといふ事なし。神全能の者にて天地も人類をも創造したまふ御方なり。併し只神は御自らの道ニ従ふて事を行ひたまふなり。然れば吾れ神の言葉を語らんとせばよく祈

り信仰を以て神の言葉の儘ニ神の前ニ於て語るべし。成ると信じて語り成ると信じて祈る可し。

神の言葉を語ると言ひ己の道を述べ或ハ人間の心ニ適たる事を宣べ或ハ神の御能ニ頼らず己の辨や口ニ頼り述ぶる事あり。是れ信仰の道ニ違ふものなり。故ニ説教するニ己の辨と力と學と思を用ゆ可らず。全く神ニ由り信仰を以て語る可きなり。

神の言ひ給ふ事ハ必ず應じ神の企てたまふ事ハ必ず成る可ければ、妄ニ己の考ヤ企を以て神の命といふて誤る可らざるなり。

「天に在す爾曹の父は求むる者に聖靈を豫へざらんや」路加傳十一章十三節

○神の御心

「神は金ニ持み位ヤ衣服を頼み高慢をもち肉欲ニ沈み惡を爲すを見て、之を嫌ひ惡みたまふなり。又一方から見れば神は彼らを視て可憐、瞽、裸、貧きもの、可滅氣の毒なる者と思ひたまふなり。

即ち神は世の智者、學者、論者、富者とふを賤めたまふなり。併し彼らが己の罪を知り悔改むる事を望みたまふなり。キリストハ誰を招きたまふや。

「凡て勞れたる者また重を負る者は我ニ來れ我爾を息ません」馬太十一の二十八

「一切を捨て、十字架を負ひ吾ニ來れ」(馬太傳の十六の二四脱)

「夫れわが來るは義人を招く爲ニあらず罪ある人を招きて悔改めさせんが爲也」馬太九の十三

「腹の裔よ誰が爾ニ來んとする怒を避くべきことを告げしや然れば悔改ニ符ふ果を結べよ(中略アリ) 善果を結ばざる樹は折られて火ニ投入らるべし」馬太三の七、十

然ればイエスは罪を悔ゆる者ニ來れと招きたまひ高慢其他罪ニ居り慢るもの或は學者、富人なる故、汝吾國ニ來れと招きたまわず、却テ罪を責めたまふなり。故ニ神は當地の官員、富人、貴人、學者、新聞記者らが道を信じて呉ればよいが、然れば道の助ニ相成ると決して思ひたまわず。神は彼ら高慢を嫌ひたまふなり。彼が己ニ頼り慢る罪を悔改むる事を欲したまふなり。

○神は今此市中人民大抵二萬以上の人々に何を知らせんと欲し給ふや。

「萬人救をうけ眞理を曉るニ至るは神の望み給ふ所なり」提

摩太前の一、四

「吾れこれが爲に立られて宣傳ふる者となり使徒と作り又信仰と眞理を異邦人ニ教ゆる者となれり」(提摩太前書二の七脱)

「一人の亡ぶるをも欲みたまわず衆人の悔改めニ至らんことを欲みて我儕を永く忍び給ふ也」彼得後三の九

「吾ニ言の智慧を用ゐしめ給はず是れキリストの十字架の虚くならざらん爲也」哥林前一の十七

「われイエスキリストと彼の十字架に釘られし事の外は爾らの中ニ在て何をも知るまじと意を定めたればなり」哥林前二の二

「未だ神を見しものあらず惟うみ給へる獨子即ち父の懷ニ在者のみ之を彰せり」ヨハネ傳一の十八

然れば神は神を彰すことキリストと其十字架の眞理を曉らしむる事人々を悔改めしめん事人々のミナキリストを信じて救はれん事を望みたまふなり。
之は誰かよく人民ニ知らするを得んや。

「天地の主なる父よ此事を智者達者ニ隠して赤子ニ顯はしたまうを謝す父よ然りそれ此の如きは聖旨ニ適へるなり(中略アリ) 父の外ニ子を識るものなくまた子及び子の顯はす所の

者の外ニ父を識るものなし」馬太十一の二十五、二十七

「ヨナの子シモン上爾は福也蓋血肉爾ニ示せるニあらず天ニ在す我父也」馬太十六の十七

「天父引ざれば吾ニ來るものなし」

「然れど彼すなはち眞理の靈の來らんとし爾らを導きて凡ての眞理を知らしむべし」約傳十六の十三

神の情は神の靈の外ニ知るものなし」哥林前二の十一

「信仰は聞くより出て聞くところは神の道ニ由る也」ローマ書十の十七

然れば神とキリストとキリストの十字架と神の眞理と神の聖旨と悔改ト救を眞ニ人民ニ知らしむるものは神とキリストと聖靈と神の言葉なり。吾らハその器となり用ゐらるゝものなり。此らより神と神の情を、世ニ彰するものはなき也。己ニ聖書ニ異邦人も猶太人も即ち萬人神を知るべき神の言葉あれば、之よりよく彰するものなからん。

○明日人々の神の言葉を聞き心ニ神を知りまた心刺さるゝ如く己の罪を悔ひ、またキリストの招きたまふ聲（神の）聞ゆるよふ信じて祈るべし。又此ノ言葉ト勸ト目的ヲ人ノ企として受けず實ニ神の言葉ナリト感ズルヨウ祈ルベシ。感ずるのみならず明晩招ニ應ズルモノアルヨウ祈るべし。キリスト此町

ニ誰を招き誰を選びたまふや。何日教會が設立するや。今よ知りたたまふなり。明日招キ玉フ人アリヤ。神ハ今知れり。

「此の町ニ我が多の民あり」使十八の十

○耶蘇に來れ、馬太十二の二八と九の十三

(1)耶蘇は如何なる御方なる乎。己ニ聞かれし如くキリストハ地ニ降りし事あり。今天ニ在り。萬物を支配し地球の有様を常ニ監みたまふものなり。聖書ニ「右の足を海の上にふみ左の足を地ニふみ」(約翰黙示録一〇の二脱)とあり。又「天は神の位ニして地は神の足臺になり」(使徒行傳の七の四九脱)と。是れ神ハ天地を造り常ニ之を宰り玉フ事ヲ云フナリ。然れば今迄吾國の人々神と思ひし如く偶像や太陽や海や山ヤの如きものニあらざるなり。凡テ是らは物ニして力なく、智なく、愛即ち憐とふある事なし。故ニ自ら動く能はず。物の道理を知る能はず。人の罪を犯スモ知る能ハス。罰する能はず。又救ふ能ハズ。又人を憐む能はず。如何となれば是らハミナ死物なればなり。

併し此の眞神ハ此の萬物を造り之ヲ動し之ヲ育て玉フ能あり智あり愛ある神也。故ニ天より人類を視或ハ憐み或ハ惡を怒り玉フナリ。又禍も幸も降し又未來ニもありたまふ神なり。「神は我儕各々を離るゝ事遠からざるなり」使徒十七の二十

「天知る地知る吾知る」と是れ誤也。「神知ル吾識ル」ハ眞也。故ニ神は昔より人間の惡を爲して悔改めざる時は天より罰を降し滅し給し事あり。ノアの時、ソドモゴモラの時其他惡を爲して止めざる國は亡びたり。

又神ハ人間の惡を悔改めしめん爲メ又眞理を識らん爲人間を顧みたまふ事ハ、天より神が自ら人間となり此世ニ降りたまひし事なり。又人間の愛したまふ事ハキリスト自ら十字架ニかゝり死し給ふ程なり。然れば之ニ由テ神は今も天より人の心を見たまふ事又人間を憐みたまふ事を可知也。素より吾國も顧みたまふ事ハイエス天ニ登りたまへる時、世界を廻り萬人ニ福音を宣傳へよといへり。又キリストの言葉ニ「地より舉られなば萬民を引きて吾ニ來らせん」と。

(2)然れば今キリストは萬民を招き給ふを信ずるなり。併しキリストの招ハ如何なる招き乎。又誰を招き給ふや。

神ハ官員、學者、金持、貴人、智者を招き玉フヤ。もし彼らが道ニ入らば金も集り學問もあり人望もありて早く道が廣まる助となる故、彼らが早く道ニ入るを望み玉フヤ。決して然らず。神は人の學ヤ智を頼みたまはず。神は宇宙を造る智あり。何ぞ人の智を頼まんや。又金を要せず神ハ世界中の萬物

を持てり。又人の力を頼まず彼らを造る全能のもの也。神は彼らが神の恩を忘れ己ニ慢り其心中如何を察したまふなり。

然るニミナ惡を計れり。然らば貧きもの無學なるもの下等社會の者は如何。是らも惟々己の欲を求め賤しき無知獸心を持てり。即ち肉體弱きものは此頼ニ足らず眞と神を求めず又食の乏き故世を頼まず神を頼むを忘れ、只乞食心もち、もし食を與れば如何なる恥をもかまわず眞理を教ゆれば更ニ求むる心なし。

ローマ書三章十一、十八ヲ視ヨ

然ればキリストニ招かるゝ人一人もなきや。然り己の價ヤ行ニ由テハ一人も神の意ニ適ふ人なし。

(3)併し神ハ凡テノ天子も官員も學者も智者も金持も貧人も貴人も賤者も神の前ニハ無隔ミナ罪人、賤しきもの、憐ナル者、愚ナル者、迷タル者、滅ル者、髻裸ナル者として之を憐み、彼らが悔改めん事を望みたまふなり。

○提摩太前二章と○彼得後三章九ヲ視ヨ。

然れば神は萬人眞理を曉ル事と己の罪人たるを知る事、神を知る事、救主を知る事と而して罪を悔改めて救はるゝ事は萬人ニ望みたまふ也。是れ神の愛なり。故ニ神ハ人間ニ良心を與へテ行を責め、又眞理を宣べて眞を教へ、然れども人間ハ

背く故之を責め懲め鞭ち或ハ禍、或ハ天災、地異或ハ失敗等ヲ以テ懲しめ玉フナリ。又キリストの十字架の愛其他神の恵をあたへて人間ニ己の罪人たる事弱き事神の刑罰の來ル事を知らしめ、罪を悔改むる事を勧め玉フナリ。(一)良心(二)神ノ威光(三)神ノ愛

(4)神ノ懲ト眞理ト愛ニ由テ己ノ罪人タル事。憐なるものなる事、可死事、可罰事、愚ナル事、弱き事、汚れたる事を知り、深く悔ゆる者あらば、神は此人を吾ニ來れと招きたまふ也。「凡て勞れたる者重を負へる者は吾ニ來れ我爾を息ません」馬太十一の二八

「罪ある人を招きて悔改させん爲也」馬太九の十三
 (5)イエスニ來らば、罪免され心潔り心ニ平和を得又光を得、無限生命を得眞の安を受くべし。

○常ニ肉の事を念はず靈の事而已を念ふべし。肉の事を爲スモ靈の爲ニ爲す可し。

○汝一人ニテ天國ニ入ルヲ好マザル乎。

「また天國は畑ニ藏たる寶の如し人みいださば之を秘し喜びて歸へり其所有を盡く賣りてその畑を買ふなり」馬太十三の

四四

「招ルゝ者ハ多く選ルゝモノハ少シ」汝選ルゝ事ヲ好マザルヤ。

「其路を得る者少なり」馬太七の十四

「一人はとられ一人は遺さるべし」馬太二十四の四十一
 ノアとロトとエリアを視よ。

○神と偕ニ在リテ働く可し。

(一)神の言葉ハ聖書ニあり。

(二)神ハ祈禱ヲ聞き玉フ約束

(三)キリストハ世の終まで信者ト偕ニ在リ玉フ約束

(四)聖靈を降し玉フ約束

(五)神は常ニ信者を導き寄り玉フ約束

然れば萬事祈る事聖靈を受ける事常ニ神より指揮を受けて働くこと書を學ぶより辨を振ふより己の力を頼むより何より能あり益あるものなり。日々之を怠る可らず。

(一)聖書を読み神の聖旨を調ぶる事之を感じ守る事 (二)聖書をよく用ゐる神の言葉を言フコト (三)聖書の奧義を研究スル事

(四)祈禱スル事 (五)神ト偕ニ居ル事

此人ハ善き故、道ニ入ると思ふ勿れ。此人救はれなば幸と思ふ可し。吾モ人ノ力ヤ金ヤ位ヤニ決して頼る可らず。只信仰ニ富むべし。是れ萬事を爲さん。又心の疑に弱キ時神ニ行祈

る可し。聖書ニ求むべし。此祈禱と聖書より智力と光ト安ト
潔を得可し。

○心と情

情は心ニ從フテ起るものなり。故ニ心の善選あらば善き情起
るべし。情はヒジカル律ppとして只良心ニ從ふもの也故、心を
よく保たず情を保たんとするとも得可らざるなり。良き本心
を保ちて之ニ從フ情は罪ニあらざる可し。

○孔子ノ語

徳ノ修ラス學ノ講セス義ヲ聞テ移ル能ハス不善改ムル能ハス
是我憂也 論語

陳蔡ノ間ニ苦シメラル、時ニ弟子ニ問テ曰ク我道非ナル邪

子貢答テ曰ク夫子ノ道至テ大ナリ天下能ク容ル、能ハサルナ
リ十八史略
卷ノ一

八月七日

本間氏安藤氏と共に波瀨村ニ至り、中村彌太郎氏及平兵衛氏
ニ逢ひ種々の忠告を爲し、今夜ハ平兵衛宅ニ於て説教す。聽
衆四十五名ありし。

八月八日

朝 中村氏宅ニ於て共ニ聖書研究及祈禱して津ニ歸へれり。

八月九日○窄き門より入れよ

(1) 窄門の意味

(一) 肉欲 (二) 友即ち隣の惡

(2) 友の少き事

(3) 生命の望ある事

(4) 勝を得る事

(5) 友の多き事

八月十日○説教之事

○人は各々神より光を保ち信任ス

ル所と心ニ求めんとする處あり。故ニ説教者は深く人心の信
ずる處と需要之點を察せざる可らず。之の二點明ならば眞理
ニ導くこと易からん。

○信仰は聞より出でとあれば是れ書物を讀むより起るニあら
ず。聖靈を受けたる人の口より出づる語を聞くより起るなれ
ば、新聞より書より尤も能あるものは説教する事也。

ムーデー氏でもフキニー氏でもホワイフィールド氏でもミナ
大抵毎日幾千之人々に説教せり。今日世を動し神の國を來ら
しむるは説教ニあり。本を讀む能はざる人も之を聞く事を得
るなり。其語は神の道ニあり。吾は選ばれたれば宣傳ふるも
のとなるべし。

The Sermon

For preaching is a testimong, of the
Rouealed truth unquestionly' but as
this has become truth and like in ou-
rseves.

"about the written word" says Suther, "the devil does not trouble

himself, but where it is powerfully proclaimed, there he cures”

福音の奥義

その奥義は即ち異邦人福音ニ由りキリストイエスに在りて
同に嗣子となり同ニ一體となり共ニ約束に與る事を得ること
也——

且つ「イエスキリストを以て萬物を造りし神の中に世の初
より以來かくれたる奥義如何を衆の人ニ悟らしむ」以弗所三
の六一九

「我儕の主イエスキリストの神榮の父智慧と默示の靈を爾
らニ賜ひ爾らをして神を識らしめ」以弗所一の十七

「其奥義ニ循ひて我傳る福音及び我説處のイエスキリスト
の教訓を照し」ローマ十六の二十六

「我儕の語る所ハ祕密の神の奥義の智慧なり」是れ十字架の
奥義也。コリント前二の七

「この道は歴世歴代隠れたりし奥義なりしが今其聖徒ニ顯せ
り神聖徒をして異邦人の中ニ顯し奥義の榮の如何ニ豊なるを
知らしめ給へり此奥義は爾曹の中ニ傳へしキリストなり彼は
爾曹の望む所の榮の望なり」哥羅西二章の二十六・二十七

「我儕かれを傳へ諸人を勧め諸般の智慧をもて諸人を教しへ
諸人をしてキリストの中ニ完全を得て神の前ニ立しめんとす

我これが爲に大能をもて我衷に働くものの運用に循ひ力を喝
して勞する也」哥羅西一の二十九

○然らば吾らが選ばれ神の奥義として傳ふるハキリストナ
リ。キリストハ眞也。途也。生命也。又神の愛の顯れなり。

キリストを識るものハ神を識り眞理を識る也。キリストニ倣
ふものハ完全なる人也。故ニ常ニキリストと偕ニ在り。キ
リストを宣ぶる事を忘る可らず。もし之を忘る時は已ニ心誤れ
り。故ニ能なく感化なく聖靈の御患なく神の憐ある事なし。

もし毎日一生中のみならず永遠キリストの奥義を宣るとも、
盡る事なく倦む事なからん。

「靈は萬物を究知また神の深事をも究知るなり」哥林前二の
十

「あ、神の智と識の富は深哉其方度は測りがたく其踪跡ハ索
ね難し」ローマ十一の三十三

「又キリストをして信仰ニ由て爾曹の心ニ居らしめまた爾曹
をして愛ニ根し愛を基として諸の聖徒と偕ニ測る可らざるキ
リストの愛を知りその調さ長さ深さ高さを識しめ又すべて神
ニ満るものを爾曹に満しめ給はんこと也」以弗所三17ノ19

「既ニ爾ら時を経こと久しければ人の師となるべきものなる
ニ今又神の示し給へる教の端を教へられざるを得ず爾曹は堅

き食物（二字不明）じて乳を用る可き者となれり」希伯五の十二

「教會は彼（キリスト）の身體也萬物をもて萬物ニ滿しむる者の滿る所也」以弗一の23

「それ神の充足る徳は悉く形體を爲してキリストに住り」哥羅西二の九

「夫れキリストは萬物の上ニ在り又萬物の中に在り」哥羅西の十一

Christ is all, and in all.

「イエスキリストは昨日も今日も永遠變らざる也」希伯來十三章の八

舊約全書新約全書ニもキリストとキリストの十字架滿つるなり。

故ニキリストを宣ぶるの外は何もなし。人もし（或ハ吾）キリストを信ぜば罪免され平安を覺ゆ。もしキリストを識らば眞の慰を得もしキリストを識らば心ニ愛の結果を得もしキリストニ來らば心満足せざるはなし。もし人キリストを悟らば光を見ざるなし。神を識らざるはなし。キリストは光と安

ト慰ト能と眞理ト救と生命の源となり。之ニ就き飲むべし。

「凡て過ク者歎來テ就^レ水無金者爾ら宜^ニ來買^テ而食^ル來無^キ金

無^キ價買^テ酒與^ル乳」〔以賽亞五十五の二〕

爾胡爲^テ不^レ足^ニ以爲^ル餅者權^ニ金乎。胡爲^テ不^レ足^ニ以^テ擊^ク心者^ニ而^{シテ}勉^ム勞^ス乎」〔以賽亞五十五の二〕

「我が豫ふる水を飲むハ永遠渴く事なし」Jhop 4:14

故ニ爾罪の爲苦む時能なき時智足らざる時可行途の知れざる時憂る時凡ての時ニ於てキリストニ行くべし。求むる者は得尋る者は逢ひ門を叩く者は開かるゝなり。

吾らキリストを忘れ道を説んとする故ニ失望し種子盡き能なく或ハ高慢となり種々の誤りを爲す也。然しキリストを宣ぶる事を忘れざれば心ニ恵水の如く湧き出づべし。

「人もし渴かば我ニ來りて飲め我を信する者は聖書ニ録しし如く其腹より活ける水川の如く流れ出づべし」約七の三十七

「彼（聖靈）わが（イエス）榮を顯さん蓋はわが屬を受けて爾曹ニ示せば也」約十六の14

故ニ聖靈はキリストを顯したまふものなれば、吾らもしキリストを宣べざれば聖靈の御助を得る事なかる可し。

○吾國の穢ニ付き

聖書ニ男子ハ兄弟とし女子は姉妹とすべしとあればたとへ未信者ニしても兄弟姉妹なれば、彼らの中たとへ汚れありとも恰も吾肉體の父母・兄弟・姉妹の如く、之を思ふだに憂とし

之を見るにだに嫌ふ事として心ニ惡き想像を持たず却て憂とすべし。ノアの三人の子の中二人ハ親の裸體を見るを厭ひ反行して衣を覆へり。今日世の男女裸體を顯はすを見れば其心ある可し。

○心の恣鏡第二章

今吾國の事情を察スレバ上ヨリ下、老ヨリ幼ニ至ルマテ男女の間、腐敗シ、實ニ口ニ言ふニだニ恥ズベキ事ヲ行ヒテ、恰も昔ソドモゴモラの町の如く又其中ニ清潔ヲ守テ世の穢汚ヲ憂フ。基督信徒ハ彼の義キロト惡キ者の淫亂の行を恒ニ憂へたがる如し。

「この義人かれらの中ニをり日々その不法の行を見聞して己義き心を傷めたり」彼得後書二の八

然レドモ惡魔ハコノ義キロト家ヲモ穢汚ニ陥レント欲し、已ニロトノ門ヲモ破壊セントセリ。ロト終ニ防グコト能ハザラントスル時、神ハ天使を以テ彼ヲ救ヒ惡魔の威勢ヲ挫ケリ。如是今日モ惡魔ハ恒ニ義ヲ守リ世ノ腐敗ヲ憂ル信者ヲモ試ント欲スルナリ。到底吾曹己の力ヲ以テ防キ盡ス能ハズ。聖靈の御手ヲ以テ守ラレズンバ實ニ危キ戰爭ヲナスモノナリ。然レドモ吾曹信仰ニ由テ世ニ勝つことを得るハ感謝スベキ事ナリ。素ヨリ基督信者ハ品行上其罪ニ陥ル事ナシト雖モ、實ニ

慎ミ信仰ト智識ト能力ヲ以テ戰ハザレバ、心の内(二字不明)罪穢ニ陥ル事アルベシ。故に吾ら智識ヲ廻して惡魔の奸計を認め神の武具を身ニ裝ひ聖靈の刃を以テ之と戰ハザル可らず。

イエス曰く「凡そ婦を見て心の中色情を起すものは中心已ニ姦淫したるなりもし右の眼爾を罪ニ陥さば抉出して之を棄てよ蓋五體の一を失ふは全身を地獄に投入らるゝよりは勝れたり」馬太五の二十八と二十九。罪の存する所ハ何處なるや色情なるや婦を見し心なるや。余は婦を見し心なりと考ふ。何故婦人を見しや。其見んと欲せし心惡からざんや。情ハ心ニ從フモノナリ。心正ケレバ情正しく心惡ケレバ情之ニ從フ。

素ヨリ吾國ニ住む者ハ目ニ裸體を見耳ニ醜言を聞くと雖ドモ、良心善ヲ選ビ其目的善なれば情ヲ制スル事ヲ得べし。然レドモ心惡ヲ選ビ其情ヲ制セント欲スト雖ドモ、何ゾ得可シヤ。故ニ裸體ヲ見度思ヒ、汚レタル話ヲ聞度穢レタル場所、穢レタル人、ノ内情ヲ察シタク思ヒ、凡テ斯ル事ニ注意スル者ハ心已ニ好色ノ罪ニ陥リタルナリ。汝何故乎心かゝる穢ヲ見聞スルヲ得ルヤ。ロトハ不法の行ヲ見聞して義き心ヲ傷メタリトあり。吾ら妻タル者ハ世界中一人ニシテ余ハ吾が父母、兄弟、姉妹ナリ。吾らもし血肉ノ父母、兄弟、姉妹、

裸體ヲ顯ハスヲ見バ如何、必ズ心ニ嘔氣を生じ目ヲ轉ジ之ヲ見ルヲ好マザラン。又若シ彼らの醜汚ノ品行ヲ見聞セバ必ズ憂フベシ。吾曹裸體ヲ見ル時ハノアノ子セムとヤベトニ倣フベシ。彼等ハ父ノアノ裸體ヲ見テ衣ヲ收テ肩ニ仔ヒ反走シテ前ミ父の裸ヲ蓋ヒ首回顧セズ、父ノ裸ヲ見ザリシ。然レドモハムハ父の裸ナルヲ見テ兄弟ニ其恥ヲ語レリ。故ニ彼ハ詛ヲ受ケセムトヤベトハ祝ヲ受ケタリ。今日吾らの四方ニ在ル男女ハ吾らの父母ナリ。兄弟ナリ。姉妹ナリ。その裸體ヲ見バ心ニテその裸を蓋ひ回顧シテその裸を見る可らず。

※「身の光ハ目也若しなんぢの目瞭かならば全身も亦明なるべし若し爾の目眊らは全身暗かるべし是故ニ爾の中の光もし暗からば其暗きこと如何に大ならず乎」馬太傳六章の二十二、二十三

※「老人を責むること勿れ之を父の如くし幼者を兄弟の如くし老たる婦を母の如くし少女を姉妹の如くし」と提摩太前書五章一、二、せつニあり。而して妻たる者ハ只一人のみなれば聖書中少女ハ妻の如くせよと教へたる事なし。

八月十一日

○説教の事 説教スルトキ飾リト序言ト其他凡テ已ニ人々知りし事ヲ言ふ可らず。説教は人の發見せざる眞理を其人の心中

ニ了解すれば其ニて足れり。故ニ可成語を短くして言ひ心中ニ覺ゆる簡略必要の語を語る可し。長きハよきものニあらず。聖書ニ記したる語ニ倣ふべし。聖書の語ハ飾なく眞理の在る處を顯はせり。

○受るよりも與るは幸なり

一日の中人の爲に何も爲さずして暮さば、是程苦しきものはなく、人の爲に善を爲す程樂きものなし。

八月十二日

キリスト吾の罪を赦シ吾の過を忍び又吾が爲めに生命をも捨てたまひし事を思ひ、吾も人の罪を赦しました忍ぶべし。

又愛は己の事を忘れて眞二人之事を顧み其の益を計り、また常ニ忍び、溫柔尊從の徳を保つ可きなり。

○人もし主イエスと偕ならば幸を得ざるといふ事なし。

「われら見しところ聞し所を爾曹に傳るは爾らを我儕と同心ならしめん爲也、我儕は父及び其子イエス、キリストと同心たり我儕この書をかき贈りて爾らの喜樂を充しめんとす」

1st John 3:4.

無學なる人ニても學者ニても病人ニても貧きものニても女も小兒如何なる人ニてもイエス、キリストと同心なる事を得ば、眞の喜樂ニ充ざるものなし。故ニ人ニ幸福を與へんと欲

せば、主キリストを宣べ人々をキリストに導く可し。

○神の子は水と血をもて臨る [1st John 5-6]

(1)神は三位一體なること

(→無限者と有限者の區別)

○空間 ○神の生 ○神の能 ○神の智慧 ○神の愛 ○

神の其他の性質

「あゝ神の智と識の富は深かな其法度ハ測り難く其踪跡は

索ね難し」 Romans 11:33

吾儕は限あるもの也。故ニ吾らの智の限り能の限りまでは

神の無限事を知るを得べし。

(2)神の子は水と血をもて臨る

(一)水

(二)血

(3)證を爲す者は靈なり

終神の子をもつ者は生を有つ

○精神と能力を盡し神と人とを愛せよ

智慧の有丈力の有る丈金の有丈を十分ニ盡して神ニ事へ人を

愛せば、満足せよ。是れ神の前ニて全きものと云ふ可し。

「爾心を盡し精神を盡し意を盡し主なる爾の神を愛すべし」

馬太廿二の三十七

「各々の智慧に従ひて或者には銀五千或者ニは二千或者には
一千を與へおき直ニ旅行せり」馬太二五の15

神は其人の(一字不明)ト力量ニ應じて求めたまふなり。

「多く與らるる者は多く求めらるべし多く托れば之より多く

求む可し」 Luke 12:48

「神の各人に賜りたる信仰の量に従ひて公平に思念べし」

Romans 12:3

故ニ汝神の聖旨ニ適はんとせば他ニ智慧や力を求むる事な

く、今有る物を以テ十分神の旨ニ適ふよふ決心す可し、然れ

ば(一字不明)ニ與へらるべし。又聖書ニも他ニ智や力を求

むるニあらず

今有る物をもて神ニ全く従ふ事を教ふる也。

故ニ汝今知りし事を信じ行ふ可し。さらば救わるべし。

故ニ説教者は種々の事を教ゆるニあらず。今有る物をもて神

ニ全く服する事を教ゆ可きなり。

即ちキリストと神の命を教へば、今有る物をもて神ニ事するの

道を知る可きなり。

八月十三日

○神の命を一々爲すべし

神は其時ニ應じ或ハ説教す可く或ハ聖書を教ゆべく或ハ祈る

可く或はすゝむべく或ハ研究すべく命じたまふなり。故ニ其時ニ應じ其事を成就すべし。熱心ニ即ち全心全力を盡して之を爲すべし。

○証すべし

ヨハネ。主キリスト其後十二使徒又信者は常ニ福音の証者なり。吾らも其證者なれば常ニ証す可し。

○説教の精神

説教する眞理ハ先づ吾心中ニ入りて、吾生となり形となり精神とならざれば力なし。即ち神の眞理ニ感じ人の心を同情をもて憐み 身自ら其中ニ居り生たる言葉となり口より出でざる可らず。

即ち神と偕ニ居り人と偕ニ居り互の情ニ感動して只出づるもの也。

八月十四日

久居ニ於て、午前、默示録研究及説教。伊藤老人の洗禮の試験。又阿村老人（八十八）、深く感じ洗禮を受けるの決心ありたり。

八月十五日

波瀬村ニ於て説教。中村氏大ニ信を増せりと、今日は大ニ神ニ感謝せり。

又郡山教會ニリバイバルありしの報を受けたり。

八月十六日 安息日

久居より三名の姉妹來られ共ニ祈祷と集を爲せり。大ニ皆々藏ぜられたり。

又櫻井健吉氏のバプテスマの試験す。

○此の一生を慎みて誤る勿れ。如何となれば此一生ニ由て未來永遠の禍福定まり 永遠變らざるの形を今世の生ニ於て鑄れば也。

○今夜は「今は恵の時也今は救の日也」てふ題ニ付き説教す。

聽衆大凡三四十名ナリ。

八月十七日

○此週間の仕事

(一)十七日(月) 中山氏宅ニ於

祈祷會

(二)十八日(火) 梅田氏及辻本

氏を問ひ安息日之事ヲ教ユ。此節健吉氏を

も携ふべし。

(三)十九日(水) 説教

(四)二十一日(金) 夜、默示録研究及祈祷會

(五)二十二日(土) 朝、説教及洗禮試験決議

夜、祈祷會

書狀、安藤氏
綱島氏
山口縣に冊紙
ヲ送ル事

(丙)二十三日(安息日)(午前九時ヨリ) 聖書研究

(午後三時ヨリ) 洗禮、晚餐

(一)讚美、(二)祈禱成瀬 (三)歌 (四)説教安藤

(五)バプテスマ (伊藤老人、河村阿、及五味小兒) 成瀬

櫻井能吉

(六)晚餐説教 成瀬

(七)初、祈禱 安藤

(八)終、祈禱 成瀬

(夜) 感謝祈禱會

(乙)二十四日(月) 説教會 (一)齊藤氏

(二)中山氏

(三)成瀬

(四)安藤氏

(丙)二十五日(日) 或ハ(二十六日)ニ中津ニ於テ説教開イテ
ハ如何。

○説教題

○「惟この一事を務む」腓立比三章十三

(二十二日の説教)

記 ○「今は恵の時也今は救の日也」哥林多後六の二

久居 二十四日の説教

日 ○「主キリストの肉と血」晚餐ノ説教

○「密室の祈禱の必要」祈禱會

※「祈禱之事」水曜日説教

八月十八日

○能ある説教は神の聖靈ニ感じ、聽聞人の現在の敵ニ向テ戦ひ

また救ひ、只空を撃たず目的ヲウチ、或ハ敵ヲタラシ或ハ擒

ヲ殺シ自由ヲ與フベシ。即ち現情現實ニ就テ熱心の目的ヲ以

テ説教す可きなり。

○善戦を戦ふ可し。汝ち常ニ戦止めりと思ふ勿れ。汝ち天ニ達

する迄ハ惡魔は常ニ現ニ戦ふものなれば、之ニ向テ戦ふ可

し。戦ふ時は能ト熱心ト智ト祈禱と信仰と實ニ必要なり。ダ

ビデ戦を休み怠りし時惡魔の擒となれり。故ニ常ニ慎む可き

なり。

八月十九日

○「汝曹道を行ふ者となるべし」 James 1:22

(一)「聞くことは速ニし語る事を徐ニし怒る事を徐ニすべし」

(是れ感情ニ從ハ心眞理を先づ求め之ニ從べし。)

「多言必不能無罪禁其唇者有智」 Provt10:19

「守レ口者保レ命嗚レ唇者亡」箴十三の三

「未レ聽事之先而應之者必視彼爲癡爲辱」 Provt18:13

「易怒者行癡」 dverhol14.17

(上記の英文一行不明)

「緩怒者愈於雄師治己心者愈於取城」箴十六の二十

「爭端之起如水之破隙故於木衝突之先宜遠之」箴言

十七の十四

是れ多く人々己の事を後にし、人の事を罪し審判し人を怒り

誘り、己の罪を顧みざるなり。

故ニ多く罪ニ陥るなり。又人を教へ度又人の信者ニある事のみを思ひ、自らの行や救を心ニ注意せざるなり。

故ニコノ過を咎し己を省み己の罪ト不潔を去り、己の靈魂の

救を先づ求むる事をおしへしものなり。(馬太傳七の一

五)を視よ。

何をもて己を省るや。神の言葉聞き之ニ照して己の心の姿を

見る可きなり。

(1)自分の顔を自分ニ見る事かたし。必ズ鏡を要するなり。

(2)只神の言葉ニ照されは明ニ分らず。

(3)然る後何を爲す可きや。

「道を行ふものとなるべし」(雅各一の二十二)

(二字不明) 道聞き眞理と感じ又己の心の罪なる事行の惡

き事も感じ、又己の何爲事も感じ、之を行はず、此處を出で

直ニ忘るゝ者は「それ道を聞くのみニして之を行はざる者は

鏡ニ向ひて本來の面をみる人ニ似たりかれ己を照し觀て去りし後直ニ其如何なる相貌なりしかを忘る」雅各一の二十三—二十四

又「彼ハ善き饗應ニ招かれ其席ニ到り其珍味の馳走を食せずして歸へる人の如し故ニ眞ニ其人ハ其味を知らず又己の力ニも徳ニもならざる人の如し」

故ニ道を行ふ者となるべし。

(1)己の罪を知らば之を悔改むべし。

先づ神の赦を得るまで神ニ祈るべし。即ち良心ニ聖靈の証を得て安を得るまで祈る可し。己を欺く勿れ。

(2)眞理を行ふ決心すべし。是れ難き事なり。如何となれば心

肉欲ニまとはれ惡魔の奴となれば也。如何せば決心出来る

や。

(3)眞理を識る事「眞理は爾らニ自由を得さすべし」 John

8:32

(4)祈りて聖靈の御恵を受くべし。

「聖靈ニよりて身體の行爲を殺さば生く可し」 Roma,

8:13

(5)永遠の可行道を定め望を堅すべし。

(6)「自ら守りて世に汚されざる事」

吾ら天國ニ行くの決心し神ニ従ひ神の道を守り心を清くし神を愛し人を愛するの目的を保つも、之ニ違ふる迄は必ず多くの敵あれば、之と善く戦ひ、自らの心を常ニ守らざれば心を潔する事能はざるなり。

「心を治むる者は城を取るニ優る」故ニ道を歩むも肉の誘あり。家ニあるも罪の導あり。或ハ肉或ハ友或ハ世の物或ハ悪の魔の誘とふ常ニ信者の心ニ向テ戦を爲し、其義き心を倒し、之を汚さんとする敵あれば、常ニ祈祷と聖靈と神の武具を以て、戦はざれば、神の道を行ふ事能はざる也。

(結尾) 兄弟姉妹よ、今説教を聞き又外ニ出で、忘れんや。今より決心して神の道ニ従フべし。内ニ歸へり一人ニて密なる室ニ入り神の前ニ出で祈りて一々己の心を神の前ニ調べる罪あらば悔改めよ。キリストの救主なるを信せば早く任せよ。キリスト曰く、信じてバプテスマを受けるものは救はれ、信ぜざる者は罪ニ定めらると。然ればバプテスマを受け天國ニ入り一生神の命ニ従ひ兄弟と約を結び交る事を今夜決心せよ。併し眠タキ肉欲汝を妨ぐべし。人情汝を妨ぐべし。よろしく肉ニ戦ひ勝ち救を得可し。恵之時救之日を徒ニ過す可らず。

余二三ヶ月此處ニ止り道を語れ。願くは愛兄弟ら早く決心して全く救はれよ。久居之一人の老人及當地一人の兄弟は決心して道を行ふものとなり、次の安息日ニバプテスマを受けるものとなれり。願くは今迄道に感ぜられたる諸愛兄弟も今より道を行ふものと爲られん事を

○道を語る心得

吾ら敵ニ勝つニも罪を悔改む事もキリストの愛ニ感ぜしも深き情ありたれば、亦人ニ語るも其人の靈の救ニ感する一大事を語る事故、熱心の祈祷と斷食をもて感靈ニ感じて宜ぶべきなり。

又神の聖靈ニ感して宜ぶべし。さらば聴くもの亦た聖靈ニ感じて罪を悔改むべし。

○人の救はるゝ事自由を得る事ハ同様にて、等しく窄き門ニ入る爲に力を盡し、常ニ善戦ひを戦はざれば、入る事六ヶ敷なり。

故ニ牧者はキリストの心を持ち、人之爲に己の生命を捨て眞の憐をもて働く可きなり。

故ニ説教する時は深く其人々の情ニ感じ、又神の聖靈ニ感じて言ふ可きなり。

「柔弱者には我柔弱者の如くなれり是れ柔弱者を得ん爲也又
すべての人には我その衆の人の狀ニ循へり是れ如何ニもして
彼ら數人を救はん爲也」 1. Corinthians 9: 22.

八月二十一日ヨリ八月二十四日

二十一日の夜、久居ニ於て黙示録研究を爲し。

二十二日朝、説教(リバイバル)及洗禮試験。夜祈禱會

二十三日朝、九時より聖書研究及洗禮試験す。午後二時より

安藤乙三郎氏説教。後ち大人四人小兒二人に洗禮を授け祈禱

す。後晩餐を守れり。

大ニ神の御恵を受けたり。

夜は感謝祈禱會を爲せり。

當日は凡て感謝喜悅滿てり。感涙せしもの數人あり。

八月二十四日(久居)

○「今は慈恵の時なり今は救の日也」

(1)「それは既に草の如く其榮は凡の草の花の如し草は枯れそ
の花落つ」彼得前一の二十四

「朝^{アサ}華^{ハナ}而^{シテ}即^チ逝^ル暮^ノ刈^ル則^チ稿^ノ我^ノ儕^ノ歷^ス年^ノの^日有^リ七^十年^ニ或^ハ康^強
至^リ八^十年^ニ其^ノ壯^健惟^ニ憂^ヒ惟^ニ難^ム蓋^シ其^ノ遂^ニ之^レ速^ニ而^{シテ}我^ノ儕^ノ即^チ飛^去
ス^ル」詩九十の十。

(2)未來の事 (一)人の本心 (二)神の言葉

2nd Corinthians 6:2

(3)實ニ短き此世ニ在る時は、吾儕の爲めに世の初より永遠無限
後ニ至るまでニ取て尤も肝要の時也。

如何となれば生命を得る時は今也。天國ニ入る時ハ今也。罪
の赦され恵を受ける時は今也。果を結ぶ時は今也。勝を得る時
は今也。今此らを得は永遠無限之を得て失はざる也。もし今
の時今の日を徒く過せば復び之を得るの時得るの日は來らざ
るなり。即ち人間永遠の禍福は此短き間ニ得らるれば也。

(a)「穡時已逝^リ夏已畢^ル而^{シテ}我儕未^レ獲^ル救^ム」耶利米記八の二十
力を盡して勞する時

(b)戰^争の時

(c)馳^場を趨^ルの時 哥林多前九の二十四

(d)危^キ時

(e)門^ニ入^ルの時馬太傳廿五の十

即ち待つ時

四終 今愛する兄弟ニ勸むる理は汝曹の恵の時救之日なる故
也。今ハ春の時故汝ニ勞する事をすむ。もし冬來らば之を
すめず。又今ハ汝幼き時故勉強をすむ。汝已ニ老ひ八十
九十二ならば學問するをすめず。今ハ神もキリストモ聖靈
も信者も汝ニ之をすむ。此すむむる時徒ニ去らば後ち救之
日ハ來らざる也。

八月二十五日（久居）

雲津川ニ於て親睦會を開けり。最（一字不明）狀なりし。

八月二十六日（津ニ歸へれり）

説教の譬は其人のよく知りたる事を用ゆべし。然らざれば譬ニあらず。即ち譬ニまたたとへを用みざる可らざるなり。

○信者を導くも未信者を導くも同様にて、眞の愛と信仰と謙遜を以てす可き也。

○キリストの恩ニ由テ救はるゝ如く亦キリストの恩ニ由テ働くことを得る也。故ニ己の行ニ由テ救を更ニ望まざる如く亦己の力ニ由テ働かんと望む勿れ。即ち信仰ニ由テ勝を得べきなり。

○聖靈を消す勿れ。信者ニは聖靈争ひたまふニより故ニ罪を犯すこと能はず。

○説教は言葉を多く言ふニあらず。只眞理を人心ニ悟らしめば其にて足れり。故ニ警言を言ふ勿れ。

○神ニ在リテ神を信じて言ふ可し。人の情ニ動されて信仰を落さざるよふ慎むべし。

人神を識らざれば罪を悔改むる事なからん。

○永久の事 キリストニ従ふ事又戦ヒ人を救ふ事人の死を憐み救はん爲ニ働く事ハ決して一日や一度の事ニ能ふ事ニあら

日記

ず。常ニ同じ心ト一筋の心を以て働かざれば、己の靈ト人の靈を救ひ能はざる也。又是れ全く神の聖靈の御働なれば常ニ其信仰を落す可らず。

○僧侶ヤ神官らの説教ハ芝居の役者ヤチヨンガリ、ジョウルリの如き類にて、只一時人の感情を起さしめんと欲する而已。

（以下覺書）

森 寛

「無臭肝油館」大阪淡路町貳丁目、日野九

「傳家寶」大阪唐物町三丁目五番地「兎屋誠」

明治十八年九月十五日より

十月二十七日まで

(表紙)



九月十五日

○神ニ榮ヲ歸す可し

「これ凡の大神の前ニ誇るることなからん爲也」哥林前一の二

九

「我は衆の使徒よりも多く勞たり此ハ我ニあらず我と偕ニあ

る神の恩なり」哥林多前書十五の十

「又賜はりし多の默示に因りて我が做ること無らん爲に一の
刺を我肉體に與ふ」哥林後十二の七

「自ら譽むる者あり我儕敢て之と匹び之と較ることをせず然
れど彼らみづから互ニ度りみづから互ニ較れば智なきもの
也」哥林多後十の十二

「われ爾らニ評られ或は人ニ評らるゝを尤も細事となす我も
自らを評らず我自ら省るニ過あるを覺ず然れども此ニ因て義
とせられず我を評る者は主なり然れば主の來らん時まで時
いまだ至らざる間ハ審判する勿れ主は幽暗ニある情を照らし心
の計謀を顯さん其時おのゝ神より譽を得べし ○又この世
ニ在りて家宰ニ求むる所は其忠信ならんこと也」哥林多前書
四章三―五「種るもの灌く者も數るニ足らず唯貴きハ長る所
の神なり」哥林多前三の七

故ニ十二使ニしてもムーデー氏もフキネー氏もホイトフキー
ルド氏ニテモ譽むべきニあらず、彼らニ頼りて働きたまふ神
を譽むべし。神ニ榮を歸す可し。又神の恩を受けたるを誇る
勿れ。只謙遜なれ。吾は高慢・姦淫を行ふもの・偽を言ふも
の・嫉奴・思むもの・弱く・汚れ・過多きもの也。即ち罪人
の首也。然れども信仰・愛・力・熱心・希望・其他の徳は、

女神の賜なり己より出づるものニあらず。神ニ榮を歸すべし。

「父の行ふ事を見て行ふの外は何事をも行ふこと能はず蓋すべて父の行ふ事を子も亦行へばなり」約傳五の十九

天下ニ譽むべき人ハ一人もなきなり。ムーデーアリアフイネアリホイトフキールドアリルテラアリト雖ドモ、是れ神の聖靈なり。故ニ神を譽むべし。又凡てのリバイバルモ人の起したる如く其人を譽めず、之を起したまへるものハ聖靈なれば聖靈を譽むべし。誰か日本ニ大リバイバルヲ起す人あらんや。否ナ決してなし只一人あり是れ聖靈なり。

たとへは余レビツ氏ニ説教を教へてもらひ善き説教をなし。レビツ氏の説を受けて功を奏しレビツ氏ニ助けられて業を爲せしならば、是れ誰の榮ならんや。レビツ氏のもの也。レビツ氏の智ハ神より來れり。如是吾らは萬事を神より受けたれば榮ハ悉く神の物なり。

「爾をして人ニ異ならしむる者は誰ぞ爾は何の受領ざる物を有つか若しこれを受領バ何ぞ受領ざる如く誇るや」哥林多前四の七

故ニ人も吾も常ニ神を譽むべし。神ニ榮を歸す可し。アーメシ。

○人を責むるより己を責むべし。

「己の體を撃て之を服せしむ」哥林前九の二七

○「今われ人の親を得んことを要むるや神の親を得んこ

とを要むるや或ハ人の心を得んことを求むるや若しわれ人の心を得んことを求はゞキリストの僕ニ非ざるべし」加拉太一の十

人間の心ト親を得んと欲する勿れ。神の心ト親を得んことを求むべし。故ニ神の聖旨を求めて之ニ従ふ可し。然し人の益を計り人を己の如く愛す可し。人の心ト親を得ん爲に爲す可らず。故ニ汝人の爲ニ働く二人の思ニ従ひ人の心を悦せ人より譽めらるゝ爲ニ働く勿れ。人心ニ勵まされて爲す勿れ。只神の心ニ勵まされ神の命を受け神の御導ニ従ふて萬事を爲す可し。人の心ニ動かされて働く勿れ。神の御心に動されて働く可し。人の意ニ適はん爲ニ爲す勿れ。神の意ニかなはん爲ニ之を爲す可し。祈るニも説教するニも働くニも只神を覺エ神の前ニ神の御心ニ従ふて爲す可し。人情に従ふ可らず。即ち神が爲せと命じたまふ事を爲し神が言へと命じたまふ事を言ふ可し。併し熱心二人を愛す可し。

○祈禱

「爾ら常ニ主ニ在りて喜べ我また言ふ爾曹喜ぶべし。爾曹衆

の人をして其寛容なることを知らしめよ主は近し何事をも思ひ煩ふ勿れ唯毎事ニ祈禱をし懇求をし且つ感謝して己が求むる所を神ニ告げよ神より出て人の凡て思ふ所ニ過る平安は爾曹の心と意をキリストイエスニ因て守らん」腓立比四の四、七

故ニ何事ニても心配なる事ハ直ニ神ニ熱心ニ祈る可し。神ハ必ズ聞き恵を施したまはん

○主と偕ニ在り主の能ニ由テ働く事

「爾曹もし我ニ居りまた我いひし言爾らニ居らば凡て欲ふところ求ニ從ひて豫らるべし」ヨハネ十五の七

「聖靈なんぢらニ臨むニ因て爾ら能を受け（この間中略あり）

我が證人と爲る可し」使徒行傳一の八

「我ハ衆の使徒よりも多く勞めたり此は吾ニあらず我と偕ニある神の恩なり」哥林前十五の十

「既にわれ生るニあらずキリスト我に在りて生るなり」加拉太書二章の二十

ポーロニテモ十二使徒ニテモフキニ一氏其他ムーデーホイトフキールド氏らすら自ら何事も爲し能はざれば、況して吾ら如き弱きものは何を爲すことを得んや。只神の恵ニよらざれば、何一つ爲すこと能はざるものなり。

○愛

吾儕はキリストの愛ニ傲ひたとへ惡人なるも吾を惡むもの誘ふものも之を愛し其人を祝し其人を善し其人を愛す可きなれば、人の心底如何ニ拘らず眞ニ人を愛し人の益を計る可きなり。

「其仇を愛し爾曹を憎む者を善し詛者を祝し虐遇者の爲に祈禱せよ人なんぢの頬の右方を撃たは亦左方の頬を向上爾の外服を奪らば裏衣をも禁むる勿れ」路加六の二七、二九

「我儕に賜ふ聖靈に由て神の愛われらの心ニ灌漑げばなり」ローマ書五の五

「キリストハ我儕のなほ罪人たる時われらの爲に死にたまへり神ハ之ニよりにて其愛を彰し給ふ」ローマ五の八

「聖靈みづから言ひがたきの慨歎を以て我儕の爲に祈りぬ」ローマ八の二十六

「靈^{ばい}、熱心をもて我儕を愛む」雅各四の五、

「それ神はその生みたまへる獨子を賜ふほどに世の人を愛し給へり」ヨハネ三の十六

「なんぢら神の豊厚なる仁慈と寛容と恒忍とを藐視する乎その仁慈は爾を悔改に導くなるを知らず」ローマ二の四

「また爾曹をして愛ニ根し愛を基として諸の聖徒と偕ニ（一

字不明)る可らざるキリストの愛を知り然れば神罪人を各々熱心をもて今も後も愛したまふなれば、神の愛ニ感じて罪人の爲に働可し。

汝罪人の救はるゝ爲働くニ、必ず神の恵ニより如何なる罪人も救はるゝの信仰をもて働く可きなり。

○「靈を熄すこと勿れ」(帖撒羅前 5-19)

○牧司

「爾曹の中にある神の羊の群を牧へこれを牧司るニ止むを得ずして爲さず好みてなし利を貧るために爲さず樂みて爲すべし又爾曹託せられたる者ニ主と爲る可らず羊の群の式と爲る可し」彼得前五の二と三、

神ハ人間の働を経ずして、直接二人々ニ恵を施し御聖靈を降し給ふ事あり。故ニ神ハ誰でも恵を施したまふを見て感謝す可し。

○神の道は儀式にあらず。靈ニあれば天下ニ之を受る能はざるもの一人もあるなし。

「神は靈なれば拜する者もまた靈と眞をもて之を拜すべき也」約傳四の二十四、

「道は爾に近く爾の口ニあり爾の心ニありと是れ即ち我儕が宣る所の信仰の道なり」ローマ書十の八

「反て隠ニユダヤ人たる者は實のユダヤ人たり又割禮は靈ニ在て儀文ニ在らず心の割禮は眞なり其譽は人ニ由らず神ニ由る也」ローマ二の二十九せつ

「乞食ラザロト富人の例ヲ視ヨ」ルカ傳十六の十九—三十一

「稅吏トパリサイ人ヲ視ヨ」路加十八の九—十四

「此人ハ罪ある人に接りて共ニ食せり云々」路加十五章

「主イエスキリストの信仰の道を守らんニ人は人を偏視ること勿れ」雅各二章一—九、

神ハ人の肉體之向上の行を取り玉フニあらず。只心の思を取りたまふ故、如何なる人も更ニヘダテなく救われヘダテなく眞の平安眞の光慰とふ即ち満足を得るなり。故ニ富人も貧人も病人も健人も學者も無學者も罪人(敵役人)も無罪人も幼者も老人も女も男も小兒も大人も主人も僕も自主も奴隸も等しく此の福音ニ與る事を得る也。如何となれば肉體上向の儀式を守て救はるゝニあらず。只靈の思ニよりにて救はるれば也。即ち心の信仰ニより救わるゝ也。神ハ人を偏視したまはらざれば、如何なる無學なる人ニも小兒ニも貧人ニも賤き人ニも最貴き聖靈をたまひ、キリストの寶血をたまへば也。

又たとへ貧しくて餓死るも一生病なるも一鎖ニ撃るゝも一生乞食なるも吾儕の靈ニは更ニ疵とならず害とならず。故ニ

如何なる人も靈を全する事を得可きなり。即ち神は吾儕が肉體ニは如何なる有様を受るとも、靈を重し肉體は千變萬化し如何なる誘來るとも靈を守る事を求めたまふなり。故ニ吾儕人の肉體の有様即ち人の借金や智や貧富や行や性質や形ニ關して失望する事なく如何なる有様ニある人ニも福音を傳ふ可し。また如何なる人も救はるゝの熱心の信仰をもて働く可き也。

故ニ人信者ニなればとて上向即ち肉體の有様變ずるニあらざれば、知れがたしと雖ども、彼の變し事ハ心の内ニあり。神ハ之を知りたまふなり。

又吾儕人を導く二人の上向より變んと試むる勿れ。即ち内心より導き悔改めしむべし。神の國ハ心の内の悔改め信仰、仁樂、喜樂、溫柔、操節、善良とふ也。外ニ變ずるものニあらず。只神ト己の本心ニよく顯はるゝものなり。

○幼心を以て受けよ

集りニ行くとき教師牧師ニ逢ふ時リバイバルノ時人を教ヘントシ人ニ與へんと欲して行く勿れ。先づ神より恵ニ與らんとして行く可し。謙遜して行く可し。其他神より出てたる事多ければ悦んで受く可し。拒む勿れ。又如何なる賤しき兄弟姉妹ニても吾（一字不明）來らば神の子供天の使として受く可

し。アブラハムハ知らずして天使を遇せり。凡て信者ハ神より選ばれ命ぜられし事あれば、神其人を吾ニ遣したまふハ或ハ吾を益せんととの神の使あり。或ハ吾より益を受けしめんとて遣したまふ事あり。慎んで神ニ逆ふものとなる事勿れ。神ハアナニヤヲサウロニ遣し給ひし事あり。またビリホを傳道せしめし事あり。また其傳道地ニベテロ、ヨハネを聖靈を受けん爲に信者の上ニ按手せしめん爲遣せし事あり。信者ハ各々神より選ばれし神の使なり。

○己を忘れて只天地の Well being を望む可し。

吾が其働手ニならざるも誰ニても神人を選びたまひてムーデ
I 氏の如く働く人起り或ハリバイバルアリテ日本全國の民救はるゝを喜とす可し。また人々信ニ進み善を爲し互ニ相愛するニ至らば、また人々キリストの名の爲によく働くニ至らば、たとへ吾ニ係なしと雖ども之を悦び、感謝し、満足す可し。即ち全く己を忘れ神の榮と人々の救を望む可し。

○神ニ忠信なる可し

「家宰ニ求むる所は其忠信ならん事なり」哥林多前四の二
「唯これニ入る者は我天に在す父の旨ニ遵ふもの而已也」馬太七の二十一

「善かつ忠なる僕ぞ爾寡なる事に忠なり我爾ニ多のものを督

（馬太傳二五の二三）
らせん」馬太貳五章十四、三十

己の意を成んとて力を益すとも忠なる僕ニあらず。神の聖旨ニ適ひ神の御旨を成さんとて勤み力を益さば、神ニ忠なるものなり。故ニ汝ハ神の僕なれば常ニ神ニ事へ神の悦ビ玉フ所を爲さんと力を盡す可し。

○常ニ神と偕に居り神を視神の御心を知れよ

吾儕傳道するハ己の意を述ぶるニあらず。神の聖旨を宣るものなれば、常ニ神を視て神の御心を識り之を宣ぶる事を務めよ。

○神天より地上の人心を視たまふ

(一)神ハ第一人心の罪ト惡ト汚を明ニ見たまひ、聖旨を傷め憂しめ之を怒りたまふなり。

(二)其永遠の刑罰ト暗トナヤメルヲ憐みたまひ、御子イエスキ

リストを降したまひ、暗を輝し迷へるものを導き罪を悔改めしめ、かつ十字架ニ死し萬民の罪を贖ひたまへり。

(三)聖書を降したまふて人心と争ひたまふ也。是れ神の熱心の愛なり。

○説教は神の聖旨を教ゆる也

故ニ今直接神の人民ニ對し思ひたまふ事を聖靈ニ感じて宜ぶる事なり。

九月十九日

○昨十八日夜ハ警察隣ニ於て路傍説教を爲す。聽衆大凡百名謹せり。神の御導ニ由り數名の人々語る道ニ心を注げり

○當夜別宴青木土肥の爲切ニ祈りしが、神ハ祈を聞きたまひ、夜中一時頃二人余の宅ニ來り、共ニ祈り共ニ語り青木兄信復興を得たり。

○「汝らハ收穫スルモノ靈を漁ルモノナリ」(悔改ト信仰の決心ヲ猶豫せしむる勿れ)

「牧者なき羊の如く衆人なやみ又流離ニなりし故ニ之を見て憫みたまふ其時弟子等ニ曰給ひけるは收穫は多く工人は少し故ニ其稼主ニ工人を收稼場ニ送らん事を願ふ可し」馬太九の三六、三八

「目を擧げて見よはや田は熟て穫時ニなれり穫者は其工錢を受けて永生に至るべき實を積む斯て播者と穫者と同ニ喜ばん」ヨハネ四の三十五(と三十六)

「ペテロノ説教後人々心刺るゝ如くなり何を爲す可きやと問ひ然る時ペテロハ神の約束キリストの名を信ずる事を爲しかつ多言をもて勤けるはこの邪なる世より救出されよと言ひしニ直ニ三千人決心してバプテスマヲ受けたり是れ列入ナリ」(マ太九の二八)

「又ペテロ跛者愈されし時も聖靈ニ滿され人心ト争ひ終ニ其

時も五千人を刈入れたり」

「又ペテロコルネリヲニ遣されし時も直ニ刈入れたり」直ニバプテスマを施したり

「ポーロも常ニ道を語り信ぜしものニは直ニバプテスマを施し信ぜざるものハ足の塵を拂ふて去れり」

「バプテスマのヨハネも説教して悔改むる者ニバプテスマを施せり

故ニ汝説教スル時ハ直ニ實ヲ望ンテ即ち其説ヲ以テ實を刈入ル決心ヲ以テ傳道し説教す可し。然らざれば空を撃つものとならん。即ち聖靈ニ勝ち其人の肉と争ひ靈をして勝たしむ可し。

又説教後其人々感ぜしならば、其場デ其時其夜直ニ悔改むる決心を爲さしむ可し。吾れ己の經驗ニテモ心ニ罪あらば、必ず聖靈の聲あり。悔改めよと聞また實ニ責あり。此時心を他ニよせ悔改を猶豫せば聖靈を消して危し。余ハ必ず其時悔改めざれば他の事を爲すを得ず。又或は心ニ疑あらば之を解くまでハ安心するを得ず。即ち毎時毎夜毎日此決心ニ由て信を保ち行を保ち安を保つなり。然れば衆の人々も心ニ眞理を知る事信する事従ふ事を決心するニ猶豫する勿れ。今直ニせよ。然らざれば後ニ至てハ必ず出来るものニあらざる也。如

何となれば其時ハ心ニ光あり。聖靈の御助ト争あり。然れども其光を消し聖靈ニ遠り却て世の思心を滿し惡魔彼を擒する時、悔改めらるゝ道理なし。眞二人の悔改むるは聖靈の御助

ニよる事なれば、説教を聞き聖靈の争ある時或ハ祈禱の時聖靈ニ御導ある時即ち其聲を聞く時心を剛ニする勿れ。其時直ニ悔改めよ。決心せよ。其時人を憚る高慢心ある乎。

後ニ至らば、尤も多あらん。人ニ己の罪を認めるを恥る乎。

後ニ至り其人の前を離るれば前ニ増して其心長ぜん。併し今人々の前ニ心繁雜して己の罪を考へ神の眞理を考る能はざる故、此處を退き考へ直ニ決心せんとする乎。然らば更ニ世の思を心ニ起す事勿く他事ニ移る事なく直ニ神の前ニ行き決心せよ。即ち是れ直ニ決心するの決心也。

「是故ニ聖靈の云る如くせよ爾曹もし今日其聲を聽ば野ニ在りて主を試みたる日その怒を惹し時の如く爾曹心を剛復にする勿れ」希伯來三の七と八

即ち本心ニ聖靈の聲を聞く時ハ直ニ之ニ従ふ可し。

○聖靈を熄す勿れ

汝ら聖靈ニ由テ良心の責あるニ之を懼れず、或ハ憂起らんするニ偽善を飾り之を蔽ひなどする勿れ。是れ聖靈ニ逆ひ熄すの罪ナリ。

「なんぢら苦め哀め哭なんぢらの笑を哀哭に易へよ爾曹の歡樂を憂ニ易へよ」雅各四章の九節

○ポーロの愛心の有る處

「我いよ／＼爾曹を愛すれば愈々爾曹に愛せられず然れど欣びて爾曹の靈魂の爲に財を費し身を盡す可し」哥林後十二の十五

「われらの是なる事を彰はさんとするにあらず我儕棄らるゝ者の如く見るとも爾曹が善を行はんことを願ふ也」哥林後十三の七

「われら弱くして爾曹強きときは我喜ぶ我儕願ふ所は爾曹の全ならん事也」哥林後¹³:9

「敢る爲にあらず建る爲に賜ひしもの」(哥林多後書) 十三の十

「われ神の熱心の如き熱心をもて爾曹を念ふ我なんぢらを一人の夫に聘定せり」(哥林多後書十一の二)

「乳母その赤子を育ふ如く我儕なんぢらの中ニ在て柔和により如是爾曹を慕ひて第二神の福音のみならず己の生命をも爾らニ與んことを喜べり是れ爾らは我が愛する者なれば也」帖撒前書二の七と八

○信仰ニ居れ

「爾の信仰絶エサルやう爾の爲に祈れり爾歸へらん時其兄弟を堅せよ」路廿二の三二

「我儕信仰ニ由て義とせられたり」ローマ五の一

「我儕をして世ニ勝したむるものは我儕が信也」(マ、)

「信あらば山をも移すことを得る也」(マ、)

故ニ信仰せずして行を改むる事能はず。又信仰して後信仰弱りて行を保つこと能はず。即ち神トイエスト聖靈と神の言葉ト良心ヲ信ずる信仰なり。人の躓き惡き行の初まるは神を疑ひ聖靈を疑ひ神の言葉を疑ふより初るなり。即ち惡ヲ爲すは神の眞理を疑ふ故聖靈の聲を疑ふ故良心ニ背くものなり。ペテロノ躓もアダムイブの罪に陥りしも神と神の言葉を疑ひ惡魔の言葉信ぜしニよるなり。是活きたる信仰也。即ち行ある信仰なり。

○愛

愛は凡ての基礎となる可きもの也。眞の愛をもて兄弟を導く可し。即ち人の弱を憐むの情深かる可し。

○神を顯せ。

道を語るも人を勸むるも神の道とし、人の犯す罪も神ニ逆フ罪トシ、恐モ神ヲ恐ル、懼とし、全く神ニ従ひ神ニ従ふ様爲す可し。人ニ對して爲す可らず。

○神の御企ハ人之を知る能はず

吾憐傳道するニ斯様ニ悔改めしめん、或ハかよふニ導かん、かよふニ働かせんと思ふて其人の爲ニ働くハ是れ人の企也。又かよふニ傳道せんとかけ様ニリバイバルヲ興さんとか是れ人の企なり。

神ハ人間の企を成就したまふニあらず。神ハ永遠初より定めたまふ己の聖道をもて、企てたまふ事御自分の道をもて遂げたまふなり。而し人ハ明日の事を知らず。即ち先の事を更々知らず。只神より示されたる事のみ識り得るのみ。

故ニ萬事働くニ後の事を定む可らず。只信仰をもて神の導ニ従ふ可し。即ち神の火の柱靈の柱を見て進むべし。明日の事一時先の事ハ知らず。只信じて爲すべし。信じて祈る可し。神ハ針谷も教會も興したまふべし。山本も悔改めしたまふべし。監獄處ニも光をあたへ其中の者を選び榮を顯したまふべし。併し其道を知る能はず。只信じて爲すべし。故ニ其方法ニ付て思煩ふ事勿れ。故ニ自ら方法を作る勿れ。信じて神ニ任すべし。如何なる事起るも神ニ任すべし。

只汝ハ常ニ日々時々神の命ニ従フべし。神の導ニ従ふべし。神の聲ニ従ふ可し。汝ハ主ニあらず。僕なり。僕ハ自ら企て人を指揮するものニあらず。只主ニ事るもの也。十二使徒の

時も後の事ハ知らざりし。又昔アブラハムモモーゼモ亦然り。故ニ汝昨日ヨリ今日までの事を考へ視よ。汝企ヲ思ひし事ト主の爲したまひし事ハ如何ニ相違せしや。

九月二十一日

説教する時働く時己を全く空くして聖靈ニ滿されて爲す可し。

常ニ己を忘れて神を覺エテ何事も爲す可し。

○愛

「何事よりも先互ニ篤く相愛する事をす可し蓋愛は多の罪を掩ばなり」彼得前四章八せつ。

敬フベシ。從フベシ。顧みるべし。柔和ニすべし。人の益を計るべし。忍ぶべし。すゝむべし。

○信仰ニテモ己の罪ニテモ自ら言顯さしむる事肝要ならん。

「イエスベテロニ曰けるハ我に従へ我汝を人を漁する者と爲さん」馬太四の十九

「爾曹われに何を爲らんと願ふや」馬太廿ノ三十二

「イエス誰か吾衣ニ觸リシト言ひ女ノ信ヲ言顯さしたまへり」

「人々兄弟よ我儕ハ何を爲べきや」使二ノ三十七

○キリストと偕二居ル事

「我儕ハ父及び其子イエスキリストと同心也。我儕この文書をかき贈りて爾曹の喜樂を充しめんとす」

キリストニ祈りキリストノ誠ヲ守りキリストの聲ニ從ひをらば、我儕イエスト偕ナリ。イエスト偕ナル程悦ハナキナリ。人間ト偕ナルヨリイエスト偕ナル方大ニ喜樂アリ。故ニ熱心ナル聖靈ト偕ニアル信者ト共ニ居ル程喜ハナキナリ。

世界萬民この福音を信じ互ニ兄弟となりミナ聖靈の御交を得ば、凡て眞の兄弟姉妹となり實ニ言ふ可らざる喜あらん。

○今夜ハ聽衆百餘名實ニ謹聽せり。

九月二十二日

○説教スルトキ神ノ前ニ立テ神ノ聖靈ニ感じて宣る事あれば、口ニ神の言葉を語る時ニ常ニ神ヲ覺エ、神を敬ひ神ニ聞かざる可らず。即ち全く人の情を忘れ神ノ事を思ひ神ニ在て言ふ可きなり。

「我儕おほくの人の如く神の道を混亂せず即ち誠ニより神ニより神の前にキリストニ在て言ふ也」哥林後二ノ一七
即ち説教ハ神ニ聞キ人ニ語るなり。

殊ニ祈禱の時ハ全く人を忘れ己を忘れ只神を覺エテ神ニ祈る

可し。是れ全く神ニ告げ神ニ求め神ニ言ふ事なれば也。

○惡魔ノ言を信する勿れ

惡魔の働ト策略ハ兄弟の間ニ疑を起さしめ之を離別せしめんとする也。又キリストと吾儕の間を離れしめんと働くもの也。彼の木嶋が針谷親子の間を離さんと働き、また神ニ遠らせんと種々の企ト智を廻し、又熱心ニ働くが如し。其言フ言葉ハ皆な偽ニシテ只互ニ別たん爲ニ言ふものなり。故ニ其言を信する勿れ。惡魔の言ハ常ニ耳ニ來ルモ信する勿れ。從ふ勿れ。兄弟ノ相別れ愛を傷ふハ悉く惡魔の導ニよるものなり、聖靈ハ之ニ勝ち萬民を引ひて父と和しめ一體となし給ふなり。

「神の選たる者を訟ん者ハ誰ぞや（この間中略あり）罪を定る者ハ誰ぞや（この間中略あり）キリストの愛より我儕を絶らせん者は誰ぞや患難乎或ハ困苦か迫害乎飢餓か裸體乎危險乎刀劍なる乎是れわれら終日爾の爲に死に付され屠られんとする羊の如くせらるゝ也と錄されたるが如し然れども我儕を愛める者ニ頼すべて此等の事ニ勝得て餘ありそは或ハ死或ハ生あるひは天使或ハ執政あるひハ有能あるひハ今ある者或ハ後あらん者或ハ高き或ハ深きまた他の受造物者ハ我儕を我主イエスキリストに頼る神の愛より絶らす能ざる者なるを我は

信ぜり」ローマ書八章三十三——三十九

また惡魔ハ神ヲ疑ハセ神の言葉を疑はしむるなり。可憐事ナリ。

○汝己ニ一切を捨テ、イエスニ從ひしや。

己ニ一切ヲ捨テシならば、汝の主はキリストノミ汝ノ務ハキリストニ從ひキリストの命を爲すの外なし。故ニキリスト汝ニ職業を務めよと命じたまはゞキリストノ愛ニ勵まされて爲すべし。キリスト食せよと命じたまはゞ食し、衣よと命じたまはゞ衣、萬事キリストノ命ナル故ニ爲せ。學問も亦タ然り。

「すべて信仰に由てせざる者は罪也」ローマ書十四章二十三節

「日を守る者も主の爲ニ守り日を守らざる者も主の爲ニ守らず食ふものも主の爲に食へり我儕の内己の爲ニ死るものなし蓋われら生きるも主の爲に生死るも主の爲に死この故ニ或ハ生き或ハ死るも我儕ハ主のものなり」ローマ十四章中ヲ觀ヨ、

○吾爲すニあらず神の恵ナリ

善を爲スモ人ヲ愛スルモ道ノ證を爲スモ働くも己れ自ら爲ニあらず。神ハ導きて其機會才吾ニ與へまた其心ト力ヲあたへ

たまふニ由テ出来るなり。モーゼが神ニ忠を爲しイスラヘルノ爲め働きかつ忍びシモ、アブラハムが子イサクヲ神ニ奉げしも、ボーロが兵卒ニ向ヒ語りシモ、ステパノが死ヲ以テ證ヲ立テシモ、悉ク神が其人ニ其試ヲ與へ其機會を與へかつ之ニ勝つ恩を與へ爲さしめ玉ひしなり。故ニ吾ハ愛ノ深キモノニならん。忍耐強キモノニならんと思ふも吾れ爲る事能はず。神與へ玉フナリ。故ニ只吾ハ心ト身ヲ神ニ奉只其命ニ從ひ行ひなば、かならず實ニ貴き働ならん。故ニミナ神ノ愛ナリ神の働也神の智ナリ。神の榮なり。故ニ神のあたへたまふ機會ト能ヲ失フコト勿れ。感謝して萬事を爲すべし。是れ汝の徳ナリ。愛ナリ。働ナリ。勇ナリ。

○我ハ種彖アポロハ灌く(長るものは神なり)

吾らハ種子を蒔き耕し水漑ぎ、之を育つるものハ神なり。如是道の傳るも如是。又神ハ如何ニして育てたまふや、如何ニして變るや、何故ニ種ト水ニテ育つや、何故藥ハ病を愈すや、吾ら知らず。只神の能なるを識るのみ。如是神の御力の働も目ニ視るを得ずと難トモ神の御働ナリ。神曰ク「吾ナリ」ト Jehovah—I am 「我ハ自然ニシテ而然ル者也」出埃三十四

○神ノ爲したまふ慈濟ナリ

故二病ニナルモ迫害起るも生命を捨る事起るも悉く吾の爲ニ善也。

神の榮の爲ニ善也。故ニ萬事感謝すべし。

○迫害加る程神ニ近ルナリ

ヤコブ子ヨセフヲ愛せしニより十一人の兄弟之ヲ惡ミ大ニ迫害を加エしが、其時ヨセフノ心増々親ニ近リ。親ノ心ヨセフヲ愛スル事増したり。如是吾ら神ニ愛せらるゝニより惡魔之を惡ミ迫害を加る故、増々神を愛スルこと増し、神吾らを愛したまふ事ますますなり。故ニ迫害ニよりキリストヨリ離ス能ハザルナリ。

○萬事神ヨリ出ズ

吾ヨリ求メテ聖靈ヲ得、吾ヨリ求メテキリストヲ得しニあらず。悉く神ヨリ出シナリ。神吾ヲ求めしなり。吾儕の心ニ起良心ノ責メモ喜モ神ヨリナリ。又リバイバルモ聖靈降る事ハ神之を初めしなり。又熱心起る事信仰起る事愛起る事忍耐起る事神よりなり。故ニ自ら思煩ふ勿れ。只信仰をもて神ニ仕スベシ。故ニ神止めざれば外ニ止むる能ふものなし。何事も神より降せる賜なりと信ずべし。

「なんち我を選ばず我爾らを選べり」約翰傳十五の十六

「われら神を愛するニ非ず神われらを愛し」

「希伯來九の十と十一

○神ハ嚴き主人ニあらず

吾儕各々神より受けし恵を神の命ニ従ひ全力を盡さば、かならず各々忠信なる僕となる可し。

神ハ身ニ餘る事を命じたまわず、馬太傳廿五章十四——三十

迄

○靈を救ふの働ト他の働の相違

神の働ハ人の力ニも由らず習あるニよるニあらず。學んで得べきニあらず。力を盡すニよるニあらず。人の企ニあらず。金ニあらず。人の性質ニよるニあらず。辨ニよるニあらず。只神の恩ニ由るなり。

他の人の傳ハ其人の精神より成り、十二使ヤムデー氏等は神の聖靈より即ち神の企ニ由て其傳成れるなり。故ニ智ある人よき企を爲して道傳るニあらず。只心ヲ全く神ニ奉げし人ニよって道傳るなり。よく働き或ハよく言ひ或ハ多くシャベルニ由テ道傳るニあらず。信仰ニより神ニ忠信を盡し萬事神ノ命ヲ爲スニ由テ神ノ言即ち聖靈の示されたる言を語るニ道傳るなり。即ち信仰ニ由テ神より受る恩より起る働ニ由テ道傳る可し。故ニ其榮ハ神ニ歸するなり。道ハ神ニ由テ傳るものにて人の力ニよらざるなり。

「神の國ハ言ニあらず能ニ在ればなり」哥林前四の二十
靈の救の事ハミナ神より出るなり。昔も今も同ジキナリ。
使徒傳ノ働其他神の國ハ今モ同ジ

○常ニ人ニ待つより神ニ待つ事實ニ大切ナリ。

○人もし生命（天國）を失はゞ何を以て之ニ代へんや。人の
事を思ふ時は第一其人の靈魂を思ふべし。如何ニ大切なる
や、主耶穌は其爲に十字架ニ死せり。

○神より其時ニ可言語を受けば其時いふ可し。

神ハ其時ニ可言語をあたへ給へは其時ニ言ふ可し。

○人ニあらず神なり

○人心を悔改めしめ或ハ感を起さしむるものハ人の言ニあら
ず。聖靈之御能なり。また神ハ常ニ吾儕と偕ニ在スナリ。故
ニ全く神ニ任スべし。己をもて何も爲さんと試むる勿れ。兄
弟姉妹各々神より恵を受ける事を忘ル、勿れ。故ニ説教スルニ
人ノ教ユル言を用ゐる勿れ。聖靈之教へたまふ事を言へ。血
肉を思フ勿れ。只神ヲ敬フテ爲せ。人の勸ヤ人ノ考ニテ人ヲ
悔改ニ導んとする勿れ。彼の聖靈ニ感ずる時を待つ可し。

○神の國は言ニあらず能なり

故ニ集を聞くも只言葉を聞く爲ニあらず。神より恵を受ん爲
也。聖靈之賜を受ん爲也。故ニ或ハ罪ノ赦ヲ得心ニ安ヲ得或

ハ光を得神の愛を味ひ或ハ心ニ能を受け或ハ聖靈ニ満さるゝ
爲也。故ニ人之爲己の爲祈を常ニ爲す可し。人心ニ神の眞理
語るは全く聖靈之恵ナリ神の智ニテ示さる可きものニあら
ず。全く神より出る也。

九月二十八日

○永遠の生命

吾儕は永遠の生命を保つものなり。然れどもこの世ニ在ル間
ニ短くかつ肉體の衣服ハ直ニ脱ぐものなり。故ニ己の直ニ舊
び朽る衣服の事を意とせず永遠ノ生命を重す可し。

○悟ルトハ何乎。進むとは何乎。

人は各々其時可爲事アリ。聖靈の光ニ輝し之を辨へ之を爲さ
ば必ズ神ノ眞理と奧義を悟る可し、之を導き教ゆるハ牧師の
任也。もし人神の旨を行ハ、神より恵を受け目明ニなる可
し。人ハ神の恵ニよらざれば眞理を眞ニ了解する能はざる
也。神ある事ハ分る故ニ神ニ頼らばかならず神の旨を知る可
し。

又神ニ事るとは萬事常ニ神の聖旨を辨へ之を熱心ニ務むる事
なり。常ニ之を爲さば必ズ信仰進む可し。即ち常ニ可行事ヲ
知テ之ヲ行フ事ナリ。神の道ハ言ニあらず。行ニあるなり。

ムーデー氏もフキネー氏も此事を明ニ知る人也。人ハ行はず

して神の奥義を識る事なきなり。幾何即ち千萬の語をもて人を勧むるも其人もし行はざれば眞理の光を見る事能はざるなり。

○人の爲に生命を捨つ

「主は我儕の爲に生を損たまへり是ニ由て愛といふ事を知りたり我儕また兄弟の爲に生を損つ可し」約書三の十六 キリストは我らの爲に生命を損テ吾儕を救ひたまへり。我儕も兄弟の爲ニ生命を損フ可し。如何にして損んや。吾儕己の救の爲ニは必死を盡し或は涙を流して祈りし事あり。斷食せし事あり。或ハ眠らざりと事あり。心を傷めし事あり。盡力せしニより救はれたり。如是兄弟の罪ニ陥り、或ハ弱を怜恤し其身となり其爲ニ祈り或ハ心を働かして亞魔の奸策を破り或は斷食して祈り或ハ心に憂て悲ミ如何ニもして其人の救の爲働く可し。其爲ニは己の樂も捨て安心もすて苦も忍び(一、二字不明)なれば生命もすて持物もすて全を盡すべし。是れ友の爲ニ生命を損す事なり。吾ハ今キリストノ爲人ノ爲生命を捨る決心を爲したる者なれば、キリストの十字架をもて心ニ鏝ひ一生人之爲苦痛を忍ぶ決心ある可し。尤も大なる愛はキリストの如く人の爲に十字架ニ掛る事なり。即ち人の代りニ斷食涙を流して祈り人の代り救の道を研究し人の代りニ忍耐

し、其人より謗られ惡まるゝとも生命の爲ニ働くは人之爲ニ十字架ニ掛る事なり。吾幸を人ニあたへ人の苦を吾ニ受るハ人之爲十字架ニかゝる事なり。故ニ汝人の爲ニ死ぬ決心ある可し。睡タイ時直ニ眠らず、人の爲ニ祈ル。是れ人の爲ニ己の生をすつる事也。食を食せんとす人之爲ニ斷食する或ハ己の樂を爲さんとする之を止めて人之爲ニ働く是れ十字架也。己の食物を人ニ分つ。是れ愛ナリ。其他をして知る可し。人ニ惡まれても之を忍び其人の爲祈るハ愛ナリ。

「爾らの敵を愛み爾らを誣ふ者を祝し爾らを憎む者を善視し 虐遇迫害者の爲に祈祷せよ」馬太五の四十四

○試ハ人を進むる爲なり

アダマイブハ試ニ陥ち退きたり。アブラハムハ試ニ勝ちて大ニ信仰進みたり。ヨブモ忍耐進みたり。其他凡テ試ハ人を進むるものにて惡きものニあらず。

「患難ハ忍耐を生じ忍耐ハ練達を生じ練達ハ希望を生じ希望ハ羞を來らせざるを知る」ローマ書五ノ三・四・五

○人ハ聖靈ニ由り神より聴かざれば悔改むるものニあらざ。

吾も人も眞ニ神の前ニ悔改め眞理ニ従ひしは全く神の聖靈ニ由テ良心ニ神の聲を聴きしニよる。

○信仰の道

人々神と主イエスと聖靈を識り之を信する程大切な事ハ無きなり。人ハ神を信せば能はざる事なき也。

○同感

人の亡ぶるを憐むのみならず、人の良心ニ罪と穢あらば、之を吾心の如く憐み其爲ニ祈り働く可し。

九月二十九日

○説教ハ神ノ聖旨ヲ宣ブルモノナレバ。人ノ智ノ教ユル所ノ言ヲ用キズ。只聖靈の教ユル所ノ言葉ヲ用ユ可シ。

○信仰

只信仰ニ由テ救ハル、事ハ論ニテ明る能ハズと雖トモ、神ノ力ニ由テ愈ユル也。

昔キリストを信するニよりにて凡ての病の愈エシ如く、今日も只主イエスキリストを信するに由テ罪の病ハ凡テ愈サル、ナリ。キリストヲ信するものハ罪赦され心潔めらるゝなり。之を愈し之ヲ救フモノハキリストノ能ナリ。恵ナリ。他の者ハ之ヲ助クル能ハザルナリ。

○他行スル信者の爲ニ祈ル事

他出スル兄弟を常ニ覺エ之が爲祈リ又屢々書狀を遣し信仰を勧むる（一字不明）事怠ル可らず。

○信仰ハ聞くより出るなり

「信仰ハ聞くよりいで聞ところは神の道ニ由るなり」ローマ十の十七

故ニ信仰神の道を聞と主イエスの御働を見るより起る也。吾儕は其證人なり。

○眞の信仰

人を懼れ或ハ勧められ或ハ人の心を得ん爲或ハ人間の努力を見或ハ人の愛ニ感じ或ハ人の手前ニテ悔改メ或ハ信仰し或ハ働き或ハ行を正しくするも眞の信仰ニあらず偽善なり。眞の信仰ハ只一人ニテ神を敬ひキリストの愛ニ感じ己の良心ニテ神ニ事ヘル人ハ眞の信者なり。此人ハ人の知らざる處の見ざる所ニテ神ニ事する人なり。

故ニ人を尊くニ更ニ人間の手術を用る勿れ、人の關係をもて信仰を守らんとする勿れ。只神を畏れ神ニ恥ぢ神を敬ひ神ニ従ふ様導く可きなり。信者ハ凡ての行を只神ニ對して行フベシ。説教も只神の聖旨ニ任せて爲さば更ニ人を憚ル處なかる可し。

「人の智慧の婉言を用みず唯靈と能の證を用みたり蓋なんじらの信仰をして人の智慧ニよらず神の能ニ由しめんと欲へばなり」哥林前二の四五

○神の大能ハ人間の不信ニ由テ弱るもの乎

決して無し。たとへ世界中の人ハ残らず神ニ背くとも神ハ日を輝し月星を運轉せしめ草木繁り人ハ或ハ生れ或ハ死す。神の勢力更ニ變らず。又神ハたとへ世界中を亡ぼしたまふも又他ニ如是世界を幾何も造りたまふ力あり。數萬の人間を造りたまふ力あり。

神は全能にして人間の心ニ由テ變る者ニあらざるなり。

「その不信ハ神を廢つ可き乎非らず凡ての人の偽とするとも神を眞とすべし」ローマ三の三と四

○試ニ由テ人ハ進むなり

「今暫く各様の艱難に遇て憂ざるを得ずと雖ドモ却て喜をなせり爾曹の信仰を試みらるゝは壞る金の火ニ試みらるゝより實くして爾曹イエスキリストの顯れ給はん時ニ稱讚と尊賢と榮光を得るニ至らん」彼得前一の六〇七

又聖書ニ吾汝を爐の中ニ選ぶとあり。

「凡ての懲治今は悦ばしからず反て悲と思はる然れど後これニ由て鍛練する者ニは義の平康なる果を結せり」希十二の11

故ニ火の如き試ある時、之ニ勝ち之ニ由鍛練する者ハ増々進むなり。増々清くなるなり。故ニ常ニ試ありて常ニ戦ひ勝つとき常ニ進歩するものなり。

○羊を守る事

「爾歸らん時其兄弟を堅せよ」路二ノ32

「我が羔を牧へ」約翰二十一ノ十五

「其全群を愼ミ主の己が血をもて買ひ給ひし所の教會を牧ふべし」使二十の二八

「蓋我去らん後この群を惜まざる暴き狼爾らの中ニ入んことを知ればなり」使徒二十の二九

「今われ爾曹を委ぬ」使の二十ヲ視ヨ

「爾曹のうち誰一人罪の誘惑ニ由て剛腹ニならざるやう今日と稱ふる内ニ日々互ニ相勸めよ」希伯三の十三

「われら互ニ顧みて愛心と善行を激勵し會集を輟る或人に倣ふことなく共ニ相勸め其日いよ／＼近るを見て益々此の如くなすべし」布十の二十四と二十五

「兄弟よ我儕なんぢらに勸む安」行者を傲め氣餒者を慰め懦弱者を扶け衆の人に向ひて忍ぶべし」帖前書五の14

「また彼らニ愈りて勞苦つかれ屢々寝らず飢渴しば／＼食を絶ち凍裸なりしなり此の外ニ言はざる事ありて日々我ニ迫る即ち諸の教會の憂慮なり誰か弱りて我弱ざらんや誰か礎きて我が心熱せざらんや」哥林後十二の二十七と二十九

○誘

「蓋かれ自ら誘はれて艱難を受けたれば」誘はるゝ者を助得るなり」希伯二の十八

「我儕る如く誘つれたれど罪を犯さざりき」希伯四の十五

「人惡ニ誘るゝハ己の慾ニ引れて誘るゝ也慾己ニ孕て罪をうみ罪すでに成りて死を生む」雅各一の十四と十五

「己の體を撃て之を服せしむ蓋ほかの人を教て自ら棄られんことを恐れれば也」コリ前
シタ九ノ27

之ニ戰ヒ勝つ可し。

○善戰

この戰ニ由テノミ成長シ聖靈ニ滿さるゝ事を得るなり。ムーデー氏モフキネー氏も其他ミナ大ナル戰爭を爲して聖靈ニ滿されたり。戰強マル程聖靈の量加ハルモノナリ。聖靈ニ滿されんと欲スルモノハ戰フベシ。聖書ニこの願ハ祈禱ト斷食ニあらざれば得ずとあり。故ニ汝寢ズトモ食せずとも幾日カ、ルトモ戰初まらば全勝を得まで戰フベシ。決して勝テザル事ナシ。信仰の善戰ヲ戰フベシ。然らば設教スル神の言葉ハ多く賜ルナリ。ムーデー氏其他の聖靈の言葉ヲ多く得シモノハ常ニ強キ戰ヨリ得シ惠ナリ。

○信仰ニ居る○信仰ニ引返ス

○信仰ニ導く事

吾儕此世ニ在りての働き。己の信仰と人の信仰を守る事及人の信仰ニ躰きしものを引返ス事違へるものを尋ね主ニ導く事
(一)試ニ勝つ事(二)勝つ力ト真理

「なんち道を宣傳ふべし時を得るも時を得ざるも働みて之を務め各様の忍耐と教誨を以て人を(督)し(戒)め(勸)むべし」提摩太後四の二

○働の力また行の力

空腹なるニ大力を出さんと欲すと雖トモ能はざる也。或は船を進めんとするとも火ナク蒸氣力なくして能はず、足なくして歩む能はざるが如く十分心ニ神の光と聖靈の御恵あらざれば、如何ニよき働を爲さんとしよま行を爲さんとするも決して能はざるなり。故ニ先づ祈る事神の聖旨を知る事真理ニ感ずる事を先づ務むべし。即ち先づ力を得て後ニ働く可し。人ニ勸むるも亦如し是。故ニ人ニ先づ神の恵を得る事をすゝむべし。併し汝得しならば其丈の力を盡さざれば力を増すと勿かる可し。

○人の罪過を免せ

「慈悲、矜恤、謙遜、柔和、忍耐を衣よなんちら互ニ容忍をなし若し人に責むべき事あらば之を恕せキリスト爾らを恕し給へる如く爾らも然すべし」哥羅西三の十二と十三

「かれ誦られて誦らず苦られて厲言を出さず只義をもて鞠く者に之を託せたり」彼得前二の二十三

○汝ら眞の愛あるや

只汝の家族の者の内ニ屬する事十分ならば、是にて足れりとするや。其靈ハ實に可憐可憐なるニ之を眞とせざるや。

○人の爲ニ生命を捨つ可し。

キリストイエス君は吾らの罪や苦を自ら負ひたまへり。また吾らの悲ミ憂を自ら受けたまへり。吾儕の誘を自ら受けたまへり。吾儕の罪を己の罪の如く其爲ニ祈れり。吾儕の有様ニ自ら成りたまへり。

今汝罪を犯し居る者よ。汝犯したる罪今犯し居る罪ニ由テ汝ら無限刑罰を受べきニ其刑ヲキリスト自ら受けたまへり。又汝罪ヲ悔ユベキニ悔ヒズ。故ニキリスト汝の爲めニ自ら悔ヒ悲ミ憂へたまへり。汝誘ニ戰はず。キリスト汝の爲ニ誘れて之ニ勝てり。汝主ニ事ヘズ。主汝の爲ニ主ニ事へり。汝罪の免を祈らずイエス祈りたまへり。汝の受る十字架の苦を自ら受けたまへり。汝之を藐ニするや。キリストの愛如何斗なるや考へよ。

以賽亞五十三章及ローマ八の三十三希伯來六の七、約書二の二

キリストは昨日も今日も遠未變らざるなりとあれば、今日もキリストハ吾儕の爲ニ働きたまふなり。

「聖靈みづから言がたきの慨歎をもて我儕の爲ニ祈りぬ」ロ

一マ八の二十六

是れイエスと父の聖旨ナリ心ナリ。

「聖靈を憂へしむる事勿れと」(以弗所書四章三十節)

「神を悦ばすと云つてあり」

「聖靈熱心を以て我儕を愛む」

吾儕主の恩ニ感ぜし我儕も主イエスニ倣ひ其如く己を捨て、人の爲ニ爲す可し。

○人の過を發見するとき

己れ過後其過を知るときは直ニ悔改むべし。併し其時己を責め前の罪をとがむる事なし。如是人の事も爲すべし。また己の罪を責むる如く人の罪も責むべし。

○如何ニ人の靈を守り、如何ニして人の靈を迷ひし道ヨリ引返すことを得るや。

己の智と力ト企ニ由て之を爲さんと試みば實ニ難く失望す可し。然れども神ニ任せ神がかならず彼を導き彼を教へ彼を守り彼を督し彼を戒め彼を勧めたまふなり。故ニ神ニ祈り神の示を受け、只神の命の如く言ひ行ひすゝめ導く可し。然れば

神を救ひたまふ可し。

十月七日

○自給論

今郡山の兄弟の有様を見るに、多くは貧きものにて活計苦むものなり。故二實ニ其内情を察せばボーロの精神の如く誰をも累せると爲に身自ら苦勞し晝夜骨を碎きて働き自ら支ふべし。是れ愛より熱心に爲す可し。

又可成の節儉せよ是れ可勉強也。

○學校

今設立する小學校夜學校は郡山の爲め尤も肝要のものなれば、力を盡して之を助く可し。

○勉強

教會牧養ニ付き神學或ハ説教等今教會の徳を建る智識を渴く如く熱心ニ飽く程取ル事を怠る可らず。

○怠ル勿レ

熱心道を傳る事、見舞ふ事、戒め督す事、教ゆる事、恵ミ助くる事、憐む事、即ち愛スル事を一日も怠る勿れ。又祈禱と聖書を讀む事を怠る勿れ。

○

人ハ各々自由あり力ありて身自ら選び自ら爲し自ら働き自ら

進むものたるを忘る可らず。故ニ説教し或ハ勧めするハ一週ニ一度なるも其神の言は續いて働くを忘る可らず。また自由ニ爲さしむべし。また只一人にて爲スコト思ふ事を教ゆ可きなり。人の有様を考へ人ニすゝむるニ隱ニて行ふ事を示す可し。人の前ニ行ふ事ハ益とならず。また人を定むるニ其人一人にて爲すことを思へ。故ニ人ニ教ゆるニ顯ニ行ふ事よりも人々の隱ニ行ふ可き事を教ゆべし。人を見るニ上を見る勿れ。心の内を見るべし。上を言ふハ力なし。心を言ふは力あり。神の言葉と聖靈ニ感ズルト人の行と己の良心の經驗とに由て隠れたる内を見る事を得可し。

「それ神の言は活きてかつ能あり兩刃の劍よりも利く氣と魂また節節骨髄まで刺し割ち心の念と志意を監察るものなり」

「また物として神の前ニ顯はれざるハなし我儕も係れる者の眼の前ニ凡のもの裸ニて露る」希伯來四の12と13

「然れど靈ニ屬るものは萬事を辨へ知るしかして己ハ人ニ辨へ知らるゝ事なし」哥林多前二の十五

○學校

今教會ハ郡山の基礎となる可きもの也。故ニ少年を教育して働くモノヲ作り吾か地の凡ての惡風を一洗す可き也。故ニ教會ナリ學校ナリ確固不動の基礎の上ニ建つ可きなり。人員の

少キを憂る勿れ。純粹無缺のものを求めよ故ニ生徒を選ぶべし。殊ニ英學生ハ選んで終まで忍ぶものニあらざれば入學を免す勿れ。吾郡山ニ金のふる富の増スヲ望む勿れ。たとへ貧しくも眞の神ニ忠信なるものゝ多く出るを望むべし。凡て外面の事を望む勿れ。眞實の事を望むべし。事ヲ爲スニ更ニ金ヤ機械ニ由ル勿れ。只精神ニよれ。

英學生 成瀬萬寿枝○土肥應忠○岡野増太郎○中川竹松○青木○西田○

○信仰ニ由て安を得

眞の安きを得るハ只信仰ニあり。行ニ由れば心必ず重を覺ゆ。只キリストを信すれば必ず安を得るなり。

「凡て勞れたる者重を負る者は我ニ來れ我れ爾を息せん我は心柔和にして謙遜者なれば我輓を負ひて我ニ學べなんぢら心ニ平安を獲べし」馬太十一の二八と二九

「神を信ぜよ誠ニなんぢらニ告ん誰ニても其心ニ疑ふ事なく其いふ所の言は必ず成る可しと信じ此山ニ移りて海ニ入れといハゞ其言の如く成る可し是故ニ我爾らニ告ん凡そ祈禱の時その求ふ所のものは必ず得可しと信ぜば必ず得可し」馬可傳十一章二十二―二十四

「汝の信爾を救へり安然ニして往け」路加七の五十四

「女よ心安れ爾の信爾を救へり安然ニして往け」路加八の四十八

「既ニわれ生るニ非らずキリスト我ニ在りて生るなり……神の子を信ずるニ由て生るなり」加位太二の二十

「吾儕をして世ニ勝たしむるは吾儕が信なり」約第一書五の四

「爾曹が靈を受けしは律法を行ふニ由るか將た聞て信ぜしニ由るか」^{加拉}三の二

吾犯せし罪も己ニ思煩ひ己の行ニ由る時ハ實ニ苦を保つと雖下モ、キリストを信ぜば實ニ心ニ平安を得可し。

吾行も修身學や人の説教の奧義ニより神の法律ニより種々の方法ニより企ニより己の熱心や勇氣や勉強ニより之を守らんとせば、心ニ轉生し實ニ痛を覺ゆるなり。然れども神を信じ聖靈ニ由り可言事可爲事可行事を示したまへと祈り、明日の事を思ひ煩ふ事勿く只信仰ニよりて歩まば、心ニ平安を得可し。

事業も金の事學問の事生徒の事凡て己の企ニて爲さんとせば、實ニ苦し。併し爾ら先づ神の國と言葉を求めよ。然らば之らの物ハ加ふるべしとの神の約束を信じて爲さば心ニ安を得可し。吾が活計の事も亦然り。

説教も己の智や辨や學問を用ゐんとせば實ニ憐なり。力なし。増々難き事を覺ゆるなり。然れども神を信じ神ハ必ず聖靈ニより可言を賜ると信じ只祈りて神より受けて説教せば心ニ安を得べし。

兄弟姉妹を守るにも己の力にて勸めにて手本にて導き守らんとせば、實ニ涙を流すべし。然れども聖靈ニより神ニより神ニ任せ神の光ト責ト導と力を信ぜば、安を得べし。即ち神ニ任せ神各々の心ニ働きたまひ各々に力を與へたまふを信ぜば安を得べし又聖書をおしへすゝめを爲し説教する時も必ず聖靈の御感化ありて人々の心感化するを信ぜば心ニ安を得可し。道の廣る事も事業の進む事も兄弟の進む事もミナ神の爲したまふ事と信ぜば安を得可し。教會の維持法も傳道を信じて神ニ任せば心ニ安を得べし。

遠方ニある兄弟姉妹も神ニ任せ信仰をもて祈らば安を得べし。

凡て信仰ニ由て爲す事ハ成らざるなく信仰ニ由て祈る事ハ受けざるハなく凡て信仰ニ居らば平安を得ざるといふ事なし。ムーデー氏も十二使もフキテー氏も其他聖靈を受けし人々ハ常ニ信仰ニ由て爲せし人也。汝惱んで信仰より落る事勿れ。

今書せし此信仰の事も今祈りしニより受けしものなり。何事

を爲スニも第一ニ最上ニ基礎ニ信仰を置くべし。

人を導く吾れ彼を教へん。議論をもて伏せしめん。道理をもて彼を責めて聖書を教へん。何をすゝめんと己の企を爲す時ハ何も爲すを得ず。また人ハ決して眞ニ悔改めず、只信仰ニより聖靈の御降臨を待たば其人の眞ニ救を蒙むるニ至る可し。

汝信仰あらば何をも得何をも爲スを得べし。如何となれば信あらば山をも移すとあればなり。人々聖靈ニ感ぜざれば一人も悔改めざるなり心動くものなきなり。

○聖靈

祈の聞かれて感じを受ける事また大ニ神の奧義を悟る事良心の強き責起る事更生する事悉く聖靈之御恵なり。只行ヲ督し或ハ方法をおしへ或ハ戒むるも眞ニ聖靈ニ感じキリストニ頼るの信仰起らざれば決して行直るものニあらざるなり。故二人の爲ニ熱心ニ祈り信仰の起る様導く可きなり。信仰ハ神の賜也。人ニ説教し或ハ勸を爲さば聖靈ニ導かれて爲す可し。然ちざれば人の考となる可し。

人の爲ニ祈とイエトモ、神ハ必ず其を聞きたまふ事又人を如何ニ可導也、導きたまふ事を信仰をもて祈らは聞きたまふべし。其答を待つべし。即ち心を免さずして待つべし。是れ吾

が爲ニ祈るも神常ニ聞きたまふが如く人の爲ニ祈るも聞きたまふなり。

「爾曹ハ求めざるニ因て得ざる也」雅各四の二

神より恵を受んと欲するものハ祈る可し。神ハ祈らば必ず與へたまふ也。

「求めよ然らば與られ尋ねよ然らばあひ門を叩よ然らば開かるることを得ん」馬太七の七

神ハ凡て信仰をもて祈る事ニ答へたまふなり。

○了解即ち曉ル事

人ハ眞理を曉らざれば良心の自由を得る事能はず。イエス曰く「かつ眞理を識らん眞理は爾曹に自由を得すさべし」約八の三十二

故ニ眞ニ眞理を曉り感ぜざれば悔改むる事なかる可し。故ニ爾人ニ悔改を勸むるニ先づ眞理を曉らしむる事を以てせよ。心ニ光をあたふべし。さらば自ら悔改むる事を爲す可し。

是れ聖靈の御恵ニよるべし。

「然れど彼すなわち眞理の靈來らん時爾曹を導きて凡の眞理を導きて凡の眞理を知らしむべし」約16:13

眞理を感ズルハ聞くより起り或ハ人の行を見ルヨリ起り或ハ自ら深く考へルヨリ起り或ハ祈禱スルヨリ起り或ハ聖書を讀

むヨリ起ルモノナリ。即チ

(一)道ヲ聞クコト (二)行ヲ見ルコト (三)考エルコト (四)祈禱

(五)讀ムコト (六)良心ノ責 (七)感ズル事。

右ノ器械ニ由テ聖靈の御導あるニ由テ眞理を曉るなり。

人の心を知らざれば人を導くこと難し。而して多くハ人を恥ぢて己の病を眞ニ白狀せず故ニ眞ニ診斷スル事實ニ難し。故ニ十分方法をもて人の心を識る可きなり。大抵其人の行ニ由

て知る事を得るなり。即ち其人の行の源ニ溯らば大抵ヲ曉るなるべし。また祈禱して聖靈ニ感じ聖書の鑑ニ照らして之を

定むべし。然して後其人の爲ニ働かざれば空を撃つが如く病を知らずして藥を忘て用るが如し。即ち人の行を見て其行の源因十分ニ探索すべし。

而して其源因より愈さばかならず愈すことを得ん。心を守らずして行を守らんとする人ハ火を除かずして燠を取らんと試むる人の如し。

○牧司

「夫れ我が羊は涙と氣付と心配と祈禱との目的ナリ汝ノ天ハ余ニ二重の天汝の救は二重の救の如く思ふ」ルサーフフォードノ語

「我説教ニ於テ救靈の結果顯ハルゝまでハ満足する能はず」

「人を救ひ度感情ハ稱譽の望と不出來の懼を忘ル、程強キヤ否ヤ」

「一人の魂を獲るハ金銀の山を得るより福也魂を得る事を止て結構ニ暮すより寧ろ戸より戸に乞食しても魂を得ることを好むなり」ヘンリー・マーシュー

「學者ジョン・スミスハ人魂を生むの痛苦のため好きな勉學を止めたり」

「我が三年の間夜も晝も斷ず涙を流して各々を勧めしことを憶ふ可し」使廿の31

吾が一の誤ハ今迄傳道を第一とし羊を放する事を第二とせし處なき乎。吾は牧司なれば第一羊を育て導き愛し慰め之をして働かしむるは吾努ならん。教會ニ天國の喜を深すハ尤も大切の事ならん。凡て使徒の書翰ハ教會の信者の爲也。ローマ書ローマ教會の牧ひ方コリント書ハコリント教會の牧方其他推して知る可し。

○愛

「我は心柔和ニして謙遜者なれば我軛を負ひて我ニ學べ爾曹心ニ平安を獲べし」馬太十一章二十八せつ

「イエス彼ニ日るハ爾ニ七次とは言はじ七次二十七倍せよ」

馬太十八ノ二十二

「彼ハ競ふことなく喧ぶことなし人街ニ於テ其聲を聞ことなし眞道をして勝とげしむるまでは傷る章を折ることなく煙れる麻を熄すことなし」馬太二十二の十九、二十一

「神の其子を世ニ遣し給へるハ世の罪を定んとニあらず彼ニ由テ世を救はんが爲也」約傳三の十七

「我も爾の罪を定めず往きて再び罪を犯す勿れ」約八の十一
「なんぢ囊ニ五人の夫ありて今ある者は爾の夫ニあらず爾の言しは眞なり」ヨハネ四の18

「イエス彼が家ニ食する時稅吏罪ある人多く來りてイエス及其その弟子と偕ニ坐しぬ」馬太九の十二

「イエスヤコブトヨハネ又十二使ヲ戒メシトキモ怒リテなしたまはず柔和になしたまへり」馬太二十の二十、二十八

「視よ爾の王は柔和ニして驢馬すなわち驢馬の子ニ乗りなんぢニ來るとシヨンの女ニ告げよ」馬太二十一の四

「慈悲・矜恤・謙遜・柔和・忍耐を衣よ」Col 3:12
「柔和と畏懼をもて答を爲さん事を恒ニ備へよ」彼前三の十

五

「人を誇らず争はず和平ニし衆の人を待ふニ柔和を以てせん事を憶ひ起しむべし」提多三の二

「柔和恬靜なる靈をもて裝飾とすべし」彼得前三の四

「神を敬ふ事と信仰と愛と堪忍と柔和とを慕ふべし」提摩太六の十一

「主の僕は争ふ可らず和平らかに凡の人を待ひ教を善し忍こ
とを爲し逆ふ者をば柔和を以て戒むべし」提摩後二の二十四
「悉く謙遜と柔和と寛容なる心をもて行ひ愛をも互に忍び平
和といふ繁の中ニ務て靈の賜ふ所の一なるが如し」以弗所四
の二「夫摩西爲人溫柔勝於世上之萬民」民數十二ノ三
此柔和あれば人の心を傷けざる也。之ニ由テ人を愈す事を得
ん。

「牧者なき羊の如く衆人なやみ又流離ニなりし故ニ之を見て
憫みたまふ」馬太九の三十六

「今日鶏なかざる前ニ爾三次われを識らずと言ん」路加廿二
の三十四

「ペテロニ曰けるは如此一時も我と偕ニ目を醒しをること能
はざる乎惑ニ入らぬやふ目を醒しかつ祈れその靈ニは願ふな
れども肉體よはきなり」此時三次まで眠れり又ペテロハ三次
キリストヲ識らずといへり然れども之を赦せり（馬太廿六の
四十一、四十二）

「乳母その赤子を育ふ如く我儕なんぢらの中ニ在りて柔和ニ

せり」帖二の七

「兄弟よ若しはからずも過ニ陥る者あらば爾曹のうち靈ニ感
じたる者柔和なる心をもて之を規正すべし」加拉六の一

「今生まれし嬰兒の乳を慕フ如く爾曹心を養ふ眞乳を慕ふ可
し此ニ由て爾曹長ちて教ニ至らん」彼得二の二

「靈の結ぶ所の果ハ仁愛、喜樂、平和、忍耐、慈悲、良善、
忠信、溫柔、撻節」加拉太五の二十二

「柔和なる者は福也其人ハ地を嗣ぐことを得べければなり」
馬太五の五

汝先づ柔和を學ぶ可し。是れ愛なり。謙遜なり。故ニ小兒も
罪人も實ニ柔和を用ゐて働く可し。

「爾ら互ニ容忍をなし若し人ニ責むべき事あらば之を恕せキ
リスト爾らを恕し給る如く爾らも然すべし」哥羅西三の十三
キリストハ罪を贖ひ罪を赦し罪を潔め罪を滅し罪を愈したま
ふものにて、之を罰し之を責めたまふものニあらず。

萬人ニ從フベシ。

○喜樂

喜ハ罪を愈されて初めて起るもの也。良心の苦ハ病なる罪よ
り起る故罪愈エザレバ幸ある事なし。

仁愛、喜樂とあり。是れ愛より喜ハ起るなり。

又心の雲霧を除き去らば心ニ喜起るなり。是れ満足也。其他喜を得るニ種々の原因にあり。

其原因を求めざれば喜を得る事能はず。聖書ニ「常ニ喜ぶべし」帖撒五の十七

是れ神ニ居り愛ニ居り潔ニ居り光ニ居らば必ず喜ニ居らん。

憂ハ良心の責ト神ニ離ルゝト心ニ疑起り満足せざるより起るものなり。故ニ愛なく人ニ逢ハゞ、思煩ふ者ニは其事とく取除き、良心の責ある者ハ悔改め、疑ある者ハ解き、不満足ある者ニは満足をあたふべし。

○人の罪ニ付テ

キリストハ罪を調べ責むる爲ニ來りたまわず罪を救はん爲ニ來れり。故ニ多く人の罪ニ注意し之を督す事のみを意とせず罪の愈されん事を祈る可し。

病あらば必ず苦痛ある如く、罪あらば必ず良心の責ある可し。故ニ罪を責むるニ及ばざらん。之を憐み救はるゝ事を務むる可し。

「併し罪を犯して謾或ハ樂ミ笑ふものある時は之を責む可し。キリストモバリサイ人を戒めし事あり。また聖書ニ苦め悲め哭け汝の喜を憂ニ變へよ汝の笑を悲ニ代へよとあるなり。」

醫者病人ニ逢はゞかならず之を苦めず直ニ其苦をゆるめるならん。如是キリストハ罪人を見て直ニ恵ミ愈シたまふべし。

十月二十七日

○今郡山ニ於テノ働ニ付確定せし事

(一)一週中三日全く讀書ニ時を費す事其他ハ半日之事

(二)隔週一度二日間大阪ニ通ひ質問する事

(三)毎日一時間ハ信者の爲英學を學ぶ者の爲ニ費す事

(四)水曜日及日曜日ニは郡山教會ニ於テ説教或ハ祈祷會する事

重ニ水曜日ニは信者の働く可き事を教へかつ示す事

(五)奈良の働は可成ハ今迄の通ニ續ける事

(六)荒時ハ信者の爲夕方より行く事但し隔週ニして一度ハ代を送る事

聖書ハ(一)聖書の友(二)ガラテヤ書(三)黙示録注解(四)以賽亞一章宛

神學 (一)フキニー氏著書

並ニ雜書(二)リバイバルレクチャー

(三)ブラクチカルセヨウジ

(四)シヤフ氏 教會歴史

(五)時々新聞

	土	金	木	水	火	月	日	
前						聖書 祈祷	聖書 研究	七時 八時 九時 十時 十一時
後						教	監獄 説教	一時 二時 三時 四時 五時
夜		英語	英語	英語	英語	英語	説教	七時 八時 九時 十時

○惡魔ハ王ノ如き者也

惡魔ハ暗を主ル王ナリ。即ち政を取ルモノナレバ其強き事知る可し。之ニ戰ひ勝たんとせば光の王即ち聖靈ニ由テ戰はざれば勝つ事能はざる可し。

「我儕は血肉と戰ふニあらず政また權威また斯の世の幽暗を宰どる者また夫の處ニある惡の靈と戰ふなり」以弗所六の12

○更生の時

草木成長スルニ之を見る事能はず。又夜の暗より明るも漸々にて人其區別を見る事能はず。人の新ニ生るゝも如是もの乎。

○リバイバル哈巴谷三の二

(一)是れハバキがエレミヤノ時人民の後の有様を見悲をもて神ニ祈りし言葉ならん。

(二)宗教ハ人の働ナリ。即ち人心をもて心より神ニ順ふ事なり。是れ人の務なり。神ハ彼をして神ニ順ふよう勵したまふ也。人々神ニ順ふ事を嫌ひ或ハ惡なるニよりにて聖靈を以て彼を感化したたまふ也。人々ミナ神ニ順ふものなれば「神よ爾の工を興せ」と祈るの折なし。

此祈の必要の理ハ人々全く神ニ順ふ事を好まざるニよる。神聖靈の恩化を興へざればカッテ地球上一人も神の誠ニ従ふものなからん。

(三)一ノリバイバルハ萬の哀徵ナリシヲ推察せしむる也。凡テノ教會ハリバイバルヨリ成リタル也。リバイバルハ人の心を勵す爲ニ神の建てたもうもの也。人ハ實ニ靈の懶惰なるものにて彼らの靈を神の道より離らしむる多の物ありて福音の感化ニ逆ふ也。故ニ彼曹の中ニ獎勵を起し其潮勢彼らの反對する害物を流すの強度ニ至るハ肝要なり。神ニ従ふ前ニ凡ての迷ふ感情を打破り盡す程の勵を得ざる可らず。

感情を起スハ宗教ニあらずと雖ドモ、人は或ル理ニより肉ト世の欲ニ由テ奴隷トナルモノナリ。故ニ罪惡ト其危險の感情

を醒すは實ニ必要なり。而して反對の情ト欲の獎勵ハ肉ト世の欲の力を破り吾本心を残して神ニ従ふニ自由ならしむ可し。故ニ清キ事ニ感ジルハ實ニ大切ナリ。然れども未だ本心の決心スルまでハ感情のみハ善ニもあらず惡ニあらざる可し。

(三、) 猶太人の歴史を回顧せよ。神ハ格別の時ニ於て彼らをして宗教を保たせん爲リバイバルヲ用ゐ而して彼らを勵し人民をして神ニ歸らしめしならん。

其後復タ世の情ニ蔽れ、淫亂、偶像ニ迷ひ、高慢ニ流る。然れどもリバイバルニ由テまた興るなり。

四宗教の感情が醒め起らざれば教會の元素ハ小ク其目的の形ハ小して強固ならず。之ニ反對する世の感情ト勵ミハ之ニ勝ち、人々神ニ従はざるべし。彼らの智慧ハ少く彼らの基ハ弱く勵ます事あらざれば、彼らハ務の道より離れ神の榮を顯ハストコ能はざらん。今もこの世の有様ハ同シキ事ナレバ、ミレニームの全く來るまでハリバイバルの方法をもてのみ宗教ハ盛なる事を得るなり。此時機ニ應じたる獎勵ナクシテ、教會ヲシテ神の爲ニ動かさず働かしめんと幾度幾久しく試みしや。多の善き人々の考しニ又今も考フルニ宗教を盛大ニするハ常ニ同等ニ追々進み不熱心二人を追々集めかかる獎勵なく

して進むハ尤も善き道と想像する也。然れども其實ハ具説の無益なるを證する也。たとへ教會ハ十分智識ニ富み、理を保つと雖ドモ光少く多の叛逆の源あれば、格別の獎勵あらざれば動かさずして進む事能はざらん。尤もミレニーム來らば、時々ノ獎勵ある事ハ知らざるべし。然れども此時ニ於てハ教會全く光ニ滿の叛逆の源ハ全く去り、全く神ニ從フニ至ルベシ。

故ニ教會ハリバイバルニ由テ盛ニナルナリ。

(四) もし如是獎勵なくして教會が一進路ニ順從し行けば、是れ實ニ望むべき事也。如何となれば斯ル獎勵ハ健康ヲ害する事あれば也。もし永く續けば必ズ神經を痛め働か能はざるに至る。

○聖靈の御恩化

聖靈の御恩化ハ神の眞理即ち神の言葉を心ニ聞き或ハ宇宙の有様身體及靈魂上等の有様ニ由テ聖靈の御恩化ある也。惡魔ハ肉欲や世の美キモノ味ヨキモノ凡の好む者を以て情欲を興さしめ、人を罪ニ導くなり。如是聖靈ハ天國の美靈の食物飲物の味無限生命の悦等を以て感ぜしめ潔ニ導きたまふなり。惡魔ハ偽をもて人を導き神ハ眞をもて導きたまふ也。故ニ人ハ惡魔の誘を碎き聖靈の恩化を得て救を得るものなり。

○リバイバル レクチャー

(一)リバイバルハ奇蹟ニあらず

(一)奇跡ハ神ノ力ニテ自然の法律ヲ與へ或ハ止むる事ヲ言フナリ。然れどもリバイバルハ如是奇蹟ニあらず。リバイバルヲ受ルニモ體モ心モ其律ハ其儘ニ働クナリ。而シテ其法律ハリバイバルノ時ニ與へられ或ハ止まる事ハならざるなり。

(二)又自然の力の上ニ出ルカヲ得ルノ奇蹟ニもあらず。宗教ニ入ればとて自然の定りたる力ニ越エタル力ヲ受ルニあらず。只自然の力を正しく働かすのみ。故ニ人々行者ニ成りたりと雖ドモ、前ニ出来ざりし仕事ハ矢張出来ざるなり。只前ニ種々ニ働かし如く其力を神の榮の爲ニ用あるのみ。

(三)又或ル理ニ於テモ奇蹟ニあらず。是れ明ニ道理ニ合ふたる種々の方道を正しく用ゐたる結果なるハ、恰も其他の事實の方法の適用ニ由テ得たる結果なるが如し。使徒ら奇蹟を爲したれども是れ只方法の爲ニ用し事ニテ、神の支配したまふ事を證する爲也。奇跡ハリバイバルニあらず。リバイバルト奇跡ハ大ニ異なる者也。素より使徒の時ハリバイバルハ奇跡ト共ニ連リシト雖ドモリバイバルハ奇蹟ニあらざるなり。

○リバイバル

今信者が各自ニ目を醒し直ニ神の聖靈ニ滿され罪を惡ミ神を

愛スル情ニ熱心ニなり、人の靈魂を愛し實ニ心ニ罪を犯ス人々を憂へ愛する情熱心ニ燃エナバ、必ズ多の罪人光ニ感じ神ニ立ち歸へる可し。如何ニしても今の信者より起らざれば他ハ興らざるなり。

今光を消スモ證スルモ信者の行ニあるなり。今已ニ信仰ニある兄弟を興スコト實ニ必要なり。

○リバイバル

余此のリバイバルニ付き宜ブルニ汝ラニ問可き十條アリ。

(一)汝何の爲ニ此の説教ヲ聞くや。

(二)汝リバイバルヲ起スベキ汝の義務を悟りしならば、其を實地ニ行フ可き積りなるや。

(三)若し余神の言葉ヨリ汝ニリバイバルニ付き眞理を教ヘナバ、之ニ従ひ汝の一生之を實踐スルヤ。

(四)而して之を汝の家族汝の朋友汝の隣汝の市ニ及スヤ。

(五)或ハ汝ら此冬中リバイバルニ付テ學び其起る爲ニは何も爲さざるや。

(六)余ハ汝リバイバルノ事ニ付き學び得し事ハ何ニテも直ニ實地ニ行ヒ此地の罪人の中ニリバイバルヲ起シ得ざるや考ヘ見よ。

(七)汝若し之を行ハサル積なれば今之を余ニ告げよ。然れば余ハ

己の力を費す事を要せず。

(六)汝今之ヲ決せよ。行ヤ。否ヤ。

(四)今神ニ誓を爲し吾らリバイバルニ付テ學び得し務ハ直ニ行ハ
ん事を、又神聖靈を此教會ト凡ての町ニ漑ぎ此冬ニリバイバ
ルのあらんを祈ルベシ。

○それ神ニ循ふ憂ハ悔なきの救を得るの悔改ニ至らし
む。

(一)欲ノ爲ニ入ルモ

(二)儉約ノ爲ニ入ルモノ

(三)交際ノ爲ニ入ルモノ(一)交ノ爲

(二)人品ノ爲

(四)職業の爲ニ入ルモノ(一)職ヲ信者の中ニ得ル爲

(二)繁昌センガ爲或ハ信用の爲

(四)名譽ノ爲ニ入ルモノ

(六)家ヲ治ル手術ニ入ルモノアリ

○

(一)エホバヲ畏レ罪ヲ悔ヒテ來ルモノハ眞の信者也。

鰥(一) 彼らハ罪少キ故神ヲ畏レザルヤ。

何より良心の責起るや。

(二) 惡魔ニ勝テ行フベシ。

(三) 信者の忠告ハ尤モ可慥也。

○道を行ふ者となる可し。

聖書を読み或ハ之ニ關する書を読むニ行ふ爲ニ讀むべし。又
人ニ説教するも語るにも其人をして行はしむる爲ニ爲すべ
し。決して只知る爲や面白い爲やニ爲す可らず。直ニ之ヲ行
ふ能はざる事ハ妄ニ言ふ可らず。人の心ニ從ふて適する料を
與ふ可し。

○良心の責

人ハ良心の命ニ從ふより外ニ善を行ひ或ハ悔改むるの心な
し。又力なし。故ニ先づ人を導くニは人の良心ニ心を注ぎ其
人の良心の責起る様働く可し。人の命ニ從はしめんとする勿
れ。自ら良心の命ニ從はしむ可し。

○萬事詳細ニ考へよ

人の救ノ點悔改の道可行道凡テ心ニ疑しき處ハ明ニ研究し、
眞理を知て之ニ從ふを努めよ。

之を粗ろふニ爲す者ハ多く罪ニ陥る也。吾ら道ニ進み恵ニ育
つも之を務むるより得らるゝ也。

○道の廣く傳る事

只此道理即ち道を多く傳へ人々道を聞くのみニして之が爲働
くもの少ければ、決して救わるゝものなきなり。故ニ必ず一

人々一々聖靈の御恩化ニ由テ進まざれば廣く道の傳る事なきなり。

○爾曹ハ價を以て買れたる者なり人の奴隸となる勿れ

(哥林多前七の二三)

「兄弟よ吾れ言ん何より後の時ハ逼まれり蓋妻を有る者ハ有ざるが如く哭く者ハ哭ざるが如く喜ぶ者ハ喜ばざるが如く(この問中略あり)この世を用ゐる者ハ用ざるが如くすべき爲也夫れ此世の形狀ハ過逝なり」哥林前七の二九ノ三十

○天ニ在るものを念ひ地ニ在るものを念ふ勿れ(哥羅西

三章の二節)

○人ハ聖靈を受けなば満足すべし

たとへ學問なくとも金なくとも或體病あり或ハ迫害ありと更ニ不足心なく憂なく實ニ心ニ安を得べし。

「我が豫ふる水を飲むものは永遠濁く事なし」ヨハネ傳四の十四

「われ平安を爾らニ遣す我平安を爾らニ豫ふ我あたふる所ハ世の豫る所の如きニ非らず」ヨハネ傳十四の二十七せつ此節即ち二十六せつを視よ。是れ聖靈の御約束ニ關るべし。

○聖靈

人心ハ實ニ弱して直ニ暗の勢ニまけるものなり。然れども聖

靈常ニ彼の良心を導きたまふニより、神ニ順ふ心燃る也。また祈禱の精神も起る也。

○聖書

聖書を吾ら毎朝讀むハ即ち神より今日吾らの可行事を命じたまふ言葉也。また祈禱する時の神の約束なり。即ち神なる聖靈吾ニ語りたまふ教なるを忘る可らず。而して其感ぜし處ハ今日必ず行ふべし。又祈るべし。汝若し聖書を行ふ爲めに讀まざれば益を爲さざる也。然るニ吾ら儀式の如く讀むものあり。是れ大なる誤也。凡テ書物ハ行ふ爲ニ可讀者也。只博識の爲或ハ書物讀みニならん爲或ハ慰の爲讀む者素より大なる誤ナリ。

故ニ安息日ニ聖書研究スルモ説教するも教ゆる者ハ信者ニ之を行はしめんと務め、信者之を聽テ行ハン爲ニ來るべし。故ニ説教ニテモ書籍ニテモ實地の行ニ關する者ハ力ある也。素より聖書ハ其時代の信者ニ直接可爲事ヲ命じかつ教へたる者也。故ニ其人々ニ取テハ一々心ニ必要の眞理ニシテ力ありし也。故ニ亦今日の信者の可行爲ニ神の送りたまふ者也。故ニ一々吾心ニ直接行ふ可きもの也。若し之を行ふ爲ニ讀まざれば力なく又感ぜざる也。

○説教

説教ハ聖靈ニ感じ神の言葉を入の心ニ言フナリ。人心を光し
教へ戒め督し悔改ニ導き信仰ニ導くモノナリ。故二十分人の
心を知らざる可らず。また神の聖旨を十分辨へざる可らず。

○心の恣鏡 (第三章)

「我儕は肉ニ在りて行けども肉ニ循ひて戦はず」即ち我儕は
人と戦ふニあらず。其人の汚穢を宰る惡の靈と戦ふなり。人
多く肉の汚穢ニ陥るは惡の靈と戦はざるニ由る。

故ニ吾儕は人の顔や言葉や風や情杯亦目掛けず、吾が心ニ來
り或ハ人の心ニ働く惡の靈を目掛け、之と戦ふべし。是レ我
儕若し敵の在處（まゝか）と其奸計（はなごころ）を明ニ認めざれば何ぞ善き戦を戦
ひ勝を奏す可んや。余屢々青年輩の汚穢ニ誘れ可惡罪惡ヲ犯
し、其託言を聞くニ、或ハ曰く吾れ朋友ニ誘れたり。或ハ曰

く婦人ニ誘れ吾れ堅く拒むと雖トモ言ひ難きの情をもて來り
し故、終に心汚されたりと。呼喚愚なる哉。汝を罪ニ導きし
ものは惡魔ニして朋友ニあらず、婦人ニあらず、汝の心已ニ
惡魔ニ處を得させれば容易ニ惡ニ從ふなり。汝若し心の奥
底ニ來る惡魔の聲に逆ひ惡魔の起さしめんとする情を破り心
内ニ神の眞理と聖靈の感情充滿せば何ぞ汚穢が汝を導く事を
得んや。却て汝の顔の光ニ由テ彼の良心を責め或ハ恥ぢ或ハ

悔改むるニ至らん。

即ち汝の心ニ聖靈の潔き情熱する時は其の光汝の顔色汝の眼光
汝の口氣ヨリ輝り出デ、モーゼの顔の如き光を發し、汚れた
る靈之ニ近く事を得ざるなり。聖書ニ曰く「神ニ由て生れた
る者は自ら守るかの惡者これに觸くことを爲さざる也」

主イエス曰く「爾曹は地の鹽なり世の光なり」と。然れば吾
儕此暗き腐れたる世界ニ在りて光を發し鹽の味を保ち多の汚
穢れたる靈を清めざる可んや。諸君よ。惡魔の在處ト其奸計
（實ニ隠れて實ニ巧みなれば心を勞せざれば知る事能はず）
を明ニ認め之を目掛けて善き戦を戦ひ、己の靈を潔く守るの
みならず、汚れたる靈をも吾光ニ由て感化せざる可らず。

○聖靈

説教する時、人ニ咄す時、祈祷の時、人の心と聖靈ニ注目せ
よ。即ち聖靈の御惠の降る事を待つ可し。また是而已を祈る
べし。吾儕只救はるゝニはキリストにのみ頼るが如く働くニ
は只聖靈の御恩化ニのみ頼る可し。他の學問其他智識は聖靈
の御導ニ由て得る而已。聖靈の證を受ける時は見えざる天國は
見るが如く成り見えざる神も見るが如し、又地獄も己の永遠
の禍も己の有様も實ニ見るが如く未來の事も今現在ニ然るが

如く感ずる事を得るなり。もし神の水遠の事即ち世の創より世の末迄の事ニ自ら逢遇せば如何。其感じ如何。即ち聖靈の證を得ば實地の如く感ずるなり。

余は今日より一生は只聖靈ニ滿されて而已萬事を爲さん。然らざれば結果なし。

説教ニも神ニ祈るも神の奥義を悟るも惡魔ニ戰ふニも人を導くニもキリストを信ずるニも只聖靈の御恵を得て爲さん。亦凡テ基督信者皆ナ一生聖靈ト行く可し、然らざれば勝を得る事なし。

「凡そ神の靈ニ導るゝ者は是れ即ち神の子なり」ローマ八の十四

「聖靈を消す事勿れ」(テサロニケ前ロノ一九カ)

「聖靈を憂しむる勿れ爾ら末日の爲彼の印を受けたればなり」(エペソ 四ノ三〇カ)

「聖靈ニ滿さるべし」(エペソ書五ノ一八カ)

人もし渴ば我ニ來りて飲め我を信する者聖書ニ録し、如く其腹より活ける水川の如く流れ出すべし。」

惡魔ニ勝ち聖靈ニ滿さるるは實ニ力ある熱心の祈禱を要すると雖ドモ、もし吾れ神の御助を蒙りを受け其證を爲さば人々も之を信じ又之ニ倣ひ同じ恵を受けるニ至る可し。汝決して聖

靈を消す勿れ。常ニ聖靈ニ從ひ其命ニ從ひ常ニ祈禱して之を得可し。

○今日より此教會も聖靈ニ捧げ奉り私は只僕とならん。主よ。如何ニ爲したまふや。吾ニ何を爲せ給ふや。私の妻も兄弟も姉妹も汝の物なり。主よ。如何ニ導きたまふや。素より榮も汝の物なり。

○地獄

(一)汝の安息日を破りし事。姦淫を行ふ事。心を頑ニせし事。偽善を悔改めざる事。高慢なる事。汚れたる事。偽る事。光を防ぐ事。恵の血を輕め踏付る事。聖靈を憂へしむる事。神の旨ニ適はざる事。兄弟を惡む事。

○

○山田お高女○北住春女○中川外松○針谷桂齊○針谷延(奈良夫妻)○成瀬萬寿枝○林乙四郎○松田五平○きくえ○お富

○山田ミよ○矢追磯二郎○鈴木千代

松田妻○青木○森村要平○同妻○松五郎○

○教會

(一)汝曹は子を孕み産んとしたるや。
(二)又汝の産し子を養ふや。

○聖靈の御恩化

(一)牧師の上ニ聖靈の御恵あらざれば眞の説教を爲す事能はず。

(二)信者の上ニ聖靈の御導あらざれば罪人の爲ニ働く事能はず。

(三)罪人の上ニ聖靈の御助あらざれば眞ニ悔改むるものなし。

イエス曰く人は水と靈ニ由て生れざれば天國ニ入る事能はず。

○

松田五三郎○林乙四郎○森村平八○青木季男○針谷○中川竹松○山田親族○大工町老人○伊藤主馬◎矢追たか◎矢追ミよ

○鈴木千代○針谷なら久○伊藤妻○松田妻○森村さ記○

○神よ罪人なる我を憐み給へ(路十八の十三)

(一)自ら義と意ひ人を輕むる故

(二)己の義き處を以て罪を蔽はんとする故

(三)人と比して彼ニ優れるを以て己の過を蔽はんとす。

四)自ら肉の慾を捨つるを欲せざる故、聖靈を曲て説き良心を欺き眞理を曲ぐる者也。(以上三行マッシュロウ)

(四)良心眠りて己の罪たるを感ぜざる故也。

(1)眞理の光を見るニ由て醒る事あり。

(2)神の鞭ニ由て醒る事あり。

(3)神の刑罰ニ由テ醒る事あり。

(四)悔改むる力なしと托言ス。

○失望する點より悔改めざる事あり。

○聖靈より起る感情

愛ニしても憐ニしても力ニしても智ニしても己より生ずる者ハ力なく結果なし。故ニ汝先づ神ニ祈り聖靈より恵を受けて然る後ニ働く可し。また人を悔改めしむるも吾より出づる者ハ力なし。只聖靈の御恵ニ由るものなり。

○和を求む

和わ平へいを求むる者は福なり其人は神の子と稱らる可れば也」馬

太五の九

即ち神ト人ト人ト人ハ相互ニ和わき相愛スルニ至ルヲ求メ其爲

ニ働いヲ云フナリ。

相和わく事を得るハ心を潔くし人の罪を赦し己ニ克てば、必ず

一致スル事ヲ得べし。

「なんぢら互ニ容忍をなし若し人に責むべき事あらば之を恕せキリスト爾らを恕し給へる如く爾曹も然すべしこの諸の事

の外ニ愛を加へよ愛は衆徳の帯なり」哥羅西三の十三ノ十四

「若しおのゝ其心より兄弟を赦さずは我天の父も亦なんぢらニ此の如く行給ふべし」馬太十八の三十五

罪ハ惡ミ嫌ふ心ありト雖下モ、之と和き其罪を赦すの心をもて人を導く可し。

「我儕の如く彼らも一になし給へ」「此ハミナ一ニならん爲なり父よ爾われニ在りわれ亦なんじニ在るが如く彼らも我儕ニをりて一ニならん」「此ハ我儕の一なるが如く彼らも互一ニならん爲なり」約傳十章を視よ。

「彼は我儕の和なり二者を一となし冤仇となる隔の籬を毀ち律法の中ニ命ずる所の法を其肉體にて廢せり蓋二者を己ニ聯ね之を一の新しき人に造りて和がしめまた十字架を以て冤仇を滅し又これを以て二者を一體となして神と和がしめん爲也また來て福音を傳へ爾曹遠りし者及近き者ニも和平を宣べたり」以弗所二の十四—十七と十八

○行の目的

行の目的ハ愛なり。即ち神ト人ト人ト人の關係也。説教するニも要むニも勸むるニも此目的より出ざる可らず

○平和

己の内良心の責なきを平和ト云ふ。是れ神ト和き又人と和げば實ニ心平和にして本心の責なき故ニ之を平和と云ふなり。約翰第一書三章十八—廿四、

然れば神の働の目的及人間の働の目的は神ト人ト人ト人の和

き一となり、互ニ相愛するニ至る事也。ローマ十四の八—十

キリストの十字架も福音の目的も只此のみ、故ニ十字架を説く事ハ即ち神の愛を説事也。また罪人ト神和ぎ給ふ事なり。人平和を破る者あり。是れ罪なり。罪トハ神、或ハ人を惡ミ之を捨て之ニ離るゝこと也。而して己をのみ愛する事也。故ニ罪を犯す人ハ人の苦を意とせず恥をかまはず人の心を惡くするをかまわざるなり。故ニ嫉・争・怒・仇恨・分れ・惡ミ杯を起すなり。而して仇を報る心起る也。

○怒、惡を見て怒るは善し。惡人は善を見て怒る也。

(1) 惡を怒る。

(2) 惡のみ進むを責む。

(3) 己惡を行ひ本心の責ある者を憐む。

(4) 善き進まんとする者を忍ぶ。

(5) 己ニ逆ぶ者の惡を忍ぶ。

惡を怒るは愛ニして善人を一ニする力也。即ち愛の繫を切る敵を防ぐ力なり。

キリストハ平和の爲ニ十字架ニ掛れり。故ニ怒るニも和ニするも只此平和の道即ち愛の道ニ適へばよろしきなり。

○人の生涯

人のよき生涯ハ神ニ忠を盡し人を己の如く愛し己ニ克ち即ち神ト和き人ト和き一體トナル事也。此勳を多く爲せし者ハよき業を爲せし者也。ダビデニしてもモーゼにしても其宮殿を建てし事や王になりし事ハ已ニ跡方なしと雖ドモ、其行即ち靈ニ爲したる事ハ今天國ニ残れり。又世ニ残りて人の手本となれり。吾儕ハ永遠不朽業を爲すべし。日々を貯ふ可し。

○此世ニ於ても必ず報あり。

ダビデウリヤの妻を奪ひし故七日間斷食して憂苦する事起り其他子供の事ニより幾何心を苦めしや。如是今日も神ニ背く者ハ必ず報あり。

サウロ、ソロモンノ事モ参考すべし。

○説教の目的

(一)神の命ト憐ト聖旨を今其人ニ對して宜ぶる事

(二)其の人の今救わるゝ爲何を爲す可きを宜ぶる事也。

○今前爲事ハ常例ニして小事也

「心を高ク思を過す勿れ神の各人ニ賜りたる信仰の量に従ひて公平に思念ふ可し」ローマ十二の三、

「小事ニ忠き者ハ大事ニも忠く小事に忠からざる者ハ大事ニも忠からず」路加十六の十

「爾らもし芥種一粒ほどの信あらば此桑樹に於て海ニ植れと曰ふとも爾らニ從ふ可し」路加十七の六

「われ爾らニ乳を哺しめて堅き物を豫へざりき爾ら食ふ事能はざればなり」哥林上三の二——三

「また行爲は殊なれども一切の事を衆の人の中ニ行ふ神ハ同じ」哥林前十二の六

「各人の智ニ從ひて或者ニは銀五千或者ニは二千或者ニは一十千を豫へおき直ニ旅行せり」Mat. 23:12

(一)小より大ニ長つ者也。初ハ芥種の如く小なれども長てバ大トナルナリ。故二人に教ゆるも自ら學ぶも極小なる處より初めざる可らず。故ニいろは或ハMat. 23:12より初めざる可らず。

而して基順序を誤る可らず。量を過す可らず。順序を誤ると其人を失望するの害あり。また其人ニ不悟不愉快を興ふるものなり。

(二)貧乏人あり。病人あり。不具あり。貴人あり。役人あり。苦學者あり。學者あり。敏あり。鈍あり。

神ハ此らの外面ト品位ト性質を變へたまふニあらず。只其心を變へたまふなり。故ニ凡ての人の有様を知り其人トナリて

働く事大切なり。凡ての人の神の旨ニ從ひ神の御恵を感じなば満足する事を得る也。故ニ有る物をもて足れりとする事を學

ばしむべし。「すべての人ニは我その衆の人の狀ニ循へり」
哥林前九の二十二「各人その召れし時ハ在りし所の分ニ止るべしなんぢ奴隸して召れなば思煩ふ勿れ」哥林前七の二十と二十一

(三) ムーデーニなるとかあめりかの結果を直ニ得んと欲する勿れ。吾ら新ニ長たば如是ニ致して事を得ん。漸々ニ進むべし。

(四) 凡て信者ニ満足せしむ事必要なり。是れ喜の本なり。「我與る水を飲む者は永遠渴く事なし」約の四の十四

又全くなるべし。是れ喜の本也。「爾らの父の全きが如く爾らも完全すべし」馬太五の四十八

「公平ニ思ふべし」ローマ十二の三

「神を敬ひて足る事を知るは大なる利也」提太前六の六

「われこれらの望を既ニ得たりと言ふニあらず亦すでに全せられたり」と云ふニあらず或ハ取る事あらんとて我たゞ之を追ひ求む」腓立比三の十二

○神の心

常ニ神ト共ニ居リ常ニ神の言葉を感じ常ニ神の聖靈ニ満ちなば、心潔り愛の心溢れ如何ニ神の爲ニ働く可き如何ニ人を愛す可きや。吾務ハ何なるや。悟る事を得可し。吾目的は神ニ

忠義を盡すの外なし。もし全く神ニ事へなば人ニも愛を彰す事を得可し。

○愛

萬人己の義務を全し増々進み盛なるを悦ぶべし。

○神ニ忠義を盡すべし

多く集りて祈禱會する時ハ人心ミナ神ニ向フヤ否試むべし。説教する時神ニ聞く備あるや否を試むべし。信者ニ働をすゝめ行をすゝむる時神ニ忠義を盡す心あるや否を求む可し。

○怒

馬太五の二十二○馬太十六の二十三○馬可三の五、

○約の廿一の十七○約十九の一——三、

○彼前二の二十二——二十四、

明治十九年一月二十六日

一月二十八日

(表紙)

明十九年一月廿六日ヨリ

即紀元一千八百八十六年

日記

大和郡山ニ於テ

成瀬 仁藏

○靈魂之價

「若し人全世界を得るとも其生命を失はば何の益あらんや。また人何を以て其生命ニ易へんや」馬太^{二六}の

「身を殺して魂を殺すこと能はざる者を懼るゝ勿れ。唯爾ら魂と身とを地獄ニ滅し得る者を懼れよ」^{馬太十の二八}又馬太五の二十九

「人の福は心にある事を教へ玉へり」馬太五の一十二

「又人の禍も心ニある事を教へ玉へり」路加六の二十一―三十

八。

然れば僅なる肉欲の爲良心を傷めかつ亡びる者は禍なる哉。實に聖書は貴き靈魂の價を顯はす者也。又向々貴くする者なり人の罪は心ニある事を教へ玉へり「蓋心より出る所の惡念、凶殺、姦淫、苟合、盜竊、妄心、謗讟、馬太一五の十八」

○祈祷會並ニ説教の時除く可き情また凡ての働も如是

(一)人の事を思ふ事或は人数ノ事或ハ人の前ニハ善く祈らんと思ふ事或ハ人心を考ふる事抔の心を全く除き、神を愛し神を信じ聖靈の御存在を信じ、神より受るを熱望して祈る可きなり。(上手下手を思ふ事と、人の前よくせんと思はむもあし。)

(二)吾心より先づ上手ニ説んとか人を感ぜしめんとか面白く言はんとか人が吾を如可ニ思ふとか、即ち人の心を悦ばせんとする心を全く除き去らざる可らず。次ニ人心ニある面白き事聞んとか議論を好む心とか餘處事ニする心耳を愛ばせんと思ふ心抔を取らざる可らず。即ち空を撃つ事を避く可し。

(三)只神の前ニ爲せ只神ニ知られなば十分也。然れば神の報を得べし。神の御恵ニよりにて人心動く可し。

「我儕は多くの人の如く神の道を混亂せず即ち誠ニより神ニ由て神の前ニキリストに在りて言なり」哥林後二の17

「それ神の言は活てかつ能あり兩刃の劍よりも利く、氣と魂また筋骨骨髄まで刺し部ち心の念と表意を鑿察ものなり」希伯來四十二

人の目的を定むる事第一の事也。是れ二あり。神ニ事ヘルか人や己ニ事ヘル乎、只善ニのみ行く乎、只肉欲ニ従や説教の目的ハ第一此目的を代へしめ選びを變へしむる事なり。故ニ説教は人心を更る事なり。育る事なり。即ち種子を植へ水溉き耕す者なり。而して其目的は多の果を結ぶ事なり。

進むニは(一)祈祷 (二)聖書 (三)神の攝理 (四)信者の善行 (四)説教 (四)之ニ關する書籍 (四)己の良心

○今吾職務

(一)教會兄弟姉妹 (二)監獄處 (三)奈良 (四)岩室 (四)青年會 (四)迷へる羊及暗ニ住む民 (梅花女學校○伊勢○浪花教會)

今吾は牧師なり、傳道者也。是れ吾が現ニ掛る處の職務なり。之を怠るは神ニ對して不忠不義なり。神よ之を如何ニ盡す可きや、示したまへ。

日記

「我儕は常ニ祈ることを道傳ることを務むべし」使徒六の四
「益ある事は残す所なく之を宣て或は人々の前或は家々ニ於て

爾らニ教へ」「我ら三年のあひだ夜も晝も斷ず涙を流して各人を勧めしことを憶ふ可し」使の二十二章

「人もし自己の家を理ることを知らずして如何ニして神の教會を管ることを得んや」提摩太三章を視よ

「爾誦讀と勤勉と教訓を務めて吾至るを待て」提十四章

「爾神ニ悦ばるゝ者と爲らんことを務めまた恥る所なき工人となりて眞道を正しく(一字不明)ち教んことを務むべし」提摩太後二の十五

「爾道を宣傳ふべし。時を得るも時を得ざるも勵みて之を務め各様の忍耐と教謙を以て人を督し戒め勤むべし」提摩太四の二

(一)今此時の爲ニ働けば此時を知るべし

(二)今此地の爲ニ働けば今此地を知るべし

(三)今此民の爲ニ働けば今此民を知るべし

(四)今此吾が働けば此吾を知るべし

(四)今神の聖旨の爲ニ働けば其聖旨を知るべし

(四)又吾が働く間の時の長をも知る可し

(一)今は舊より新ニ移り變るの時なり。即ちキリストの時の如く

ルーサーの如き時なり。而して今は今ある果を刈入るゝ時なり。田は早や色付きて白くなれり。之を刈る時なり。之空く

過せば多く亡びるもの多し。多く獲れば多く救ふ可し

(二)此地暗き淫亂なる無氣力の地なり

(三)無學なる民多し。長幼あり。男女あり。貧富あり。多くは罪人にして悪き風習ニ染みしものなり。只利欲ニ迷ふもの多し

(四)神の聖旨は今吾を此地ニ遣し、生命を捨て、人の爲ニ働かしたまふなり。昔の愛を多く知るも好みたまはず。今迷ひし羊を尋ねて救ふを求めたまふなり。

(五)吾が働く間は三十間なり

「われ衆の人ニ向ひて自主の者なれども更ニ多の人を得ん爲ニ自ら己を衆の人の奴隸となせり。ユダヤ人ニは我ユダヤ人の如くなれり——すべての人々は我前衆の人の狀に循へり是れいかニもして彼ら數人を救ん爲なり」哥林多前九の十九の二十二

「神は我が不斷なんぢらを憐ふ其證なり」ローマ一の九
「若しわが兄弟わが骨肉の爲ニならんニは或はキリストより絶れ沈論ニ至らんも亦わが願なり」ローマ九

「誰か弱りて我弱らざらんや誰か礙きて我が心熱せざらんや」哥林多後十一の二十九

(六)働く力は聖靈ある而已

(七)故ニ第一此働を目的となししこと、次ニ即ち共目的を遂る爲ニ種々の書籍を讀む可し

○故ニ

(一)毎朝六時より十二時迄 聖書、祈禱、説教の用意 働ニ付考

ふる杯

(二)午後十二時より三時迄 讀書

(三)三時より十時迄 働く事

○祈禱ス可キ人

山本勇吉○三橋○加藤鏡太郎○疋田○青木桶清(カ)○木嶋○安達○

鈴木○青木季男○東田

○監獄處 女立木もと(老人) 中村コキン(盜米) 山中トミ

(盜)

男徒○南井嘉三郎(聖書) 偽証

○福井定二郎(勤善) 偽証(カ)

○咄田勝次(物理) (順査)(マ)

○密ニ爲すこと

人の爲ニ祈る事、人の爲ニ働く事ハ凡て隠ニ爲して働く可し

一月二十八日

○針谷兄へ説教依頼する事 ○加藤・青木・疋田を導く事

○説教 監獄處 ○奈良 ○郡山

○多く天ニ財を貯ふ可し

來也あらば(二字不明)天ニ財を積む者は智きもの也。己れ如何ニ

して多く財を積み得んや。是れ(二字不明)して多く人ニ善を爲し、神ニ忠を盡し、多く人を愛し、多く人の益を計り、多く人の靈魂を救ひ、此世の榮と財と生命を捨てなば天ニ財多らん

「寢於地之塵中者多將復醒或得永生或ハ致蓋報而愛永遠辱 教多人歸義者將耀如_レ是迄永遠(但以理)

○十分學問もなし、金も儲け、實ニ神の榮を顯す爲ニ我も人を救ふ爲ニ目的となせば、天ニ財を積むなり。もし己の reading 爲ニせんとせば悉く(以下五字不明)

○謙遜

遜る者は心ニ福あり。キリスト曰く心の貧き者は福也 天國は其人の有なればなり

「貧き者ニ福音を宣傳ふ」路加四の十八。

○進歩

吾儕眞理を知るニより信仰ニ進ミ愛ニ進ミ望ニ進むものなり。故ニ毎日眞理を孜孜として求め常ニ自ら進歩して人をも導ざる可らず。西洋の學者六十或七十歳に至りても日々規則を立て、進歩するハ實ニ吾模範と爲す可し。

○説教の種子を得る方法

日記 一日々少の感あらばミナ之を帳ニ記し置くべし。又人ニ聞きし事或ハ書ニ讀みし事ミナ然す可し

○神は上より吾心を視たまふ事

Mr. Strator の John ニ付き郡山教堂ニ於て咄せし事

○救われし事ハ全神の力ニよる

「水と靈ニよりて生れざれば神の國ニ入る事能はず」ヨハネ三の五

「斯る事ハ血脈ニ由ニ非らず。情欲ニ由ニあらず。人の道ニ由ニあらず 唯神ニ由て生れしなり」ヨハネ傳一の十三

「我ハ種エアポロは灌く長る者は神なり」哥林前三の六

「また曰るは神の國は人種を地に播が如し。日夜起臥する間ニ種ははいでて成長ども其然る故を知らず」馬可四章二十六―二十九

○説教題

奈良監獄處 ○來世論

奈良講議處 ○來世論

○未來の望

人は必ず未來の望を保つものなり。明日は何を爲さん、何を食はん、十年後ニは如何、百年後ニは如何、來世は如何と必ず望あり。是れ人の靈の能力なり。而して昨日何を爲せし事を覺ゆる力あるなり。而して今日之を考れば昨日の愚は今日の責となり、明日の善き望は今日の喜悅となるなり。故ニ來世ニ於ての

望は今日の喜となり、今世の罪は來世の苦となるを悟る可し。

明日あるを知るは只信仰なり。

又人間物の原因を考ふる力あり。故ニ此時計を見れば此は如何ニして出來しやと考るなり。此地球を見れば此地球は如何ニして生ぜしや、何時生ぜしやと考て終ニ造物主あるを知るなり。

如是、明日は何力、十年後は何乎、又死トハ何、死して後ハ如何ニなり行ニヤと必ず考を起すものなり。是れ必ず未來を知り度心なり

而して人ハ悉く未來の有るを願望するなり。

(一)人ハ誰も明日の有るを切ニ望み樂むなり

(二)人の永生を欲するは何故乎、是れ來世を望む証なり。十年より二十年、二十年より百年、百年より千年、千年より萬年を望むなるべし。○一休和尚の死の時 ○ある人の死んとする時、賊ニ逢ひし事

(三)人ハ未來の幸福を望むものなり。即ち今日より明日ハ善き家ニ居り、良き食を食ひ、善き衣服を着、幸を得度と望むなり。故ニ今日惡を爲せば明日の苦となる故、今日己ニ克ちて明日の幸福を望むなり。

(四)人は明日の苦を嫌ひ之を避んとするなり。即ち明日打るゝとか、明日は殺さるゝとか、明日は大洪水あるとか、今日

聞けば、必ず之を嫌ひ避んとするものなり。是れ人の地獄を恐るる以所なり。

(五)未來の用意は今日より爲さざる可らず。明日の食物は今日貯へざる可らず。十年後ニ學者とならんと欲せば今日學ばざる可らず。來年、穀物を得んと欲せば今年より貯ざる可らず。凡て人ハ今日は明日の事、今年は來年の事。今世は來世の爲ニ備を爲し居るものなり。而して今日食物は昨日蓄へしもの、今日用ゐる學力は昨日學びしもの、今日の衣服は昨日備しもの、今日の幸福は昨日の報、今日の苦も今日の報なり。故ニ人ハ今日用ゐる物は過去の物、今働くは未來の爲なり。

○人々未來はどふでもよしと云ふは短き未來がある故之を望とする故なり。しかし此未來が終る時は必ず眞の未來を要するは論を待たず。故ニ何の証據なくとも未來を要するなり。吾ニ飢ゆる心あれば食あるの証據を求めず。只其食あれば吾ニ於ては満足なり。如是吾心ニ未來を要する心ある故ニ之れあれば吾満足するなり。吾心ニ願望する情ありて之ニ應ずる物なき事ハ一もなきなり。

○人もし渴かば我ニ來りて飲め(約傳七の三七)
人心は必ず眞理を慕ふものなり。故ニ人もし眞理を知らんと欲

せばキリストニ學ぶべし。キリスト曰く吾は眞理なりと。又人ハ來世を望むなり。キリストニ行くべし。イエスは生命なり。人ハ心の清らん事を慕ふなり。イエスハ聖靈を以て吾らを清め得るなり。人ハ罪の免されん事を慕ふものなり。イエスニ行く可し。人は眞の安心と幸福を求むるなり。キリストニ至るべし。キリスト汝ニ安を與ふべし。人ハ天地の大原因を知らんと欲するなり。キリストニ行ば之を示したまふべし。人に神を見んと欲するなり。キリスト之を顯したまふなり。人心ハ眞の証據を求むるなり。キリストは眞の証を爲ん爲ニ來れり。「蓋は眞理ニ付て証を爲ん爲なり」約十八章三十七

もし汝らキリストニ來らば眞の満足を得べし。「然れど我與る水を飲む者は永遠渴く事なし」約傳四章十四節を視よ。キリストは靈の水又糧なり。如何なる人ニても世界萬國の人ハ幸福と生命と善行と眞理杯を飢渴く如く求め居るものなり。

○人ニ直接罪を云ふハ失禮乎

デフォレスト氏曰く人ニ直接心の事ヲ聞くは必ず人之を忌む。人自ら思ふて罪の赦さるる事、或ハ安心杯の事は吾と神の間の事故、人ニ關係なしと云ふなり。

○結果

キリスト教の結果を云ふは大ニ力ありと

○規則

神の支配に二字不明す規則あればかならず之を立てざる可らず

○骨を勞す

萬國骨を碎き身を勞し心を働かさざれば、果を得る事能はず。

○人の心は神の前ニ明なれども人の前ニ暗し

故ニ人ニ隠して偽善を行ふ事を得るものなり。故ニ人は全く神ニ對し萬事行わざる可らず。聖靈は其隠場を悉く知り給へば、實ニ人を善ニ導きたまふものなり。

○聖靈

吾れ潔き心をもて人心を見ば人惡を爲す事能はず。然れどももし聖靈人の心を番し守り玉ふ時は惡テ近く事能はざるなり。

吾れ人を導くより聖靈愛と眞理をもて人心を導きたまふ時は必ず人救るべし。故ニ神を信じて働く可し。

○力ある説教

十分力を入れ、神の聖靈をも受け、心一杯滿るよう曰はざれば力なし。故ニ先づ吾心ニ滿す可し。而して後之を人ニ與ふ可し。イエス曰く「人もし渴ば我ニ來りて飲め、我を信する者は聖書ニ稱し、如く其腹より活ける水川の如くニ流れ出すべし」約傳七の38 腹ニ滿すは祈祷と聖靈と眞理を滿すべし。

○祈祷の應報

今日祈りし事ハ神聞き給ひし故ニ必ず應ずる也。卽座ニ受る事

あり。復之を受る事あれば其受るを待ち受けし時は感謝す可し。

○如何にして人を導くや

(一) 証據ニよりて信ずる心起る也。故ニ多く証據を集むべし。(1)

學術 (2) 聖書 (3) 人 (4) 聖靈

(二) 感情(1) 神と判審と地獄を懼れしめて罪を止むる

(2) 神の愛を顯して從はしむる事

(3) 報を望んで熱心ニ善を爲さしむる事

(三) 眞理 人は眞理を愛する者故十分眞理を以て人を導く事を得

るなり

(四) 手本 善き行を以て善き手本を人の前ニ顯すべし。是れ大なる力あるものなり。

(五) 尤も人の靈を導きたまふものは聖靈なり。吾れ之ニ由て力あり。

○己れ

成人は己の爲ニ人を導く者あり。是れ偽善なり

○題

△罪トハ己の爲ニ二人の生命を奪ふ事也△愛トハ人の爲ニ生命を捨る事也

△答 是れ己ニ勝ちて情を制するの外なきなり。此欲望を取去る事能はず。只勝つ事を得るなり。

キリストは四十日、四十夜食せず。後飢エタリ。冬寒りしも枕する所なかりし。其他人ニ誘られ、打れ棘の兜を着せられ、終ニ十字架ニ掛られたまへり。吾ら萬事神ニ任せ、もし神の聖旨ニて飢死める事あり、或ハ殺さるゝ事あり、或ハ病死する事ありとも、己ニ克ち之を忍ぶ心あらば、何ぞ後の事を思煩ふニ及んや。吾ら世の事を思煩ふは苦、即十字架を避んとするが故なり。世の樂を可成多く受んと望むが故なり。吾れ水生を得んが爲、多く善を爲ん爲此の樂を捨て多苦を受くべし。

愛と罪の

比較
區別
關係

○人の肉欲ニ引れて良心ニ疵を付け、或ハ財を慕ひ、或ハ明日の事を慮て思ひ煩ひ、或ハ癖の爲ニ難む杯の心の病は如何して愈んや

△答 是れ己ニ勝ちて情を制するの外なきなり。此欲望を取去る事能はず。只勝つ事を得るなり。

キリストは四十日、四十夜食せず。後飢エタリ。冬寒りしも枕する所なかりし。其他人ニ誘られ、打れ棘の兜を着せられ、終ニ十字架ニ掛られたまへり。吾ら萬事神ニ任せ、もし神の聖旨ニて飢死める事あり、或ハ殺さるゝ事あり、或ハ病死する事ありとも、己ニ克ち之を忍ぶ心あらば、何ぞ後の事を思煩ふニ及んや。吾ら世の事を思煩ふは苦、即十字架を避んとするが故なり。世の樂を可成多く受んと望むが故なり。吾れ水生を得んが爲、多く善を爲ん爲此の樂を捨て多苦を受くべし。

「我ニ從んと願ふ者は己を棄てその十字架を自て我ニ從へ」馬可八の三四「己の體を撃て之を服せしむ蓋はかの人を教て自ら棄られんことを恐ればなり」哥林多九の二十七我が敵ハ我が色欲、食欲、飲欲、利欲、怒り、嫉ミ、高慢、懶惰杯即ち我が體なり。日々力を盡し心を盡して之と戦ふべし。吾ら兎角人を敵

なり。日々力を盡し心を盡して之と戦ふべし。吾ら兎角人を敵

なり。日々力を盡し心を盡して之と戦ふべし。吾ら兎角人を敵

なり。日々力を盡し心を盡して之と戦ふべし。吾ら兎角人を敵

なり。日々力を盡し心を盡して之と戦ふべし。吾ら兎角人を敵

なり。日々力を盡し心を盡して之と戦ふべし。吾ら兎角人を敵

なり。日々力を盡し心を盡して之と戦ふべし。吾ら兎角人を敵

なり。日々力を盡し心を盡して之と戦ふべし。吾ら兎角人を敵

なり。日々力を盡し心を盡して之と戦ふべし。吾ら兎角人を敵

なり。日々力を盡し心を盡して之と戦ふべし。吾ら兎角人を敵

なり。日々力を盡し心を盡して之と戦ふべし。吾ら兎角人を敵

なり。日々力を盡し心を盡して之と戦ふべし。吾ら兎角人を敵

なり。日々力を盡し心を盡して之と戦ふべし。吾ら兎角人を敵

なり。日々力を盡し心を盡して之と戦ふべし。吾ら兎角人を敵

とすれども人は吾が敵ニあらず。吾體は即ち吾が敵なり。汝ち之と善戰を戦ふて之を擒ニして之を殺すべし。例せば人と争ふ時人を吾ニ降參せしめんとて戦ふ勿れ。吾が欲即ち高慢、怒リノ私欲杯を降參せしむべし。人が従はざる時は人を怒る勿れ。己が愛足らず忍耐足らず知る慧足らざるを悔み、増々己を棄て、熱心ニ善を爲すべし。人の善ニ移らざるを見る時は未だ己の手の足らざるを見る可し。常ニ己を責めて人を責むる勿れ。人の懶惰を責めず吾懶惰を責めよ。人の欲ニ陥るを責めず吾欲ニ陥るを責めよ。人の愛足らざるを責めず吾が愛の足らざるを責めよ。人の働かざるを責めず吾が働の足らざるを責めよ。斯く己を全せば必ず人を全ニ導くニ至るべし。「偽善者よ先づ己れの目より梁をとれ然らば兄弟の目より物屑を得るやう明し見る可し」馬太七章五節 吾が妻愛なきは吾れ愛なきニ由る。教會愛なきは吾ニ愛なきニ由る。教會の眠るは吾れ眠れるニ由る。人教會ニ來らざるは吾が力なきニ由る。人を教ゆるより己を教へよ。人を勤むるより己を勤めよ。人の心を調ぶるより己の心を調べよ。又人を導ニ行く時も己の足らざるを知るべし。吾心は吾が自由ニあり。人の心は人の自由ニあり。故人ハ各々己を治め己の務を全くせざる可らず。決して人之を盡す事能はず。

「我なんちらに例を示せり・此ハ我爾らニ行し如く爾曹ニも行しめん爲也」約傳十三の一五

「人もし監督の職を欲ハゞ足れ善務を欲ふ也といふ話は誠なり。それ監督たる者は責む可き所なく、一個の婦の夫なるべく、謹慎自ら制し品行正く旅客を感歎ニ待ひ教訓を爲し、酒を嗜まず人を撃たず、柔和また争はず、財を負らず、自己の家を善く理め端莊を以て其子女を服せしむ可きなり」提摩前三の一五

「言と行と愛と信と潔を以て信者の模楷となる可し」提摩前四の十二

吾進まじ、人を進ずを得、吾全らば人を全するを得るなり。

「我がキリストに倣ふ如く爾曹われニ倣ふべし」哥林前十一の一

「たゞ自己を模楷とし爾曹をして倣しめん爲也」帖撒羅迦三の九

「なんち何事を作すニも己れ善行の模楷とならん事を努め」提多二章七節

「人々爾曹の善行を見て天に在す爾曹の父を榮むべし」馬太五章の十六

吾儕人の爲ニ働くハ証を爲し勸を爲し、善き模楷を顯し賜を與

る事のみ。之を受ると受ざると即ち選んで行ふ事ハ其人の心の自由ニ有れば、吾ニ關係なし。故ニ其人の決心ニは吾心を勞する勿れ。

○愛

愛は己ニ克ち己を捨て人の益を計り人の救を求め人の幸を祈り人の悦を悦び人の憂を憂へ人の弱を助け知らざるを教へ迷へるを導き、即ち己の如く人の爲ニ働を言ふなり。即ち己ニ克ち己を勞し苦め忍び全くするハ人を愛し神を愛する事となるなり。目的は神を愛し神ニ愛せられ、又兄弟互ニ相愛する事なり。全く己ニ克ち己を潔するハ、神を愛し人を愛するの愛を全するなり。

○心の目的

汝人を導く心の目的は何なるや

Attribute of Selfishness

The desire is not free, but the choice to gratify it is and must be free.

(Page 184)

○各々の自由

神は各々ニ力と自由を與へたまへば、各々己の事を爲さざる可らず。人之を爲す事能はず。故ニ人ハ各々己の務を知り之を力を盡して爲す可きなり。故ニ其の己の事を爲す者は人の手木と

なり、人の爲ニ働き人を導く力ある者なり。吾行は最も善き働となるものなり。

○如何にして人をキリストニ導き得るや

(一)神の聖靈の御働ニ由る也。聖靈は常ニ働きたまふなり。教會の働を支配したまふものは聖靈なり。即ち人心ニ眞理を悟らせたまふ事、罪を知らせたまふ事、審判を示したまふ事。又人が更生して神の子となる事、常ニ成長する事、皆な聖靈の御働御恵なり。此聖靈ニ導れざる者は神のものニあらず。故ニ汝自ら思煩ふ事勿く祈りて聖靈と偕ニ働くべし。

(二)併し聖靈 *Meat* ⁽⁴⁾ニ由て働き給ふなり。たとへば神の力ニよ

りて草木育てども、種子あり水ありて種々方法ニよりて育つなり。又人間が物を製するニも必器械を用るなり。如何。聖靈も或ハ聖書或ハ人間等を用ゐて人心ニ働きたまふなり。故ニ吾儕は聖靈の僕なり、道具なり兵卒なり。故ニ只聖靈の御旨を辨へ之ニ從て其御用ニ立つ可し。即ち吾儕は己の儘を爲んとするニあらず。只聖靈の命ニ從ふのみ。故ニ自主なるものニあらず。吾ニ主人あり。然れば何ぞ思煩ふや。

(1)眞理ニ由て働きたまふなり。故ニ説教或ハ聖書其他書籍ニ由て働きたまふなり。

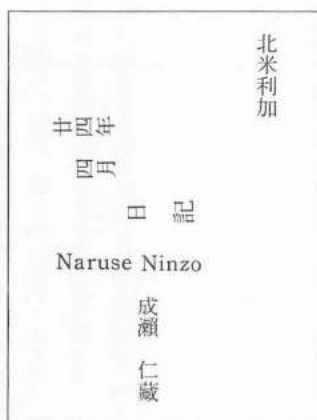
故ニ今迄尤も多く人を救ひし説教なり。フキトフキールド

氏或ハムデー氏或ハフキネー氏抔、日々ニ兩三度の説教をなし、此説教を聞き更生し者擧て數ふ可らず。實ニ神ハ眞理ニ由て人ニ自由を得せたまふなり。人を救ふは眞理を行ひ眞理を宣ぶるの外なきなり。人は眞理を知らざれば眞理を信じ之ニ従ふ能はざるなり。故ニ十分眞理を味ひ之を行ひ之を宣べて人を救ふべし。人の靈は眞理ニ由て生き眞理ニ由て決心の心起り、眞理ニ感じ、眞理ニ伏し眞理ニ由て惡ニ勝ち、眞理ニ由て愈へ眞理ニ由て變るものなり。此世の暗ニ勝つは眞理を守ると眞理を宣ぶるニよりて勝るゝなり。如何なる惡人愚者と雖も此眞理を知るの力あるなり。

明治二十四年四月下旬より

同二十五年一月二十七日まで

(表紙)



四月十三日

(以下八頁破棄)

(前缺)

可らざる事也。

余は米国之青年の爲、餘り萬事が便利過ぎて、却て心身の鍛鍊

を缺ぐものなるを憂ふ。吾人は今貧乏なる吾国ニ生れ改革の時
代ニ出でたるは何ぞ。夫れ幸福の甚しき者ならずや。諸君、勦
めよや。勇めよや。

四月三十日 關すが

右日記を女學雜誌へ送ル

岩本善治氏ニ書

万寿枝、松村、關すが、雖田千尋、松田國太郎、前神醇ニ書
面を送ル

五月二日

〔聖書〕聖書ハ實ニ人心ノ經驗より發したるもの自信自行の言
也。故ニ人心ニ適中ス。亦信ズルの價値あり。

五月十日

〔祈禱〕祈禱ハ神ニ接スル事ナレバ眞ニ心ニ願フ處ヲ祈求し感
ズル處ヲ謝スベシ。常ニ感謝スベシ。祈禱スベシ 是れ吾心の
糧也。

心ニ心配スル事切望スル事は悉く神ニ祈リ信仰スベシ。何事も
神ニ求めて得べし。神ニ由て成功スベシ。神ニ頼て安を得可し

〔神ハ日本ヲ捨テ玉ハズ〕

神ハ如何ナル人如何ナル國もミナ神の子孫なれば決して之ヲ捨
テ玉フの理由なし、然らば日本ヲ神の旨ニ適ふ幸ある國ニ救フ

事ヲ得る也、又如何ニ思しき人と雖モ救ハレザルトイフ事なし、決して人間ヲ棄ツ可らず、常ニ忍耐して導く可し

五月廿三日 土曜日

青柳、万寿枝、阪口、若林、加藤ニ書を認む 玉木直

〔祈禱〕眞ニ神ニ祈レバキ、玉フナリ、多くは口の禱アリ。是れ神の恵ミ玉ふもの也。眞ト心をもて祈る可し。謹慎を加へて祈る可し。天父のみを思フテ祈る可し。信じて祈る可し。

キリストは眞ニ祈禱して聞れ玉ひし人也

五月廿七日

〔器械ト人力〕 米國ニテ人足が水ヲ桶ニテ擔フ事、其他カタニテ荷物を擔ヒ或ハ荷車ヲ人力ニテ引ク杯の咄は誠ニ可笑見エル也

五月三十日

本日ハデコレーションデイ、ニテ人民悉く業を休ミ、兵は式ヲなして墓ニ至り花及ハタヲ奉グ、夕ハタウンホールニ集リ「BAND」及、愛國精神發起の演説ヲナセリ 女も小兒も悉く集り之ヲ祝し又愛國の精神ヲ吹込ムモノ、如し 其兵ハ自ら志願し之ニ加ルナリ、自給ナリ其風其精神實ニ可感可好者多かりシ〔機會〕 凡事好機會ヲ捕ヘテ失ふ可らず。一々之ニ由テ凡テヲ取ラバ何事モ得られざるものはなし

〔青年教育之必要〕

青年の心は實ニ豊饒なる田地にて如何なる種子を蒔くも善く實らざるはなし。若し米を蒔けば米ヲ生し 稗ヲ蒔けば稗を生ずる也。故ニコノ時とて尤モよく注意して蒔く可きなり

六月一日

万寿枝、加藤、前神、關善二郎、井上友二郎より書狀を受く。

此度ハ一週間之延着。

〔ライセンス〕アンドヴァー、セミナーニ至り十七名の試業ヲ觀たり

〔自ヲ信任セヨ〕己の思想ヲ重ズベシ己ニ確信スルノ眞理は他人ニ確信ヲ予フルナリ。己ニ益アル事は他人ニ益なる也。彼モ人ナリ。吾モ人也

〔米國家庭教育〕

食机は實ニ最良の學校也。之ニ由テ學ブ處のもの多し 余も食堂ニ於て學ブ處實ニ多かりしなり 體育は規則ト食物ト運動ナリ、運動ハ第一、キマリの仕事 第二、遊戲、第三歩行ナリ

〔日本青年と米國青年の相違〕

米國ニテハ己レ何事も風習ヲは一定の道理ヲうれば青年ハ只其順序を踏めば其人トナラル、ナリ。然レ共日本青年殊ニ女子は

其の方針未だ確定せざれば種々愛國の情切ナリ。コレ其意色々相違を生ずるの原也

親ニ威權アリト雖モ日本の親の如く畏レル事ナシ。故ニ親ニ向テタワムル、事モアリ。是れ親ニ（六字不明）ヲ彼等のホームトサセザル爲也。家内の感化快樂は實に多きヲ見る也

六月二日

〔尤も勝れる書を読むの益〕〔時〕

一、有益なる思想ヲ受る事

二、思想面白キ故大ニ吾欲情を發起し、大ニ進歩の益アリ

三、思想明かなる故了解し易くかつ感覺強き故之ヲ記憶スル

ニ益あり。かつ文學ニ進むの益あり

人ニ交ル、場處ヲ選ぶ、職業ヲエラブ、演説ヲキク、事ヲナス、悉クコノ秘訣ヲ用ユ可シ。汝得らるもの、中最極上等のものを撰ブベシ、時ハ仕事の場合ナリ。物ハ空間ヲ占メザレバ存在スル能ハズ。如此、人ハ時ヲ占メサレバ事ヲ爲し或ハ得る能ハズ。然し時ハ場處より價高きものなり。而して無益有毒なる事ヲナスニモ同時ヲ費し（二事一時ニナスヲ得ざる二物同處ヲ占ムル能ハザルが如し）故ニコノ一時ヲ何ニ占メ何ヲ得ん乎。

之ヲ選ぶは實ニ必要なり。若しコノ一月ヲ余益ナラザル書一冊ヲ讀ムトセヨ。得る處實ニ少し。之ニ反し大益の一書ヲ讀むト

セヨ。其の相違如何計りぞや。コノ一年碌々ト光陰ヲ送ルト之ニ反し美事ヲナスト其相違如何。大先生ト居ルト無頼漢ト偕ナルト其相違如何。ア、此貴重なる時ヲ何事の爲ニ占めしむるやを定むる事は實ニ大切なる哉。

〔自由は奴隷より生ズ〕汝若し眞ニ一の學問ヲ遂ントセバ其奴隷トナリ、之ニ事ハ從ヒ、身ヲ奉ゲ萬事ヲ空して之ニ事へて、初めて得らるゝ也。眞正ニ律の自由トナルハ、之ニ事へ律の支配ヲ受る事ヲ忘るゝ程ニ至り、即ち己れ自らが其ものトナリ初めて自由也。凡テ事ヲ覺ユも習ウテ熟練スルニは幾度トナク之ヲ慣らして其習慣ヲ得るるなり。

社會の法律たとえば盗人、博エキヲナスモノハ自由なるや
o!

眞ニ仲間同士の法律ヲ知り之ヲ行ヒ社會の秩序ヲ亂さず却て之ヲ全クスルモノハ自由なる也 *yes!*

〔德育〕積極的の方針ヲ取ルべし。一農夫アリ。彼決心して謂ラク、吾ハコノ畑ニ一本の雜草ヲ生ぜしめずコレ其目的也。ア、何の愚乎、コレ消極的の目的也。吾らはコノ畑ニ有益ナル植物ヲ植へ善實ヲ結ばしむるの目的ならざる可からず

六月四日

高橋、万寿校、青柳正吾、玉木善作より書狀來ル

万寿枝の病随分重し。爲ニ大ニ心配し熱心神の助ト恵ヲ祈ル

〔神ハ不可思議〕宇宙は物質のみニあらず。必ズ靈なる者あるは體なり、而して必ず靈なるものあり。以上は奥義ト其働あるは必然也、神が今日迄黙示ヲ垂レキリストニ顯レキリストヲ甦生シ玉ふ事等信ず可きの奥義ならん。また祈禱を聞き人間ニ交シ之を愛シ憐ミ玉ふ亦眞實なり

〔救〕眞ニ人ヲ慰メ益せんとするニは救ヲ要す。人は誰ニても困難、罪惡、過失、弱き、愚、何乎救ヲ要する也。若し之を得ざれば眞正の平安ある事なし

「キリスト」は救主ナリ。吾人モキリストト共ニ眞二人の苦難ヲ憐ミ之ヲ助ル爲ニ一生ヲ盡スベシ
文章、演説、働キ、企圖、萬事コノ目的ヲ達せざれば益ナク又成功する事ならざるなり、貧民、罪人、孤獨、病人、不學、不和、不潔、青年、女子

日本ヲ救ヒ玉へ。

キリストの大目的ハ世ヲ救ハン爲なり。コレ亦吾（キリストに在ル）が生涯の目的也。

六月五日

村井、増野及余、三人神ノ前ニ集リ万寿枝の爲熱心祈禱せり。

心配する事甚し。五日夕方再び万寿枝ニ書面を認む

六月七日

〔米國キリスト信徒之の富〕

米國合衆國ニ戸數大凡一千三百万軒ニシテプロテスタント信徒の數ハ一千三百万人ナリ。而シテ其キリスト信徒之有する富の數ハ一家族平均一千弗を有する割合也。而して合衆國中の富の五分の三はプロテスタント宗派の人々の有する處なりと。是レホームミッシヨンニ於ての演説の中。

内國博道の勢。今米國ニ五千餘の教會アリ。（コングレゲーションノミ也）其内四千の教會はホームミッシヨンの働にて出來しものなりと。ホームミッシヨンは一千八百二十六年ニ設立せしものと云ふ。

六月九日

〔牧師の交代〕

アンドウァー、コンフハーレンスニ三十の教會ありて、レビット氏の咄ニ九年間引續き同教會ニ働キ居るものは氏トミスター、グリーンノ二人也と

〔撰擇の大切なる事〕

余或處ニテーのズボンヲ製セしが、其節品ヲ撰ブニ大ニ注意したると一時の見エのよいものを撰びし爲メ、間もなく古びたり。またあら編を撰びたるに（コレハ余が日本で餘り老て見エ

ル故、米國ニ來リテハ書生トナル事故、可成幼ク見エルモヨイトの意也しが、米國ニ來リ青年ニ見エテコマリシ）是又失策なりし。如是其時の決心は永く利害ヲ止ムルモノナレバ、モノヲエラム事ハ實ニ大切也。目的、運合^{mate}方法等をエラムは最も注意す可きものなり。

〔小兒の教育 小兒觀睦會〕

余今夜大凡貳百人の小兒アニューエルサパーニ臨ミたり、第一音樂ニ感ず 十一、二の少女、小輩が實ニ巧ニビヤノヲ弾じたるは驚き入りたり。實ニ教育小兒の時ニあるヲ感じたり。學問でモ少し後れて初めたるものは其進歩實ニ遲シ。其他、體育、智育、德育、悉く小兒の時ニあり。余の經驗ニ照しても明なり。實事也。米國では已ニ小兒の時 特ニ家庭教育にて基礎を置きし故、大學中學の教育は實ニ容易なり。故ニ三十以上ニなり職業ヲ變ルハ實ニ損なり。決して練練熟達ヲ得ル事ナシ。何れも乎も小兒の時教へ込ムニシクハナシ。小兒の進歩は驚く可きもの、吾日本第一の家庭教育を改良スベシ 其より小學校ヲ改良スベシ。

女子ニ英學ヲ教ムル 可否、

之より眞ニ専門ヲ修メ廣く世界の事情、實事、學說、經驗ヲサグラントスルニハ英語ヲ學ブヲ要す。眞ニ之ヲ活用せしめんと

論也

〔確定之必要〕何事も心ニ疑問或は感ズル事起る時は必ず其結局ヲ付け己の説ヲ定ムル事大切也

〔富ミ〕は善キモノナリ。併し實ニ危キモノナリ。人心ヲ試ムル大勢力なり。之ヲ能く用る事を知らざれば、却て赤貧ヲ勝れりとす可し。人はパンノミニテ生るものニあらず。何そ吾貧キ才嘆ズルニ足らん。勸めよや。人は眞ニ獨立の出來得るものなり。事ナル迄ハカンシンノマタクマリヲヤルモノヨシ。人ニ伏して大志ヲイダキ日々進歩するの青年ヲ養ふ可し。

夜學校の如きもの實ニ必要なり。實際ト學問ヲ並行スルは實ニ必要なり。キリストは一文ナシデ大世界ヲ救ヒシニアラズヤ。金ニヨラズ神ト眞理ト徳ト智ト熱心ニヨレ。

人ハ大困難ヲ恐レテハ事ヲナス能ハズ。大貧、大反對、萬難ヲ犯して大勝利ヲ得るの覺悟ある可し。愛に敵なし。實ニ氣骨の

ある人間ヲ作ル事ヲ覺悟セヨ。實ニ生命ヲ犧牲トナスの人ヲ作ルベシ。眞ニ富ヲイヤシメ世ノ安樂ヲイヤシムルノ人ヲ作ル可シ

〔無私之愛〕人の身を自身的身トシテ考へ人の運命を自身之運命として考へ、己の事の如く人の益を計る可し。

殊ニ夫婦は一體なれば、夫は妻之身を思ふ事己の如くし、妻は夫を思ふ事己の如くならざる可らずは論を待たず。彼が身は己の半身なり。其禍福互ニ其身ニある可し。同情同感を要するなり。吾妻よ、たとへ汝は一生かたわりニても、如何病身ニても、余は更ニ不足ニ思はず。コレ吾等の運命なれば忍耐して受く可し。吾は汝が如何ニ弱くても一日永く世ニ在るを喜たるなり。汝之過日の書面ニ、病身ニて余ニ對し氣之毒云々の事ありしが、是れ全く余の憂とするものニあらず。余は悦んで汝十倍ニ悲ヲ共ニスベシ

六月十二日

服部他介、杉江田鶴ニ書を送る

〔獨立トコズモポリタン〕自國の特質ヲ守り自國を重ずるため自立獨立の精神必要なり、併し萬國ト交際し互ニ足らざるを補ヒ、施スアリ取るありて學術、道德、國風、物品、機械等即ち世界の進歩を計り、萬國史の材料を作る事は國民の義務たるを

忘る可らず。即ち己人互ニ交り其感化を及し或は受るが如くなる可きなり

六月十三日

〔根〕

根のなき木は、或は根の淺き弱き樹は、直ニ枯れて死スベシ。而して根は人目ニ觸れず。地下ニ藏れるなり。如是人の徳ニ進む業を成す。成功スルニ必ず他人の決して見る能はざる深き根ありて存ス。即ち善ニも惡ニも必ず其根あり。若シ先づコノ根ヲ有タザレバ即ち祕譯ヲ存せざれば其業必ず中途ニして倒れん。人ノ傳を讀むニ當り其根をさぐる事大切なり。吾ニ根を置く事大切なり。果實、花卉、樹幹、枝葉は何れより來レル乎、根より來レリ、人の行を見其原因ヲ知らざる可らず。

〔眞正之樂〕若し心十分之糧となるものありて、心ニ満足アらば、假令身ハ飢エ或は病み或は死ニ至るトモ樂しきなり。

孔子曰。善を爲す樂しき哉と。(尤も樂し)友あり遠方より來る。亦た樂からずや。即ち愛の樂なり。心ニ眞正之満足を與ふものは愛也

〔女子ニ國家之精神の必要〕

スパルタの婦人ニ勇氣あり。爲ニ勇氣あるの士卒を造れり。是より日本ニ人物ヲ尤も要す。是れ婦人モ人物トナシ、又國を思

ふの精神を懐かしめ、初め斯る人物ヲ得可シ

六月十七日

万寿枝、加藤、河村、前神、西村、貞子等へ書ヲヤル

〔吾が能は神〕

吾が生涯吾が天職ヲ事スルの力事業成功の勢力は悉く神ニ在り。神之を爲し玉ふなり。入用の時は金モ智モ徳モ人モ力モ悉く豫へらるゝなり。神の與へ玉フモノ示し玉フモノヲ感謝して受けかつ熱心ニ信じて爲す可し、只常ニ神ヲ倚(タヨリ)トシテ萬事を爲ス可し。

六月十九日

服部、杉江へ書ヲヤル

〔文章、演説の祕訣〕

第一、明ナル區別ヲ要ス。白ト黒、夜ト晝、善ト惡、上ト下の如く一目瞭然タル區別ヲ要ス。其區別の間は十分廣く如何ナル近眼の人デモ見エ得ルヲ要す。第二、一々人心ニ突き入り十分心骨ニコタヘルコトヲ要す。即ち目醒しき事なり。人心ヲ引起スの力ヲ要ス。第三、一々思想ヲ起さしめ必ず之を實行スルノ決心を與フルヲ要ス。

〔徳育〕

人心は決して他人ヨリ勸められ或は、戒められ或は忠告され或

は教エられて自を改め徳ニ進むものニあらず。其人自身が自ら撰ンデ決心し、即ち自ら練り自ら省ミ自ら改むる心あらざれば決して進まず。即ち父兄の教も心服せざれば何の益をも爲さず。只上面ニ須はしむるは何の益にもならず。故ニ徳育ヲ爲スノ任あるものは實行を見せて常に心服せしむるあり。心服せしむるは愛スルニアリ。眞ニ親切深き同情、同憐スルニアリ。眞理を行フニアリ。即ち自分の徳を養ふニアリ。

〔節檢〕米國ニ於ては中等以上のもでも下女ヲ置かず、主人ヲ始小兒ニ至る迄働き、時を有益ニ用ゐる。シスター、マイヤ一の夏期避暑の咄、コテージ、シテイ、其食事、バイシクル等日本の酒をのみ、タバコを吸ひ、無益ニ時ヲ費すを止め、各て己の事を營み他人を使用スルヲ止め、器械を用、可成人力ヲ有益ニ使用せば如何に經濟トナル可き也

六月二十日

今日万寿枝、松田シイ、笠原たつ子より來書あり

〔日本ニ天國ヲ來スノ大目的〕

人情ヲ厚くスルニアリ。一家、一社、一族若し互ニ其道を盡し心情厚からば天國其中にあり。人情を敦厚ニスルハ第一の目的ならざる可らず。余が交ル人、居る處、此情を満足スルヲ得せしめよ。キリストは眞ニ其人也

日本人は下等人民、小兒、貧窮人、下等動物を敬ヒ厚く遇スルニ至らざる可らず即ち殺氣ニ代ヘルニ和氣もて情をもてせざる可らず。然らば其樂其利益如何斗ぞや考フ可シ

〔日本の道徳〕日本ニはキリスト教あり佛教あり儒教あり、然れ共之を眞ニ教ふるもの行ふものは少し。今日の急務は眞ニ之を味ヒ之を行ふもの多く養成するを要する也

〔人ヲ教ユルノ方法〕人ニ眞理を教へ吾、吾心を通ぜんとするニ決して言語のみにて爲す可らず。今日サンデー・スクールニテ二婦人がヒバリの囀る如く説明すると雖ども書生ハ更ニ悟らざるなり

第一。之ヲ知らんとする心を起スベシ

第二。其方法を（^{シヅメ}）豫フベシ。シ^ハンズ^ハロノミニアラズ種々の方法を要するなり

第三。心ニ決斷せしむるなり。

〔愛の本〕ハ尊敬ヨリ生ズ。人ニハ必ず貴フベキ點アレバ之ヲ認め、他ヲ忘レス。其長處、善處ニノミニ心ヲソムギ敬フ可シ。恰も金鑽ノ如クスベシ、其惡質ハ除クコトヲ得ベキヲ忘る可らず。

日 記
人ヲ尊敬せば其人ニ亦愛心ヲ生ズベシ。之より交際初り凡ての働生スベシ

六月廿六日

ノースフヒルド夏期學校ニ來リムーデー氏夫婦ニ面會す、受付もなく直ニムーデー氏出來り未だ戸を開かざる前ニ自を見るや

How do you 之聲をかけ、妻君も之ニ續テ出來り面會せり。顔は以前圖ニテ見之を想像せしよりも柔和也

衣服も家屋も極めて質粗也（コノ家はムーデーの生れし家。）

女學校は實ニ美麗ニして凡て煉瓦也。地形。四方幾百里の廣野遙ニ諸丘を見渡し、前ニ當て川ありて常ニ木材を流し横は樹木鬱々として繁る。四方青々たる綠草をもて蔽ふ。氣候は夏服にて寒きを覺る程也。

〔日本ニ於て勞働を貴ぶニ至らざれば富むこと能はず〕

日本は封建の風残り威光ヲ保たんとし少しく位あるものは勞働を賤むの風あり。故ニ無生産の食ツブシ多し。米國にてハ役人も人足ト倍ニ働くの風也。勞働を貴むの風あり、ワシントンのも如きも大統領トナリシ後も農業せしと云ふ。此勞働は身體の爲心之爲メ經濟の爲青年ニも老人ニも壯年者ニも益なり、下女下男、人足を使用するを止め可成己の身體を働かすべし、米國にて大抵馬車或は馬を畜ふと雖とも主人自ら馬丁トナリ（中等以上ト雖トモ）て働くを常となす。

〔日本を製造國とすべし〕

日本は國境狹隘なる故、英國の如く製造を盛にし支那朝鮮鮮二輸出す可し

「米國の將來」は恐る可し。如何大國となるや計る可らざるなり

何を見ても土地十分、無限蔓延せんとする勢なり。市域を見ても田舎を見土地廣大幾何ニても廣まることを得る也。

(Socialism)

ロウレンスの夕方ニなると幾千のレーウア、市を爲して家ニ歸るを見る也、其他骨折て働くものを見るトキハ大ニ偏見の社會黨の理ニ合ハヌヲ感じたり。もし「John」の如くなれば人間ニ働くの勇氣ヲ缺く事となるべし。人は只賃銀を樂んで働けば也。又仁愛を鍊る心ニ影響する也。人之爲ニ骨ヲ折ル人ニ施人ニ豫フル杯の事愛となる也、如何とあれ己の所有權あらざれば也

「労働」日本人は労働する事を好まず。また賤める貴人多し、是れ健康の爲經濟の爲ニ實に惡き事也。

〔洋行者の心得〕

一 獨立心を失ふ可らず

二 卑屈心、懣病心、不愉快なる可らず、之ニ勝つ力の法ト

アリ

三 日本愛國心を失ふ可らず、常ニ比較して改良ニ着目しかつ國家に常ニ犠牲の精神を養ハザル可らず

四 是非曲直ヲ辨じ凡テの利益ト善良の點ヲ吾國ニ採用スルヲ忘る可らず

五 空想ヲ懷かず実著ニ事ヲ研究スベシ、徒らに高言ヲ吐き大ニ事ヲ企て高慢ニなる可らず

六、米國の利益ヲモ計るべし

七、忍耐ト正き判斷ヲ要ス

八、目的ヲ確定スルヲ要ス

九、米人の慈善ニ頼るの心ヲ抱く可らず

十、品格ヲ造ルヲ第一の目的トスベシ

十一、柔弱、華美男子トナル勿れ

十二、將來日給、名譽、地位等を得るの目的ヲイダク可らず

眞ニ吾日本の爲犠牲的の愛國者タルヲ目的トナスベシ

六月二十九日

ムーデーの事 サークー、及プロ「Lawyer」は可驚嘆シシガ也。其言語明瞭ニ了解され、かつ熱心感情顔色ト音聲ニ表れ實

ニ心中ニ感（一字不明）し心溶るが如く感ず。自らオーガンヲ彈ず。ムーデーは常ニ心熱シ小キ事ニ氣付き満場之人心を倦し

むる事なし

又人々を其氣量ニ應じて用ゐ萬人の益を計るモノの如し。 *He*
look care very much to sing spiritual.

〔己の意見ニ立つの必要〕

歌ヲ奏スルの時、下手な人は若し他人がベースニ歌へば、己の聲をベースニ變ず。上手ハ之ニ及ス。吾人各々之才なれば己の主義ヲ曲グ可らず。實際するに當り、公衆の中心ニ立て事を處するニ當り己ニ得たる特性をもて之ニ當る可し

六月三十日

ムーデーハ實ニ己を忘れて人之爲ニなす人也。故ニかゝる大事業を爲す事を得る也。又人を各々の賜を適用し、人ヲ悦せ、益し、働せ、榮さす也。眞ニ社會之爲、共同事業を起さんとすものは第一己ヲ捨テザル可ラズ

「兄弟の番人」たるを、忘る可らず。人の世話人、看病人、役者、見舞人、同憐人、手傳人たるを忘る可らず。

〔百聞一見ニ若かず〕

實地ニ見ると、必ず眞實之事實ヲ發見するを得る也。

〔學者よりも實業者を要す〕

記
○ムーデー ムーデーの如き人は實に活き働くの力なり。如是人ニならざれば、人ヲ益スル能ハズ。

日
○實ニ米國人ニ有爲の人物を實見せり。

ムーデーは實ニ愛ニ滿ち、至誠ニ滿ち、眞ニ人心ニ入り人の感情を喚起し、又決斷せしむるの力あり。

〔公共の爲金ヲ募集スノ方〕

自ら己ヲ人之爲ニ犠牲トスルニアリ。

人心よりセルヒシユヲ除キ、*love*の眞情を興すニあり。

社會は眞ニ自由ト自治ト自擇をもて必ず支配し得るもの也。

〔The difficulty of College〕

In many respects the difficulties of college men & women are the aim. Think what in your own experience have been the two greatest difficulties are in two directions, one of thought and one of life, Skepticism & impurity. (Harper)

七月十日

〔ムーデーの働に就テ〕

ムーデート共ニ働く、音楽者サンキー、タウナーの如き *Heart* で歌ひ *Heart* ニ *touch* する事を得る也。山の頂ニて歌ひ、其聲數丁を經てたる人家ニ達し、直ニ、コンヴァートシタルモノアリキ。

ムーデーは無學ナルニ、多くの學者、博士及諸大學の學生を意の如く支配スル力アリ。恰モ父が子を導くが如し。プロ、ハーパーが演述中屢々「モ少し大音ニて」ト云ヒ或ハ時ニ質問等ス

ル事モアリキ。

一青年の爲、一千一百圓ヲ十分ニ募レリ。又二千幾百弗ヲイン度の爲ニ數分間ニツノレリ。ムーデーハ愛ニ滿ち、彼が一人の米國土人の爲ニ祈りし時の如き位かざるものはなかりし也。

〔ムーデー教説の力〕

彼の語ハ心の溢ルヽヨリ出デ眞ニ聽衆ニ對し、其益ト尊敬ト愛心は全身ニ滿つ。故ニ萬人の心喪ニ徹スルナリ。

〔吾經驗之証神の存在〕 太古より、智者、聖人悉ク神を信ず。其信仰を祝され、必ず多の恩寵を受けたリ。キリストは確ク神ト借ナルヲ信ず。如是信何ぞ偽りならんや。吾は確ク神ヲ信ず。今日迄悉ク神の恩寵ト救ニより、吾なるを致せり。爾後亦神の幫助ニより、何事をも爲し得可し。ムーデーの愛亦神を信ずるニよりにて、生ずるものと察せらる。信仰ニよりにて歩むの主義を忘る可らず。

〔人心は感化し得る物也〕

忍耐、謙遜、忠信、仁愛、慈悲、柔和、憐ミ等を心ニ滿したとへ生命を捨るも不屈、一生懸命ニ可成事を爲ス可し。然らば如何なる頑固なる人をも感化スル事を得可し。又事を爲スニ生命を惜まば成就する事なし。キリストの如く生きキリストの如く死す可し。

〔婦人ニ尤も多く愛の豫を豫へ玉ヒしは可也〕

愛の力は學力、財力ニ勝る。ムーデーは無學にして多くの學士、學生を己の子弟の如く支配スル力アリ。又己の一文の金を有たずして、數億の金を動スの力アリ。何ぞや、愛力なり。又愛程人を悦ばせ、人を益し、亦己を悦ばしむるものはなし。

然らば是程善き賜は世ニあらざる可し。又世、之なくんば生命を保つことなし。教育も政事も家庭も何も乎も愛なくんば成功せず。然らば婦人ハコノ賜を特別ニ贈豫し玉つは何ぞ。それ幸の甚きものなる也。然れば婦人の天職は第一ニ之を養ヒ、以て世を感化スルニアリ。

七月十三日

〔愛之能力〕

ムーデーの働きを細カニ考フレバ愛の力の無限なるを悟る可し。コノ右の^{note}を參考ス可し。

七月十五日

〔夏の夕方〕 時暑き日もなきニしもあらざれど耐エられぬ日ハ未た一日もなし。先日ノース、フヒールドニ在りしニ週間ハ常ニサムサヲ覺へ或日の如きはラヴーコートを用ゐたり。當北アンドヴァアーニ於ても夕方ニなると大西洋より清涼なる微風吹入り(窓ヨリ)月は窓前ニ掛り萬物吾を慰むるが如く感ずる

也。吾月ヲ見る時ハ汝ハ晝ニして其節の夜は暗夜也。星も同様也。余ハ日本團扇を二本有するが之ヲ要スル事ハ實ニ稀なり。

〔夢〕 July 14 th.

〔涙〕 涙を流スニアラザレバ死ヲ決スル能ハズ。死ヲ決して事ヲ爲サレバ事成ルモノニアラズ。涙ヲ流ス程ニ感ゼザレバ眞正之勇氣、眞正之憐情ハ起らざるなり。涙ヲ流ス程に熱せざれば人ヲ感動スル事能ハザルナリ。汝國を思ヒ人之爲ニ盡さんとならば、人の爲めに國之爲めに泣け。人心を感化せんとならば心に泣け。

ムーデーは屢々涙ヲ流せり。キリストハ涙ヲ流し玉へり。

新島の涙ハ同志社ヲ興せり。

キリストの恵を覺エテ涙ヲ流スモノは生命を捨テ、働くの人の生涯ヲ讀ムナラ涙ヲ流スモノヲ擇べ。社會改良に従事せんとならば極惡のものを目撃せよ。

常ニキリストの十字架ヲ見よ。國の爲め人之爲めに涙くべし。又悦ぶ可し。

ジョン、ノクス その他有名の人々の傳記モ讀む可し。

七月十六日 万寿枝及若林靜子ニ書を遣る

七月十七日 増野ニ書く

〔食料之種類〕

日本は重ニ米ヲ食し之ニ代フルの品少くまた朝夕夜、或ハ日毎ニ其品を代へず。米ハ必ズ三度、及三百六十五日食せざるといふ事なし。故ニ若し米が飢饉ナル時ハ大困難を來スナリ。故ニ之より諸の穀ヲ用ユルヲ必要トナス。然れば、若し米が不作なるも他の品豊なる時ハ全體ニ其困窮ヲ及バサズル也。

又日本程胃病の多き國ハあらざるべし。之も餘り單種の食事、米ヲ餘計ニ食スルニよる可し。余が經驗。米を止メ日ニ二度位他之品を食し、余胃弱を愈したり。故にヲートミール・マシユハ一モノニ其他の品ヲ用爲可し。其品料ハ必ズ日本ニ於培養するを得可し。

〔女子教育之方針〕

男兒は吾ハ父トナル夫トナル云々トイハズ、吾ハ人物トナリ世ノ益ヲナス云々。然るニ女子ハ吾ハ良母賢妻トナル云々。

余ハ女子ニモ教育ヲ受ル時ハ賢婦トナリ、世の益トナル云々思セタシ。

教育の方針ハ賢婦ヲ養成スルトイフ方適當ニ(約三字不明)らん乎。

賢女トハ賢母良妻其他凡ての徳ト智アル婦女ヲ含ムナリ。

〔食物〕

善き品ヲ善く料理して食ふ時は身體の全體健ナルヲ覺ゆ。若し健なれば弱き部分も愈エ、若し之ニ反スレバ直ニ弱き點ニ、先其影響を及ス。又善き食物を用ゐれば腦力を増し餘計の勉學を爲スヲ得可し。

七月十九日

〔個人主義ト國家主義〕

身ヲ立ル、己ヲ省ミ人物トナル、即ち己ヲ立派ナル人ニ造ルトの觀念は教育上必要の要素ナリ。もし之ヲ缺ク時ハ人間の品格ヲ養フ能ハザルベシ。又自己は社會の元ナレバ之ヨリ初めざる可らず。

第二、國家之爲ニ身を犠牲トナス、他人の爲ニ生ヲ捨ルル精神なきものは利己的の俗人物ニして取るニ足らず。

故ニコノ二觀念は互に相關係して別る可らず。決して別々ニ分離スル能ハズ。是れ全體ト一部分の如し。

〔親切〕

レピット妻君、一日余の傍ニ座せし時(會堂)團扇ヲモテ余ヲアヲギクレタリ。又今日余の後の腰掛ニありし婦人、時ニ余ヲアヲギクレタリ。水一杯ニても吾名ニよりに豫ふるものは其酬を失ハズト。實ニ少しの親切も如何ニ人心を悦ばしむる也。之ニ反し此方よりアイサツをして知らぬ風する如き行、如何ニ

人間を害するや。僅の不親切如何ニ人ヲ害スルヤ。

The method of speaking Rev. Samuel Davies D. D. He could address his auditory, either with the most commenting authority, or with the most melting tenderness. He seldom preached without creating some visible emotion in great numbers present.

O Dogura Nease

Mr. Morris

James Town

New York

〔友情ヲ保ツの秘訣〕

偏愛より怒ヨリ仇念ヲ起シ社會ニ種々の面倒を引起ス也。殊ニ同位地、同齡、同力、即ち競争ある處ニ嫉妬起らんとす。又右の事情の中ニ眞正のフレンドシップ出來ルモノナリ。何ニよりにてかゝる反對の事起るや。フレンドシップは彼ハ吾ニ敵意なく却て友情あり。吾ヲ尊敬し吾ヲ益スルナリ。吾ニ對して善ヲ思フナリ。其より互ニ益々親密ニなる事なり。之ニ反し少シク敵意あり、或ハ其業ヲ妨ゲ或ハ彼の不利ヲ悦ブ或ハ冷淡ニ思ふ事少しく表る時ハ其が爲ニ相別れ終ニは大敵トナルモノナリ。故ニ此フレンドシップヲ保せんと思はばキリストの教ヲ守りキ

リストが例ニ做フ可シ。

敵ヲ愛せよ。人ニ讓れ。互ニ足ヲ洗へ。惡ニ報ゆるニ善ヲ以てせよ。忍べ。敵之爲ニ祈禱せよ。

〔人心ニ適中ス〕

演説或は説教は實ニ人心ヲ戒ムルの力なるべし。併し同時ニ其人ニ愛情ヲ起スの熱情あらざる可らず。

レビット氏の喟。

彼れ或處ニ説教し終て、一青年彼の元ニ來り汝は余の事を誰ニ聞きし也、亦た聞きたる^とて講壇ニ上て余の事公言せんでもよいではない乎と。

彼答て曰く余は未だ汝の名ヲ知らず。又汝が世界ニあるをも未だ嘗て知らざりし。如何ニ汝の行ヲ聞かん也。余之ヲ知て語るニあらず。聖靈汝之心ニ語り玉ひしならん云々。

〔徳ヲ建ルノ言ニあざれば讀まず、聞かず、云ハズ〕

書ヲ讀む時必ず益ヲ認めて己の物トスべし。若し其價値あらざれば讀まざるに若かず。また演述スルモ著述スルモ人ヲ益スルの價値ナキモノハなさざるに若かず。

The Bible

We claim that there is no book that has such origin as Bible :

No book that has such a history as the Bible 3 no book that

has such an aim as the Bible : no book that has such an influence as the Bible.

〔常ニ悦ぶ可し。勵まざれば事は成ルモノニアラス〕

事ヲ爲スニ戰ニ(一字不明)フニ、業ヲナスニ、學ニ進ムニ、何ヲ爲スモ、之ヲ完全ニ爲さんと欲せば熱心・憤勵・刺激・喜悅・願望等の情ヲ要スルナリ。若し悦ビ勵んでスレバ一時二十倍の仕事出来るは經驗スル處也。

昔より臆病ナモノハ失敗ヲ取ルハ明ナリ。故ニ大胆ニアル事何事ならざらんやの精神ヲ要ス。歌ヒつゝ進ムヲ要ス。故ニ何事ヲナスニモ先づコノ情ヲ起シテ初むべし。殊ニ説教演説スルニコノ情あらざれば感覺ナキナリ。人ヲ悉ク含ム事、熱情ヲ起ス事、悦ビヲ懷ク事、又人ヲ治メ、人ヲ働かしめムとするニは、先づコノ情ヲ起して、後に進まずべし。事ニ從ハスべし。

〔婦人のアンピション〕

(一)生涯進ムベキ事

(二)一の大目的アルベキ事

(三)人の爲ニ働ク。事ヘル。人ヲ樂シ、悦ハス事。愛スル事。交際スル事。

際スル事。

四一の精巧の藝ヲ得可キ事等。

即ち男子ト同様の幸福ヲ得可きものなり。

七月二十日

万寿枝。松村。雛田千佳良。及千尋。齊藤やま。井上友二郎に
投書ス。

〔法律と教育〕

法律ノミヲもて國ヲ治ル能ハザルは、學校之規則のミニ由て學
校を管理スル能ハザルガ如し。

法律ハよし。併し眞ニ人民ガコノ主義ヲ守ルヨウニ教育・説教

・演説等ニより教ユルモノあらざれば、其功を奏せざる也。

裸體ヲ禁ぜし原因ト其結果を考フ可し。其他多の例あるなり。

Public Opinion is the expression of the social conscience.

〔戦争は貴きものニあらず〕

若し夫婦たゞき合ひ或ハ子供ツカミ合フ時は之を貴き業ト思フ

モノアラジ。戦争は(四字不明)只正義ヲ守り粗暴ヲ防グ爲ニ

必要也。徒らニ刃ヲ用る可らず。

〔美術〕人間美ヲ好ムモノナリ。殊ニ婦人ハ物ヲ美ニ飾るの天

性ヲ受けをれば美術を學ぶは必要なり。

〔芝居〕ハ何の爲ニ見るや。衛生の爲乎。否ナ夜ヲフカシ又悪

き氣ヲ吸フ。何の益アリヤ。只遊怠人ノミ行ニあらずや。

〔女子に色情なきや〕

コノ問題ハ大切ナリ。之ニ由て女子教育の方法大ニ異ナリ。

レビット氏ハ是迄經驗ト醫學ノ書或ハ例証ニより女子ハ決して
色情なしといふ。下等動物モ雄ニノミアリ。雌ハ却て之ヲ避く
と。

天父男子ニノニコノ animalism を implant せりと。是 Pro-
pagation の目的也と。果して然る也。

米國ニ色欲ナキ男子結婚して四十年間、夫婦幸ニ暮し居る例あ
り。其也ニもあり。故ニ素より子孫なし。

若し女子ニも男子同様コノ欲アラハ如何 immorality を愈スコ
トを得ん云々。ポーロハ未婚の人なり云々。

ヨセフのストウリーの事、女子の心ニは no lust, no passion
也と。

〔成功の秘訣アルコト alcott の傳〕

In her hardest working days she used to write fourteen hours
in the twenty four, sitting steadily her work, and scarcely tast-
ing food till her daily task was done

(Famous Women; Page 52)

事を成さんと欲せばかく熱心ならざる時は、成功スルモノニア
ラズ。

When she has to write a story she goes to Boston, hires a
quiet room, and shut up herself in it, and wait...

勉強スルニ必ズ雑念ヲ去り、靜ナル室ニ戸ヲ閉テテ、凡テノ注意其學ヲモノニ入ル、事肝要也。談話ヲ禁スベシ。

又文章ヲ書ク或ハ演説ヲ作ル先づ心ヲ清潔ニなし、然る後心ニ刺撃を興ス事肝要なり。

In a month or so a book be done, and its author comes out, "tired, hungry and cross, and ready to go back to Concord and vegetate, for a time.

書を著はず時かくあらざるを得ず。

〔勉學ト運動〕

ブレンド多く使用するものは多量の血液を腦ニ要す故ニ善き食物ト之ヲ能ク消化スル爲ニ運動ト清良の空氣を呼吸するを要す。

The Regularity of the intellectual life, Kant knew well that the regularity of the intellectual life depended entirely on the regularity of the bodily functions.

〔規則通りニ起キ又食フ事の必要〕

Kant's breakfast, which he took at five in the morning at all the seasons of the year, consisted of a cup of tea and a pipe of tobacco, on this he worked eight hours, either in lecturing or writing—a long stretch of uninterrupted labor. He dined at

one, and this was his only meal, for he had no supper……

He read in the evening from six Till a quarter to ten, I (Hamerton) know an old man who for forty years has lived as Kant did and excellent health and uncommon mental clearness.

〔夜十分能ク眠ル事〕

カントは如何ニ仕事ニ掛リ居リテモ寢床ニ入ル十五分前ニは全心を靜め更ニ其事を考へズ。而して晝の力ハ全く夜の眠りに關係スル事ヲ信ぜり。

〔彼の呼吸ト食事の規則〕

He would not walk out in company for the whimsical reason that if he opened his mouth a colder air would reach his lungs than that which passed through the nostrils; & he would not eat alone, but always had guests to dinner. (The five topics of above from "The Intellectual Life of P. G. Hamerton)

from page11-13

〔己の經驗ニよりて習慣ヲ作ル事〕

日々己の經驗ニよりて其宜ヲ知り如何なる病ニも打勝ちよらしき習慣ヲ作ル事大切なり。

〔英國朝飯の習慣〕

There is a very general belief in England that what is called a good breakfast is the foundation of the labor of the day.

〔天才ニよつて其目的を定めしむ可し〕

(Paye 12)

水鳥は陸で育て如何ニ鶏の如く陸ニ置かんとすると雖も水ニ飛込むが如く、眞ニ生れ付き學問の好きなのは、吾父の如く、アルコットの如く、學問に心を入レル。又之ニ反スルモノハ如何ニ勵ますも成功なからん。故ニ各々の天才を見て其性質ニ應じて其目的を定めしむ可し。

(約二字不明) の如きハ音楽を適當ニスベシ。サンキー・タウ

ナー婦人の例、其他家政の學及術、修身モ必要トナス)

〔酒、煙草〕ハマルトンハ酒、煙草も度を節して用ゐれば害なし。却て益ありと。其例にカントも酒ヲ用ゐし。又 Goethe も一生涯水五萬本ヲ用ゐたり。又煙草ハ身體ヲ休め心を用る時度を節してのめは害なしと。而して茶、コーヒー、等の強きを餘計ニのみスチミュレートスルハ煙草、酒より害多からんと。

レピットの説

酒は適宜ニ用ゐれば健康に益あるものと信ず。併し其度ヲ節スル事及其度を知ることハ六敷かつ過度ニ陥るの恐れれば危ニ近かざるをよしとし之を用ゐず云々。

〔二度の食物〕

朝善き食物ヲ用ゐるは其前夕の食より朝迄大ニ久しき故體ニ滋養の需要あり。又朝は尤も身體之よき時ニして尤も仕事ヲ爲ス可き時なれば善き血液を作る事必要也。

又朝ハヤートミール・或ハコン・ミール或ハハーモニの如きもの用ゐるは通利をよくせんが爲也。Dinner は夕を善きとするは(重ニ學生)晝は強き勉強なれば其消化スルノ時ヲ待の餘あらざれば晝ハランチヲ食シ夕ハ休むの尤も適すれば Dinner を食するニ適當とす。又家族ニ於ては夕ハ悉く一家中揃へば Dinner を食するニ適當之時とす可し。

〔演説説教〕を力あらしめんと欲せば其述ブル時必ず其目的ありて之ヲ目掛けざる可らず。

〔米國エンデヴー、ソサイチー〕

其會員は婦人ニ多くかつ男子よりもアクチヴイテイといふ可し。

七月二十六日

(この間に教會パンフレット—英文の『教會會員の誓約書』と『祈禱會の日程』のはり紙あり)

〔Pity〕

The feeling and knowledge of suffering of others.

社會之爲盡さんと欲するものは社會苦痛の現状を明ニ知る事、實ニ大切なり。キリストは惡人貧人、病人、孤獨等、世の難ニ居るものと友となり、其中に交り玉へり。

〔三人の集る處ニは吾師あり〕

如何なる人ニも各々見ル處アリ、經驗する處あれば人々學ブ處ある可し。故ニ小兒ニても女ニても如何なる人ニても己ヲ謙遜ニし彼より學ぶの心ある可し。又如何なる人の演説或は書を讀む時も注意せば必ず益を得ることある可し。

故ニ日々時に悉く吾智識を増し吾徳を修め吾經驗を得るの機會となす可し。是れ常ニ進歩するの道也。

七月廿七日 日曜日

Leviatt 氏 Mr. Desert (トウゼツ) 行き吾人をなす。

〔The liquor problem in American Cities〕

The process of absorption has been rapid; the process of assimilation slow. Irish, German, Italian, Polish, Hungarian, Bohemian and few yet retain in all their original sharpness their national characteristic.

記

The tend of population has been and is steady from the country to the city, in 1850, the Percentage of city to Country was 12.5; in 1860, 16. 1;

日

1870, 20.9; in 1880, 22. 5, and in 1890, 29, 12;

In large city the cradle of the primary is liquor saloon, In New York City in 1880, out of 1,002 general and district political meetings held 633 were held in saloon, and 86 in rooms adjoining or intercommunicating with saloons and 283 in independent place, The liquor saloon-keeper is the boss of the primary, and directly control 40,000 votes.

八月一日

万寿杖、前神、服部、青柳、玉木直、玉木善作、阪口周へ書を造ル

驗温器六十二度、一昨日はストーブヲタケリ。昨日及今日はヴァーコートを着し尙寒を感じ日向に出誠ニよき心持也し。

〔米人の親切〕

余ハ儉約及時ヲ益する爲此夏は自炊せり。

一昨日は執事夫婦見舞呉れ、毎サンデーニはデンナーニ招けり。

今日隣の老人夫婦ハ誠に豊なるデインナーを送り呉れ、ストーン氏は美味のバイヲ贈り呉れたり。又向隣の銀行支配人ヒールド氏は作夕馬車を携へ來り借ニ來り運動せんことを誘ヒタリ。實ニ時々涙を流して、感謝スル事アリ。旅人殊ニ異邦人を懇に待

遇す可し。小兒は「ハロー」とて々挨拶する實に可愛し。愛程人を感動せしむるものなし。親切程人を悦ばすものなし。眞實程人を感化するものなし。

〔七月廿七日〕

〔日本社會ヲ如何せん〕

親は子の爲ニ盡すの義務あるが如く、先進みしモノハ後進者ヲ助ケ富者は貧者を救ヒ、學者は不學者の爲ニ盡さざる可らず。故ニ如何ニして何れの社會ニしても家ニしても慈善心ヲ盛ニなし他愛心、犠牲心ヲ養フニアリ、然らざれば眞正之幸福ト進歩を視ること能はざるなり。即ち多く持つものは少く持つものゝ爲ニ尽さざる可らざるなり。

進歩ヲ考ヘル時他人より己が先ニ行くの利己心ある可らず。社會ヲ進むるの考あらざる可らず。

進歩は只他人ニ比して其より進むヲ以て満足す可らず。己の過去現在ニ比し其標準より進まざる可らず。

又現今の社會より一層進まざる可らざるなり。

凡てこの人ヲ今よりも幸ニ、富ミニ、智く、正しく、明くするなり。

一人モ殘ラズ幸福ヲ受クの道あり。然れども未だ其道を知らず。知るも之ニ從わず。故ニかく社會上ニ可憐(二三字分不明)

多し。

神の道ハ整然として秩序あり。朦朧とし暗キは吾目の末だ明かならざるニ由る。

〔成功之道〕〔覺悟〕

成功之道は十字架を負うにあり。何事を企て何事を望むニも大困難あるは覺悟せざる可らず。然らざれば失望して業を成就すること能はざらん。

“Go preach this Kingdom without the expectation that you will reap immediately what ultimately will be derived from it.”

There is peace the Angels were right there are fruits . the expectation of them is justified: but They are to be the final results to wish men shall come through struggle

though pain, through long endeavor leisure after strife:

victory after battle fruits long culture and growing . not at the beginning. So, then, it is proper to say, figuratively that a religions same time that men who enter upon a religions life enter upon a painful life.

“-first attempt to read, reading is not so pleasant.

The early educational steps toward intellectual or moral states frequently are painful steps. They require patience, then

require faith they require selfdenials, they sometimes require positive suffering but end which we are seeking by these steps are "ways of pleasantness and paths of peace"

家の清潔ハ誰も好む。掃除ハ嫌ふ。誰も果物を好む。之を耕す事は嫌ふ。其他類推す可し。

八月二日

〔衰へざる美と樂〕

女が四十之峠を越る時は顔ニ皺より、花之盛之樂ト男子をアドマイヤを失ふ。

然れば決して老ざる心之美麗即美しき教育を受け、人物を高尚にし、心之樂を有つこと實に大切也。若し然らざれば老ひて他人之尊敬を失ひ己の樂を缺く可し。殊に意地悪き小言ば、ニならば其禍如何。春時之時慎んで老後之備を爲す可し。

〔米國婦人のアンビション〕

先づ上等の婦人のアンビションは神に忠義なること、善き婦人となり世を益すること也。下等の分は善き位置あり、金あり、藝ある男子と結婚すること也。

〔American Girls〕

They have the liberty of social, but the atmosphere is cleaner than Japan, The hearts or speakings are purer.

〔米人の働く事〕

銀行ノ役人フヒールド氏の咄を聞くニ、彼は朝八時半より夕五時半迄勤め馬車其他四方之多くの畑或ハ庭園を有し一人の僕を用ゐずして之を世話せり。

八月三日

〔庭〕 Mr. Field

○小兒の遊處トナス

○果物ヲ造ル

○小兒所有の庭なり

○葡萄ニテ木蔭ヲ造ルノ便

○喬木をもて蔭ヲ造ル

〔人は常ニ一希望を有せざる可らず〕

人は男女ニ關らず生涯一のアンビションアラザル可らず。然らざれば眞正ニ幸福なし。或ハ事業、善行、慈善、宗教、富ミ、子女ヲ立派ニ教養スル、學問、末來の報酬、何乎一希望ヲ有す可し。

〔働キヲ貴ビ又好ム可し〕

勞働ヲ愛スベシ。是れ貴き事、又富之本、健康之本也。又勉學ヲ愛すべし。常ニ戦スルヲ好ムべし、決して一時も怠る可らず。時ヲ黄金ニモスベシ。

〔規律ニ從へ〕

少々好まざるも身體衰りたるも、常ニ規律に從フベシ。是れ體の爲、心之爲、健康の爲、富之爲ニ缺ク可ラザルモノナリ。常ニ機に應スル事大切也。可食時食ヒ可動時動き、可眠時眠リ其他推して知る可シ。

〔スチーブン氏 ミル 視察地〕

八月六日

實ニ不潔の毛ヲ精撰し終ニ麗き色系とし之を種々のフラネル或ハクロスニ製ス。或ハ塵ヲ除キ糸ニなし之ヲ染メ或ハ織ルニ至る迄可驚の關器ヲ用る其力は水力ト蒸氣力ヲ兼ヌ。

實にコノ文明の世トナリ文明の國ト競争なきざる可らざるの世となりたれば之ニ應ずるの處置なかる可らず。

婦人の職業

書記あり。其凡ての働き部ニ婦人あるを見たり。尤も多く職工に見たり。是れ無教育之婦人之インダストリー也。

如是ものホームニありて子を育て夫を助るハ尤も彼らの幸福なるを感ぜり。

不健康 或室の如きは大ニ塵埃ニ滿ち健康ヲ害ス可しと感じたるが、其中ニ働くものゝ中多くは「やせ」たるを見たり。

働き工合

一人の咄シ、或は歌ヲ見ズ。熱心ニ其仕事ニかゝる。若し咄せんとしても器械の音で互ニ聞とることは六ヶ敷し。〔日本の絹〕も器關ヲ用み盛大ニ織る可し。

〔米國書籍出版の數〕

There were over 4 000 books published in the United States in 1890, a increase of 545 books over the preceding year.

The list of novels is greater than ever before: books of Theology history juvenile, miscelany and travel now an increase in numbers! while in poetry and drama and fine art and illustrated books, mental and moral philosophy, there is a falling off.

〔スチーブンズ氏トミル〕 His father

スチーブン氏は父米國ニ於てフラネル製造處を興せし權與ナリ。今日彼の所有ニ歸するミルは五ヶ所なりといふ。

〔一貧生 ウヲトの話〕

如何なる烈風嚴寒の日といへども（二字不明）す

〔凡ての友を吾が同胞の兄弟姉妹と思〕

一度逢ひ或は初めて交際するとしても眞ニ彼らを吾一人の姉、吾（二字不明）失ひし弟として愛し其益を計、其悲を悲み其榮を悦ぶ可し。

八月八日

關光正、すがニ書を認む。

〔ムーデー夏期學校ニ就テ〕

大凡百三十の大學、神學校より學生集る。其中極少數ハアカデミーより來ルモノ含む。

外國より

英國大學、スコトランド、スウエーデン、獨逸等の大學より

學生ハ日本、支那、(日本ト間違ル咄)ハワイ人(體格ハ大ナリ)、米國土人等

〔働ヲ愛シ貴ム〕北アンドヴァーのフキールドは銀行支配人にして財産も相應にあり。妻君は師範學校卒業なるが教會の建築掛ニ撰バレ居リ、當夏ストーブの置更へ、道の附直し(牧師の)の支配を爲シ大ニ力ヲ盡せり。時ニは自分も人足ト共に仕事せり。仕事ヲ愛し人足即ち労働者を貴ふ。如是。

〔米國婦人の親切ト謙遜〕

北アンドヴァーのストン氏はハ百萬圓の豪家ナルが其お譲さんは自ら馬車ニ乗り、パイ果物杯を携へ毎土曜日に余ヲ尋ね呉れたり。

ダウキン氏妻君は週ニ一度ハ必ずデキンナーヲ送レリ。

執事の妻君は余ヲ日曜毎ニ招けり。また珍キモノアル時之ヲ贈

り呉れたり。

婦人の人ヲ感化し、人を樂ましむるコトニあり。

レビット、妻君の馬車ヲ以テ向ヘシ事、及婦人の吾ヲ團子ニテアヲキ呉レル事杯仲々謙遜ニ親切ナリ。女子は凡て丁寧親切ナリ。女子ニして餘ニ失禮ヲ加ヘシモノ一人もなし。男子ハ多くあり。米國人の女子は高慢ナリトノ評は適當ならず。

〔米の婢僕〕

金持デモ、役人デモ、大抵、其主人或ハ妻君自ら馬を驅て使用を辨ズ。下女ヲ使フ事少シ。又婢僕ヲ使フ内ハ少シ。日本ニモ働く風フト働ヲ貴ブ風ト、儉約之風ヲ養ハザレバ國を富すこと難し。

〔吾情ヲ起スモノ〕

汽笛、車聲轟々、風、雨、雪、月、星、暑、果物、子供、讚美歌、洗禮、説教、悲ミ、悦ビ、悉く吾をして○を思ハシムル印なり。

汽笛ハ汝大陸ヲ渡ル時之ニ乗リシガ又歸國スル時之ニ乗ルベシト。月ハ汝今吾ヲ見ルガ汝の友ハ今は太陽を見ルナリト。

星ハ汝が見ル。吾は汝の友は嘗テ見シ事なしといふ。

其他之ニ類ス。

八月十日

〔吾生涯ニ可成事〕

吾目的ハ吾天職ヲ終ルニアリ。吾天職ハ婦人ヲ高め徳ニ進ませ
力と智識鍊達を豫ヘアイデアルホームヲ造らせ人情を敦シ、國
ヲ富シ、家ヲ富シ、人ヲ幸ニシ、病より貧より救ヒ、永遠の生
命を得させ、罪を亡ボシ、理想的社會ヲ造ルニアリ。(人類改
良モアリ)

故ニ之の建築之事成功の道ヲ講ズルニアリ。實ニ短日ナレバ尤
モ必要尤モ入用のものゝみ可學。

〔聖書の研究法〕

種々のスタンポポイントヨリ聖書ヲ見ルベシ。キリストヲ見ル
ベシ。

キリストの心キリストの目的ヲ知ラン爲聖書を讀むべし。

弟子の人物ヲ知る爲しらぶ可し。

己ノ品格信仰の爲め調らぶ可し。

キリストのヒウマニチヲ調ン爲研究スベシ。

キリストのデイビニチヲ調ベン爲め研究ス可し。

道德の基本ヲ定むる爲讀むべし。

人情ニ通ジル爲讀むべし。

八月十一日

〔米國人婦人の親切〕

近處の十一、二の娘果物ヲ贈レリ。其他娘は誠ニ親切ニ愛らし
きなり。今日はバント林檎ヲ貰ヘリ。

〔米人の働〕

今日フラーヲ訪問セリ。彼ハ自ら仕上、今は立派ナ商人ナリ。
歳五十二ニシテ昨年結婚セリ。馬二頭アリ。店アリ。出店アリ。
然ルニ一人のでつちを置く。馬の世話より商賣ニ至る迄一人ニ
てナセリ。彼の家ハ下ハ店二階ハ住居ニして實ニ麗し。

又スチームヒートヲすへる四十位ナ、スウイーニイト咄せ
り。彼ハ尤モ下より働き上げ今は立派ナ頭領ナリ。之モ妻ト一
人の子供・父母アリと。米國では旦那風をするものなし。

〔米人の外人ニ對スル感情〕

汝は再ビ日本へ歸へるやと聞クモノ萬人ミナ然り。

米化せよ。すゝむるあり。米女を娶り、米國へ家を持ては如何
云々。

英國、アルランド其他の國々より來り一度ハ己の國へ歸るが再
び米國ヲ慕ヒ來り永住するもの多し云々。植民子孫の氣風とい
ふ可し。

〔人は慈善心アルモノ也〕

人は人の可憐を目撃せば憐むもの也。

眞ニ無私之精神より社會之爲犠牲トナリ働くものなれば資本集

らずといふことなし。ムーデーの働の如し。其他慈善業の如し。神は亦其約束して守り玉ふなり。

人ヲ勸さんと欲せば自ら勸め。人を勸さんと欲せば自ら犠牲トナレ。人は心あるもの也。良心あるもの也。キリストの如く働け。キリストの如く成功す可し。

八月十三日

万寿枝、前神、關すが、關みつ、コザッド、ベッドレー。ギュリキ、へ書を出す。

〔ヒリブ、ブルークス〕

の家は北アソドヴァーニあり。百七十五年前の建築也。其先祖ヒリブハ當州知事なりしがアソドヴァーのアカデミーを建てたるの人也。今のブルークス氏ハ其家にて産レタリ。夏期ニは家中其家にて夏を過せり。

〔機に乗じて事を爲すの要〕

若し心ニ感じ非常ニ面白き本は其感情の有ル時ニ讀め。然らば大ニ得る處ある可し。面白くなき本を仕方なく讀む勿れ。利益なし。又怠ルノ恐アリ。尤モインタレストアル事ヨリ初めよ。事業ヲナス、仕事ヲナス、尤モインタレストアル時ニナセ。文ヲ書く、書を認む、同じ規則を履行す可し。人ニ話ス、交ル、相談スル、其機あり。之ニ乗ズル事大切ナリ。

日記

其他何事ヲナスニモ可爲時あり。チャンスアリ。運アリ。之ニ逢フ時其時ヲハズサス悉ク取レ。或ハ爲せ。是れ事業の秘訣ナリ。今日迄學問之進みし、業之成りし跡を考へ見よ。其機に乗じ熱心ニナセン時尤も多く運び居る也。

思想を鍊ルモ同事なり。而して機ニ乗ズレバよく事の出来るのみならず實ニ快愉ナリ。面白キナリ。活發ナリ。憤勵ナリ。力の出ル秘訣なり。常ニ活發ニ事を爲せ。活發ニなさんと欲せば機ニ乗ズル事大切ナリ。

又止む可きの時あり。其時ハ直ニ止めよ。決して倦怠の情ある可らず。其他食フニモ運動スルニモ仕事スルニモ眠る可も起るも各々機あり。之ニ乗ズル事大切なり。

〔ロウレンスの銀行及ミル〕

フヒールド氏之銀行 (Savings) は資本は六百萬圓也。午前二三百人ヲ扱ヒシト同夜の書記にて。ロウレンスノ大ナルミルの勞働人は五六千人也。

〔満足〕人間ハ動物外の飲食物ヲ要すれば常ニ心ノ糧、精神之飲物ヲ得ることならざれば真正ニ満足を得ること能はざるなり。

八月十六日

〔愛ハ律ヲ全ス〕馬太傳五章は愛の説教ナリ。若し眞二人ヲ愛

せんと欲せば敵ヲ愛せざる可らず。己ヲ卑ク柔ニせざる可らず。忍ばざる可らず。讓らざる可らず。惡ム可らず。心中より出でざる可らず。嫉ム可らず。情欲を制せざる可らず。己ニ克たざる可らず若し法ヲ守らずして如何ニ愛を行ふを得んや。

Relief Brought While Singing

“Commit thou all thy griefs”

And ways into His hands,

When Tho wouldst all our [need supply

who alone stay thy hand 3”

Boyhood experience of Emhong

“Commit thou all the griefs”

八月十七日

南、森田、來訪 種々遊戯ス。

〔ヒリップスブルークス〕ヲ當地百五十年前ニ其先祖當州知事ヒリップスの建築せしものニ訪ふ。ブルークス氏の母は即ち此處に産れしとなり。彼は親しく種々の咄をなせり。日本ニ在りし事三週間、日本を愛スル事及日本人を貴ぶの風あり。又日本將來を(二字不明)るものゝ如し。

曰く日本傳道は己ニ本那人ニて爲ス可し。十分爲し得るの力あり云々。曰く汝らは日本ニ歸へれば日本服を着するや云々。而

して日本服の優れる點を種々語れり。他日再會質問するを約して歸へれり。

〔日本服〕日本服の不便なる點種々ありと雖も、經濟上より暫く日本服今の盡ニ用ゐるを利益なりとす。

(一)綿布、絹を用ゐる西洋品、ラシャ、フラネル杯の輸入を減少ス。綿入は冬服至極便なり。もし洋服ニナセバ大ニ費ヲ要す。

(二)日本服ハ洗濯、ウラカヘシ及裁縫賃等安し。又古びても用ひ様多し。

(三)下駄

(四)男子ハ洋服ハ仕事衣ニ着スベし。禮服、夜服等ハ日本風ヲ用ゐる可し。

(五)夜服西洋形ヲ善トス。

(六)其他西洋風ニスレバ種々西洋品を用ゐざる可らず。是れ損

(日本の)の一なり。

〔勉學・勤勞之愉快〕

一 仕事ヲ爲上ゲタル快愉ニ越スモノナカラン

一 研究ヲ終へ或ハ一文章一思想ヲ成就し或ハ一發明一了解、一進歩したる時程の幸福ハあらざる可し。然れば常ニコノ快樂・幸福を得ん爲熱心勉學ス可し。常ニ勞働を樂として爲ス可し。

〔米國婦人之運動〕

ヴァイシクル・テニス・ウォーク・遊び・ボウル・仕事等ニシテ随分多之時を運動ニ費ス。

〔Soul rest〕

If you live higher than trouble you can rejoice when they come.

神の存在

未來の存在。(甦生)

罪の赦し

來世の希望今世の希望ニ優る等の信仰なくば死ニ勝て困難・病氣の中ニ悦ぶこと能はざる可し。然れば其必要より論するも右之實在を信ずる(二字不明)る可し。願欲ありて之に應ずる供給物ナキトイフは天地之道理ニ適はざるなり。

We may, therefore, look at trouble as leading us to a higher life, and as developing in us those dispositions which make communion with god possible—which bring the soul into a state that it may commune with god.

〔何故洋行者の人物退歩スルヤ〕

(一)日本ハ互ニ先ヲ競ヒ先發スルノ大切ヲナサントスルモノ多シ。米國ハ泰平ニシてかつ文弱ニ陥レバ自ら文弱ニ流ル、恐ア

リ。

(二)貧乏して米人の恵ニ預り卑屈トナル。

(三)日本の習慣想像をもて米人婦人を見、其想像卑くして微弱男子を造るの恐あり。

嗣身ノ小ク、黒ク、支那人視せらる。

〔ユニテリアンの親切〕

スチープンハユニテリアン信者也。余其兄妹ニ交ルニ實ニ親切にして屢々招きコトヲホームトシテヲレ、書籍でもパーラーデモ、晝でも何でも汝の自由ニ用使スルヲ好ム云々。何でモ持ち行け云々。心より親切ナリ。彼らの主ハ行ニよって信仰を顯ハスの主義也。ホーロ曰く。吾は行ニよって吾信仰を表ハス云々。

其娘ハ家ヲ飾る事ヲ務む。

Mexicane コレハ衣服のヌンの飾

Macrame-i (之ハ手組工。手で編ム)

八月二十四日

〔ヒリブス、ブルークストノ談話記〕

一千八百九十一年八月廿四日北アンドウアーニ於て氏を訪ヒ種々の質問を爲し左之答辨を得たり。

氏は實ニコウデアルニテ談話中ニ笑ヒを含み己ニ訓レタル友ト語るの心地ス。其説明ニして談話實ニ速なり。別れ歸る時ハ幾度も談ニ來レ。余ハ大ニ悅ブ云々。又日本語を用ゐ、左様なら云々。誠ニ快活也。

聖書のインスピレーション

聖書ハインスパイヤード　ブックニアラズ。インスパイアードサレタル猶太人及キリストの記録なり。故ニ其中ニ誤謬ナキ事能ハズ云々。

キリストの Divinity

キリストハ己ニ神性あることを自覺せられたり。併吾人ニモヒウマニチーとデビニチーとあり。只キリストとの相違ハデグリニしてKindニはあらずと。又曰ク。キリストハ吾人の神性なるを明言せり。「イエス答けるは汝曹の律法に我いふ汝曹は神なりと録されしに非ずや。聖書は毀る可らず。若し神の命を奉し者を神と稱んには父の聖別ちて世に遣し、者われは神の子と稱バとて何ぞ之を藝演ことをいうと曰べけん乎」約傳十の三十四—三十六。

故ニ吾らもキリストト等しく神の子なり。又人の子なり云々。

又神ニ交ルトキリストニ交ルトの相違如何ト問ヒシニ、佳質つひな

婦人らがキリストニ交りし如く今日も吾人キリストニ交るを得る云々。キリストは全き人又尤も神の顯れしものなればキリストニよりて神ニ交ルヲ要ス云々。

ポーロ曰クキリスト吾ニ在て生るなりと。

聖靈ハ神のエヂセンシー也。神は凡ての處ニ働き玉ふなり。ユニテリヤンは廣イヨウデセマイ云々。

奇蹟ハ自然ナリト。即ちネーチュアーニ歸ヘリシヤ。それ被造物の切望は神の諸子の顯れんことを俟るなり。以下ローマ書八章十九—二十三。

キリスト全く神の子ニして神の子顯れし故萬物自由ニ歸リ本然ニ復せし也。故ニ病愈へ其他幸ありしは決して不思議ニあらず。本當の自然也云々。

〔キリストの甦生〕(前の續き)

キリストは靈體をもて甦生せり。吾人は肉體ト靈體ト二ツアリ。キリストは兩ら存せり云々。素より人ハ靈體ニて存スレバキリスト甦生したればとて奇怪ナル事ニアラズ。

キリストのブレイクシステンス、キリストのコンセンスはアブラハムより前に在りと自覺せり。吾人も前に存在せしや知る可らず。併し吾人其コンセンスなし。キリストハ自らかく悟れり云々。

婦人の範圍、

進歩して婦人ニ其力出來れば如何なる機會をも與ふ可し云々。

コウエヂユウケーション

極幼稚ノ時と極進歩したる男女は害なし云々。即ち小學校ト大學の如きものを云ふ。

社會ト各自

自己を基となす。社會を爲自己を捨つ可らず。

ホームは社會の模範かつ自然の社會也。

○氏は尤もナチユファルトイフ事ヲ重キるもの如し。何事も自然ニ従フ精神なり。

余ノ説

家ハ尤モ相互ニ關係ト愛情の盛ナリ處也。故ニ之より社會ヲ育てざる可らず。

よき家を造らば善き社會を生ず可し。よき家は社會の模範トナル可し。家は社會の元基なり。理想的ホームを造るを最大之目的とす可し。殊に婦人の目的なり。

婦人の譚話(男女間)

男女同様たるの意見。

ブルークスの身の丈六尺四寸

八月二十五日

〔玉木直より書來ル 万寿栎。玉木善作。五木直く書遺る〕

〔The feminine Beauty〕

"I found that the type most admired is of a slender, ethereal order with oval face, slightly aguiline nose and light complexion. This represents the aristocratic type, and I could not but concede to many examples of this class a high degree of beauty; but when I ventured to express admiration for another type the robust, red-cheeked and well-developed country girl"

〔The History of andover Seminary〕

The first donor was Madam Dhebe Foxcroft Phillips, She was the wife of the projector of the Academy.

ヒリッパスの一族ハ神學校男女學校を建て其地善き人物を多く出し永遠の基礎を置きし人なり。

Hon Jhon Dhillips, who joined with his mother in this donation, Rev Phippips, Brooks D.D. is the grandson of him, And Brooks is the descendant of the Rev George Phillips, the first minister of Watertown, 16 30, The third founder of Seminary was, Samuel Abbot, merchant of Andover, He endowed one hundred ten thousands doeeears.

The donors made their donation to the Seminary in a truly

devout spirit associate fund

professorship fund

Scholarship,

Professors houses fund

for the chapel,

Library.

Brechin Hall, library, erected in 1865. The three donors: Sixty thousands dollars Their native Scotland, Brechin, (Manufacture)

The Hitchcock? professorship one hundred and fifty thousands dollars

〔心靈之酒〕

酒は思フスチシレトス。眞理は心靈ヲスチシレトシ醉ハシムルの酒なり。單ニ何事ヲ爲スにも心靈の力を興振サセル事必要なり。是れ眞正之力なり氣船の蒸氣力なり。

"The noble excitement which is the life of life"

Pluck	(膽力、勇氣)	} Thus
drudgery	(力工、労働)	

The Secret of success "of all work that produce results nine-tenths must be drudgery"

There must be both humility and faith-the humility which acknowledges present insufficiency, the faith that relies upon the mysterious laws which govern our intellectual being."

[Moral and intellect]

Whether a boy happens to be a dunce at school or a youth of brilliant promise his future intellectual career will depend very much on his moral force

[Intellectual discipline]

Many eminent men have undergone the discipline of business Many ^(ア)line Franklin ^(ア)have been Self-disciplined but I have never heard of a person.

who has risen to intellectual eminence without voluntary submission to an intellectual discipline of some kind"

[Sainte Beuree] He is admirable example of self-discipline

(Frenchman)He never began to write about anything until he had cleared the ground well before him. He never spoke about anything character or doctrine, that he had not bottomed to (?) use lock word as for as he was able.

[The degradation of Women]

never prevailed in the West and North to the extent it has

done in the East & South.

[Sexual Passion of Women]

The woman who is the slave of her own passion is every where the slave of men; The woman whose moral nature is supreme over her passion every where obtain a certain modicum of freedom.

(Then words told to the ladies by a lady)

[眞ニ親切な友]

スチーブンの如き凡ての心ヲ盡して余ヲ親切ニせり。凡て己の益ある友ハ悉くかし或ハ益ある處へ馬車ニて同行し或ハ贈物し或ハ食宴ニ招き見舞つて咄ス事ヲ尤モ樂しき事とし日本之事を賛し凡ての力を盡して余之爲ニせりといふ可し。スチーブン兄ト妹トナリ。

[親ニ對する務]

師父其他老人ニ對してハ最も尊敬ト孝順ト親愛を盡スの醇風を作ることに要なり。

老人の尤も慰むの道を豫へること實ニ大切也。宗教ニ頼らざる可らず。

記

[女性の洋行]

第一身體ノ Robust health を要す

杉江女は小兒の時より學事ニなれ又人ニもなれ學校ニも馴れたるニ、一年も勤學後、己ニ頭痛をなやめり。

第二養生方ヲ知れるもの

第三十分の學問を日本ニ於て爲し其必要なるものニ限る。

第四視察、専門學の目的。

第五 年限は短きを善となす。

理由、人情、又餘り米化スルハよろしからず。

第六何事ニも視察之眼を備具したるものニ限る。

第七衆ニ秀でたる者ならざる可らず。

八月二十九日 夜

杉江より書來ル。

「ミスセス、リチソン婦人の親切」今夜計らずも戸を叩き、妻君自ら種々ケイクスヲ持參し眞の親切顔色ニ溢れ居れり。彼ハ未だ交際せし事なく余が米國ニ來り余ヲ眞ニ慰め心の糧肉體の滋養を豫へしものハ婦人なり。

而して智識を豫へしものは男子也。男女の天職之ニ由て區別するを得可し。

實ニ眞ニ米國婦人の親切ナルヲ視る可し。何れニ於ても女子の親切ト高尚ナルを見るを得可きなり。

「交際法」他人ト行クヲ約シ其他のインゲージメントは非常ナ

ル事或ハ實ニ不得止事の外ハ決して破ル可らず。是れ他人ニ失望ト不愉快を豫フレバ也。

又可成人ノ招キ或ハ己ノ關る集會等ニは望ミ及、限りハ多くの人々と交際スベシ。是れ人ヲ益して己ヲ益スルモノナリ。

ゴシップハ可愼、有益之嚙ニ時を用る可し。

〔米國視察の要〕

若シダークサイドを視る時は何事も不平トナル。是れ多く、其心の有様ニより偏見トナル事多し。故ニ先づ心ニ光ヲ得公平の眼を備へざる可らず。米國を惡く云ふは多く不平黨也。故ニ眞正ニ視察を遂んとするものは不可愼哉。其他何事を見るも悉く然り。

〔不平心〕は常ニ取除かざる可らず。

九月六日

〔余の目的〕世界の粹を蒐集して世界第一の教育、家政、社會、會社、宗教を吾日本ニ建つるニあり。現在スル粹を蒐集するニあり。

九月七日

万寿枝、玉木直、南、佐畑元、福岡へ書を遣ル

〔ヒリプス、ブルークスの未婚〕

氏ハヒラデルヒヤニテ久しく働き彼の地を去る時多の婦人より

Engage を貰ヒ其數五百ニ及くりといふ。また多くの婦人は彼ニ嫁スル事ヲ望ムモノ多しといふ。然ルニモ関はらず結婚せざるは何の理由の在スル事ならん乎。

〔米國學生の幼心〕

レビット氏曰く（アンドヴァーへ移る時）彼らは（神學校生徒・カレッジを卒業しかつ歳三十前後）汝よりも大ニ幼可し（心の意味）其思想等大ニ汝よりも卑し云々。

〔病氣〕明治二十四年九月十六日アンドヴァーニ移り十九日より

大凡五週間病床ニアリ。病名スロウヒーヴ、中途より肋膜炎ニかゝる。

諸教授之親切。

當地ハ教授之感化多しと察せらる。余の爲多々生徒を動シ光線空氣之スグレタル室ヲ豫へらる。

十一月八日

〔常の平安〕神ハ愛ナリ、救ナリ、善良ナリ。故ニ何事も吾ヲ益セザル事ナシ。故ニ病モ死モ不幸モ恐ルゝ事勿れ。常ニ安心して己の業ニかゝる可し。又人ニ付ても心配スルヲ止めよ。神之愛ニ由て萬事善ニ歸へる可し。又人之心も素と善きものなれば人之氣を損せんことを恐るゝ勿れ。萬事自然ニ任せ平和己の業ニ従事ス可し。

〔聖書の續方〕

己の需要に應ずる様調理して其眞理を味ふこと大切也。

〔日曜日〕ハ心ヲ養フ工夫ト實行ヲ遂ケベシ。祈禱、眞理、思考、集會、日曜の學校、經驗ヲ得ル事、眞ニ心の欲を滿スコト、渴クモノハ吾ニ來て飲め。人ニ親切ナル事

〔祈禱會〕三人集りて眞ニ祈求スル事大切ナリ。當校の生徒の祈禱會大ニ益あり。

十一月十二日

〔直ニ速ニ爲セ〕事ヲ爲スニ明日ニゆズラス今日の事ハ今日爲せ。又明日の事ヲ今日慮煩ふ勿レ。如何トナレバ直ニ其事ヲ其時ニ爲ス時ハ便宜ナルト記憶アルト精神アルト種々利益アルモノナリ。書狀の如き筆記の如きはなり。

〔益トナル事ヲ咄セ〕

人に面會スル時徒ニ時ヲ費ス勿レ。速ニ何か断セヨ。人ヲ益スル乎己ヲ益ス事ヲ咄ス可シ。常ニ可咄事ヲ心ニ番へ置クベシ。是れ其注意ニ由テ出來得可し。

十一月十五日

記
明夜は中學校のフットボール（エキスタートノ）競勝利の祝會ヲ視ル。

日
〔夜中ノ衛生〕

萬事靜ニして安眠し休息スル事必要ナリ。

第一 ホーヒー、茶等の刺激物ヲ用キザル事

第二 長談話、熟考、強學、等凡て神經のエキサイトヲ禁ズ。

第三 就眠直前の沐浴も宜からず。

第四 凡事變動ヲ慎むべし。

十一月十八日

万寿枝、阪口貞、關善三郎へ書狀ヲ認む。

〔謙遜〕ダビデモ功アリテ慢テ大罪ニ陥レリ。ソロンモ一旦慢る時ハ大愚トナレリ。ペテロモボーロも此理ヲ經驗せり。キリスト曰く自高スルモノハ卑せられ云々。

家康曰く勝テ甲の緒ヲシメヨと、往古より高ルモノハ悉く失敗せり。之ニ鑑ミ常ニ恐れ慎ミ謙リ己ヲ卑ス可シ。又己ヲ無智トナス可し。然らざればアヤウシ。

十一月十九日

Plans of Reading

(1) He knew what the world has done in the last twenty-four hours, and is about to do today.

(2) For the knowledge which I specially want to use in my work,

(3) for what will bring my mind into a proper mood (Beech-

er)
 De Tocqueville, Mathew Arnold, Madame Guyou,
 Thomas a Kempis (Imitation of Christ)
 They excite the imagination and moral sentiment and lift me
 away above the dust into a state of mind in which I can work
 with facility & pleasure.
 (Fiction), Proper work of solid information (poetry) to lift
 up you, as (Milton Daniel) Beecher says, I am a very slow
 reader.
 As I read I always begin to stant in various directions and
 then master my reading slow, If I read a novel even, I read
 slowly, a common story (stor) my wife would read in less
 than twenty-four hours I generally take two or three weeks to
 get through, though not necessarily read.
 (for Style Herbert Spencer, Bel'cher's favorite John Milton,
 who gave him Power & vigor : Burke (History) But I
 don't believe much in History. It is very imperfect testimony
 of men's nature and thoughts, and gives one-sided views of
 their action.
 You have to correct it yourself all the time, which you never

will do, Macaulay's way) At first he had to read (to) 3 or
 four times before he got his mind finally fixed,
 〔進徳の道〕學藝は學習ト實驗を進歩する如く道徳も然り。故
 ニ常ニ修徳之功を積まざる可らず。
 故ニ學問ト同様の謙を要す。油斷をすれば後悔くる。
 〔The national and worlds xn Temperance society 〕 Paid
 up members 150,000
 〔當校ニ在ルノ益〕
 一 書籍館、室、教授其他。
 一 實際學生と交り米國學生の風及彼らの經驗を實際ニ知るこ
 とを得。大抵一専門を得るより實地業ニかゝりしものも多し、
 代言人、教師、樂士、牧師、傳導士、諸國人
 多く問題を作り逢ふ人毎ニ聞可し。是れ書籍ニ就て學ぶ可ら
 ざる處を學ぶ可し。日本ニ於ても而すべし。孔子曰く二人集れ
 ば吾師ありと。
 〔ペール氏ユニテリアン教師〕
 今日 Lend a hand 雜誌記者の演説ヲ聽聞セリ
 風、無頓シヤク
 心、寛大ニして海の如し
 辯、談話體

原稿ハ小冊子の裏ニ四行の骨アルノミ。聴衆ト實ニ親しき情あり。快活ナリ。

第一キリストニ倣て教會ト牧師ハ役者即給事トナリ宗派ニ關らず萬人ニ事フルニアリ。

社會ヲ救ヒ上ルニアリ。病人ヲ看護スルニアリ。貧人を上ルニアリ。

惡人を改むるニあり。教育スルニアリ。

〔クリスチャンの職殊ニ牧師〕

昔し僧侶ハ其村の師匠かつ導手ナルガ如く將來牧師ハ社會の救手ナラザル可らず。

政府教育ニモ預り社會改良者、造營者、ホームの光たらざる可らず。キリストの精神をもて世を救フニあり。キリストハ神ト偕ニ世の救主なり。故ニ牧師ハ人情に通ぜざる可らず。

〔寛容〕大洋の凡ての水ヲ注入スル如く萬人ヲ入レヨ。愛せよ。呑めよ。救せよ。崇めよ。ほめよ。

十一月二十二日 [Nov.22.91]

Hints for Reading

記 Samuel Johnson Says that interest is the mother of Attention,

but attention is the mother of memory. (to Cook)

日 When one is absorbingly interested in a theme the mind

becomes strangely receptive, and draws to itself, as a magnet gathers up iron filings, all information written its reaction as to the topic in hand.

[Carlyle] reads on average a dozen books a day, of course he examines them chiefly with his ^[fingers?] fingers and after long practice is able to find at once the jugular vein and carotid

artery of any author John Guiney Adams was said to have "a carnivorous instinct for jugular vein" or an argument,

クック氏ハ outer margin ニ大切カナト見る處ハ二三本の線ヲヒキ其度ニ應ジ一本二本ヲひく。

而して己の反對スル節ニハ inner margin に線ヲヒケリ。

氏が大切ナ處ハ記憶スル如し吾は ^{note book} note book ニ撮へるなり。

(Edmund Burke)

Hint of reading (abbott)

1. The modern newspaper gives a history of human life.

2. "A magazine" says Webster is a storehouse, a granary, a celler, a warehouse in which [?] anything is stored or deposited.

Scribner's Harper's Lippicotts Atlantic

〔書籍館'或書齋'〕

米國に於てハ學校、タウン(二三字不明)田舎の貧家にも必ず「ライブラリー」アリ。備フ。又小兒より老人ニ至る迄ニ適する新聞雜誌を備フ。是れ吾日本ニモ輸入ス可き美風而て便利の風也。又家之飾に付き——。

〔原因。結果〕 Nov.24,91

何事を研究し、審判し、企圖スルニモ此理を基として爲スベシ。日本社會改良せんとせば、先づ病の原因より研究之が治療を施ス可し。其家庭ヲ作ル、社會を營む悉く根本より初めざる可らず。結果を得んと欲せば其の根より初めよ。

歴史、宗教、社會、教育、學術を研究スルニ此原理ニ基くこと大切なり。

〔克己〕

第一、情を制ス可し。

第二、祈ル可し。

第三、其情を消ス迄心ニ考へ決スル處アリ。而して聖書或ハ助

トナル言葉ヲ味フ可し。

第四、情ト力を他ニ導ク可し。

第五、情ト意ト決心したる後行ふ可し。

怒り易スク變し易きハ野蠻の風也。

又弱きもの業也。怒を制スルハ誠を取るニ勝る。如何トナレ

バ蠻人ハ過去未來の思慮ナケレバ也。故ニ怒り易きハ小人の徵、無智之徵也。

十一月二十七日

〔日本の一致〕怒り易き故一致和合出來ず。是れ家庭間朋友間社會間ニあり。コノ野蠻風即ち(二字不明)を情を改めざれば善社會を作る事能ハズ。又ヨキ仕事ハ仕出來ず故ニ道德は基也。

〔Nov.22〕

〔The Figure alphabet〕

1	2	3	4	5	6	7	8	9	0
t	n	m	r	L	sh	^g (hard)	f	f	s
					ch	^c (hard)	r	p	z
d					^g (soft)	ng			^c (soft)

The vowels never used in the figure alphabet, nor any other

consonants.

Nili=25 victoria=8714

name 1 23 fish=86

man 32, hour=4

(mnemonic)

Ohio river 1,212 miles

at no time

1 2 12

at no time

1 2 12

十一月廿八日 万寿枝 前神 雜田 玉木 關 青柳 松村：
…等へ書を出ス。

〔友の歌〕

別れてはいとどこひしき師の君の

たよりえしこそ嬉しかりけれ

たびねする君の心やいかならん

あはれをそふる秋の夕暮

ちひろ

海山のへだてハあれどへだてなき

心のうちぞ憐なりける

別れてもまた逢ふ阪の關守の

昔を語る時を待つらん

日記

〔説教演説結果の秘訣〕

いし子

空を撃たず人心に當り其結果ある可きなり。

第一、社會問題ヲ明察し之を研究し之ニ答フル事即ち明案を立

社會を幸福平安ニスル事

第二、人心を察し其直接の利益、救、光トナル様其問ニ答ヘ其

願ニ應し其相談者トナル事。人情を突くこと。

第三、ドクトリンニ就而の大問題を説くこと。安心立命を豫ヘ

ること。神。罪の救。未來。道德。祈禱等。人の徳を建

る事。

第四、宗教、教育、衛生、經濟等凡て直接關係ある眞理、經驗

を教ヘ人の進歩を計る事。

第五、新智識を豫フル事。

第六、故ニ實地ト共ニ教ヘザル可らず。

〔讀書の心得〕本ヲ開ク前、其著者ハ如何ナル目的ヲ以テ書キ

タルカ如何ナル利益アルヤを明察して讀むべし。

〔戰也空撃ニ非ラズ〕

楠公が其業ニかゝるや其想像ト文章ハ即敵ヲ防ギ王を守り国を

救ふの實戰也。

吾人が考へ企て即ち文章、演説、事業、悉く其目的ニ達ス戰爭

也。常ニ城を見、敵を見、矢を見て事を爲ス可し。

Nov. 30 th

〔比較の力〕

演説文章殊ニ迷を解き改良等ニ用ゐ可きもの也。

一、比較其黑白明ニ解り感情強し。

例、内村鑑三氏の見せしインディアンの寫眞其他例多し。

二、人心ニ記憶を残ス。

We can only compare those ideas with one another which have some connection, that is to say, analogous or opposite ideas.

〔How to learn a New Language 〕

In 1860 Dr. Edwards picked in English, French and German

1, Attention of impression

Means (1)

Compare two ideas of Analogous or opposite of related.

England navigation So force

Steam

navigating

Steam railway

railway telegraph

tele electricity

一時二三個以上の考を心ニ醒起スること能はず。故二之ヲ忘

る可らず。

又其列の初より或は後より言フモ同様の功あり。説教其他を暗記スルモ大ニ助となる可し。

又語(義)を覺る二三個の比較的アイテヤを並べること肝要なり。又想像シテ讀ヲ得ることもあり。

Word Memory

Opinion of prof. J. D. Gaillard.

The eminent teacher of Language.

“This work will become an easy and pleasant Pastime by the application of the following principle

1—By making the Subject matter interesting & instructive

2—By establishing a powerful and logical link between the words we desire to commit to memory

面白き Subject を讀むは記憶及 Language の爲のみならず其より多の Suggestions を得るの訣あり。

〔大ヨリ小ニ論究セヨ。演繹法を用ゐよ〕

書を研究し或人の説を聞くニ、先づ其大目的の如何を調べ、次ニ其滑ニ移り其より細目ニ至るべし。之了解之道也。

又社會教育政事を視察し、或ハ之が評論をするニ當り、先づ大體即其一社會を一ニ視て其より細目ニ渡りて調フル事大切也。

故ニ心は常に大ナルを要す。宇宙、神、永遠、生涯、永生、世界、日本、原因、未來、將來、子孫等の觀念大切也。

[The Art Forgetting]

The progress of 1 race is slow because we cannot or will not forget those things we learned in early life, which were not true—

〔マコウレ〕ハ四年間ニ六千部の書を讀むといふ。

[Prof Nathanael Shaler] of Harvard

の説を聞く (Dec, 3-4)

Modern Science & religious belief

十二月四日

〔思想ト文字、實ト名〕

片言安りの書狀も實ある時は人ヲ泣かしめ、平凡之考を錦の如き文にて飾るも味なし。凡ての文を讀み誰も經驗スル處也。故ニ、第一思想を得よ。之を表ハスの具自ら生ぜん。

〔本、業、学ヲ擇選スル事時ヲ以テ之ヲ講フ〕

スベンサーの説 Page 7 を觀よ。

before devoting years to some subjects which fashion or fancy suggests, it is surely wise to weight with great care the worth of the results, as compared with its worth of various alte-

記
日

rnative results which the same years might bring if otherwise applied.

時ハ金也。結果は品物也。コノ限リアル時も共ニ如何ナル品を講ふ可き也。尤も考フ可き也。若しコノ百圓ヲ以テ Organ を求め、他之人用品を得る能ハズ大不都合を其家ニ來ス如き豈ある可らず。

學校の課程ヲ定むるニ當リ尤も考ふ可き事也。只流行ニ従ふ可らず。

Of what use is it?

— Save from evils and secure good — conduct happiness - produce on human welfare —

How to live ? — that is the essential question for us. In what way to treat the body; in what way to treat mind; in what way to manage our affairs; in what way to bring up a family; in what way to behave as a citizen; in what way to utilize those sources of happiness which nature supplies - had to use all our faculties to the greatest advantage of ourselves and others — how to live completely ?

○教育の方針

To prepare us for complete living is the function which -

education has to discharge.

〔住、食、衣、其他改良之必要〕

軍器等ハ改良を施して、何ぞ家具等ハ改良せざるや。軍器の改良の利益は何人も明知し、家具改良之利益を識らざる何ぞや。

時、金、仕事、衛生、勉學 Confout 目、耳、如何計の損益アルヤ。國を富し民を強めんと欲せば、コノ根本の改良ニ着手す可し。余ハ之ニ付き十分研究をトゲ實行せしむるニ至る可し。

また之ニ付入用書を著すこと大切なり。

衣食住は經濟的、衛生的、便宜的、快樂的、ならざる可らず。

裝飾い尤も後の事也。(裝飾的)ハ却て前の四者ニ逆フ事アリ。

支那の足束縛スル風、歐米の Couchset 等の類也。日本のお齒黒、眉落し、其他野蠻人ニ多く其例あり。

〔教育の要〕

Selfpreservation

知識ハ身を守るの要具也。

〔青年洋行ニ付〕

十分成人し一人を保護スルの經驗ヲ有スルモノナラデハ洋行ス可らず。如何となれば其性質ヲ傷フ事必然也。不平より乎ヲゴリヨリ乎。今日迄の例如何。

〔コウエジユウケーシヨナル〕

ニ利害アリ。公平ニ判せよ。

十二月十日 万寿枝、若林が書及バンチ五(二字不明)押畫二個、來着ス。

〔讀書の心得〕文章ト文字ハ器關也。飾也。之ニ心を取られ其眞正の意義精神を解するを忽ニスル勿れ。其意ヲ取ル事ヲ第一の事とす可し。文字は二之事也。故ニ文字之媒ニより、吾想像は其事物即(二字不明)云フ處の萬物或ハ其著の心情或ハ其實事ニ走せ、原場を畫き或ハ芝居トナル可し。其舞臺ヲモ作ラザル可らず。即ち其事の周圍之事情或ハ其人の有様をも察せざれば、眞意を解スル能ハザルナリ。

十二月十二日 二十二人の朋友親戚へ書ヲ送ル

〔田舎娘〕米國之教育の著き一例。

余田舎ニ運動し、一軒家の小兒ト心安くなり、其内へ入り見るに、十二三の娘が介、卵、諸の物品ヲ集め居レリ、學術ニ志アルヲ見る可きなり。

十二月十三日

〔夕日を見故郷を思〕

夕日西ニ入ルヲ見、月東ニ浮を見て、吾妻今ハ寢室を出て之の太陽を見て、今は日の出也と云ふ可しと思、種々の想像浮、天ト日ト月ト星は常ニ故郷を思はしむ。又日本の近きを感じしむ

るなり。

〔ユニテリアニズムの靈性を缺クノ理由〕

一、チャニング・ブシユネル・クラーク・エモルソン・ロウエル・ロングヘロウ・ヘール・の如き學者多き爲其説處多く知識、議論上ニ流レ、實行ニ缺ク事。

二、之ニ從フモノ新キ事ヲ好ミ其説を聞くニ止まること。

〔黨派の害ニ付テの處置〕ピーチャーの教會、二ツニわれし時一派(自由派)は一教會を興し氏を招かんとせしが、ピーチャーは之を否ミたり。コレ大ニ社會ヲ害スル爲也。又アメリカンボードはアンドヴァ卒業生を修道士ニ取らず。故ニ別に會を具し派出スルヲ得るも、其外多く競争を始め害ある故、時之至るを待つノ傾きなり。日本ニ於て屢々別る處あり。可愼也。

十二月二十五日

余ハ過ル金曜日よりグリブニ罹リ殆ド四日間病床ニ苦ム。向ヒ室のボタン非常ニ親切ニ看病し呉レタリ。室の掃除、薪木、水の運び、食ノ事、毎朝ストーブヲ起し、種々の使ヒ、クソの除掃又ハンカチーフ、枕、ソウフー等己の物ヲ持運ビテ惜ミナク余の爲ニなせり。又レビットの處へ行、ストーブの事ヲ談じ呉レタリ。其他余ヲ慰ムルニ心ヲ用ゐたり。又一夜余のからだを洗ヒ呉れたり。男子ながらモ看病の法を能く心得、誠ニ氣の付く

ニハ感服の外なし。

ラーカーは毎夜來り面白き小説を讀ミ呉レタリ。

〔米國學生之風〕 Hawthorne

一、小兒らしきこと。更ニ政事運動ニたづさわらず、スモーク

・キャンデー

二、運動ハ、非常ニ盛ナリ。テニス、フットボール、體操、丸

轉じ。ヴァイシクル

三、獨立ノ道。學生ニして木ヲ割り或ハテーパールボウイ、商賣、何業を厭はず又賤まらず熱心ニ働く。大學卒業生の如きもボウイヲスル事モアリ。ノースフキールド、又アカデミーのボウイ畫本ヲ賣リニ來ル、又其姉海草を以て押畫ヲ作る。實ニ巧ニ出來る。

〔熱情の源〕人心燃エザレバ何事もならず。而して其熱情の起るは外物の如何にあり。キョウグウ如何ニアリ。故ニ己の身を處するは實ニ大切也。其地位ニより周圍のものニより、見聞するものニより大ニ異なりよく注意して心の發達を計る可し。

明治廿五年一月

一月十三日

〔米國の清潔の風〕學校ニ於ては、教授の休處ニは必ず鏡、クシ、ブラシユ。鉢、水瓶を備へ、また各家の入口には鏡等備あ

り。男子たりとも毎日三度位頭をハク。又或男子杯は鏡トクシ
は其ポケットにありて座に付く前に形をツクロウ。婦人は素よ
りの事也。

Friendship

The bond of friendship is the highest and most unselfish form
of love.

【米國學生の三弊】

Swearing, Gambling and talking about girls. (?) ——

The types of modern Christianity

1. Intellectual

2. Social Xnity . making home etc.

3. 物質界ニ迄及ブ事。

Best things を世界ニ持込ム事。

The Spirit and method of Christianity

昔ト今は萬事異ナレバ其性質、方法異なる可し。併し其精神
に至ては更らず。精神を振ること大切なり。之を缺く時は死せ
る肉體と等し。

【チキソンの文字】

Sad and gloomy は北方の atmosphere なり。

一月十四日

【米國の商業上の信用】

今日余は針金を買ふ爲、金物屋ニ行けり。大なる店ニ僅か貳
名のみ在り。一人にて二階へでも、何處へでも見ニ遣る風、若
品物を盗む心あれば直ぐ盗むを得るも大ニ疑はず。僅かの針金
を買ヒたれば價を取らざりし。

【米國學生の風】アンドヴァーは多く學校のある地にて、大ニ
學生を敬する風あり。北アンドヴァーデは屢々輕蔑の聲を聞き
或は小兒より雪丸を投げ付けしことありしが、當地にては決し
てかゝる事あるなし。

小學校にて今日書生の雪投げするを見たるが、女生徒屢々男生
徒に向ヒ雪を投げるも、男生徒は更にソ知らぬ顔して反撃せ
ず。女子を敬ふの風、小兒の時より已に萌すを見る。米國書生
は富家の小兒の如く、或ハ殿様風あつて寛容なる處あり。

【吾生涯の目的】吾生涯の目的は吾か日本全體の家庭を通じ
て即ちConvertして日本社會を救ふにありとす。各々の家に天
國を來すにあり。是れ吾が天職と信ず。

此を遂るの準備として女子教育、社會改良、結社、貧民救助、
著書、新聞雜誌發行、傳道、男子青年の教導。又之ニ關する著
書、演説等に從事す可し。

男子學校ニ働き其他凡ての社會に入り、己に成立つホームを改

良し、又新にホームを作る事に熱心盡力す可し。其結果としてホームより大學者、大事業者を出しホームより富國を生みホームより強兵を造りホームより道德を流すにあり、又ホームより幸福、萬善を産出すにあり。ホームは社會の元素なり。社會を改良せんとせば之より始めざれば能はず。

〔教育及働の秘訣と信用〕

若し人ヲ重じ其人に無限生無限力ありて之を發達する時は如何なる人ニなり(三字不明)ことを信ぜざれば即ち人を信ぜざれば決して大人を得ること、人ヲ造ること人を救ふこと、人を得ること能ハス。又人ヲ進め或ハ働かすこと能ハザルナリ。信用は事業の基、幸福の基、Friendshipの基なり。

〔演説文章の秘訣〕 常ニ希望、熱心、確信、快活を失ふ時ハ結果なし。若し失望と憂 (Gloominess) ある時全く其果を減すもの也。

〔精神〕は精神的眞理及び天帝を了解し之に交るより來るもの也。

日記
〔演説、説教の心得〕 ベンテコストの問答。汝は説教するを愛するや。然り。然らば其聞く處の衆人を愛するや、若し人ヲ愛するよりせざれば無益也。即演説之爲め演説するは無益なり。又大膽なるは大切なり。之を得る迄は何度もす可し。ポ一

口は福音を耻とせずといへり。

一月十六日 万寿枝。服部。田村。佐畑。前神へ書く

一月廿一日

〔快樂の必要〕 身體の爲、靈魂之爲快樂は必要なり。天地を視よ。悉く人心を喜ばす働なしたるにあらざるや。吾爲觸るゝもの、靈魂に感ずるもの多く快樂を生ず。人間無限幸を受るもの也。併し常に變ずるもの也。

〔米國人の Character 殊ニ婦人〕

余今日娘と運動し太陽の没するを見て感^{マツ}を述べ又スケーションを視て靈を視て種々の情を述べ其何の囀るニ調子を合して實ニ快樂ニ語り吾を友人の情あらしむ。實ニ學問ニも政事ニも音樂ニも天然ニも *Instincts* あり。此れ教育之功とす。米人一般の風也。實に快活なる人民なり。

實際ニ於ては強キ Sympathy & interest enthusiasm を要す。

常に心に満ると熱すると興奮すると悦ブと必要なり。實際、談話等ニ之を缺く時は失敗也。

〔勉學事業の秘訣〕 書ヲ讀む時は己の讀ミをすることを忘レル程の enthusiasm を要す。昔、書に耽り、雨降り乾^かモノを悉く流されしを知らざりし人あり。かくてあらざれば得る處なし。又事を爲すニも實ニ面白く飲食も忘るゝ程の熱心に爲スにあらざ

れば成らず。キリスト食を忘れ、禹は水を治むるに當り三度己の門を過ぎて入らず。基打、親の死の報を聞き耳二入らず、親が死んだとさとの諺之如く事を爲す。成功スルはかくの如き熱心ト樂を要す。其熱心と愉快は死るも消エザルモノナラザル可らず。聖書ニ曰く常ニ悦べ。困難ニも喜べ。故にクリスチャンは歌を唱へて十字架を負へり。この熱心ト愉快即ち面白き事あらざれば何事もならず。

然れば人間の生涯は常に樂しき哉。常ニ面白き事のみして日を送るを得る也。讀書、働き天然に好むものを取る可し。嫌な事は少も爲スニ及ばず。又爲ナ可らず。又死ニも病ニも此悦ある大目的を有せざる可らず。日々、時々、分々、起るも、寝るも、讀むニも、書くニも、爲すニも、食ふニも、飲むニも、働くニも、行くニも、座するニも、常ニ面白き樂しき事好むこと、即ち *interest* ある事を爲す可し。是れ進歩、成功の道也。

〔眞正の欲情〕 キリストは佛の如く人を無情ニせず、活す也。消極よりせず、積極よりす。無欲ニせず大欲ニス。大望ニス。眞の權威ノ願（天國の權も）勝利、進歩、智識、樂（天國）ノ榮譽ノ念、即チ人心に大慾を起し之を利用スルナリ。故にクリスチャンは常に狂氣せるが如し。困難ニも歌フナリ。之れキリスト教の特色也。社會を改良せんト欲せばこの積極の法

を取らざる可らず。

〔愛〕 人心の大願望也。之を得れば、満足す。常に悦ぶ。キリストハ人の大愛を世ニ示し人を救へり。

〔The advantage of Interest〕

面白き事を爲し初め或は研究を初むる時、實ニ多くの眞思想、湧出る也。之れ面白き事を爲スノ大益也。Nature に *interest* ある人の天然を能く觀察し人の見ざることを得る。之によるなく觀察、問答等も己の好む様爲スこと大切なり。

〔自由と進歩〕

若し人々己の好むことを爲スの自由を得る時は實ニ進歩するもの也。故ニ教育は自由主義を取る可し。

〔home and education〕

若し親たる教師たるもの子弟の好むことを助け自由にならざる時は大ニ發育を早むるもの也。又、Family の組織ニ於て大切なり。夫婦は素より互に一トナリ、即ち *Compatibility of temper* *Equality in degree of Knowledge, Virtue, and interests* 等あらざれば互ニ自由を助け大苦痛あり。又親子の間、家庭ニ在るもの悉く其自由を得るに爲さざれば其家の幸福増進せざるなり。

〔廿四年クリスマス頃のグリブニカムル〕

十二月末ヨリ雪降ル

十二月廿八日市原、淺田、小崎、來安。

一月廿四日 晴天、雪過半（一字不明）ス

一月二十五日

〔一見百聞ニ優る〕 米國ニ在る間可成周密ナル視察を遂ラルに決す可し。第一 individual life を多く視て人情ト教育結果、經驗、長處、説、 motive、風俗、習慣、信仰、精神、氣質等を視る可し。是れ大學問也。之を遂るは談話、質問、交際、外見等ニ由る。

第二 Family life を視る可し。其道徳、教育、夫婦間の交際、愛、經濟、建築、衣服、家政等を見る可し。

第三學校、教授法、教員、徳育、智育、體育、教科書、管理、取締、罰則、獎勵、人物養生、生徒の希望、風儀維持、組織、校友、男女の區別等。

第四 asylums 其目的、博愛心、起源、維持、結果、教授法等。

第五、教會、運動、信仰、神學、Bible、維持、説教等。教會ト教育、政事・富國・風俗等の關係。

第六米國文明の大勢。

記 第七、商業。農業。

第八、建築、機關、其理、其維持、其利益、其製法等。

日 第九 World-fair 博覽會、世界之大進歩を見ること。日本の進

歩を計ること。

第十今日世界の Opinion 及 View 等を知る事。

第十一書籍館ニ由て世界の尤も善き智識に通じ世の欲する材料を集めかつ世界の書籍ニ通じ及出版、及新聞雜誌等之事業を見る事。

第十二青年會、禁酒會 *Temperance Society* 其他慈善事業を視察スル事。

○世界の大勢、最上のもの、學問

文明及其原因を明知して掃蕩し之を日本ニ輸入スベシ。即ち粹たるものを取る可し。

〔英米人の愛國心〕 英米之人は引証ニでも多く自國之人物を擧げまた自國人を高く値す。

書を人にすゝめるニ復自國人の著を以てす。バタンガホイチャイ、ロングヘロー、ウエー——等すゝめるが如し。

又英國出來の *New Version* の聖書は米國教會ニ於て満足せずまだ用ひざるが如し。

〔感情を制スルは理性に従ふニあり〕

變事ニ臨み情を制し狼狽せざるに爲スは、理性ニ歸り研究を初め良心ニ從ひ判斷ス可し。即ち十分考へ *Will* に決する迄は何事も爲さず言はざることに決す可し。

一月二十七日

天氣晴 溫度零點上三度、嚴寒タルを覺ゆ。田村、關、万寿
枝、ニューヘルより書狀來る。

〔人情ニ就テ〕 Humanity を缺くものは常ニ其論ずる處、言
ふ處行ふ處 Skill 也。吾利ニあらざれば爲さず。關田氏の如
き其要求する處論ずる處、勸告する處、悉く己の爲めに言ふも
の如何。實ニ人を察するを知らず。如是夫を持つものは不幸
也。友となるもの下婢となるもの弟子となるもの、配下となる
ものは不幸也。關氏の如き前氏之如き書狀と比較せば天地の相
違あるを見て人はかく違ふもの也、友ト相手は常に撰ばざる可
らず。

〔米國之平和〕日本と米國ト比し大相違のある點は米國ハ天下
泰平といふ風、日本は戰國之勢なり。故ニ社會、學校、クラブ
ホーム凡て靜也。人心豊也。喧嘩、爭論、怒氣、嫉妬等の情實
ニ少し。故に米國ニ在る時ハ氣平ニして春の如し。若し(二字
不明)意となれば意氣を生ず。併し長生出來るが如く感ず。英
國人が米國を好むは之に由る乎。

日本社會も可成人情風俗を敦厚となさざる可らず。

〔決死之覺悟〕一目的を建て一事業を爲さしめんと欲せば生命
を之ニ投ぜざる可らず。たとへ山くづれ生命危きに臨むもき

譽、褒貶、媚集するも、更に意となす可らず。常ニ神ト和ぎキ
リストニ在り泰然として不動、平々安々除々ニ業ニす、み又常
ニ快樂を求め面白き生涯を送る可し。運動、食物、安眠を要す
ると共に日々 Amusement を要す。笑フヲ要す。嬉きを要す也。

第一良心の罪惡を取除き神ト倍ニある可し。

第二談話、花見、遊戲、其他凡ての快樂を取る可し。笑フ事人
を笑ハス、悦ばすことをも學ぶ可し。

第三心常ニ大膽ナルべし。大望を懷く可し。博愛を養ふ可し。

〔文章ニも面白きを要す〕交際ニも文章ニも常ニ面白き、勇
氣、快樂、熱心を要す。生命ハ春の如し。若し春あらざれば生
長せず。人生若し快樂・安心・幸福あらざれば延びざる也。歌
へ。舞へよ。

聖書ニ表るキリストの福音は幸の音也。幸福の教也。生命也。
希望也。愛也。病ニも困難ニも死ニも常に人を満足せしめ、人
を悦ばせ、笑はせ、樂しむるの教也。重きを負へるものは吾ニ
來れ。吾、汝を息せんと。

キリストハ人ヲ罰スル爲ニ來らず。尋て救はん爲也。

眞正ニ幸福を害する恐、貧き、死、罪等は悉くキリストニ由て
除くことを得る也。ポーロ曰く、吾れ勝ち得て餘りありト。

(以下、ノートの反対側からメモが書かれている)

日記

so forth.

The great show

the monkey animals ~~~~~

Columbus=play—greatest one.

May 1

Higher School of girls Brooklyn.

I visited to-day 1st day—and I saw Dr. Lyman Abott and asked several questions. These things in my paper notes: Froebel Academy May 2nd. Individual method. Medical Colleges Homeopathic college for women and Dr. Backwell's women's medical college. 3rd. Teachers' College and People's Palace visited on 4th.

(以下空白。終りニ若干ノメモ)

Smith College—I spoke to the students & professors of Smith College. Seven hundred, on “prospect of Japanese christianity” Many expressed their interest from the hearing—Mt. Holyoke College, I addressed there on 24th of March to students and professors in the morning. I received their applause—also I spoke to the Clark University and State normal school and other public schools and always cordially accepted.

I came this city, Northampton, Mass. on 24th of March. I was invited to Pres. Seelye last night, and I met (ムシノタメ一行不明)

March 6

American friends in America

Northampton, Mass.

I stopped in the family of the city treasury. He said to me yesterday, that I made so many friends in one week as he can make in 2 years.

Amherst College

I visited on March 7th, 1893. I met Ex-president Seelye, president Gates, Prof. Todd, Prof. Tyler, and prof. Hitchcock.

○ (ムシノタメ日附不明)

○ Cambridge, Mass.

From March 17 to April 6. I been in Cambridge with Mr. Hirotsu, and observed the institutions of Boston and Cambridge.

○ New Haven

I came here on April 6th.

Left for Brooklyn, on 15th, April 16th Dr. Scudder's Sermon—Largest Sunday school in this city, branch of Dr. Merodeth's church. Talmage's preaching—107th (?) Home Journal—辻孝 (3字不明) 會—Visited University of city New York.

○ (ムシノタメ日附不明)

Many review in N. Y.

1. I saw a many thousands of war ships in the Hudson river—3 miles long half mile wide continued in river—Smoking, mist, firing, Blowing steam pipe—crowd of people—

2. I looked into arts museum, Lake, Park, the stone monument of Egypt which cost \$1,000,000 Vanderbilt brought to this country. Cathedral 5th ave, Vanderbilt's house and

日記

quite often four horses waiting for her.

[Purpose of School for Xⁿ W.]

Mr. Reed felt a great need of layman's work in the church but they could achieve their duties without training.~So he started this institution—

he said if any society has not a trained worker it will be failed—The secret of success of the work of any society is to have trained workers.

日本の諸會が振はざる亦た人なきによる。

[Springfield 諸教會]

More spiritual than any other places except some county churches—more warm—more active—more orderly—more fruitful—I think this the result of the schools as Amherst College—Hartford Seminary

January 6

Mt. Holyoke Seminary, Smith College, Xⁿ worker's school and etc.—They are more conservative more spiritual—this vicinity probably the center of Xⁿ—spiritual influence— (and Moody's school too) There is flowing the water of life as the river of Connecticut. It is very calm but steady running and giving life to many plant and animal.

And they have best educational type in this city. O: this city! you have a great responsibility in the world.

Be courage!

January 8

(Dr. Baunhan of 1st Congregational Church)

When I met him first I felt as if I were met my father—He is very kindman. He advised me to go Hartford and study there, one month. When I left his home, he helped me for wearing overcoat and he corrected my dressing and battered as my mother used to do for me.

[Rev. G. C. Baldwin D. D. of Baptist]

He is one of most prominent preachers—He is a man of dignity, gentle, order—He very attractive man—He came to me and talkerest cordially [talked?]

March 5

Public Speech

papers to protect the dirt.

December 5

[The American home & servant]

I spent last Sunday with Mr. White at Princeton and I found a very sweet home. He sanked and said Madam to his maid servant, a Sweet and also he semked to his son [thanked?] when he brought a box for him. The daughters were so kind & cordial to me during I been there.

December 26

Worcester Lunatic Hospital

Dr. H. W. Quinby—Superintendental Docter "my Dear Dr. Quinby—This will be handed you by Rev. Jinzo Naruse, a Japanese clergyman & teacher, who is studying some time in this country for the purpose of studying institutions. I belive him to be a sincere & honorable man, & you will find him intelligent, appreciative, & well bred.

I think he will know to use any information you may see fit to give him, & I bespeak for him your usual courtesies to visitors, E. D. Russell.

(Springfield)

1. I came here to-day and found very flourishing city—
2. One college—Good public school—manual training school—industrial school Business school—Syhuns—
(マキ)
3. I met President Reed—He gave me the privilege to attend lectures and to look into all department. He is very kind man. When I visited there, they had Xmas tree, and I was invited and received a good book.
(マキ)
4. He came to school with me and gave me a comfortable room, every thing new, nice, clean, comfortable, steam—heat, good bath room.
5. I met Miss Graves, my old friend, she was so glad—Her sister's home vety rich. So they have many precious things which collected from the world as they went around the world. I had nice time with them.
(マキ)

January 4 (1893)

[Female Physician (女醫)]

Dr. Sprague is best Dr. in Springfield which has more than a hundred thirty physicians,

those for the education of women.

You will find him a man of (一字不明) intelligence & courtesy, who will prately ap-
[greatly?]preciate the privilege of learning your views upon certain educational questions in which, he
is personally very much interest.

With great respect, & with my best wishes for your personal welfare, most sincerely
yours E. D. Russell,

November 28

Cambridge 視察

I met Mrs. & Prof. Palmer and asked many questions and gained many profits.

(1) Mrs. Palmer is very friendly and very earnest to discuss the problems of female
education.

(2) Very smart to speak, very clear to think. She could remember my name to spell and
pronounce after I told her once.

(3) Womanly woman when her husband went out, she asked my [permission?] and said
to him good-by

(4) She was very willing to help me any way, She proposed to give me letters to in-
troduce me any if I want, and Prof. Palmer took me to Annex of Harvard

(5) She said the house keeping is the profession of wife.

(6) Three types of higher education of women.

(7) The advice of going to as many women's institutions, as I could.

(8) The most prominent educators in America, Pres. Eliot, Pres. of Michigan Angels,
Stanley Hall, Dr. Harris, not Practical.

President Eliot

1. Friendly

2. The secret of collecting money for institutions is, (1)confidence (2)honest (3)permanent
use—

3. Secret of management of students is selfcontrol.

4. Secret of management of faculty is fear, just, and impartial
[fair?]

[Kindness of American]

I checked my baggage from Newton and I found the office wrapped my blanket with his
(*)

〔米國政黨之況景〕 Worcester, Mass. (以下17行タテガキ)

一、各村各町より兵ヲ操り出し幾千ヲ以テ數フ。其服は種々ニして又帽も各隊ニ由テ異リ又青年隊もあり。日本燈燈ヲさげりあり、フラグ、花火、大砲人民悉くさわぎ立つの勢あり。

二、強く殺氣なく文明國の競争也と感ぜり。

三、ハリソンの像ヲ畫きしあり、はたをかゝぐるあり。

四、兵隊、政事の感全く日本と異り萬事榮と權力人民ニあり。即ち民權也。政府も亦た人民會社の如し。

〔ウウスター師範學校ニ於テ演説ス〕

校長、余を紹介シテ曰ク、過日成瀬氏當校ヲ研究し度旨ヲ告ゲ余の許ヲ乞ハレタリ。余ハ愼んで凡ての門戸ヲ開き其機會ヲ豫たり。爾來氏より吾人の受る處多く却て豫へしよりも受けし方多からん云々。

余ハ一時間餘の長演説ヲなし屢々演説中略せし處ありたるが、校長曰く吾人各言ヲ聞度し他日ヲ期して殘ル處ヲ演じ呉れ度と述べ全生の賛成ヲ得てかく決す。全校大ニ感動せるヲ見受けたり、演説後多の尋問ニ答へたり。

實ニ感ジタルヲ各生各教師表白せり。校長曰く日本ニ商人ヲ下等ニ置きし誠ニ可贊、今日米國は餘り金を貴ぶは惡風也と、又何故米國へ視察ニ來りしや外界の外ニ吾國とて日本の上等道徳に勝る處はなき云々。

校長翌朝の講話中ニ僕の話せしことを引照せり。

November 14 (Sweet home of Northfield)

Sweet Home

The family of Mr. Chute is so happy and cheerful. The eldest girl, about thirteen years old, heard me last evening and I heard, from the parlor, that she was speaking to mother or servant of my speech as just was
(マ)

November 17

To Mrs. Alice Freeman Palmer

○ Copy of the introduction me to her by Mr. Russell.
(マ)

Dear Mrs. Palmer—Will you allow me the liberty of introducing to you.

Rev. Jinzo Naruse, a Christian clergyman and teacher of young women, of Japan, who is spending some time in this country, for the purpose of studying our institutions, especially

日 記

Mr. Russell told me that every student must know the current of time and to cultivate the habit of estimation of hour and no delay things longer, no mistake in keeping time.

Study of Child is the study of teaching of child.

The Knowledge of mother or Teachers is the mild of the mind of child
(マキ)

October 14

○ Observation of grammar school

I spoke to them yesterday and asked questions, 1. Needles of pine, 2. hour of Japan etc.,
3. Costume, they Japanese costume is better because of we accustomed to it. There is no
strange feeling. Here polite, Applauded me.
(マキ) (マキ) (マキ)

October 18

○ Sterling town

I spoke there in the Morning. People enjoyed very much. Five years old Child (boy) became so acquainted and said to mother that he was very sorry to depart from me so soon.

○ Upton

I got full audience, though Mr. Uchimura & other missionaries spoke there quite often.

They interested great deal
(マキ)

○ Mr. King 45. Shelby St. Worcester I moved here to-day. They are good family.

I could learn many things from children and others.

October 19

Prohibition

I attended this meeting and was interested very much. The speaker were very forcible
and eloquent.
(マキ)

1. Power 2. gesture 3. free 4. Spirit

At beginning of this meeting, they offered prayer.

○ Bamboo work

I saw the Michinary of bamboo which imported from Japan. We must introduce this [ma-
chinery?] More than ever.

○ Asbesto-Pelham (?) do not burn at all
[burn?]

November 1

every opportunity to study his school. His ability of education revealed at once by his personality. I met a lady who is a intimate friend of Mr. Shinoda, who studied there two years and now he is teaching in Tokyo higher Normal school. He was very polite to me and at every occasion he offered me to go ahead him, There was no vanity but simplicity.

October 11

Normal School of Worcester

Teachers are very humble and the lady teachers are skilful in teaching.

Opening exercise: About 5 minutes; the president read Bible and they were all united to repeat the Lord prayer.

The way of Managements

They emphasize on the free selfdevelopments, for instances the students themselves, voluntary, decorate some flowers changing every day to study flowers; they write the news on the board and report The kind of weather of the day & etc.

Psychology: They report to teacher the results of their study on writing.

Negro girl: I found a colored girl in the class. They become teachers of white people's children. Already are teaching and successfully.

At beginning (I heard) the prejudice of the people against to that but now all scholars respect colored teachers. And they are bright. The Characteristic of Americans is that do not make difference between country people and foreigners. They are cordial to all, even children are so. Many small children expressed their cordiality. I have many experience. Mr. Russell's manners are very impressive, in teaching and humble, always.

October 13

Normal School

geography Maps: Brack boat of lines and spots: Pictures. colored churk. stereopticon of sun shine. [blackboard?] [chalk?] (マ)

Teaching rooms painted with colored chalk:writing on board; declateny with flowers & leaves. Very good to produce the idea of home and school. [decorating?]

學校は其空氣大切自然ニ凡ての風成長せざる可らず Arts, beauty, order, neatness etc.

No signal for time

一牧師ト教會。牧師は教會之有様を知ること大切也。若し會員好まざる時直ニ辭職す可し。之ヲ忘る可らず。又教會は牧師を助ることを怠る可らず。教會の事業は大ニ牧師と教會の感情に感ずるもの也。(三字不明) 牧師ニ反スル時は教會カヲ出さず牧師憂ふる時は何事も成し能はざるもの也。

又老人を敬ふ事を忘る可らず。

○男女交際自由。衆人の前ニテ互ニふざけるヲ恥ずべし。

青年の教會へ參るは男女交際の爲也。眞の宗教精神何れニある也。判明し難き程也。
(以上7行タテガキ)

Lansing and art of speech

I heard him this evening and impressed of his powerful speech

1. 演説は芝居也。演者は actor 也。聴衆は見物人也。Actor は他人あるは忘れ只其自分の役ヲ實の如くやるが本職也。聴衆は見るが本職也。故ニ演者も只己ト論究し之を前ニ發表す可し。人に傳ヘル事は忘れ只其眞理を演ず之ヲ聴く人ニ attention を注ぐ可らず。是れ己の職ニあらず他人の職也。聴衆は笑フが泣フが出フが入フが怒フが感ずるが更ニ己の方ニあらず他人の方也。己は只其眞理と闘フ可し。考フ可し。感ズベシ。行フ可シ。スゝむ可し。目的は己を(一字不明)ブ可し。

○ヂセスチャーは演説前獨ニテ爲す可し。是れ亦 art 也。芝居也。

○聲の高低も芝居の如くす可し。種々の音聲必然に必要なり。芝居は演説より來りしもの乎。亦是演説が芝居となりし乎。

○是事ヲ咄ス時は己の心ヲ眞ニ其物ニ注ぎ或は其處へやり眞實其處ニ實在スル様感じて咄ス可し。然らざれば聴衆も眞實の如く感ぜざる可し。

○聴衆ヲ忘るること大切也。

ピーチャーが一人ニ向テ説教せしは學ブ可レケン也。即ち全く聴衆ヲ忘れ己の演ズル事ニ心燃れ全力を込めざれば力ある演説は出來ず。市井を歩行し又考へ若し人が見ることを恐るる時吾心御留守ニナリ、其事を巧ニ爲すこと能はざる可し。全く人をかまわぬに至ること大切也。

October 10

Normal School & Mr. Russell.

He is very friendly man. When I met him, I asked a boarding place. And He went with me to find a place for me, even he was so busy.

I had not any introduction to him but he trust me entirely as a old friend. He gave me

and he himself enjoyed very much. I got many friends in this city already. They help me in many ways for my observation in educational works.

September 23

Normal school & teaching

I met the secretary of Mass's board educating, Mr. Dickinson and agent, Mrs. Edson & Mr. Bailey and took dinner with them, And many teachers. Mr. Dickinson said his best regards to Japan, 1) Best type of education is in Bridgewater Normal school. 2) fifth men—3) fifth women, in there. Those agents and secretary have many experience and skillful as they were teacher, principal of normal schools and highschoools and public schools. 4) They study and see all the time and teach other teachers. Mr. Edson have more than 1800 teachers, and report to board of education.

September 26

Teaching of American Schools

I saw the high school at Grafton.

- (1) Order. They went out from the chapel and went in to the teaching room by the order class by class according to the bell which the sprintent rung.
[superintendent ?]
- (2) Chemistry—No text books but mostly experiments. This the modern tendency in every where.

⊕ Kindness of American people

Mr. Prett, the minister of Sudervill came there to the station to take me home and a gentleman carried my baggage about half way from G. to Grafton. Rev. Mr. Robie, came out to the station when I left that place to be polite to me. I impressed their heart-ly love, But at Milford, I met several drunken & wicked men.

October 9

○牧師と教會

Re History
(ア)

1. (ア) (ア)
2. Pre ~~~~~ what is ph?—
(ア)
- (Irig—only study—)
(ア) (ア)
- Plat— study by excuse A—
(ア)

日記

ing, seeing those worldly things, but there are some time people can not satisfy with them but hate them [?] ……

The only way to sutipfie human mind is to go to Christ, to fulfill the spiritual desire.
[satisfy?]

September 8

[万寿枝へ送金]

百三十八弗 \$138.00, One hundred & thirty eight dollers ヲ万寿枝ニ送ル。

September 12

Mr. Harmon,—Pepperall, Miss, Layman にして熱心なるクリスチャン也。

I came this city, Worcester.

I received 貳拾貳圓十三錢ペペ rall より受く。

G. Stanley Hall L. L. D. Clark University the Pedagogical Seminary

September 19

[Dancing—踏舞]

N. C. M. E. Club—Mr. B. Vrooman Vrooman—Mr. Gale is againsting his work. He told yesterday that: The chief policeman of N. Y. city said the nine of tenth of the degraded girls came down from dancing

Normal School

I went to the normal school, Mr. Shinoda, a Japanese graduated from there. This institution allow any man to enter, but most of students are women, I did not see today even one man there.

The students go to City schools to practice teaching children. The new method of teaching by objects. The advice of Dr. G. Stanley Hall to learn the mind of children Kindergarten.

Polytechnical of Worcester

I looked into day before yesterday.

Spetember 21

Union Church of Worcester, Mass.

I spoke to-night at the prayermeeting. There were about 60 audience. But the president technical Instructor and professors & Agent of board of Mass. & education, they expressed their interesting in my discourse. And Dr. Davis said his people very much interested

[Kindergartens] This observation and predestination will be made in the Kindergartens, where also a taste for manual work will be imbibed at a very early age. Therefore we suppose general education & special training will accompany each other, under the eye of the teacher, till the child reaches adults age, "Developing school industrial school—must be a part of our common school system, Equality—Unlikeness—a variety

[Girls' Education]

In the New Commonwealth they will no longer be trained to please the man-fool, or acquire only accomplishments which give fullest scope to vanity, luxury and passion,

日本の女子教育ニ反對スル一は之ニ由る。

No, they will be equally fitted for their appropriate functions as members of Society, as wives and mothers, in institutions adapted for them.

But the future woman will, by methods and regimen adapted to her sex reach the same plane of Knowledge and intelligence as man and in that may become his equal and Companion. We shall then surely have complete men and complete women.

=Arts—poets theaters must be for Society instructors leaders reformers comforters—fosters—)

[John Kitto]

其父は酒呑トナレリ。身は弱身ナリシ。母は朝五時より夜十間迄働イテ小兒5ニ何乎食物を供せり。——吾れかゝる境遇ニ陥ルモ失望せざる也一決シテ失望ス可らず。

August 30

Cooking

家政ニ於て第一の肝要なるもの也。其調合の善惡ニより健、弱、疾、まめ其他其影響する處大也。

September 1

Dinner Age

There was a stone age and again iron age, but now dinner age. People apt to enjoy at their table and family life, and nothing to do with for other. This is a Selfish Period.

They do forget self sacrifice Why They suicide

Any one do not hate life but seek after for long life. Then Why they suicide because they don't satisfy with their life. There is a time to satisfy with appetite and with hear-

婦人が手ヲ以テ糸をつむぎしことニ比すれば如何。幼稚園、學校の組織亦大ニ教育を助け婦人の手ヲハブケリ。

小兒は幼稚園ニ於て、又ベビーヲ世話スル保姆學ヲ學ビシ老女或ハ幼女ヲして數の赤子ヲ世話せしむれば、大ニ母の手ヲハブク事ヲ得ル也。更ニホーム、^(マ)ベビーヲ破らずして、衣服ハ仕立屋ニ任ス事、食物も輕便之方漸々行ハルベシ。(以上6行タテガキ)

[Education]

萬民ニ教育を施ス可し。是れ人民を衆を救フの道也。民を高めるの道也。

In such a state the first object of education must be to established in the minds of the children...their individual happiness and the good of all. A Public spirit, ie, the spirit of ^(マ)all being members of one social organism, must be substituted for family spirit. (We do war against family-exclusiveness-selfish-family prejudices-family-narrowness.)

August 26

[Popular Amusement]

Music は尤善のもの也。婦人ニテ Band を作り、時ニ或ハ屢々村民或は市民をして聞かしむべし。

(Shibai 一善きもの) —

Dancing

[Society]

is a organism 一常ニ成長しつゝある也。人之ヲ止むるを得ず、神之を育て玉ふ。婦人と雖ドモ其 Organism の一部なれば全體ニ盡さざる可らず。又全體を思はざる可らず。

Children do not belong to their parents; they belong to society. In some sense all persons belong to society.

教育は社會の任 Again, the Education of children is (of) far more important to the state than to the parents, since the effects of it will be felt by society, and principally after these parents are dead and gone. It is because through it society accomplishes the end of its being, that all education is a public trust.

Those schools must be one-sided school

[Children under 10 years of age Mass.]

Consider that 10.000 infants under ten years are working in the factories of the State of Massachusetts

Women now is depend on some man for a living : on Father or brother or husband or employer—^(マ) that is why men arrogate to themselves to say what is woman's sphere. Destroy that dependence—we do not say make her independent, for “independence” is not a socialist word at all; all will be depend on the commonwealth and ^(マ) inter-dependent — give her the power of earning her own living at pleasure, and the economic equality of woman is achieved.

But she will have fuller opportunities than she ever yet has had of developing her specific gifts of womanhood.

However, this power of earning her living does not mean, in the New Social order all women, or even a majority of them, will be in the service of the public.

Nothing will prevent the daughters from remaining at home, assisting their mothers or caring for their fathers and nothing will compel married women to neglect their domestic affairs. It simply means that every woman will be enabled to earn her own living, honorably, and pleasantly Whenever she chooses so to do. And this power is essential to the dignity of woman, whether married or single.

[Suffrage]

We, of course, suppose that in the coming commonwealth woman will be entrusted with the suffrage to exactly the same extent as man.

[Co-education]

In professional schools in which female industries may be taught, the co-education is good thing because—,

[Marriage]

Do not, in fact, the total of young women form a matrimonial market, regarded by demand & supply—^(マ)

[婦人の任(家ニ於ル)ヲ輕メル事]

We may add that the coming commonwealth will relieve woman of all drudgery in housekeeping.

The New Order will, we may be assured, do away with much worry in private houses in the way of washing and cookery, without sacrificing one jot of privacy or real home life
今已ニ衣服ヲ製スル事水ヲ汲ム事パンヲ焼ク事、其他大ニ婦人の手ヲハブク事多し。昔し

What kind of family life do they lead?

What kind of training do those Children get? Ought we to hanker after more competition?

〔男女交際〕

己ニ己ヲ治ムルヲ知り又結婚の年ニ達したるもの、男女交際の自由を豫フ可し。たとへ自由ありとも猥なることは興らざるべし。如何となれば其善惡利害得失を知れば也。人盗む機ありとも己ニ教育あるものなれば盗むことをせざる可し。

〔女と職業談〕

Woman is different from man in intellect, different from him in temperament, different from him muscles. There is a peculiarity construction in the bones of the pelvis and chest which forbids her to be as much on her feet as man. . . . women have a periodic rest of, say three days every four weeks.

男ニは粗イ大ナル力仕事即ち器機仕事を爲せ。女ニは手仕事、Art、音楽、其他心靈の働を爲さしむべし。夫婦共ニ働くより妻は内ヲ飾り身ヲ飾り音楽を奏し夫内ニ歸れば即眞の天國 sweet home ニ入らしむべし。是れ人間の道也。

The sexes will there keep pace with each other, but - in accordance with the teaching of physiology - work in different pathways,

Division of labor.

〔Society の定義〕

Society is not an edifice at all but an organism.

〔女の職業は男ト異ナリ〕

Why! even now, in this crude civilization of ours, there is an abundance of work which women only ought to do.

1. female physicians.
2. Kindergartens.
3. Music
4. Arts.
5. teaching of Children.
6. nursing
- 7産婆 etc. 著述

即ち男子ト競争せずして男女其業ヲ異ニスルニアル乎。

(一)女子の體ニ通スルモノ (二)母ト妻トナリテモ共ニ出來ルモノ、即各々に一の interest を有せしむること。 (三)若し身體の力男子ニも優り或は智力も男子ニ劣らざるものありて男子の取る可きものを取り得るとせば其ニ任スベシ。

〔女子の獨立ニ付て〕

"I can not be idle!" he exclaimed, when told by his [his] physician that he must rest or die, "Whether I died or live this wheel must go round till the last."

(マゝ)
〔彈力と Nathaniel Bowditch(數學者)〕

He was born in Salem, Mass on the 26 of March 1773. Necessity is a stern master, but it is probably the best, (氏ハ Latin & French 其他を數學の爲獨學せり。)

"Young Bowditch was taught by it to depend upon himself, while yet he despired no assistance which he could derive from others. In overcoming obstacles, he acquired an elasticity of spirits, which enabled him, as much as any thing could to succeed in still greater understandings.

○附 女子教育も先づ其必要を研究し其より初むべし。

At the age of forty-five he learned the German, for the sake of reading certain mathematical works. (マゝ)

His library, at his death, contained the New Testament in more than twenty-five languages and the dictionaries of a still larger number".

九時より十時半迄就眠前、 he appeared to have banished all thought of study ……話、 story, 笑、 etc.

August 25

〔Samuel Taylor Coleridge〕

英國、小兒の時より遊ヲキライ……

Between the ages of eight to fourteen he was, as himself terms it, "a playless day-dreamer." (マゝ)

書を讀ミ眞ニ興ニ入ル。彼ハ或日兩手を擴げて水泳のまねヲしつゝ歩しに思はず或人のポケットニ手が觸れて驚し話し。

是れ學ニすゝむの道也。

〔Women & industry〕

According to the U. S. Census of 1880 there were 632,000 women engaged in manufacturing, mechanical and mining industries, one-sixth of (of) the whole working force. In some industries the proportion is far greater, not ably in the cotton mills, where there are considerably more women than men employed.

Of these 632,000 females many thousand were married women and mothers of Children.

The Sisters & brethren of Torry's Beautiful family relation.

August 22

Clinton

The kindness of Mr. Swan.

1. Factorys. 2. Irish village and German village.

米人は餘り器機(マシ)のみニよる故、手の skill は awrkward

○演説及文章の目的

其實は思想ニあり。其飾とツヤの如きは贈物のフロシキ或はのしの如し。たとへ、のしなくとも或はふろしきはやぶれ居りても、其中のもの善き乎大なれば其ニて足れり。

何ヲ考フル何ヲ計ル何ヲ爲ス何を言フ悉く人の益の爲、或ハ愛より起ルモノならざる可らず。人之爲ニ骨折り成功せば之ニ優る悦は無らん。

人の善イ事ハ何處へ旅行しても大集會へ集ても又一家或は一人ニ逢ても愉快だ。米國の一特質は此の Cordiality ニあり。日本ニも養成ス可き風なり。如何ニも親友、親戚、兄弟姉妹の内へ行き或は逢った心地スル。初面識より知己ニなれる。(以上3行タテガキ)

○畫 習字法



二重字ヲ書かしむることは畫字。即線ヲ引き或は習字の爲益あり。又意匠の爲ニも善し。

Dr. Elisha Kest Kane / Physician & observer of the world

[Determined to make his mark in the world.]

a) After a year and a half since entered into the University he was attacked by heart disease. "You may fall, Elisha" the physician said, "As suddenly as from a musket-shot". With this knowledge ever present before him, he became earnest and hopeful, prepared to die, ready to live.

(a) Come here—

And, not with standing the critical nature of the disease, which rendered death always impending and at any moment probable, he resolutely pursued and in no instance abated his efforts or his studies in consequence of his physical infirmities.

[John Leyden]

Scottish preasant—famous scholar—Prof judicial.

(マシ)

若し一日を人ニ豫フル事なくして過スモノは其一日を空く費せし也。其日悦のなき日也。益なきの日也。生涯は短し。一日と雖も喜を行はずして過ス勿れ。吾は今日より毎日人之爲ニ何乎せざれば其日を過ぎずと定めん。思フナリ。祈ル也。計ルナリ。豫フル也。助ル也。何ナリ一事ヲ爲ス可き也。

August 12

〔女子教育〕

(一) Beauty と Physical strength の學問を犠牲トナスは宜からず。婦人ニ子を産むの餘計の任あれば此ニ應ずる程の他の任を輕めざる可らず。

(二) 各々——の interest ある可きこと。

(三) 妻トナリテ進むの道ある可きこと。一種の University を要ス。

(四) 女學校の必要： Not identical education.

August 15

〔Lowell Highland Church〕

Lowell は六七萬以上の商賈・製造の盛なる地。メリマック河は市中の中央を流れ、其水力、此市を益スル事甚し。

I spoke last night at the church of Highland, which is built lately by the price of more than \$ 50,000. But I interrupted somewhat by the echoes of the church.

But almost all of the people were interested though I felt some failure, especially the young men and girls. I finished my speech about at half past seven o'clock and I saw this morning the report of my speech in the morning mail, at six o'clock. Is not very quick work? They spelled "Naroase" as they, Americans, pronounce with strong accent even names.

Mistake of ^[fourth?]fourth of the people. The pastor Mr. Meriam said he never heard about such story as mine and he contrasted—the Japanese with the Jews of the before of Christ.

August 18

Negroes in America about 7,000,000 now and increasing every year. They are shiftless.

August 21

Harvard

The view of the pond the Unitarian service—1, intellectual—2, Progress—3, Evolution—4, New knowledge 5 Cordiality.

日記

hetic wife I dedicate this book.

August 7

Lunenburg of Fichburg. The people of Lunenburg enjoyed very much, 26 \$ 86 c, 11.5% gave from young people's society. Many expressed then I strike them instructed Then .. [given?] ..クリストト借ニ在ル云々。其目的ト決心を大ニ賛成せり。

11 \$ 75 cents Fichiburg

August 10

(悦ニ付)

キリスト曰く悪鬼の從ヲ悦トスル勿れ。汝曹の名の天ニ記されしを悦喜トスヘシ。是れ秘訣也。成功ヲ悦ブト同時ニ惡誘ヒ心ニ來ル可シ。即ち心のユルミ、高慢、我儘等也。ダビデ及ソロモンは成功せし時ニ罪を犯せり。

故ニキリストは其成功を喜トセズ。天ニ其名の記されしを喜ビトス可しと。是れ其心を天ニ導キ心を高尚ならしめ世の事ニ惑はざる爲也。又己の教を思はしめたり。是れ己の罪人なりしもキリストニ由て救れしを思ヒ謙遜を生ずる爲也。徳川家康曰く「勝て冑の緒をしめよ」と。又或英國の Prince は敵ニ勝て還ルの道、國民賞賛するニも係わらず冠をぬいて都ニ入りりと、然らば吾らは悦ブ事ヲ慎む可し。又何を喜トす可きや。

○牧師の説教と其經驗

牧師の説教は多く其經驗より來ルモノ多し。故ニ能く信者が牧師の説教を聞き彼ニ當てたりと怒ることあるも多くは牧師は己の經驗より云フ也。

○八月 It is hot and disagreeable. I used to go the hill and to work under trees where very few people come and at one side a beautiful pond is situated.

August 11

(悦)

一。己の救ニ、人ニ豫フルの喜ビ。何乎人の爲ニナル事或ハ人ヲ益スル事。人ヲ思フテスル事。即ち己の爲ならで人の爲ニスル尤も樂し。成功しても失敗しても樂し。

又勇氣をもて爲スベシ。たとへ下手でもかまわずにやる可し。

第一は己ニ救われし即安心立命、第二は之を出して人を益スルの悦ヲキリストは教ヘ玉ヘリ。

何事を爲スニも考て己の主義を定めて爲スベシ又言フ可し。

日々何事カ人ニ豫フル事

The machines and tools are improving every day, We want inventor in Japan very much.
人を常に働かしめんと欲せば自由と独立と大望を豫へよ。自ら為ス程愉快なるものはなし。日本の國風を變ずるを要す。即ち人獨立の風となす可し。

August 4

A child, about four years old, gave me a be an saying Hullo, I will give you this etc.
(マゝ)
The spirit to give, to love, is natural expression. Other day a girl gave me a flower, this Spirit is the same that [the] a widow gave a lebilir [?] to God.

Emigration

Emigration by itself is not a remedy for the evils of over population or of a low condition of the mass of the people. It is important for us to remember this for it is often assumed that by allowing free immigration and into this country we are relieving the miseries of Europe, and helping to raise the people there to a higher standard of comfort and well being, Mr. B. Leavitt said in his letter:—

He was deeply interested, instructed, stimulated in my address—and Mr. Gulick said to his people that he was so moved in speaking that he can't express it and…….

〔米國教會に就而〕

屢々米國人を動スは六ヶ敷と感たり。如何となれば屢々 invitation を to testimony or to confess (漢字二字不明) なる更ニ益々牧師は實ニ頑張ること甚しきも更ニ感應なし。然るに余は之ニ就き異見を懷き或る牧師ニは忠告せしことありき。然るに今度余の考空しきにあらざりしを其實例ニて知ることを得たり。人心は何處も同じ秋の夕暮。

August 5 靴造

I looked into the factory of shoe shop. They sell every day for 12,000 \$. Only 2 or 3
(マゝ)
man manage them.

日本も機械ヲ用みて人をハブク事ヲせざれば、到底文明國と競争スルヲ得ざる可し。

悦ビ

汝らの名天國ニ記されしを悦トス可し。眞ニ己の天ニ至り神と偕ナル事又人の眞ニ其地位ニ達せしを悦ビトナス可し。Happiness にあらで joyness 也。

Co-operative Commonwealth by Lawrence Geonlund—

"My object is not to make people read, but to make them think." Montesquieu

To The one who has been most interested in the progress of my work; to my sympat-

日記

It must be instructive to the American youth.

I must be master to every thing. Master can control, Master does not afraid any thing,
Master is free, master have influence over others.

[Look-out into future]

千年貳千年を視て事を計る可し。又定む可し。無限進む也。

July 31

I occupied the pulpit of the church of Ayer

數青年云へり。毎日曜は朝余の説教を聞き度し。又一人曰ク、今迄ハ一度も外國像ニ interest せしことなしと。此人大ニ余の話を悦べり。

一人曰、實ニ日本人吾らを恥めたり。八月は全休む筈なりしが終ニ日曜學校丈は續ることニ決せり。

其他種々今日の話は此教會を醒ませし人を覺てなり。

晩の話ハ疲レ居り能くイフヲ得ずとイヒシモー人(書記)曰く I spoke very plainly と。
ten dollers I received to-day that is the amoust of usual paying to every minister.

August 2

I spoke to the young men in Ayer at the meeting T. P. C. E. C. subject: Christ the only Saviour.

大小感動を豫へたり。當教會の committees 日曜學校長當地公立學校長等教會の重立は當夜出席せり。余が當會ニ話ス事ヲ決せしは其前日也ト。而して各々立て其感動せしことを公衆ニ述べりたりき。實ニ今夜は一言も日本の事はイワズ只キリストニ付て己の感を陳べたるのみニ、^(マ) 彼らの言ニ今夜は尤も感動せりと。實ニ神の靈其會に在りしを覺えたり。是れ實ニ米國ニ於るの第一の經驗也き。今夜は更ニ報を望まず話せし故實ニ愉快なりき。當教會の會員は多は壯年、青年にてかつ敏捷なり。

August 3

Women in America,

Mrs. K. Ayer, have fine boarders and use no maid or servant, She cook, wash, sweep, make beds, wait on table, buy every thing, out-door social duties, by herself. American people want to work many things by one as can as possible, by machines or method.

器計製造處

Factory of furniture

July 23

Chinese—in this town only one China man.
(マヽ)

He is very loyalty to his Lord, money.
(マヽ)

In his mind no hope, no pleasure, no friend but only money, I noticed, by this word and deed that most of Chinese are deep vicious men. They have very secret.
(マヽ) (マヽ)

○山

I am used to going into hills and wood.
(マヽ)

I strayed quite often but I got many experiences (方角ニ付き) 又モ他 Mountains are best place for the Summer season. I saw large wild birds, and a cottage which was made only sticks and hives of pine.
(マヽ) (マヽ)

Paper of Ayer

About my address and the speech of next week, was written on the paper.
(マヽ)

It says my address was much enjoyed.

July 26

I went to Harvard & Lancaster. Rev. Mr. Briant said (Niishima was indeed a hero of this century.)

日本人民は實ニ義侠の人民トナサザル可らず。婦人を教育して眞の Hero とナス可し。是れ其方也。

○米人の嫌フ Nation は支那人。イタリヤン。アイリシユ。下等の佛人也。又ニーグロー minister 貳人が宿ヲ取ル事能ハザリシ話

July 28

[Heroism] Snorro tells us they thought it a shame and misery not to die in battle, and if natural death seemed to be coming one, they would cut wounds in their flesh, that Odin might receive them as warriors slain (The Hero Worship—P29)

July 30

The health, morality, wisdom, are more Precious than money, therefore the aim of female education is to give them position or ability to earn money but to develop Body, Soul mind, which is the fountain of their lives. The Heroic spirit the aspiration to advance must be the public sentiment of Japan.
(マヽ)

〔澤山の傳ニ付き〕

日記

散し居り、殊ニ富める人善き人は居らずとの事なるニかゝらず行きしは吾が過也。かつ此教會より Kely 氏を日本ニ送り、かつ日本より送りし額面及日本畫は二正面ニかゝりたり。已ニ日本ニ倦ミたる様察せられたり。之ニ強イテ話せしは他の誤也。

殊に今夜は人なきの有様なりし、又之ニ由テ種々の經驗を得たりき。

人間ニ二種あるを—————

將來事業を取るニ當り宜く鑑む可し。

併し僅かの聴衆は吾が語を悦べり。之れ満足也。之ニ由て果して人氣を察するを得る也。

○ Harriet Beecher Stowe

When Harriet was five years old, a deep shadow fell upon the happy household. Eight little children were gathered.

July 15

[女子教育の方針] (以下8行タテガキ)

Co-education は男女交際を餘り繁からしめ却て智育ヲ妨グルノ恐レアリ。勉學スル時ハ精神を一方ニ注ぐこと大切なり。

女子の天才各々等からず。故ニ、各の天性ニ由て教育の方針ヲ定むること大切也。

妻たり母たるの職を輕ずる教會は避く可し。

教育を受けたる女は教育を受けたる男子の妻なり。

人間終極の道はキリストの道を行フニあり。此社會キリストの道をもて心とせば萬人初より老ニ至る迄真正之幸福を受く可し。

July 17

Littleton. About 120 People were attendant. "Every word enjoyed". "This evening will be filled up this Church". "If church education I received, it was very easy to submit to God". Many other words I received. And many questions. Collection over 20\$ Many did not bring money with them so they promised to contribute next time.

Groton

12 \$ 15 cent—good

but I was quite tired.

"I was moved very much during Mr. Naruse ^{不明} [have?] spoken" "In Japanese education, many truths contain, we Americans must received something from Japan, because we are _(マ) lacking……" etc.

く、余が説教體に慣れたる云々。一老人余がレクチャーを書拔することを勧めたりき。一八歳の女子曰く “When you spoken about yourself, I was very interested in it”
(マ)

July 4

The church, There was no church until 20 years ago, when two girls who studied in Andover Academy started a meeting which developed into a Church. The heart and morality are an accordance of the religious condition:

The date of the foundation of Danstable—? O Marriage Mrs. Swallow who knows of Mr. Niishima married three years ago at her age of more than fifty, to a man who is about Sixty, though both have been living at just same village and same church from their childhood.

○姑と嫁の間、余が今居る細君は已ニ三十年此家ニありて、常ニ其夫の母と同居し其間柄よろしからざりし。

July 5,6

1. Mr. Weston drove me to Nashua
2. Mr. Richardson gave, at that night, opportunity to speak to his people though many of them were went away for summer vacation. And at this many Japanese missionaries and people spoken about Japan and raised money and many Jap's Things sold. And they were very interested to my lecture and some contributed 10 \$ and at all 19 \$ was collected after lecture, though any notice was not given before that time, This people is very liberty.
(マ)

Mrs. Richardson said that she feared out often about Japan but she never heard ever such story as I gave, and quite many said “I am very interested:”, “Mr. Richardson wrote for me to Rev. Mr. Grover I got letters from Mr. Murai, Masuye, Leavitt, Arwaysge Ishi. I stayed at the pastor's home and I could see the home life, I saw into the mill of Nashua Co.
(マ)

July 11

The Lake view in the night. The kindness of the two ladies.

July 12

I stopped in Tyngsboro just two weeks very happily.

Nashua=Mr. Grover は遅く N.Y. より歸へり、天氣は熱くかつ當時熱氣ニて人々悉く離

asked him the dwelling place. He kindly took me to his home. Then Mr. Briant arranged to speak to his people on the evening of 2nd. Sunday of July. Then I walked up to Westford (4 miles), I observe in the way, farms, cutter, ice stores, plants, animals. When I got there I found that Miyagawa was in the home of Miss Hall, who is a student of Mount Holyoke Seminary. Mr. Bickford invited me to take his place on the Sunday of 24th of July. Then I walk back to here.

July 1

Tyngs pond, which situated about only 2 or 3 choo (日本) from this house, has very excellent view, and quite many houses for picnic, which furnished every place and thing for play as that boat, dancing place, music, other many things. Its round about three miles, woods of large pine are surrounded it. This is best place to spend Summer vacation.

July 2, 3

第一、土曜日ハ Children's 集ニ臨む。(以下20行タテガキ)

知人の盲目黨ボストン盲啞院より夏休ニ來りしニ逢う。日本服を着せ彼の悦ビ顔色ニ溢る。

第二、此地 (Damsable) は純粹の Puritan ニして人心温ニ又多クハ教育あるもの多し。二名の女子一人ハ來年よりウエズレー大學ニ行かんとし他の一人は暫クムーデーの學校を教え今は Colored people の爲ニ働き居るといふ。

第三、九十一年の老人ニ逢へり

第四、其他萬事を示し又多くの婦人達態々余ニ面會ニ來レリ。甚だ Cordial 也。

○今日晚餐を執行せり。是れ米國ニ於る初也。又祈祷演説を爲し人々大ニ悦べり。演説後一層 interest 其他種々評ありし。牧師ハ曰ク Every word を悟れりといへり。其レクチャーの組織及言語の使用悉くよしと評せり。

○十貳圓十乎二十匁の集金、如是小き教會ニ取りてはよし。

○当教會ハ實ニ熱きと感ず。牧師も熱心ニして且つ……

[Tyngsboro] 牧師、集の前ニ偕ニ祈りかつ天氣ニ付き甚だ心配致し呉れたり。Storm の割ニは多人の聴衆ありき。

○集金三圓五十匁

萬事神の攝理なるを感じ、神ハ萬事ニよつて吾を祝せり。Mr. Weston の曰く、余の言處種々の益あり。一は余自らの、二は大ニ諸教會ニ傳道の精神を興さしむ云々。又曰

I saw many pictures in the 雪隠。

(Mr. Weston knows very well Dr. D. Scudder because he was teacher of Dr. D. S. and he knows Dr. Greene, because he the class-mate of him)

June 29

余此田舎ニ住ミ共屋の婦人は百姓育ちニて何の教育藝能もなきものと思へり。然るに其パーラー及各室ニ實ニ麗しき油畫懸り居り。此婦ハ慥ニ美術を好むなるならんと思ヒ尋ね初めしニ、其各室ニ懸る油畫は悉く彼れ自身の筆ニて成れるもの亦美術雜誌等取り居るも見て實は一驚を喫せり。各婦人も one interest を有スルは人を益し又己を幸ニするもの也。此婦人は晩年ニ之を初めたりと云へり。

當地はメリメリ河(ロウレンスより流れ降る)を下ニ見下ろし、また四方ニ諸丘諸野諸小湖水ありて其眺 North Field に似て亦之ニ越るの點あり。避暑ニは至極の地一哩歩けば直に電氣車にて Lowell city に達するを得、便利の地とイフ可し。

今日は Leavitt, Masuye, Mayegami へ書を出ス。

○ Tyngsboro の會堂は建築後ニ已ニ二十年間を歷ると。然るニ未だ成就せず。牧師は或室の天井を隨る爲め一人の大工と協働しつつありたり。

○ They call each other brother in the country. They are more cordial and more spiritual than in the cities.

○ American people are very active.

○ Mr. Carpenter said, they can arrange for me at other weekday, but it is very unwise way, because I can have only very small audience probably one fifth of the number of the Sunday, as it is the season to make hay or to work in farms in the country

[格言]

○ Blessed is he who expects nothing, he will never be disappointed.

○ Thou canst joke an enemy into a friend, but, thou mayst a friend into an enemy.

○ An empty bag can not stand upright.

June 31

This morning Mrs. Butterfield and Mrs. Gordener (a quite young lady) took me to Tyngsboro, by her carriage, as I am starting to North Chelmsford. They were very kind and already became quite friends.

When I got to No. Chelmsford I met an old gentleman who was in his carriage and I

Social gathering

可成交際ヲ博スル事は

第一、智識を博め

第二、人心を悦ばせ

第三、人を高め

第四、善感化を廣く及ボス

等の益あり。可成日本ニも然風を養成す可し。

June 17

[Mrs. Paine]

何時行くも實ニ interesting 也。日本の爲ニ熱心祈る人あり。寄附スル人あり。又思フ人あり。是れ悉く神の撰ビシ日本の爲の messengers 也。

June 28 Tyngsboro, Mass.

今朝此アンドヴァーヲ出 Lowell ニ至ること四時間

I saw factories there. The population about eighty thousands I saw and interested in sawing kindlings by a machine which is moving by the power or a horse.

I saw Rev. C. M. Carpenter, and He arranged to lecture at his Church or the Sunday evening and He wrote for me to Rev. B. H. Weston. And He asked a milk man to bring there, I felt very much their kindness and God's grace.

When I went Mr. Weston's home he was not there, but I met Mrs. W. and she was very cordial to me and paid much her attentions.

She proposed to sing to-gether and She played piano and we sang several hymns. I impressed very much that the happiness of American home and the cheerfulness and gracefulness of American ladies. Then Mr. Weston came back and he was very cordial to me too, and He arranged to speak to his people next Sunday morning.

They were very glad to have me. They wished to let me stay in his home but they could not arrange, so he took me by him ^(マ)bagage to a private home which is about five miles from Dunstable. [baggage ?]

I am staying a nice family. Here is very quiet hill and it has many trees around and very fine views. I felt that American people are fond to decorate every where even ^(マ)雪隠。
_(マ)

ハーバード教授法

一、レクチャー

二、引照書を學バシメ其綱目適要を書かしむること。

三、各自の説を立てしめ論文を書かしむる方法等妙也

廣津は刻苦勉勵ス感心。(ボウケリー、テンブル) 熱心。愛、親切、友愛の精神をもて充
るハ殊質ナリ。

音樂其他システムヲ立て分業

支那人ヲ十五六年の娘より親切ニ教ユルハ感心ナリ。余も一支那人ヲ教へたり。小兒の學校ニ於て女教師の教授巧ナリ。

リセプション——

女子青年會ヲ視ル

女子の進歩ニ付て感ずこと多かりし。

輕氣球、フート・ボウル、ヲ見ル

スカッターを尋ね五時間費す。澤山の傳ヲ讀ミ大ニ其說ヲ得たり。ヲウドウエーの育兒ニ付き感ずる處ありき

June 10

〔老學生〕

Lowell ニ於二十一年間新聞記者タル Mr. Colby は四五名の子供あり。姉は已ニ嫁スルの時也。然るに Junior class ニ入ル。三年の神學を修るを初め血熱の青年と勤學す。其他同例多し。

〔バンクロフトヲ訪フ〕

徳育の秘訣は生徒をして學事ニ熱心ならしめ日々の duty を重んせしめ、partner ならしめむるニありと

○宗教教育は毎朝の——

○ Co-Education を可とす。

○第一人物誕生は校風ニ由る

○ game — 今朝臨席校の講話を聞く。第一對敵ニ敬禮、親切を缺がぬこと。第二之ヲ待スルの道。第三假令勝利を得るも對敵を送り歸ス迄は謹慎タル事。等

○校長の謙遜、親切。ナル事。

June 15

日記

- (8) Japanese Industry
(9) Benevolent work
(10) Education in Japan
(11) The relation of Japan and China
(12) 「日本と米國の關係」
(13) 風儀の相違

[translation]

"O, it is impossible to (to) translate his first passages. There is in them a fragrance too
[finest ?]
evanescent for translation"

May 18

[器械]

百姓の種蒔を見ての感

(新聞の切抜き「The Worcester Buckeye Mower」輸入りが貼付されている)

May 19

[神に委ネ大量ナルベキ事]

If one is spiritual and another sensual, it is because one puts his will in god's hands, and the other keeps a large share of his in his own"

Waiting for God to move you"

[澤山の傳ニ付テの書]

Greene—Packard—Evanston—

前神、谷川。内海。松村。網島。中江、万寿枝

May 23

昨日は Maine に於て四時間雪降りといふ。

[明治廿五年五月廿八日ヨリ六月一日迄ボストン・ケンブリヂ視察記] (以下22行タテガキ)
土曜日ケンブリヂニ至り廣津、岸本、比佐、北島、小埜、グリーン等ニ面會ス
博物館ヲ悉く視驗ス。メモリアルホール、ワシントン、リンコロンノ像、フランクリン
ノ墓、又デコレーション日の式等ニ由て大ニ愛國者の生命の重き、功ある人々の記念の必
要、米人の恩を感ずる心杯種々の感ありき。

「ハーバード」の像ヲ見テ實ニ創業者の大切ナルヲ感ず。

創業

日記

明治25年(1892)5月より明治26年(1893)5月まで

(表紙) 明治廿五年五月 米國 安塔場

May 8 (1892)

[Unitarian]

今日もロウレンスに於てユニテリヤンの説教を聞く。

儀式は四十五分説教三十五分、祈禱文を讀めり。

交際は至極 cordial なり。

夜は Dannel の Temperance の演説を聞く。

[Solitude Life]

學問も信仰も獨身にて考フルニ由て得可じ。日々又毎週獨居の時間亦交際と同様ニ必要なり。故に學校・寄宿或は家庭各人一室を有すること必要なり。

May 10

天然を視て神の心を感じ大ニ得る處ありたり。

山ニ入り萬物の變遷を視る程愉快なるものはなし。

May 15

- (1) Sawayama's biography
- (2) N——
- (3) Amusement of Japan
- (4) Christian Mission—
- (5) Female Education in Japan
- (6) Woman's question in Japan
- (7) Japanese Marriage—

